

平成 30 年 度

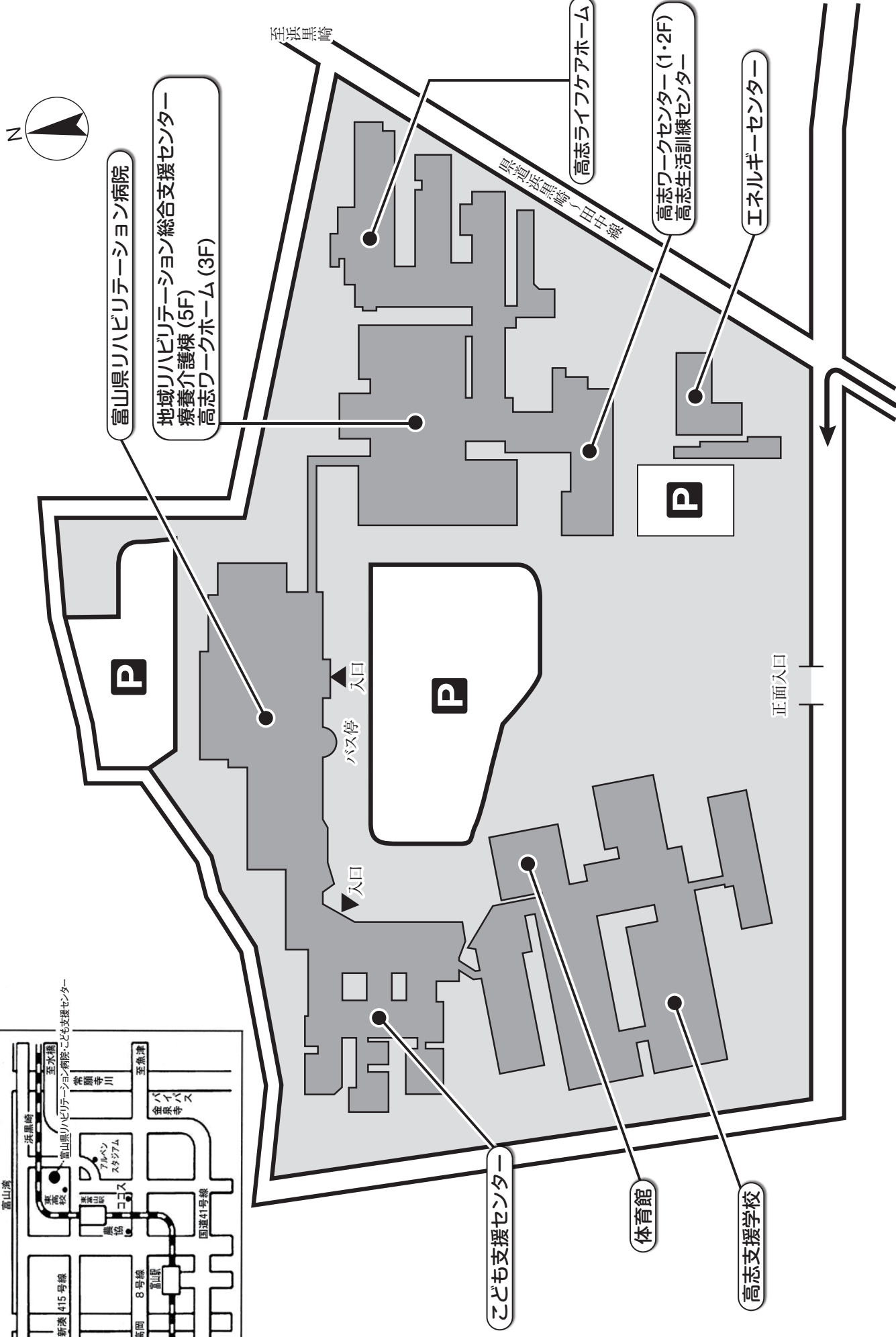
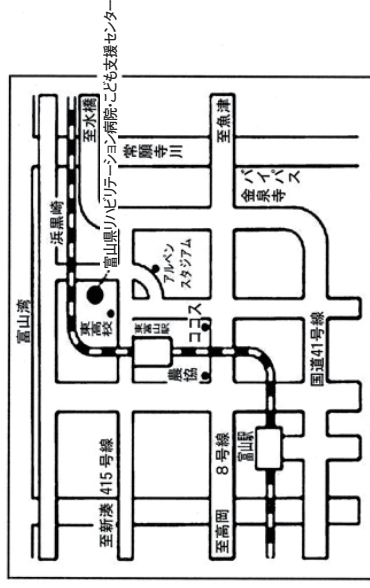
業 務 年 報



富山県リハビリテーション病院・こども支援センター

富山県社会福祉総合センター施設全体配置図

●案内図



目 次

第 1 章	総 括	1
第 1 節	沿革	1
第 2 節	運営概要	6
第 3 節	施設規模	7
第 4 節	組織及び職員	8
第 2 章	業 務	20
第 1 節	診療部	20
第 2 節	薬剤部	28
第 3 節	栄養管理科	36
第 4 節	臨床検査科	40
第 5 節	放射線技術科	44
第 6 節	心理療法科	48
第 7 節	臨床工学科	50
第 8 節	リハビリテーション部（成人療法課）	53
第 9 節	リハビリテーション部（こども療法課）	64
第 10 節	在宅生活支援部	78
第 11 節	テクノエイド人材育成部	91
第 12 節	看護局	99
第 13 節	地域医療福祉連携室	122
第 14 節	通所療育課	136
第 15 節	入所療育課	143
第 16 節	富山県リハビリテーション支援センター	149
第 17 節	富山県高次脳機能障害支援センター	154
第 18 節	富山県発達障害者支援センター	158
第 19 節	その他	160

理 念

誰もが、その人らしく暮らせる「共生社会」を目指し、障害児・者の自立と社会参加に向けて、総合的なリハビリテーションを推進し、地域社会に貢献します。

基本方針（重点取り組み）

理念に基づき、5つの重点的な取り組みを推進します。

1. 利用者本位の安全で安心できるサービス、良質な医療と福祉の提供に努めます。
2. 高度・専門的なリハビリ医療や福祉との連携により総合的なリハビリテーションを推進します。
3. 地域包括ケアシステムに貢献する地域リハビリテーションを推進します。
4. 専門的な人材の育成及び働きやすい環境の整備を図ります。
5. 効果的、効率的な運営に努め、経営基盤の強化を図ります。

職員の行動規範（心構え）

『 仁 』

私達は、ひとりひとりの尊厳を守り、思いやりと愛情をもって、信頼される医療・福祉を実践し、利用者の皆さんの自立を支援します。

『 和 』

私達は、医療・福祉の総合的なサービスのため、お互いの連携・協力のもと、満足度の高いチーム医療・福祉を実践し、社会に貢献し、地域と絆を結びます。

『 志 』

私達は、専門職としての誇りのもと、常に先進的な課題に挑戦し、最高のサービスを提供します。

『 育 』

私達は、こどもたちの発達、生きる力を育みます。

第1章 総 括

第1節 沿 革

本県では、身体障害者の福祉の増進を図るため、各種のリハビリテーション施設を総合した社会福祉総合施設を建設することとし、昭和47年からプロジェクトチームにより調査検討がなされ逐次整備され、その構想の一つとして医学的リハビリテーションを行う中心としての富山県高志リハビリテーション病院が、また心身障害児総合通園センターとしての富山県高志通園センター診療所の建設が同時に進められた。

また、平成23年に県が地域医療再生計画の一環として、富山県高志リハビリテーション病院、富山県高志通園センター診療所、富山県立高志学園を統合し、1つの病院として一体的に整備することに着手。平成28年1月1日、富山県リハビリテーション病院・こども支援センターとして開院した。

主なる経過

昭和49年10月	富山県社会福祉総合施設建設基本構想策定
昭和52年4月	富山県リハビリテーション専門病院建設調査委員会設置
昭和53年3月	富山県リハビリテーション専門病院建設基本構想策定
昭和53年5月	富山県リハビリテーション専門病院建設委員会設置
昭和55年12月	富山県リハビリテーション専門病院建設基本計画策定
昭和56年3月	昭和56年度予算に建設費計上
昭和57年6月15日	基本設計、実施設計完了
昭和57年9月24日	建設工事着工
昭和57年10月19日	起工式
昭和58年4月1日	リハビリテーション専門病院開設準備室設置
昭和59年5月16日	定礎式
昭和59年6月20日	竣工引渡し
昭和59年7月3日	病院設置条例公布
	富山県高志リハビリテーション病院に名称決定
昭和59年7月5日	職員研修開始
昭和59年9月27日	落成式
昭和59年10月1日	開院
平成23年11月	富山県地域医療再生計画提出
	高志リハビリ病院整備検討委員会の設置
平成24年4月	新たな総合リハビリテーション病院・こども医療福祉センター整備基本計画の策定
平成24年8月	新たな総合リハビリ病院等整備推進委員会の設置
平成25年2月	基本設計完了
平成26年1月	実地設計完了
平成26年4月6日	起工式

平成 26 年 9 月	病院設置条例制定
	富山県リハビリテーション病院・こども支援センターに名称決定
平成 27 年 10 月	竣工
平成 28 年 1 月 1 日	開院
平成 29 年 7 月 22 日	グラウンドオープン（正面駐車場整備）
平成 30 年 3 月 2 日	日本医療機能機構 病院機能評価 3rdG:Ver. 1.1 認定
平成 30 年 7 月 1 日	療養介護棟（30 床）開設

許認可関係

病院の設置運営にかかる許認可の内容は、次のとおりである。

基準看護承認（特二）	昭和 60 年 4 月 1 日
更生医療指定医療機関	昭和 60 年 5 月 1 日
病院変更使用許可（100 床）	昭和 60 年 7 月 1 日
労災保険指定医療機関	昭和 60 年 8 月 1 日
労災保険義肢採型指導委託病院	昭和 61 年 2 月 10 日
病院変更使用許可（150 床）	昭和 61 年 6 月 1 日
入院時食事療養（Ⅰ）承認	昭和 61 年 6 月 1 日
重症者の看護及び重症者の収容の基準承認（6 床）	昭和 61 年 9 月 1 日
総合リハビリテーション施設承認	平成 4 年 4 月 1 日
特別管理給食加算承認	平成 4 年 9 月 1 日
夜間看護等加算承認	平成 4 年 9 月 1 日
看護体系（3 対 1 看護 A、10 対 1 看護補助）届出	平成 7 年 9 月 1 日
紹介患者加算（Ⅲ）・加算入院時医学管理料・小児科外来診療料届出	平成 8 年 4 月 1 日
院内感染防止対策加算届出	平成 8 年 7 月 1 日
看護体系（3.5 対 1 看護 A、8 対 1 看護補助）届出	平成 10 年 10 月 1 日
老人長期入院医学管理（4 床）届出	平成 10 年 10 月 1 日
特殊疾患入院施設管理加算届出（1 病棟）	平成 11 年 3 月 1 日
紹介患者加算（Ⅴ）届出	平成 11 年 4 月 1 日
一般病棟入院基本料（Ⅱ群の 4）届出（2 病棟）	平成 12 年 4 月 1 日
障害者施設等入院基本料（Ⅱ群の 1）届出（1 病棟）	平成 12 年 4 月 1 日
回復期リハビリテーション病棟入院基本料届出（1 病棟）	平成 12 年 8 月 1 日
薬剤管理指導料届出	平成 12 年 12 月 1 日
脊髄刺激装置植込術又は脊髄刺激装置交換術届出	平成 13 年 7 月 1 日
夜間勤務等看護加算 3 届出（1 病棟）	平成 14 年 4 月 1 日
観血的関節授動術届出	平成 14 年 4 月 1 日
言語聴覚療法（Ⅰ）届出	平成 14 年 4 月 1 日
補綴物維持管理料届出	平成 14 年 4 月 1 日
医療安全管理体制実施届出	平成 14 年 10 月 1 日
褥瘡対策体制整備届出	平成 14 年 10 月 1 日

一般病棟入院基本料Ⅱ群3届出（1病棟）	平成14年11月1日
看護配置加算届出（1病棟）	平成14年11月1日
褥瘡患者管理加算届出	平成16年4月1日
靱帯断裂形成手術等（加算）届出	平成16年4月1日
頭蓋内腫瘍摘出術等届出	平成16年4月1日
人工関節置換術届出	平成16年4月1日
内反足手術等届出	平成16年4月1日
検体検査管理加算（Ⅰ）届出	平成16年8月1日
紹介患者加算4届出	平成16年8月1日
内反足手術等（加算）届出	平成17年3月1日
原爆被爆者一般疾病指定医療機関	平成17年10月5日
一般病棟15対1入院基本料届出（1病棟）	平成18年4月1日
障害者施設等10対1入院基本料届出（1病棟）	平成18年4月1日
看護補助加算3届出（1病棟）	平成18年4月1日
栄養管理実施加算届出	平成18年4月1日
地域連携診療計画退院時指導料届出	平成18年4月1日
コンタクトレンズ検査料1届出	平成18年4月1日
単純CT撮影及び単純MRI撮影届出	平成18年4月1日
脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅰ）届出	平成18年4月1日
運動器リハビリテーション料（Ⅰ）届出	平成18年4月1日
医科点数表第2章第10部手術の通則5及び6に掲げる手術届出	平成18年4月1日
電子化加算届出	平成18年8月1日
退院調整加算届出	平成20年4月1日
後期高齢者退院調整加算届出	平成20年4月1日
神経学的検査届出	平成20年4月1日
集団コミュニケーション療法料届出	平成20年4月1日
回復期リハビリテーション病棟入院料1届出（1病棟）	平成20年10月1日
重症患者回復病棟加算届出（1病棟）	平成20年10月1日
回復期リハビリテーション病棟入院料2届出（1病棟）	平成20年10月1日
回復期リハビリテーション病棟入院料1届出（2病棟）	平成21年4月1日
重症患者回復病棟加算届出（2病棟）	平成21年4月1日
診療録管理体制加算届出	平成21年8月1日
亜急性期入院医療管理料1届出（8床）	平成21年10月1日
リハビリテーション提供体制加算届出（8床）	平成22年4月1日
急性期病棟等退院調整加算2届出	平成22年4月1日
救急搬送患者地域連携受入加算届出	平成22年4月1日
医療安全対策加算2届出	平成22年4月1日
看護補助加算1届出（1病棟）	平成22年8月1日
亜急性期入院医療管理料1届出（12床）	平成23年4月1日

糖尿病透析予防指導管理料届出	平成 24 年 4 月 1 日
時間内歩行試験届出	平成 24 年 4 月 1 日
ヘッドアップティルト試験届出	平成 24 年 4 月 1 日
休日リハビリテーション提供体制加算届出	平成 24 年 11 月 1 日
体制強化加算届出（回復期 2 病棟）	平成 26 年 4 月 1 日
診療録管理体制加算 1 届出	平成 26 年 4 月 1 日
摂食機能療法（経口摂取回復促進加算）届出	平成 26 年 4 月 1 日
胃瘻造設術届出	平成 26 年 4 月 1 日
胃瘻造設時嚥下機能評価加算届出	平成 26 年 4 月 1 日
臨床研修病院入院診療加算（協力型）届出	平成 26 年 10 月 1 日

障害者施設等入院基本料 10 対 1 届出（こども棟）	平成 28 年 1 月 1 日
特殊疾患入院施設管理加算届出（こども棟）	平成 28 年 1 月 1 日
療養環境加算届出	平成 28 年 1 月 1 日
重症者等療養環境特別加算届出（2 床へ変更）	平成 28 年 1 月 1 日
病棟薬剤業務実施加算 1 届出	平成 28 年 1 月 1 日
障害児（者）リハビリテーション料届出	平成 28 年 1 月 1 日
歯科外来診療環境体制加算届出	平成 28 年 2 月 1 日
医療安全対策加算 1 届出	平成 28 年 4 月 1 日
退院支援加算 2 届出	平成 28 年 4 月 1 日
体制強化加算 2 届出（回復期 2 病棟）	平成 28 年 4 月 1 日
リハビリテーション充実加算届出（回復期 2 病棟）	平成 28 年 8 月 1 日
医療安全対策加算 2 届出	平成 29 年 2 月 1 日
認知症ケア加算 2 届出	平成 29 年 2 月 1 日
認知症ケア加算 1 届出	平成 29 年 5 月 1 日
排尿自立指導料届出	平成 29 年 5 月 1 日
持続血糖測定の加算及び皮下連続式グルコース測定届出	平成 29 年 5 月 1 日
がん患者リハビリテーション料届出	平成 29 年 5 月 1 日
退院支援加算 1 届出	平成 29 年 10 月 1 日
地域連携診療計画加算届出	平成 29 年 10 月 1 日
診療録管理体制加算 2 届出	平成 29 年 11 月 1 日

■施設認定一覧

日本リハビリテーション医学会 研修施設
日本整形外科学会 研修施設
日本神経学会 準教育施設
厚生労働省 臨床研修病院
日本病態栄養学会 栄養管理・NST実施施設
日本静脈経腸栄養学会 NST稼働施設
日本栄養療法推進協議会 NST稼働施設
日本静脈経腸栄養学会 実地修練認定教育施設
日本手外科学会 基幹研修病院
難病医療協力病院（県指定）
日本小児科学会 研修関連施設
日本小児神経学会 専門医研修関連施設
日本糖尿病学会認定教育施設

■実施事業

医療型障害児入所施設（50 床）
短期入所（2 床）
医療型児童発達支援センター（40 床）
福祉型児童発達支援センター（30 床）
日中一時支援
児童発達支援事業（10 床）
放課後等デイサービス
生活介護（5 床）
保育所等訪問支援事業
障害児等訪問支援事業
障害児等相談支援事業（高志福祉相談センター）
富山県高次脳機能障害支援センター事業（県委託）
富山県リハビリテーション支援センター事業（県委託）
富山県発達障害者支援センター事業（県委託）
障害児等療育支援事業（県委託）

第2節 運営概要

当院は、身体障害者の増加と障害の複雑化、ニーズの多様化に対応し、富山県におけるリハビリテーションの中核的病院として、高度先進・専門的リハビリテーション医療を提供し、障害者の機能回復と社会復帰促進の役割を果たすとともに、地域リハビリテーション事業への支援、リハビリテーション技術の研究・開発・普及、情報の提供、技術者の研修などリハビリテーション技術水準の向上を図ることを使命として設置された。

院内では、総合的なリハビリテーションを実施するため、身体障害の種類や程度に応じて、医師、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、心理判定員、ソーシャルワーカーなど、各専門分野の職員によって評価判定を行い、リハビリテーションチームとして各部内相互の連携を密にし、治療を訓練にあたっている。

一方、病院の運営形態については、県立民営のメリットを併せ持つ、準県営的な運営方式を取り入れ、社会福祉法人富山県社会福祉総合センターの運営により、人的・財政的に県からの支援を受けながら、病院として効率的な運営を図り、設置目的に応えるよう努力してきた。

平成28年度は、高志リハビリテーション病院と通園センター及び高志学園が統合再編され平成28年1月1日に開院した「富山県リハビリテーション病院・こども支援センター」の実質的な初年度として、機能の充実を図った。

リハビリ病院では、リウマチ、非侵襲的脳刺激治療等の専門外来の新設や、より効果が見えるリハビリテーションを実施するため、リハビリテーション単位数を増加し「リハビリテーション充実加算」を届出、早期在宅復帰を目指した。また、平成29年1月には通所リハビリテーションを開始し、より在宅支援強化に努めた。

こどもセンターにおいて、入所部門では在宅志向のニーズに応えるべく、短期入所の積極的な受入や呼吸管理のための一般入院の運用を開始した。通所部門では、発達障害児の社会性向上のため従来年長児を対象としていた保育を年少児にも拡大した。

平成27年度末における法人としての理念や長期計画の策定を受け、より具体的な5ヶ年程度のアクションプログラム（行動計画）を策定した。また、10月には、全国自治体病院学会のリハビリ部門の総括として演題発表を行った。

平成29年4月からは、児童精神科医を増員するなど診療部門の強化を図るとともに、リハビリ訓練、発達障害への対応、通所リハなどを強化した。また、（公財）日本医療機能評価機構による病院機能評価の受審に向け、模擬審査の実施、院内での検討会の開催、マニュアルの策定等の準備を行い、11月28日～29日にサーベイヤーによる現場ラウンド、書面、面接等の審査を受け、平成30年3月2日付けで認定を得た。また、患者の安全と新病院の保全を図るため、平成28年度に新病院の防災指針や防災マニュアルを新たに作成したことを受け、地震などの大規模災害に対応できるように、事業継続計画（BCP）を平成30年3月に策定した。

平成30年4月から新たに臨床工学技士を採用するなど、スタッフの確保を図るとともに、県内の重度心身障害児・者への支援や在宅介護における関係機関との連携・強化に努めた。

平成30年7月からは、全国的な重症心身障害児・者支援に関する児・者一貫体制の流れの中、成人・高齢者にも対応するため、療養介護棟（旧病院5階30床）を開設した。

第3節 施設規模

富山県リハビリテーション病院・こども支援センターは、富山県におけるリハビリテーションの中核的病院として、平成28年1月1日に開院したもので、その施設の概要は次のとおりである。

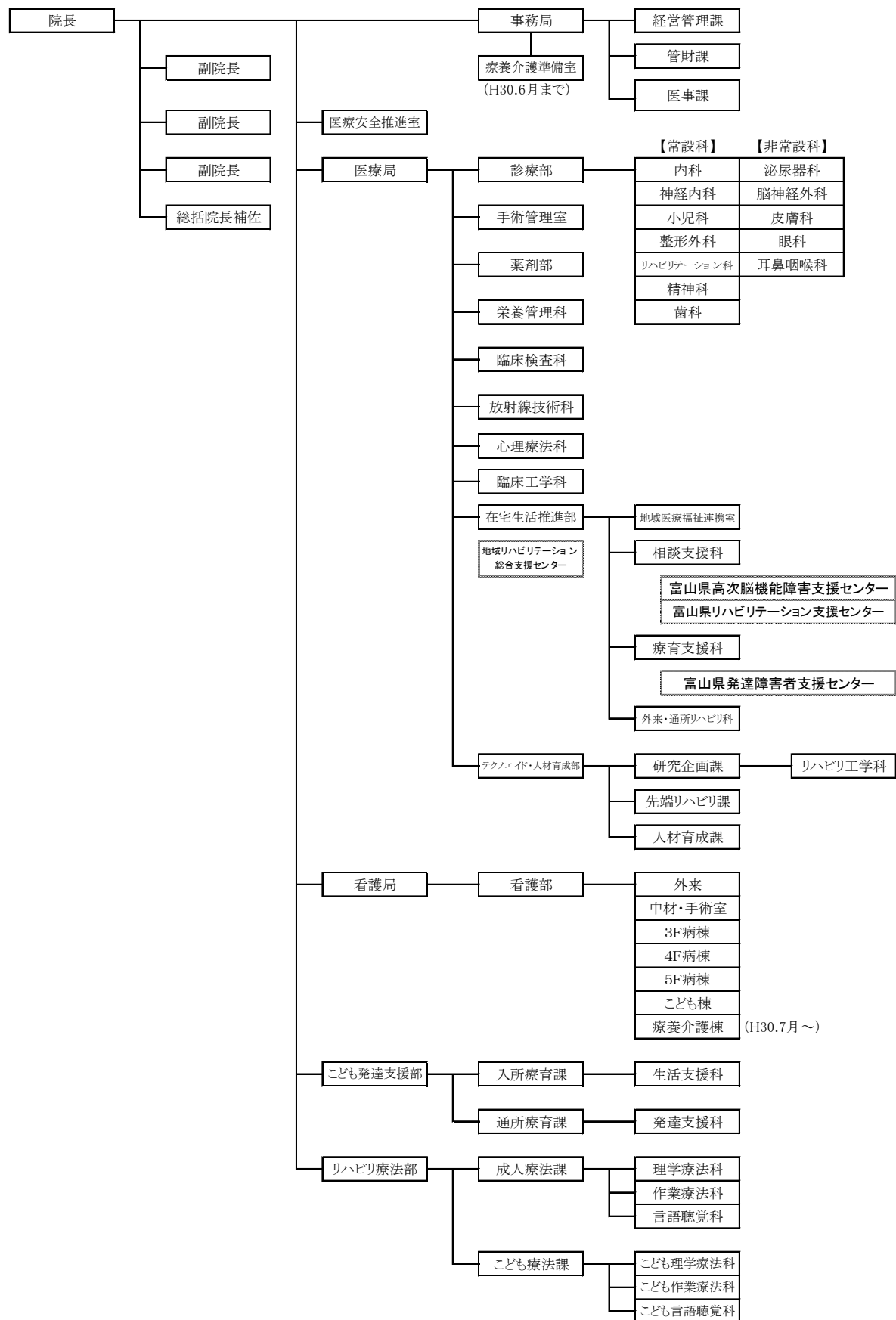
建物の概要

- 1 建設場所 富山市下飯野36番地
- 2 敷地面積 149,479.17 m²
- 3 延面積 29,096.44 m²（渡り廊下等を含む）
- 4 建物構造 鉄筋コンクリート造（3階以上は鉄骨造）地上5階
※こども支援センター（入所ゾーン）は平屋建て
- 5 工期 平成26年4月～平成27年10月
- 6 総工事費 8,660,000 千円
- 7 施設内容

区分	階	主な施設内容
新病院	5階	病棟（一般病棟）
	4階	病棟（回復期病棟）
	3階	病棟（回復期病棟）
	2階	検査、手術室、厨房、管理部門 こども通所
	1階	外来、薬剤、放射線、リハビリ部門等 入所（こども棟）
旧病院	5階	病棟（療養介護棟）
	4階	
	3階	高志ワークホーム
	2階	食堂、研修室、院内保育所、図書室
	1階	地域リハビリテーション総合支援センター （高志訪問看護ステーション）
	地下	機械室、厨房

第4節 組織及び職員

1 組織（平成31年3月31日現在）



2 職員数

(単位：人)

			H30. 4. 1現在			増 減			H31. 3. 31現在		
			県派遣	法人	計	県派遣	法人	計	県派遣	法人	計
医 師	院長			1	1					1	1
	副院長		2	1	3				2	1	3
	医療局長		1		1				1		1
	医部		2	6	8				2	6	8
	医		1	4	5				1	4	5
	副医										
	計		6	12	18	0	0	0	6	12	18
医 療 技 術 職 員 等	薬剤師			7	7					7	7
	管理栄養士			6	6		1	1		7	7
	臨床検査技師			5	5					5	5
	放射線技師			3	3					3	3
	心理判定員			6	6					6	6
	ソーシャルワーカー			13	13					13	13
	精神保健福祉士			1	1					1	1
	児童指導員			3	3					3	3
	研究員(リハ工学)			1	1					1	1
	臨床工学技士			1	1					1	1
	保育士	1	19	20					1	19	20
	理学療法士			48	48		△ 1	△ 1		47	47
	作業療法士			41	41		△ 1	△ 1		40	40
	言語聴覚士	1	25	26					1	25	26
	歯科衛生士			1	1					1	1
	計		2	180	182	0	△ 1	△ 1	2	179	181
看 護 師 等	看護局長			1	1					1	1
	看護部	1			1				1		1
	看護副部			1	1					1	1
	主幹			1	1					1	1
	師			6	6					6	6
	看護師	8	127	135		△ 2	△ 2		8	125	133
	生活支援員					5	5			5	5
	計		9	136	145	0	3	3	9	139	148
事 務 職 員 等	総括院長補佐兼事務局			1	1					1	1
	事務局次長	1	2	3					1	2	3
	主幹			1	1					1	1
	課長補佐	2	2	4					2	2	4
	副主幹			2	2					2	2
	係主幹			3	3					3	3
	主任事	1	11	12					1	11	12
	運転手			1	1					1	1
	計		4	23	27	0	0	0	4	23	27
合 計			21	351	372	0	2	2	21	353	374

※正規職員のみ

3 病院運営に係る各種会議及び委員会

1. 各種会議

(1) 企画経営会議 原則として毎月第3水曜日

病院運営の基本的な事項及び病院経営上重要な事項を審議し決定する。

飯田理事長、橋本院長、井上副院長、宮森副院長、臼田副院長

小林事務局長、京部事務局次長（企画管理課長）、西村事務局次長（経営管理課長）、

松本事務局次長（こども支援センター総合調整担当）・管財課長・医事課長、

木倉医療局長、本郷診療部長、浜松薬剤部長、中川看護局長、峰松こども発達支援部長、大野リハビリテーション療法部長（計15名）

(2) 医療安全対策会議 随時

医療事故・紛争の適切な処理に係る審議等を行う。

橋本院長、井上副院長、宮森副院長、臼田副院長

小林事務局長、西村事務局次長（経営管理課長）、松本医事課長

高木医療安全管理者・看護部長、木倉医療局長、本郷診療部長、中川看護局長

峰松こども発達支援部長、大野リハビリテーション療法部長、岩井医療安全管理者（計14名）

(3) 全体会 原則として毎月第4水曜日

病院の主要事項決定のための連絡機関であり、各部署の連携と全部署への決定事項の伝達を行う。

飯田理事長、橋本院長、井上副院長、宮森副院長、臼田副院長

小林事務局長、西村事務局次長（経営管理課長）、松本事務局次長（こども支援センター総合調整担当）・管財課長・医事課長

高木医療安全管理者・看護部長、吉岡院内感染管理者

木倉医療局長、本郷診療部長、平尾神経内科部長、坂本リハビリテーション科部長、小倉歯科医長、森下手術管理室長

八木薬剤科長、盛野主幹・栄養管理科長、江尻主幹・臨床検査科長、藤田放射線技術科長、森小児科部長（心理療法科長）

浦田在宅生活推進部長、中市地域医療福祉連携室副室長、山本相談支援科長、長谷外来・通所リハビリテーション科長、黒田療育支援課長

高田テクノエイド・人材育成部長、大島研究企画課長、小畑先端リハビリテーション課長、荒木人材育成課長

中川看護局長、浦野看護部副部長

峰松こども発達支援部長、飯久保入所療育課長、田中通所療育課長

大野リハビリテーション療法部長、高嶋リハビリテーション療法部副部長・こども療法課長、経塚成人療法課長（計38名）

(4) 入所児部門調整会議 原則として毎月第3水曜日

こども発達支援部長、宮森副院長、事務局次長（総合調整担当）、小児科部長、相談支援科長、

看護局こども棟師長、入所療育課長、リハビリ療法部こども部代表、事務局課長補佐（計9名）

(5) 通所児部門調整会議 毎月1回水曜日

宮森副院長（こども通所部門総括）、こども発達支援部長、事務局次長（総合調整担当）、事務局課長補佐、小児科部長（診療部医師）、相談支援

科長、療育支援科長、看護局こども棟師長、通所療育課長、発達支援科長、リハビリ療法部こども部代表（計11名）

2. 各種委員会 必要に応じ開催

別表（第2条関係）

名 称	協議事項	委 員	事務担当所属
研究倫理委員会	当院で行われる人（試料・情報を含む。）を対象とする医学系研究及び医療行為に関し、倫理的観点及び科学的観点から中立かつ公正に審査を行うこと	(1) 内部委員 ①副院長 ②事務局長 ③医療局長 ④院長が指名する顧問 ⑤看護局長 ⑥リハビリテーション療法部長 ⑦経営管理課長 (2) 外部委員 ①医学・医療の専門家 ②法律の専門家 ③研究倫理に関する有識者	経営管理課
医療安全委員会	医療安全の推進を図るため、医療事故防止対策の策定、啓発等に関すること	(1) 副院長、診療部長 (2) 診療科代表医師 (3) 医療安全管理者、院内感染管理者 (4) 看護局長、看護部長、看護師長 (5) 薬剤部長、栄養管理科長、臨床検査科長、放射線技術科長 (6) 相談支援科長 (7) 研究企画課長 (8) 経営管理課長、医事課長 (9) こども発達支援部長、入所療育課長、通所療育課長 (10) リハビリ療法部長、リハビリ療法部副部長	医療安全推進室
院内感染対策委員会	院内感染の予防及び衛生管理に関すること	(1) 院長、医療局長 (2) 診療部を代表する若干名の医師（内科、小児科、リハ科） (3) 看護部長、看護師長（こども担当） (4) 院内感染管理者 (5) 薬剤部長、栄養管理科長、臨床検査科長、放射線技術科長 (6) 管財課長 (7) 入所療育課長、通所療育課長 (8) リハビリ療法部成人療法課長、こども療法課長 (9) その他院長が指名する者（感染管理官）	医療安全推進室
防火・防災管理委員会	緊急事態の発生時の対応や危機管理体制に関すること	(1) 院長、副院長、医療局長、こども発達支援部長 (2) 看護局長 (3) 薬剤部長 (4) 事務局長、経営管理課長、管財課長 (5) リハビリ療法部長	管財課

医療ガス安全管理委員会	診療の用に供する酸素、各種麻酔ガス、吸引医療用圧縮空気、窒素等の設備の安全管理に関する事 と	(1) 診療部長 (2) 薬剤科長 (3) 臨床検査科長 (4) 放射線技術科長 (5) 看護部長 (6) 中材・手術室師長 (7) 管財課長	管財課
衛生委員会	労働安全衛生法第18条に基づく、職員の健康の保持増進等を図るための基本となるべき事項に関する事 と	(1) 事務局長 (2) 衛生管理者 (3) 産業医 (4) 経営管理課長 (5) その他院長が指名する者 (6) 組合が推薦する者	経営管理課
褥瘡対策専門委員会	院内褥瘡対策の効率的・効果的な推進に関する事 と	(1) 診療部を代表する若干名の医師 (2) 看護部長、若干名の看護部職員 (3) 若干名の医療技術職員 (4) 若干名のこども発達支援部職員 (5) 若干名のリハビリ療法部職員 (6) 若干名の事務局職員 (7) 研究企画課長	看護局
治験委員会	「医薬品の臨床試験の実施の基準に関する省令」により、治験に関する基本的事項及び安全管理に関する事項	(1) 副院長、診療部を代表する若干名の医師 (2) 看護部長 (3) 医療局次長（薬剤部担当）、若干名の医療技術職員 (4) こども発達支援部長 (5) リハビリ療法部副部長 (6) 事務局長、経営管理課長 (7) 利害関係を有しない者（院外）	薬剤部
医療機器委員会	(1) 医療機器の整備計画及び集中管理等に関する事 と (2) 医療機械の保守点検及び安全使用に関する事 と	(1) 副院長、整形外科部長 (2) 診療部を代表する若干名の医師 (3) 看護部長、看護師長 (4) 薬剤科長、臨床検査科長、放射線技術科長 (5) 事務局長、経営管理課長 (6) 管財課長 (7) こども発達支援部長、入所療育課長、通所療育課長 (8) リハビリ療法部長、リハビリ療法部副部長 (9) 研究企画課長 (10) 臨床工学科長	管財課・臨床工学科
栄養管理委員会	給食の計画、調査及び改善等栄養管理に関する事 と	(1) 医療局長、診療部を代表する若干名の医師 (2) 看護局長が指名する若干名の師長 (3) 薬剤副科長 (4) 栄養管理科長 (5) 入所療育課長、通所療育課長 (6) 若干名の言語聴覚士	栄養管理科

研究開発調整委員会	病院が福祉施設等との連携を深め、事例検討並びに改善及び開発に関するアイデア等の意見交換等を通し、リハビリ医療・生活・福祉・治療機器等の研究開発の充実を図ることにすること	(1) テクノエイド人材育成部長 (2) 研究企画課長、先端リハビリ課長 (3) 病棟看護師 (4) 経営管理課長 (5) リハビリ療法部こども療法課長	研究企画課
手術室運営委員会	手術室の運営に関すること	(1) 院長、手術管理室長 (2) 診療部を代表する若干名の医師 (3) 看護部長 (4) 中材・手術室師長、看護師長 (5) 管財課長	中材・手術室
診療材料委員会	診療材料の購入、管理の適正化に関すること	(1) 手術管理室長 (2) 看護部長、中材・手術室師長 (3) 放射線技術科長、若干名の医療技術職員 (4) 管財課主幹（課長補佐）	管財課
診療情報管理委員会	①病院情報システムの管理・運営等に関する事項 ②診療情報の開示に関する事項 ③カルテ等の管理に関する事項 ④図書の選定・管理等に関する事項	(1) 医療局長、診療部長 (2) 診療部を代表する若干名の医師 (3) 看護局長、看護部を代表する若干名の師長 (4) 薬剤科長、栄養管理科長、臨床検査科長、放射線技術科長 (5) 事務局長、経営管理課長 (6) 研究企画課長 (7) リハビリ療法部長、リハビリ療法部副部長 (8) 医事課長、医事係長	医事課
診療報酬請求事務委員会	病院における診療報酬請求事務に関すること	(1) 副院長、診療部長 (2) 診療部を代表する若干名の医師 (3) 看護局を代表する若干名の師長 (4) 若干名の医療技術職員 (5) 医事課長 (6) 研究企画課長 (7) リハ療法部長、リハ療法部副部長	医事課
薬剤委員会	(1) 薬剤の採用、削除及び効率的使用等に関すること (2) 試用医薬品の取扱い等に関すること (3) 医薬品情報に関すること (4) 医薬分業に関すること (5) 医薬品の安全管理に関すること	(1) 副院長、医療局長、診療部長 (2) 診療部を代表する若干名の医師 (3) 看護部長 (4) 医療局次長（薬剤部担当） (5) こども発達支援部長 (6) 管財課長 (7) 薬剤部長	薬剤部

臨床検査・輸血療法委員会	(1)検査の項目及び方法の検討に関すること (2)検査精度の向上に関すること (3)適正な輸血療法の推進に関すること	(1)診療部長 (2)診療部を代表する若干名の医師 (3)薬剤部長 (4)看護部長 (5)臨床検査科長 (6)経営管理課長、管財課長 (7)その他院長が指名する者	臨床検査科
業務改善委員会	患者本位の良質で安全な医療の提供に必要な事項に関すること	(1)院長、副院長、医療局長、診療部長 (2)看護局長、看護副部長 (3)薬剤部長、臨床検査科長 (4)事務局長、総合調整担当次長 (5)医事課長、経営管理課長、管財課長 (6)リハビリ療法部副部長	看護局
接遇・サービス小委員会	接遇に関する教育・啓蒙を通じ職員の意識の向上を図り、利用者サービスの改善を図る	(1)看護局長 (2)診療部を代表する若干名の医師 (3)若干名の医療技術職員 (4)若干名の看護師 (5)医事課長 (6)若干名の療育担当職員 (7)その他院長が指名する者	看護局
患者意見等小委員会	ご意見箱に寄せられた各種意見、提案等についての対応に関すること	(1)看護部長 (2)診療部長 (3)経営管理課長補佐 (4)相談支援科職員 (5)入所療育課長、通所療育課長 (6)管財課長補佐 (7)こども療法課職員	経営管理課
倫理的配慮検討委員会	患者等の人権を保障するために必要な事項に関すること、職員等に対する啓発に関すること	(1)副院長、診療部を代表する若干名の医師 (2)手術管理室長 (3)薬剤部長、若干名の医療技術職員 (4)看護局長、看護副部長 (5)相談支援科長 (6)経営管理課長、管財課長 (7)こども発達支援部長 (8)リハビリ療法部長 (9)研究企画課長 (10)高志訪問看護ステーション職員	看護局
地域医療福祉連携推進委員会	(1)医療機関や福祉施設、地域との連携の推進に関すること (2)適切な病床運営に関すること	(1)院長 (2)医療局長、リハビリテーション科部長 (3)看護局長 (4)地域医療福祉連携室長、相談支援科長 (5)こども発達支援部長 (6)経営管理課長、医事課長 (7)リハビリ療法部長	地域医療福祉連携室

臨床パス委員会	臨床パスの検討に関すること	(1) 医療局長 (2) 診療部を代表する若干名の医師 (3) 看護師長、若干名の看護師 (4) 若干名の医療技術職員 (5) 若干名の相談支援科職員 (6) 若干名のリハビリ療法部職員 (7) 若干名の事務局職員	看護局
成人リハビリテーション運営委員会	(1) 障害発症急性期又は術後の早期からのリハビリテーションに関すること (2) 障害回復期の自立生活機能・能力の回復と向上に関すること (3) 障害維持期の生活の質的向上に関すること (4) その他リハビリテーションの質の向上に関すること	(1) リハビリ療法部長、成人療法課長、成人療法課の各科長 (2) 医療局長、診療科を代表する若干名の医師 (3) 相談支援科長 (4) 外来・通所リハビリ科長 (5) 先端リハビリ課長 (6) 人材育成課長 (7) 看護部長、病棟看護師長 (8) 医事課長	リハビリ療法部成人療法課
こどもリハビリテーション運営委員会	(1) 障害児の発症・術後の早期からのリハビリテーションに関すること (2) 障害児の自立生活機能・能力の獲得と向上に関すること (3) 障害児を取り巻く地域との連携に関すること (4) その他リハビリテーションの質の向上に関すること	(1) リハビリ療法部副部長、こども療法課長、こども療法課長補佐、こども療法課の各科長 (2) 副院長 (3) 小児科医師 (4) こども発達支援部長 (5) 看護師長 (6) 入所療育課長 (7) 通所療育課長 (8) 療育支援科長 (9) 相談支援科長 (10) 次長（総合調整担当）、医事課長補佐	リハビリ療法部こども療法課
研修委員会	研修に関すること	(1) テクノエイド・人材育成部長 (2) 副院長 (3) 診療部長 (4) 在宅生活推進部長 (5) 薬剤部長 (6) 看護部長、看護師長 (7) こども発達支援部長 (8) リハビリ療法部長、副部長 (9) 経営管理課長 (10) 人材育成課長 (11) 若干名の看護師 (12) 若干名の医療技術職員 (13) 若干名のリハビリ療法部職員	テクノエイド・人材育成部
広報委員会	広報活動の協議及びその評価に関すること	(1) 副院長、診療部長 (2) 看護局長 (3) リハビリ療法部長 (4) 薬剤科長 (5) 経営管理課長、管財課長 (6) 地域医療福祉連携室長 (7) テクノエイド・人材育成部長	経営管理課

糖尿病管理委員会	(1) 糖尿病を伴う患者の適切かつ安全な血糖管理・栄養管理に関すること (2) 当院における主疾患に対する治療・リハビリ効果を退院後も維持するための糖尿病在宅療養に関すること	(1) 内科（内分泌代謝・糖尿病）医師 (2) リハビリテーション科医師 (3) 看護局長 (4) 薬剤部長 (5) 栄養管理科長 (6) 臨床検査科長 (7) 理学療法科長 (8) 相談支援科長 (9) 医事課長	栄養管理科
----------	--	---	-------

【チーム】

名 称	協議事項	委 員	事務担当所属
医療救護班	大規模災害発生時の救護に関すること	(1) リハビリテーション科部長、リハビリテーション科医長 (2) 若干名の外来・通所リハビリ科に所属する理学療法士 (3) 若干名のリハビリ療法部に所属する作業療法士 (4) 若干名の看護師 (5) 若干名の事務局職員	経営管理課
栄養サポートチーム（NST）	栄養サポートチームに関すること	(1) 医療局長、若干名の医師 (2) 若干名の栄養管理科職員 (3) 若干名の看護師 (4) 若干名の医療技術職員 (5) 若干名のリハビリ療法部職員 (6) その他院長が指名する者	栄養管理科
嚥下管理チーム	嚥下管理に関すること	(1) 医療局長 (2) 歯科医師、歯科衛生士 (3) 摂食嚥下障害看護認定看護師・若干名の看護師 (4) 若干名の言語聴覚士 (5) 若干名の栄養管理科職員	看護局
感染対策チーム（ICT）	院内感染の予防及び衛生管理の推進に関する活動に関すること	(1) 医療局長、診療部を代表する若干名の医師 (2) 院内感染管理者、感染管理官 (3) 若干名の医療技術職員 (4) 若干名の看護師 (5) 若干名の事務局職員 (6) 若干名のこども発達支援部職員 (7) 若干名のリハビリ療法部職員	医療安全推進室
糖尿病支援チーム	糖尿病を伴う入院患者の糖尿病管理の向上およびスタッフのスキルアップに関すること	(1) 内科（内分泌代謝・糖尿病）医師 (2) 歯科医師 (3) 看護局長が指名する看護師 (4) 各所属の長が指名する管理栄養士、薬剤師、臨床検査技師、理学療法士、社会福祉士、医事課職員 (5) その他院長が必要と認める職員	栄養管理科

広報チーム	広報誌、ホームページ等に関すること	(1) 院長が指名する者	経営管理課
認知症ケアチーム	認知症患者のケアに関すること	(1) 専任の常勤医師(精神科・神経内科の経験 5 年以上) (2) 専任の常勤看護師(認知症看護の研修(600 時間以上)を修了している) (3) 専任の社会福祉士 (4) 作業療法士 (5) 看護師	看護局
排尿ケアチーム	下部尿路機能障害を有する患者に関するケアの評価に関すること	(1) 下部尿路機能障害を有する患者の診療について経験を有する医師 (2) 専任の常勤看護師(下部尿路機能障害を有する患者の看護に従事した経験を 3 年以上有し、所定の研修(16 時間以上)を修了している) (3) 下部尿路機能障害を有する患者のリハビリテーション等の経験を有する常勤理学療法士	看護局
骨折予防対策チーム	骨粗鬆症の診断、治療の継続、教育に関すること	(1) 整形外科医師 (2) リハビリテーション科医師 (3) 歯科医師 (4) 薬剤師 (5) 社会福祉士 (6) 臨床検査技師 (7) 管理栄養士 (8) 理学療法士 (9) 看護師(地域連携室)含む	看護局

4 病院会計

当院の平成 30 年度（平成 30 年 4 月 1 日から平成 31 年 3 月 31 日まで）の資金収支計算書は、次のとおりであった。

なお、県から 5 年間の指定管理を受けて運営を行っている（平成 30 年 4 月～平成 35 年 3 月）。

（１） 資金収支計算書

	科 目		予 算	決 算	差 引 増 減 額
	大 区 分	中（小）【補助】区分	①	(B)	(B)-(A)
事業活動による収支	介護保険事業収入		7,332,000	12,115,648	4,783,648
	障害福祉サービス等 事業収入		193,203,000	199,675,694	6,472,694
		自立支援給付費収入	45,014,000	44,319,939	△ 694,061
		障害児施設給付費収入	139,411,000	146,391,923	6,980,923
		利用者負担金収入	8,220,000	7,420,635	△ 799,365
		特定費用収入	0	1,051,280	1,051,280
		受託事業収入	558,000	491,917	△ 66,083
	医療事業収入		3,799,554,000	3,748,423,736	△ 51,130,264
		入院診療収入	2,387,642,000	2,417,412,121	29,770,121
		室料差額収入	21,840,000	22,680,000	840,000
		外来診療収入	782,743,000	740,926,739	△ 41,816,261
		手数料収入	9,600,000	10,112,270	512,270
		(受託事業収入)	597,729,000	557,292,606	△ 40,436,394
	経常経費寄附金収入		0	86,519	86,519
	受取利息配当金収入		640,000	639,600	△ 400
	その他の収入		7,646,000	12,464,288	4,818,288
	事業活動収入計（１）		4,008,375,000	3,973,405,485	△ 34,969,515
	人件費支出		2,608,618,000	2,592,750,809	△ 31,667,191
	事業費支出		774,574,000	708,085,080	△ 37,179,733
	事務費支出		466,978,000	495,226,557	0
	医療事業支出		9,600,000	10,660,630	0
	その他の支出		1,930,000	1,660,511	△ 269,489
	事業活動支出計（２）		3,861,700,000	3,808,383,587	△ 69,116,413
	事業活動資金収支差額（３）＝（１）－（２）		146,675,000	165,021,898	34,146,898
施設整備等による収支	施設整備等収入計（４）		0	0	0
	固定資産取得支出		0	3,498,504	0
	ファイナンス・リース債務の返済支出		63,490,000	59,520,744	△ 470,752
	施設整備等支出計（５）		63,490,000	63,019,248	△ 470,752
	施設整備費等資金収支差額（６）＝（４）－（５）		△ 63,490,000	△ 63,019,248	470,752
その他の活動による収支	積立資産取崩収入		0	19,357,520	3,557,520
		退職給付引当資産取崩収入	0	19,357,520	3,557,520
	事業区分間繰入金収入		6,215,000	0	△ 6,215,000
	拠点区分間繰入金収入		0	0	0
	サービス区分間繰入金収入		0	7,481,626	7,481,626
	その他の活動による収入		0	457,614	457,614
	その他の活動収入計（７）		6,215,000	27,296,760	5,281,760
	積立資産支出		43,000,000	58,624,779	0
	事業区分間繰入金支出		16,400,000	28,229,773	0
	サービス区分間繰入金支出		0	15,000	0
	その他の活動による支出		0	2,315,666	0
	その他の活動支出計（８）		59,400,000	89,185,218	0
	その他の活動による資金収支差額（９）＝（７）－（８）		△ 53,185,000	△ 61,888,458	5,281,760
予 備 費（１０）		30,000,000	0	△ 214,782	
当期資金収支差額合計（１１）＝（３）＋（６）＋（９）－（１０）		0	40,114,192	40,114,192	

第2章 業 務

第1節 診療部

1 運営概要

常設6診療科〔内科、神経内科、整形外科、リハビリテーション科、歯科、小児科〔小児神経科、小児整形外科〕〕と非常設科6診療科〔泌尿器科、精神科、脳神経外科、皮膚科、眼科、耳鼻咽喉科〕から構成されている。

また、専門外来として、11外来（糖尿病、嚥下、パーキンソン病、非侵襲的脳刺激治療、リウマチ、義肢・装具、てんかん、子どもの心、手足の外科、甲状腺、腎臓・高血圧）を設置している。

当院の対象患者の多くは、①他医療機関からの紹介患者であり、②日常生活を行う上で障害があり、③その障害の改善のための対策が講じられ、かつ、④本人および家族から社会復帰への協力が得られる。また、一般病床50床を有することから神経難病の治療のほか、整形外科的疾患で手術を受ける患者さんも増加してきた。さらに、平成30年7月には療養介護棟を開設し重度心身障害者や筋ジス・ALS患者の受入れも開始した。

当院での主な対象疾患・障害は、脳血管障害、脊髄障害、骨・関節障害（リウマチ疾患を含む）、四肢切断、神経・筋疾患、脳性麻痺等である。手足の外科に関連する疾患、関節リウマチ、四肢の骨折とくに大腿骨頸部骨折も積極的に受け入れ手術を行っている。

診療部医師は、当院を利用する患者または障害者の直接的な診療（診察、検査、診断、薬物療法、手術療法、食事療法等）やリハビリテーション医療の指導・監督および在宅生活推進部やテクノエイド・人材育成部との緊密な協力等、重要な役割を担っている。

平成30年度の常勤医師数は、内科3名、神経内科2名、整形外科3名、リハビリテーション科3名、精神科1名、歯科1名、小児科6名であった。

入院患者の診療は、図1のごとく、チーム医療で問題点指向、計画、評価、退院後のフォローアップといった流れで行われている。退院後は、地域医療機関または福祉施設との連携を図っている。また、富山市医師会の病診連携システムの連携病院の一員となっている。脳卒中と大腿骨頸部骨折の患者については、地域連携パスを使って転院される方がほとんどである。

2 業務実績

外来の診療時間は表1のとおりである。入院患者総数は1,104名であり（表2）、このうち50歳代以上が70.5%を占め、65歳以上の高齢層が56.4%となっている。地域別に見ると富山市が61.8%と圧倒的に多い。

手術件数（表5）は319件（平成29年 292件）であり、小児整形外科の手術は42件（平成29年 20件）、整形外科は277件（平成29年 272件）であった。

図 1 入院診療の流れ

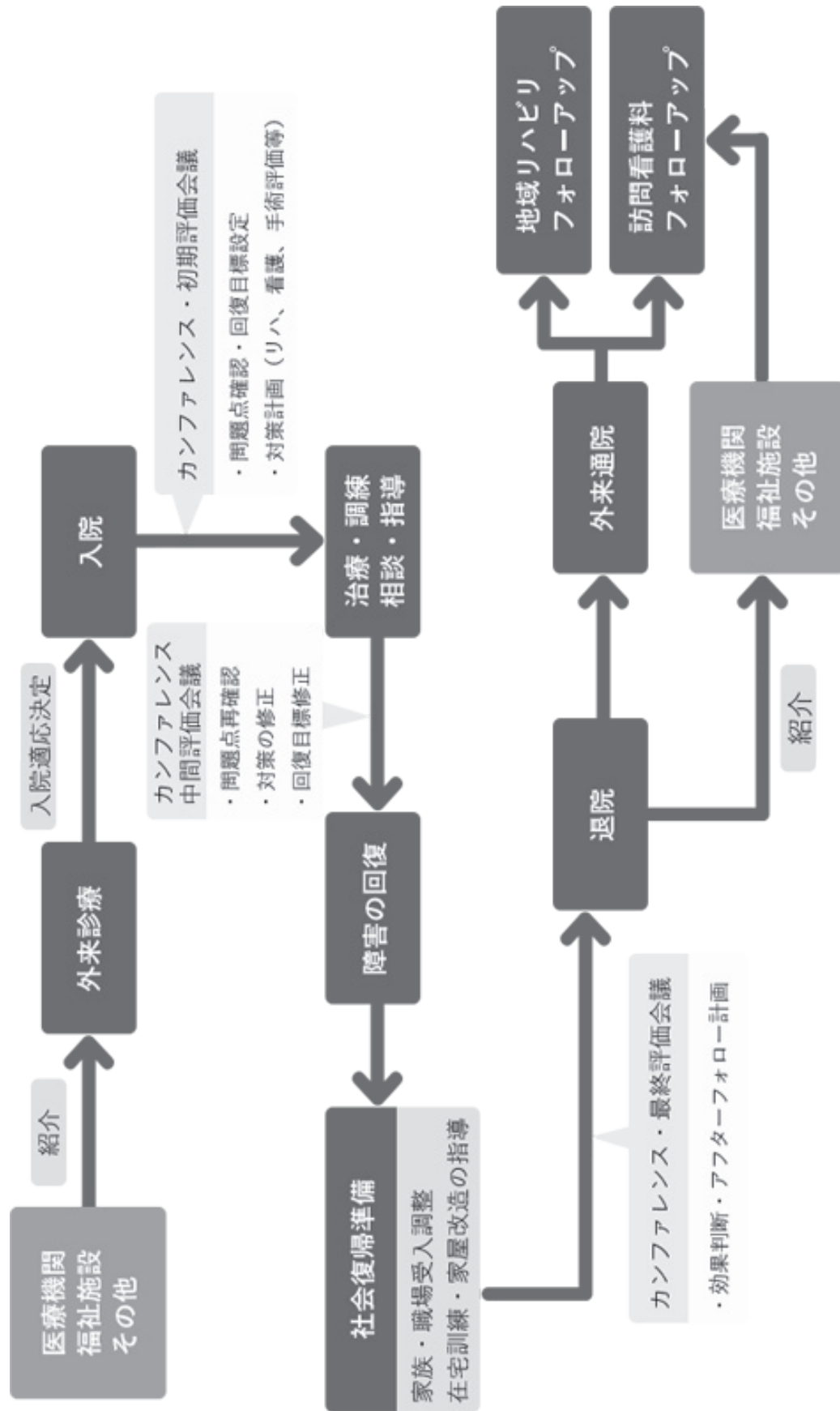


表 1 外来診療時間

平成30年4月

科名／専門外来名	診察日時 【 受付時間：午前は8:30～11:00、午後は13:00～15:00 】										休診日
	月曜日		火曜日		水曜日		木曜日		金曜日		
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	
内 科	○		○		○		○		○		土・日曜日 祝日 年末年始 (12/29～1/3)
神経内科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
小 児 科 (小児神経科)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
小 児 科 (小児整形外科)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
整形外科	○	○	○		○		○		○		
リハビリ科	○		○		○		○		○		
脳神経外科				○				○			
泌尿器科					○	○	○	○			
精 神 科				○						○	
皮 膚 科						○					
眼 科										当面 休診	
耳鼻いんこう科				○				○			
歯 科	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
嚥 下					隔週						
糖 尿 病			○	○	○	○			○	○	
甲状腺			○	○	○	○			○	○	
腎臓・高血圧	○						○				
パーキンソン病				第2・4							
非侵襲的脳刺激治療			○								
手足の外科	○		○				○		○		
リウマチ		○									
義肢・装具								○			
てんかん	○		○	○			○		○		
子どもの心					○	○	○	○	○	○	

表2 入院患者分類表(平成30年度)

区 分		男性	女性	合計	構成比
年 齢 階 層 別	20才未満	106	113	219	19.8
	20才～29才	12	10	22	2
	30才～39才	9	13	22	2
	40才～49才	42	21	63	5.7
	50才～59才	56	38	94	8.5
	60才～69才	108	51	159	14.4
	70才～79才	150	119	269	24.4
	80才以上	86	170	256	23.2
	(65才以上)	300	323	623	56.4
	合計	569	535	1104	100
地 区 別	富山市	349	333	682	61.8
	高岡市	58	61	119	10.8
	黒部市	8	9	17	1.5
	魚津市	10	11	21	1.9
	滑川市	29	18	47	4.3
	氷見市	7	4	11	1
	砺波市	4	3	7	0.6
	小矢部市	7	1	8	0.7
	南砺市	2	2	4	0.4
	射水市	25	32	57	5.2
	下新川郡	16	13	29	2.6
	中新川郡	46	28	74	6.7
	県外	8	20	28	2.5
	その他	0	0	0	0
	合計	569	535	1104	100

表3 診療統計1(入院)

年度月	全診療科					内科					神経内科					整形外科					リハビリテーション科					小児科（小児神経科）					富山県リハビリテーション病院・こども支援センター				
	療養 こども					療養 こども					療養 こども					療養 こども					療養 こども					療養 こども					療養 こども				
	3階	4階	5階	計	療養 こども	3階	4階	5階	計	療養 こども	3階	4階	5階	計	療養 こども	3階	4階	5階	計	療養 こども	3階	4階	5階	計	療養 こども	3階	4階	5階	計	療養 こども	3階	4階	5階	計	
29年度計	13,359	7,762	2,990	65,471	3	2,990	7,762	2,990	7,902	0	570	3,806	42	4,075	15,553	0	10,396	24,622	8,081	5,233	0	10,396	24,622	8,081	5,233	0	10,396	24,622	8,081	5,233	0	10,396	24,622	8,081	5,233
30年 4月	1,057	1,443	1,491	5,352	1	1,491	1,443	1,491	472	0	128	357	2	555	1,296	0	962	1,975	679	375	0	962	1,975	679	375	0	962	1,975	679	375	0	962	1,975	679	375
5月	1,052	1,498	1,491	5,436	0	1,491	1,498	1,491	508	0	40	329	0	458	1,179	0	1,152	2,239	709	343	0	1,152	2,239	709	343	0	1,152	2,239	709	343	0	1,152	2,239	709	343
6月	1,045	1,435	1,477	5,280	0	1,477	1,435	1,477	405	0	30	329	0	331	1,336	0	1,121	2,163	696	349	0	1,121	2,163	696	349	0	1,121	2,163	696	349	0	1,121	2,163	696	349
7月	1,216	1,455	1,508	5,889	0	1,508	1,455	1,508	468	0	13	375	0	604	1,459	0	1,137	2,142	774	442	0	1,137	2,142	774	442	0	1,137	2,142	774	442	0	1,137	2,142	774	442
8月	1,258	1,454	1,475	5,884	0	1,475	1,454	1,475	510	0	18	375	0	680	1,401	0	1,054	2,041	753	499	0	1,054	2,041	753	499	0	1,054	2,041	753	499	0	1,054	2,041	753	499
9月	1,194	1,396	1,423	5,718	0	1,423	1,396	1,423	416	0	19	375	0	683	1,467	0	849	1,958	712	482	0	849	1,958	712	482	0	849	1,958	712	482	0	849	1,958	712	482
10月	1,154	1,498	1,515	5,894	0	1,515	1,498	1,515	485	0	19	375	0	706	1,462	0	894	2,087	705	449	0	894	2,087	705	449	0	894	2,087	705	449	0	894	2,087	705	449
11月	1,388	1,454	1,457	5,998	0	1,457	1,388	1,457	468	0	166	375	0	726	1,588	0	998	2,087	660	469	0	998	2,087	660	469	0	998	2,087	660	469	0	998	2,087	660	469
12月	1,235	1,481	1,445	6,087	0	1,445	1,235	1,445	431	0	58	375	0	681	1,610	0	1,096	2,138	714	513	0	1,096	2,138	714	513	0	1,096	2,138	714	513	0	1,096	2,138	714	513
31年 1月	1,533	1,505	1,436	6,210	0	1,436	1,533	1,436	515	0	124	375	0	671	1,673	0	1,099	2,173	690	488	0	1,099	2,173	690	488	0	1,099	2,173	690	488	0	1,099	2,173	690	488
2月	1,178	1,365	1,384	5,724	0	1,384	1,178	1,384	449	0	504	375	0	721	1,397	0	955	1,978	660	519	0	955	1,978	660	519	0	955	1,978	660	519	0	955	1,978	660	519
3月	1,300	1,509	1,481	6,275	0	1,481	1,300	1,481	424	0	75	375	0	794	1,549	0	1,080	2,210	735	563	0	1,080	2,210	735	563	0	1,080	2,210	735	563	0	1,080	2,210	735	563
30年度計	14,006	7,521	2,747	69,747	0	7,521	14,006	2,747	5,551	0	27	4,685	0	7,610	17,417	0	12,397	25,191	8,487	5,491	0	12,397	25,191	8,487	5,491	0	12,397	25,191	8,487	5,491	0	12,397	25,191	8,487	5,491

表4 診療統計2(外来)

富山県リハビリテーション病院・こども支援センター

年度月	全診療科	内科	神経内科	整形外科	リハビリテーション科	泌尿器科	精神科	脳神経外科	皮膚科	眼科	耳鼻咽喉科	歯科	小児科 (小児神経科)	小児 整形外科	児童精神科	初診	再診	診療実 日数
29年度計	併科	1,921	461	675	377	1,070	276	64	409	0	492	2	103	86	7	696	8,101	
	本科	4,631	4,377	8,551	4,274	1,729	825	203	488	0	608	2,698	29,370	7,033	2,602	3,341	61,194	244
	計	6,552	4,838	9,226	4,651	2,799	1,101	267	897	0	1,100	2,700	29,473	7,119	2,609	4,037	69,295	
30年 4月	併科	168	29	61	38	80	25	4	30	0	31	0	4	6	0	45	431	
	本科	387	356	695	310	135	96	26	46	0	57	262	2,285	583	254	301	5,191	20
	計	555	385	756	348	215	121	30	76	0	88	262	2,289	589	254	346	5,622	
5月	併科	566	245	78	28	78	24	8	36	0	38	0	4	6	0	49	517	
	本科	6,035	408	716	292	151	113	31	39	0	62	251	2,664	632	267	306	5,729	21
	計	6,601	653	794	320	229	137	39	75	0	100	251	2,668	638	267	355	6,246	
6月	併科	543	241	62	25	67	48	6	26	0	31	0	7	8	1	43	500	
	本科	5,888	328	721	289	136	119	23	42	0	70	230	2,709	642	238	281	5,607	21
	計	6,431	569	783	314	203	167	29	68	0	101	230	2,716	650	239	324	6,107	
7月	併科	471	184	69	41	64	16	7	20	0	29	0	7	21	1	56	415	
	本科	6,329	382	786	332	135	134	37	32	0	55	200	2,804	714	310	315	6,014	21
	計	6,800	566	855	373	199	150	44	52	0	84	200	2,811	735	311	371	6,429	
8月	併科	492	171	58	38	90	16	3	40	0	30	0	11	6	0	47	445	
	本科	6,404	388	784	324	162	118	20	40	0	52	224	2,878	759	263	332	6,072	23
	計	6,896	559	842	362	252	134	23	80	0	82	224	2,889	765	263	379	6,517	
9月	併科	485	198	55	36	75	14	3	39	0	24	1	4	2	0	42	443	
	本科	5,425	341	664	279	140	121	22	28	0	35	209	2,406	564	265	241	5,184	18
	計	5,910	539	719	315	215	135	25	67	0	59	210	2,410	566	265	283	5,627	
10月	併科	572	232	60	33	76	21	9	42	0	29	0	8	8	0	87	735	
	本科	6,368	388	743	330	149	149	28	29	0	45	250	2,955	589	313	255	5,863	22
	計	6,940	620	803	363	225	170	37	71	0	74	250	2,963	597	313	342	6,598	
11月	併科	540	230	59	41	72	20	4	22	0	25	7	17	4	0	48	492	
	本科	6,219	366	715	284	146	126	35	37	0	52	257	2,850	685	299	259	5,960	21
	計	6,759	596	774	325	218	146	39	59	0	77	264	2,867	689	299	307	6,452	
12月	併科	555	247	59	34	84	32	6	22	0	27	1	8	4	0	50	505	
	本科	5,874	383	696	275	152	123	27	30	0	38	198	2,621	658	329	196	5,678	19
	計	6,429	630	755	309	236	155	33	52	0	65	199	2,629	662	329	246	6,183	
31年 1月	併科	547	212	35	27	83	34	20	35	0	29	1	2	6	0	42	505	
	本科	5,763	388	707	281	133	109	29	29	0	41	245	2,593	558	290	300	5,463	19
	計	6,310	600	760	308	216	143	49	64	0	70	246	2,595	564	290	342	5,968	
2月	併科	563	215	34	31	70	60	12	21	0	44	0	4	7	0	48	515	
	本科	5,739	368	707	262	146	133	30	28	0	51	244	2,643	542	290	288	5,451	19
	計	6,302	583	735	293	216	193	42	49	0	95	244	2,647	549	290	336	5,966	
3月	併科	525	212	22	32	62	53	9	22	0	29	0	8	5	0	56	469	
	本科	6,195	381	718	339	144	118	29	35	0	35	250	2,730	768	299	280	5,915	20
	計	6,720	593	789	371	206	171	38	59	0	64	250	2,738	773	299	336	6,384	
30年度計	併科	6,335	2,555	361	404	901	363	91	355	0	366	10	84	83	2	613	5,972	
	本科	71,731	4,508	4,397	3,597	1,729	1,459	337	417	0	593	2,820	32,138	7,694	3,437	3,354	68,127	
	計	78,066	7,063	4,758	4,001	2,630	1,822	428	772	0	959	2,830	32,222	7,777	3,439	3,967	74,099	

表5 手術・麻酔件数

	整形外科		小児科		リハビリ科		合 計	
月	H29	H30	H29	H30	H29	H30	H29	H30
4	9	21	0	3	0	0	9	24
5	24	21	2	2	0	0	26	23
6	22	22	1	1	0	0	23	23
7	23	16	1	6	0	0	24	22
8	13	28	2	5	0	0	15	33
9	20	22	0	2	0	0	20	24
10	20	25	3	3	0	0	23	28
11	31	20	3	5	0	0	34	25
12	20	26	1	3	0	0	21	29
1	32	31	3	3	0	0	35	34
2	30	21	3	5	0	0	33	26

全身麻酔		腰椎麻酔		ブロック他	
H29	H30	H29	H30	H29	H30
2	6	1	3	6	15
5	6	2	3	19	14
7	4	2	2	14	17
6	9	3	1	15	11
4	8	2	4	9	21
4	6	4	4	12	13
5	6	5	4	13	18
5	8	8	4	21	13
8	10	0	3	13	16
8	6	4	6	23	22
7	5	5	5	20	16

表6 手術内容別件数

手術内容／月		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
小児整形外科	筋解離術・腱延長術・腱切離術		1		4	2					1	1		9
	大腿骨近位部骨切術	1	1	1	1		1					1		7
	骨内異物除去術	1									1	1	2	5
	筋性斜頸手術										1			1
	先天性股関節脱臼観血的手術							2		1			1	4
	内反足手術					1			2			1		4
	その他	1			1	2	1		3	2		1	1	12
	小計	3	2	1	6	5	2	3	5	3	3	5	4	42
	人工関節手術		1	1					1		1		1	5
	人工骨頭置換術			1							1			2
整形外科	全置換(THA)	1	1	1		2	2	1	2	1	1			12
	人工膝関節(TKA)	2	3	2	2	2	4	7	1	2	1	1	3	30
	上肢		1				1			2	2		1	7
	骨折観血的手術		1							2	2		1	7
	下肢		1			1		1	1	2	1	4	1	12
	その他													
	骨内異物除去術	1	4		2	3	2	1	2	4	1	2	3	25
	骨切り術・骨切除術		1			3		3	1		2		1	11
	手根管開放術	3	1	6	3	5	2	1	1	2	4	1	2	31
	腱鞘切開術	3	1	5	3	3	2	2		1	4	3	1	28
	神経剥離術	1		3		2		1		2	2	2	2	15
	偽関節手術		1								1		2	4
	デュプイトレン拘縮手術	1				1		1	1					4
	関節形成手術			1						2	1		1	5
	観血的関節受動術	1		1					1					3
	多指症手術													0
	その他	8	6	2	5	6	9	7	9	8	9	8	6	83
	小計	21	21	22	16	28	22	25	20	26	31	21	24	277
	総合計	24	23	23	22	33	24	28	25	29	34	26	28	319

第2節 薬剤部

1 理念

病院薬剤部門の責務は、医薬品の品質と安全性の確保、また、関連情報の管理を行い、治療を受ける人々に対し、最適な薬物療法を提供することにある。また、医療スタッフには医薬品に関連した情報等を迅速かつ正確に提供することにより、医療の場でその効果を発揮できるよう努めることを目標とする。

2 業務内容

1 医薬品の採用、契約にかかわる業務

- 1-1 新規採用医薬品の申請書受領
- 1-2 医薬品情報の収集・評価
- 1-3 仮採用としての事務納入単価契約
- 1-4 各システム薬品マスタ登録
- 1-5 薬剤委員会審議
- 1-6 医薬品単価契約業務

2 医薬品の購入管理にかかわる業務…（表1）（表2）（表3）

- 2-1 発注業務
- 2-2 納品検収業務・品質管理

3 医薬品の払出・在庫管理にかかわる業務

- 3-1 院内各部署への供給、管理
- 3-2 医薬品棚卸業務

4 規制医薬品管理業務

- 4-1 麻薬施用者免許申請、麻薬管理者免許申請等
- 4-2 中枢神経刺激剤管理
- 4-3 特定生物由来製品
- 4-4 ワクチン・トキソイド製剤の管理

5 オーダリング運用システムに関する業務

6 調剤業務

- 6-1 処方箋（一般処方）…（表4）
- 6-2 注射箋（注射処方箋）…（表5）

7 病棟業務…（表 6）

7-1 持参薬鑑別業務

7-2 服薬指導

7-3 退院時指導

7-4 配薬監査業務

7-5 服薬能力判定評価

7-6 服薬自己管理指導

7-7 病棟薬品管理（救急薬品カート）

7-8 患者相談窓口業務

7-9 病棟医療スタッフに対する情報提供

8 その他

8-1 医薬品安全管理責任者業務…（表 7）

8-2 お薬相談窓口業務

8-3 医薬品情報提供業務

8-4 災害時における医薬品補給

8-5 医薬品副作用報告業務

8-6 疑義照会質疑記録業務

8-7 医療過誤発生時対応

9 院内製剤…（表 8）

10 院内各種委員会業務

11 治験および医薬品の市販後調査に関する業務

11-1 医薬品の製造販売承認申請又は承認事項一部変更承認申請の際に

提出すべき資料の収集のために行う治験の事務局業務と治験薬の管理…（表 9）

11-2 医薬品の市販後調査

3 業務実績

表1 採用医薬品数（3月31日現在）

年度	総数 (ワクチン除く)	後発品数 (率)		内服 (後発品数)	注射 (後発品数)	外用 (後発品数)	ワクチン (後発品数)				
平成26年度	909	183	20.1%	497	110	245	33	167	40	16	—
平成27年度	923	237	25.7%	506	146	250	43	167	48	16	—
平成28年度	945	258	27.3%	513	159	263	49	169	50	13	—
平成29年度	963	309	32.1%	528	202	269	53	166	54	15	—
平成30年度	989	320	32.4%	556	214	270	53	163	53	14	—

表2 剤型別薬品購入費(千円)

年度	総額	内服薬	注射薬	外用薬	ワクチン
平成26年度	303,185	187,357	99,399	14,792	1,637
平成27年度	333,485	197,071	115,877	18,409	2,128
平成28年度	338,212	206,135	109,790	21,743	544
平成29年度	337,783	205,254	109,852	20,348	2,330
平成30年度	331,104	196,160	113,579	19,111	2,254

表 3 薬効分類別薬品購入費							
薬効分類		平成30年度		平成29年度		増減額（千円）	対前年比
		順位	薬品費（千円）	順位	薬品費（千円）		
11	中枢神経系用薬	1	127,795	1	119,367	8,428	107.1%
39	その他の代謝性医薬品	2	36,936	3	39,243	-2,307	94.1%
12	末梢神経系用薬	3	32,822	2	39,576	-6,754	82.9%
23	消化器官用薬	4	30,678	4	31,474	-796	97.5%
63	生物学的製剤	5	22,423	7	16,113	6,310	139.2%
21	循環器官用薬	6	14,878	5	18,688	-3,810	79.6%
24	ホルモン剤(抗ホルモン剤を含む)	7	12,292	8	11,926	366	103.1%
33	血液・体液用薬	8	12,239	6	16,407	-4,168	74.6%
32	滋養強壮剤	9	8,793	9	9,790	-997	89.8%
25	泌尿生殖器官及び肛門用薬	10	6,422	10	7,312	-890	87.8%
26	外皮用薬	11	5,078	11	6,199	-1,121	81.9%
61	抗生物質製剤	12	4,792	13	4,545	247	105.4%
62	化学療法剤	13	3,592	12	4,997	-1,405	71.9%
31	ビタミン剤	14	3,200	14	3,122	78	102.5%
22	呼吸器官用薬	15	2,366	17	1,875	491	126.2%
52	漢方製剤	16	2,362	15	2,565	-203	92.1%
99	その他	17	1,063	16	1,882	-819	56.5%
44	アレルギー用薬	18	1,003	18	1,177	-174	85.2%
29	その他の個々の器官系用薬	19	949	22	190	759	499.5%
71	調剤用剤	20	528	20	452	76	116.9%
13	感覚器官用薬	21	502	19	502	-0	100.0%
82	非アルカロイド系麻薬	22	190	23	157	33	121.0%
72	診断用薬	23	182	21	194	-12	93.8%
42	腫瘍用薬	24	0	24	30	-30	0.0%
51	生薬	25	0	25	1	-1	0.0%
81	アルカロイド系麻薬（天然麻薬）	26	0	26	0	0	#DIV/0!
27	歯科口腔用薬	27	0	27	0	0	#DIV/0!
64	寄生動物用薬	28	0	28	0	0	#DIV/0!
59	その他生薬漢方処方に基づく医薬品	29	0	29	0	0	#DIV/0!
79	その他治療を主目的としない医薬品	30	0	30	0	0	#DIV/0!
41	細胞賦活用薬	31	0	31	0	0	#DIV/0!
総 計			331,085		337,783	-6,698	98.0%

表4 処 方 箋 発 行 状 況										
	合 計		外 来		入 院		院 外			
月	処方箋枚数	件数	処方箋枚数	件数	処方箋枚数	件数	枚数	発行率		
4	2,747	8,285	1,504	4,365	1,243	3,920	1,116	42.6%		
5	2,997	8,638	1,563	4,345	1,434	4,293	1,247	44.4%		
6	2,729	8,106	1,454	3,933	1,275	4,173	1,064	42.3%		
7	2,961	8,808	1,532	4,306	1,429	4,502	1,200	43.9%		
8	2,946	8,817	1,574	4,393	1,372	4,424	1,206	43.4%		
9	2,500	6,659	1,394	3,887	1,106	3,574	1,048	42.9%		
10	2,974	9,101	1,613	4,602	1,361	4,499	1,299	44.6%		
11	2,912	8,879	1,494	4,235	1,418	4,644	1,254	45.6%		
12	2,741	8,446	1,477	4,231	1,264	4,215	1,232	45.5%		
1	2,904	8,660	1,560	4,237	1,344	4,423	1,178	43.0%		
2	2,852	8,482	1,526	4,188	1,326	4,294	1,213	44.3%		
3	2,912	8,497	1,571	4,212	1,341	4,285	1,240	44.1%		
合 計	34,175	101,378	18,262	50,934	15,913	51,246	14,297	43.9%		
月平均	2,847.9	8,448.2	1,521.8	4,244.5	1,326.1	4,270.5	1,191.4	43.9%		
日平均	139.5	413.8	74.5	207.9	65.0	209.2	58.4	43.9%		
平成29年度	33,641	101,107	18,909	54,834	14,732	46,273	9,137	32.6%		
対前年比 (%)	101.6%	100.3%	96.6%	92.9%	108.0%	110.7%	156.5%	134.8%		

表5 注 射 薬 品 払 出 セ ッ ト 業 務															
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計	月平均
合 計	枚数	890	990	979	844	904	986	975	1,062	1,077	1,072	959	1,048	10,970	982.2
	件数	2,165	2,400	2,315	1,880	2,150	2,313	1,970	2,671	2,664	2,554	2,520	2,523	26,031	2,343.8
こども棟	枚数	86	49	64	62	28	24	25	43	24	28	24	31	488	40.7
	件数	255	172	210	232	99	75	81	116	61	75	79	73	1,528	127.3
3階病棟	枚数	165	278	215	163	162	335	319	292	295	316	211	178	2,929	244.1
	件数	427	752	566	379	508	844	395	895	910	715	592	457	7,440	620.0
4階病棟	枚数	318	276	261	157	255	319	208	203	202	233	244	229	2,905	242.1
	件数	884	798	675	439	738	813	568	591	610	718	739	734	8,307	692.3
5階病棟	枚数	183	262	325	358	334	216	257	343	391	338	342	438	3,787	315.6
	件数	423	525	706	692	634	467	674	793	858	806	923	1,008	8,509	709.1
療養介護棟	枚数				2	3	2	52	56	58	65	30	60	328	36.4
	件数				4	8	3	101	94	92	112	46	106	566	62.9
外 来 手術室 その他	枚数	138	125	114	102	122	90	114	125	107	92	108	112	1,349	112.4
	件数	176	153	158	134	163	111	151	182	133	128	141	145	1,775	147.9

表6 病棟業務件数(年度別)

年度		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
服薬指導	平成26年度	654	673	639	757	754	719	739	658	717	712	835	779	8635
	平成27年度	721	672	821	717	708	599	851	732	643	425	617	537	8043
	平成28年度	712	686	840	688	684	571	629	701	638	555	643	712	8059
	平成29年度	523	677	696	643	616	584	624	562	650	626	636	681	7518
	平成30年度	653	629	669	637	629	560	637	620	596	604	539	573	7346
病棟業務実績														
病棟別業務内容		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
服薬指導件数	3階病棟	219	205	213	198	204	183	198	203	176	204	176	177	2356
	4階病棟	213	207	219	211	210	190	204	207	207	195	173	200	2436
	5階病棟	218	212	232	227	213	184	232	209	212	203	189	193	2524
	こども支援センター	3	5	5	1	2	3	3	1	1	2	1	3	30
	療養介護病棟				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	合計	653	629	669	637	629	560	637	620	596	604	539	573	7346
持参薬鑑別業務	3階病棟	18	18	15	29	25	23	21	21	21	16	21	19	247
	4階病棟	17	17	14	17	23	15	16	18	22	18	18	27	222
	5階病棟	22	14	29	21	22	15	28	18	17	15	23	19	243
	こども支援センター	21	12	17	18	21	19	17	14	12	16	14	15	196
	療養介護病棟				15	2	0	1	0	0	0	0	0	18
	合計	2	3	3	4	2	3	2	3	1	2	1	2	28
一包化 (再包装含む)	3階病棟	2	3	3	4	2	3	2	3	1	2	1	2	28
	4階病棟	10	15	14	16	15	10	13	12	9	9	10	11	144
	5階病棟	3	2	2	3	3	4	2	3	3	2	2	3	32
	こども支援センター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	療養介護病棟				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	合計	1	1	2	5	4	3	2	2	2	2	3	4	31
薬相談窓口業務	3階病棟	3	2	3	4	3	2	3	2	2	2	2	3	31
	4階病棟	5	2	3	2	2	3	4	3	2	2	3	2	33
	5階病棟	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	こども支援センター				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	療養介護病棟				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	合計	6	5	6	8	7	4	3	4	5	4	6	6	64
服薬管理能力評価	3階病棟	10	11	10	11	8	9	10	11	9	7	7	6	109
	4階病棟	4	3	3	4	5	2	2	6	2	2	3	5	41
	5階病棟	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	こども支援センター				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	療養介護病棟				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	合計	0	1	0	0	0	1	0	1	1	0	0	1	5
服薬自己管理 訓練指導	3階病棟	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	4階病棟	1	0	0	0	1	1	1	2	0	0	1	0	7
	5階病棟	0	0	0	0	0	0	0	2	4	4	4	3	21
	こども支援センター				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	療養介護病棟				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	合計	25	30	27	30	29	26	31	28	26	30	27	27	336
医薬品在庫使用 期限保管状況確認 (月/日)	3階病棟	29	31	30	30	28	26	30	26	26	31	28	31	346
	4階病棟	23	28	25	30	27	25	29	26	25	28	25	25	316
	5階病棟	20	21	20	21	20	20	20	20	19	19	19	20	239
	こども支援センター				23	20	26	22	19	17	21	18	18	184
	療養介護病棟	4	5	4	4	5	4	5	4	4	4	4	4	51
	合計	4	5	4	4	5	4	4	5	4	4	4	3	50
配薬チェック業務 件数	3階病棟	4	3	5	4	5	4	4	5	4	4	4	5	51
	4階病棟	8	9	8	9	8	9	8	8	8	7	8	8	98
	5階病棟				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	こども支援センター				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	療養介護病棟	17	18	16	24	30	19	20	19	19	18	20	21	241
	合計	16	21	17	17	25	14	16	18	21	18	18	26	227
お薬手帳発行件 数	3階病棟	17	21	23	25	17	13	19	22	16	17	20	13	223
	4階病棟	5	3	5	1	2	1	0	0	0	1	1	2	21
	5階病棟				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	こども支援センター				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	療養介護病棟	1	1	2	3	2	2	2	1	2	1	2	2	21
	合計	1	2	1	1	2	1	2	3	2	2	1	2	20
モニタリングに よる副作用の発 見件数	3階病棟	8	7	8	8	6	7	6	8	6	5	7	6	82
	4階病棟	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
	5階病棟				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	こども支援センター				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	療養介護病棟	4	4	3	5	6	5	4	2	3	4	2	5	47
	合計	3	4	3	4	4	4	4	3	3	3	2	3	40
副作用・相互作 用等による医薬 品適正使用に関 わる処方変更提 案件数	3階病棟	8	7	8	7	5	7	6	8	5	3	3	4	71
	4階病棟	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	5階病棟				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	こども支援センター				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	療養介護病棟	1	2	1	3	2	2	1	3	1	3	3	4	26
	合計	0	1	0	0	0	1	1	0	1	2	1	1	9
入院中の減薬取 り組みによる処 方変更件数	3階病棟	3	6	6	5	3	2	4	3	2	3	4	3	44
	4階病棟	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2
	5階病棟				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	こども支援センター				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	療養介護病棟				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	合計				0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

表7 院内医薬品安全使用講習会

日時	研修会名	研修内容
4月13日	新人看護師研修	病院薬剤部の業務・ハイリスク薬・処方箋の見方
5月9日	医薬品勉強会	パーキンソン病の病態と治療
5月18日	医薬品勉強会	認知症の病態と治療
7月17日	医薬品勉強会	ネキシウムの薬理作用と使用上の注意
7月18日	医薬品勉強会	認知症の病態と治療
8月8日	医薬品勉強会	アジレクトの薬理作用と使用上の注意
8月10日	医薬品勉強会	抗てんかん薬の使用法
8月23日	医薬品勉強会	レパーサの薬理作用と使用上の注意
8月29日	医薬品勉強会取り扱い説明会	輸液バック製剤の取り扱いについて(4F)
9月3日	医薬品勉強会取り扱い説明会	輸液バック製剤の取り扱いについて(3F)
9月11日	医薬品勉強会	アルツハイマー型認知症について
10月1日	骨折予防研修会	骨粗鬆症治療薬物について
10月11日	認知症ケア研修	認知症治療薬について
10月23日	医薬品勉強会	認知症の病態と治療
10月26日	医薬品勉強会	ボトックスの薬理作用と使用上の注意
10月29日	医薬品勉強会取り扱い説明会	ヴェノグロブリン使用説明
11月13日	医薬品勉強会取り扱い説明会	輸液バック製剤の取り扱いについて(5F)
11月19日	医薬品勉強会取り扱い説明会	アボカイン使用説明
12月6日	医薬品勉強会	ビムパットの薬理作用と使用上の注意
12月11日	医薬品勉強会	レルベアの薬理作用と使用上の注意
12月12日	医薬品勉強会取り扱い説明会	エンブレル使用説明・補助具の使い方
12月26日	医薬品勉強会取り扱い説明会	エンブレル使用説明・補助具の使い方
1月9日	医薬品勉強会取り扱い説明会	エンブレル使用説明・補助具の使い方
1月11日	医薬品勉強会	インフルエンザ治療とゾフルーザ位置づけ
1月16日	医薬品勉強会	スピオルトの薬理作用と使用上の注意
1月18日	医薬品勉強会	ベオーバの薬理作用と使用上の注意
1月25日	医薬品勉強会	ケブザラの薬理作用と使用上の注意
2月15日	医薬品勉強会	ボトックス治療導入の見解について
2月22日	医薬品勉強会	イーケブラの薬理作用と使用上の注意
3月1日	医薬品勉強会	抗てんかん薬服用患者とエルカルチンの関係
3月22日	医薬品勉強会	イベニティの薬理作用と使用上の注意
3月26日	医薬品勉強会	ビムパッドの薬理作用と使用上の注意

表8 院内製剤

	製 剤 品 目	規 格	平成30年度	平成29年度	平成28年度	平成27年度	平成26年度
外用剤	滅菌グリセリン	100ml					
	滅菌グリセリン	300ml					
	ピオクタニン液	0.2%100ml	5	1	3	2	3
	ピオクタニン液	1%100ml	1	1			
	ピオクタニン液	5%100ml					
	安息香酸ベンジルアルコール	500m l					
	硝酸銀液	30%10m l		2			
	硝酸銀液	5%50m l					
	重曹うがい液	1000ml					
	ネオオヨジン消毒液	2%100ml					
	抱水クロラール液	10%50ml					
耳鼻科用剤	DMSO+KOH液	100ml					
	耳垢水	100ml					
	クロマイデキサメサゾン	100ml					
	ケトテン点鼻2倍希釈液	16ml	9	15	8	9	17
	ムコフィリン・デカドロン液	50ml	11	18	7	16	16
	ボスミン・デカドロン液	67ml	7	8	5	7	9
	バスデカ液	50mg (本)	80	60	70	84	60
	鼓膜麻酔液	50ml	1	1	1	1	2
点眼液	0.125%ピロカルピン点眼液	5m l					
注射剤	フェノール注	5%5m l					
	無水エタノール注	5m l					
軟膏剤	リバノールカーボワックス	200 g					
	凍瘡軟膏	500 g					
内服液	リン酸内服液	500m l					
	セレン水10 μ g/m l	500m l	20	28	12		

表9 治験委員会報告

治験契約・登録進捗状況							
治験薬	症例数	治験医師	期間	治験課題	治験費用	登録症例数	状況
1 実績なし							

第3節 栄養管理科

1 運営概要

栄養管理科は臨床栄養面から患者のための食事計画をたて、給食を提供し、摂取状況を観察・把握して栄養充足度を評価している。入院中に著しい食欲低下を認める患者や術後に低栄養状態に陥った患者、摂食・嚥下障害があつて調理形態の工夫が必要な患者等に対して、きめ細やかな関わりをしている。リハビリテーション効果の向上、褥瘡予防や改善、再発の予防に貢献するため、当院の理念及び以下の基本方針を栄養管理面、給食管理面の両面に生かしつつ具体的に目標をたてて取り組みをおこなっている。

<基本方針>

- 1、美味しいこと（新鮮な食材・提供温度・味・季節感等を考慮）
- 2、安全であること（衛生的・個人の摂食嚥下状態等にあつた調理形態）
- 3、治療効果の上がる食事内容であること（個々の栄養状態・病態を把握して対応）

2 業務内容

食事療養業務の企画、運営、実施に関すること
厨房、事務等の管理に関すること
厨房、食品、器具、環境等の衛生に関すること
栄養指導に関すること
食事療養の効果判定に関すること
他部門との連絡に関すること
その他の食事療養に関すること

3 業務実績

（1）給食提供状況（表1）

医師の指示に基づき食事の提供を行った。また、適切な時間に適切な温度の食事を提供するよう努めた。

各病棟担当の管理栄養士は多職種と連携し、患者の栄養状態や摂食嚥下機能に応じた食事が提供されるように、食種や食形態、栄養補助食品等の提案を行った。

また、こども支援センター(入所・通所)及び高志支援学校に対しても年齢や摂食機能に応じさらに楽しい食事を提供することに努めた。

（2）栄養指導状況（表2）

入院患者、外来患者及びその家族に対して栄養指導や栄養相談を実施した。また、糖尿病支援チームの一員として外来での指導を実施した。

（3）糖尿病教室の開催

患者や家族が、糖尿病に関する正しい知識を習得し、食事・運動療法を自ら実践することで、糖尿病の重症化を防ぐことを目的に教室を開催した。

グループ学習を取り入れたことで、患者同士の交流が図られ、実践意欲を育てることにもつながっている。

<開催日> 毎月第1～4火曜日（4回1クール）

<開催場所> 1階相談室3、病棟訓練室

<内 容>

	13:30～14:10	14:10～14:50
第1週	病 気 の 知 識(内科医師)	食事の基本(管理栄養士)
第2週	食事の管理（管理栄養士）	歯の衛生（歯科医師）
第3週	糖尿病の検査（臨床検査技師）	薬の知識(薬剤師)
第4週	健康管理の実際（看護師）	運 動 療 法 （理学療法士）

<参加状況>

実施回数	患者	患者家族	その他	計
48回	239名	69名	名	308名

表1 食事提供状況(食種別・月別食数状況)

(平成30.4～31.3) (単位:食)

	食	種	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
非加算	常	食	2,565	2,007	2,338	3,177	2,663	2,529	2,144	2,439	2,448	2,359	2,234	2,474	29,377
	全	粥 食	110	468	567	716	878	678	710	722	693	746	780	555	7,623
	7	分 粥 食	0												0
	5	分 粥 食	0						10						10
	3	分 粥 食	0										1		1
	普	通 流 動	0												0
	嚥	下(ソフト食)	1,057	1,149	786	976	1,338	1,776	2,005	1,945	1,582	1,938	1,706	1,200	17,458
	嚥	下(ペースト食)	0		62	275	162	108	80	9		87	129	112	1,024
	嚥	下(マッシュ食)	0											31	31
	嚥	下(ミキサー食ゲル)	124	114	61	227	524	516	446	521	572	515	489	408	4,517
	嚥	下(押しつぶし食)	0									56	40	15	111
	移	行 食													0
加算食	経	管 栄 養	1,322	871	709	653	630	484	782	791	755	1,066	772	841	9,676
	食	待 ち 食	1	1	2	3		2	3	2	2	1	4	3	24
	非	加 算 計	5,179	4,610	4,525	6,027	6,195	6,093	6,180	6,429	6,052	6,768	6,155	5,639	69,852
	エ	ネ ル キ ー 食 1000													0
	エ	ネ ル キ ー 食 1100	0					78	89	85	86	88	78	85	589
	エ	ネ ル キ ー 食 1200	90	114	291	437	318	643	812	340	266	156	138	158	3,763
	エ	ネ ル キ ー 食 1300	117	9	90	14	175	258	109	87	59	165	217	175	1,475
	エ	ネ ル キ ー 食 1400	517	577	394	233	416	642	563	610	647	648	668	988	6,903
	エ	ネ ル キ ー 食 1500	280	331	325	307	207	193	239	359	367	336	201	273	3,418
	エ	ネ ル キ ー 食 1600	858	1,009	1,023	912	717	513	465	583	978	817	871	889	9,635
	エ	ネ ル キ ー 食 1700	184	163	90	235	298	87	0	60	217	339	106	17	1,796
	エ	ネ ル キ ー 食 1800	262	429	285	163	44	69	160	209	155	246	316	500	2,838
	エ	ネ ル キ ー 食 1900					69	90	92	10		37	84	142	524
加算食	エ	ネ ル キ ー 食 2000	51				83	148	70						352
	塩	分 コ ン ト ロ ー ル 食	3,494	3,427	3,317	2,712	2,942	2,788	2,831	3,146	3,043	3,128	2,985	3,621	37,434
	タン	ハ ン ク コ ン ト ロ ー ル 食 30	0								19				19
	タン	ハ ン ク コ ン ト ロ ー ル 食 40	69	136	40	173	147	14		46	28		43	34	730
	タン	ハ ン ク コ ン ト ロ ー ル 食 50	244	298	253	99	186	216	196	288	133	154	111	186	2,364
	タン	ハ ン ク コ ン ト ロ ー ル 食 60	3	27	58	88	49	118	67	35	103	116	69	93	826
	脂	質 コ ン ト ロ ー ル 20	0						8	68				14	90
	脂	質 コ ン ト ロ ー ル 30	0			43			6	8					57
	脂	質 コ ン ト ロ ー ル 40	276	613	864	970	506	493	1,143	1,125	892	707	523	399	8,511
	易	消 化 食	90	64		86	138	330	291	143	187	292	252	183	2,056
	摂	食(ヘ ー ス ト 状)	3								82	89			174
	摂	食(マッシュ状)												9	9
	摂	食(ミキサーゲル)							8	14	78	73	3		176
こども棟	摂	食(ソフト食)	435	270	414	677	504	102	102	269	560	286	377	855	4,851
	摂	食(押しつぶし食)												44	44
	低	残 渣 食						21	85						106
	特	殊 オ ー タ ー 食													0
	移	行 食(食 事)	295	480	390	234	310	204	193	190	167	193	166	251	3,073
	加	算 食 計	7,268	7,947	7,834	7,383	7,109	7,007	7,529	7,675	8,067	7,870	7,208	8,916	91,813
	病	院 合 計	12,447	12,557	12,359	13,410	13,304	13,100	13,709	14,104	14,119	14,638	13,363	14,555	161,665
	離	乳 食	31	23	28	8	21	89	41	21	18	6	6	36	328
	小	児 常 食	433	426	475	558	724	650	569	642	830	747	768	766	7,588
	小	児 常 食 幼	385	416	347	389	211	351	422	437	510	525	511	525	5,029
	小	児 軟 菜	170	152	166	301	342	273	304	287	322	293	182	268	3,060
	小	児ヘー ス トⅠ(裏漉)	108	45	46	67	73	46	89	145	153	104	20	91	987
	小	児ヘー ス トⅡ	87	87	91	101	125	112	119	128	109	86	99	63	1,207
	小	児 経 管 栄 養	434	464	454	465	461	430	401	338	349	337	240	245	4,618
	こ	ど も 棟 計	1,648	1,613	1,607	1,889	1,957	1,951	1,945	1,998	2,291	2,098	1,826	1,994	22,817
通	所	セ ン タ ー	327	377	383	428	417	343	423	393	367	350	368	387	4,563
支	援	学 校	1,811	2,484	2,567	1,780	0	2,227	2,671	2,632	1,961	2,208	2,520	1,668	24,529

表 2 栄養指導状況（平成30年4月～平成31年3月）

（単位：件）

指導病名	個別栄養指導			集団栄養指導		
	入院	外来	計	入院	外来	計
脳血管疾患	9	0	9			
高血圧	95	5	100			
糖尿病	196	130	326	121		121
心疾患	7	0	7			
脂質異常症	35	71	106			
腎疾患	6	0	6			
痛風	0	0	0			
高尿酸血症	1	2	3			
上部消化管疾患	3	0	3			
炎症性腸疾患	0	0	0			
肝疾患	1	0	1			
膵胆疾患	0	0	0			
肥満(BMI30以上)	0	2	2			
鉄欠乏性貧血	0	0	0			
食物アレルギー	0	0	0			
妊娠期高血圧症候群	0	0	0			
嚥下障害	40	4	44			
その他	27	17	44	10		10
合計	420	231	651	131	0	131

第4節 臨床検査科

1 運営概要

臨床検査は疾病の診断、治療、予防及び予後の経過観察を目的に、疾病の原因を体の構造や機能の変化を、物理的又は科学的な方法を用いて調べるものである。

2 業務内容

検体検査（細菌・尿一般・生化免疫・血液・輸血）と生理機能検査（心電図・呼吸機能・神経伝導速度測定・睡眠時ポリグラフィー・脳波など）に大別できる。これらの検査データを迅速で正確に報告できるよう、機器整備や日常の内部精度管理に加え、各種外部精度管理に参加し、その結果を検証して精度の維持と向上に努めている。リスクマネジメント、コスト意識を持った運営を常に心掛けているとともに、臨床側と協議し、コストとニーズにあった検査項目の導入もいち早く取り入れられるよう努力を続けている。また、平成 29 年に改正された医療法に基づき、整備が義務化された「作業日誌又は台帳関係」はすでに運用を開始しており、「機器保守管理標準作業書」、「測定標準作業書（SOP）」の準備も順調に進んでいる。

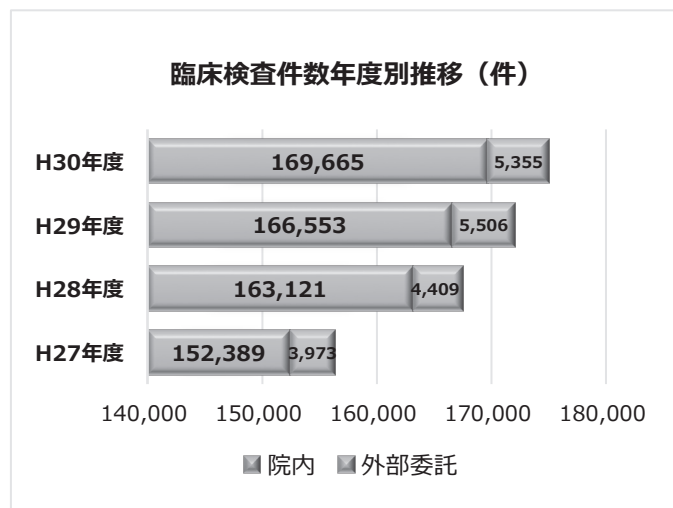
開かれた臨床検査科を目指し、チーム医療へも積極的に参加している。以下、主な院内での活動の取り組みを挙げる。

- (1) 院内感染対策チーム、栄養サポートチーム、糖尿病透析予防チーム、骨折予防チーム、褥瘡対策専門委員会などのチーム医療活動への参画
- (2) 病院職員並びに関連施設入所者などの健康診断に関する検査の実施
- (3) 給食従事者検便実施
- (4) 富山県感染症発生動向速報の院内提供
- (5) 院内感染症患者情報（週報提供）

3 H30 年度業務実績

総検査件数は順調に推移しており、H27 年度から院内検査・外部委託検査共に増加傾向にある。過去 4 年間の臨床検査件数の推移を右に示す。

- (1) 院内糖尿病教室担当（H29 年度より参画）
- (2) 尿中電解質成分 22 項目の院内測定開始。
- (3) 甲状腺ホルモン(TSH、FT3、FT4)の院内測定開始。
- (4) 骨折予防チームへの新規参加。
- (5) TPHA 定性、RPR 法定性検査の外注化。
- (6) 外部精度管理参加状況
 - ・ 日本医師会精度管理調査（新規参加）
 - ・ 日臨技臨床検査精度管理調査
 - ・ 富山県臨床検査精度管理調査
 - ・ 各試薬メーカー主催精度管理調査



5 臨床検査状況総件数

平成30年度

単位：件

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
3階病棟	1,619	2,154	1,586	2,241	1,875	1,351	1,909	1,914	1,697	1,553	1,605	1,770	21,274
4階病棟	1,030	945	985	898	1,193	1,024	845	868	1,215	996	1,080	1,405	12,484
5階病棟	1,099	1,346	1,308	1,265	1,201	1,211	1,536	1,731	1,263	1,341	1,599	1,654	16,554
療養介護棟				518	146	318	478	449	358	494	391	482	3,634
こども棟	221	246	159	240	96	123	280	141	106	265	249	255	2,381
内科	2,738	2,796	2,811	2,851	2,862	2,842	3,249	2,606	3,312	3,348	2,858	3,273	35,546
整形外科	2,246	2,265	2,273	2,571	2,483	1,988	2,810	2,144	2,451	2,410	2,306	2,278	28,225
リハビリ科	210	339	546	391	197	260	237	249	139	224	250	299	3,341
泌尿器科	374	389	359	381	438	377	393	409	395	409	387	375	4,686
脳外科	0	16	21	16	0	31	0	35	0	16	24	16	175
皮膚科	0	0	0	0	0	0	7	0	0	0	0	0	7
耳鼻咽喉科	11	31	9	20	9	0	7	0	7	2	10	14	120
神経小児科	1,031	822	673	1,145	1,929	688	983	613	757	848	698	1,020	11,207
整形外科小児科	72	164	51	144	146	154	45	83	100	123	142	65	1,289
精神科	17	58	18	20	36	56	60	42	19	0	23	54	403
児童精神科	22	39	87	176	60	79	38	20	167	88	235	80	1,091
神経内科	2,087	2,374	1,566	1,882	2,079	1,473	2,302	1,592	1,822	2,041	1,837	1,855	22,910
職員検診	0	1,386	2,924	8	4	0	0	0	990	0	20	10	5,342
微生物検査	306	299	261	256	265	261	355	301	294	274	290	326	3,488
病理・細胞診	2	5	5	7	5	6	6	5	10	7	1	5	64
検体検査合計	13,085	15,674	15,642	15,030	15,024	12,242	15,540	13,202	15,102	14,439	14,005	15,236	174,221
3階病棟	35	34	30	48	40	31	35	34	33	28	30	26	404
4階病棟	32	39	25	32	48	32	26	41	42	36	34	38	425
5階病棟	43	33	47	45	29	31	47	50	34	26	49	39	473
療養介護棟				16	2	0	0	1	0	2	3	1	25
こども棟	2	1	4	3	5	1	6	0	2	1	4	6	35
内科	20	12	17	14	11	12	13	19	24	29	21	21	213
整形外科	37	46	40	57	41	35	59	36	48	47	50	53	549
リハビリ科	0	2	0	1	0	0	5	1	2	2	0	2	15
泌尿器科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
脳外科	0	0	0	0	1	2	0	1	1	4	0	0	9
皮膚科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
耳鼻咽喉科	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2	0	0	4
神経小児科	37	21	35	93	122	29	41	24	48	38	26	48	562
整形外科小児科	0	3	1	4	2	3	1	2	3	5	2	2	28
精神科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
児童精神科	0	4	1	3	2	0	0	1	0	2	1	0	14
神経内科	19	30	14	13	18	11	21	10	17	13	19	10	195
生理検査合計	225	225	214	329	321	189	254	220	254	235	239	246	2,951
総件数	13,310	15,899	15,856	15,359	15,345	12,431	15,794	13,422	15,356	14,674	14,244	15,482	177,172

分野名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
検体依頼件数（微生物含）	12,692	15,117	15,142	14,455	14,617	11,878	15,038	12,842	15,102	13,997	13,549	15,236	169,665
生理検査件数	225	225	214	329	321	189	254	220	254	235	239	246	2,951
外注検体依頼件数	391	553	496	568	406	358	499	357	355	436	455	481	5,355
病理・細胞診件数	2	5	5	7	5	6	6	5	10	7	1	5	64

臨床検査状況（加算）													単位：件
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
検体検査管理加算（I）	560	596	533	616	646	529	605	528	590	614	570	611	6,998
迅速検体検査加算	671	667	560	697	801	601	811	604	750	750	645	740	8,297

6 臨床検査状況（内訳）

<一般検査>

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合
尿定性	509	659	714	587	611	503	606	538	681	549	553	572	7,111
尿沈査	308	342	308	318	358	308	343	324	343	325	333	345	4,017
便潜血	12	10	11	1	8	7	9	13	9	8	11	9	113
尿一般・便虫卵（集卵法）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
尿蛋白定量	3	5	5	4	4	7	4	6	6	3	8	5	60
尿中Na	0	0	0	0	2	1	1	2	3	0	0	2	14
尿中K	0	0	0	0	0	0	0	2	3	0	0	1	9
尿中CL	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	3
尿中Ca	0	0	1	7	4	4	1	2	3	5	1	2	25
尿中IP	0	0	0	0	1	0	0	1	1	2	0	0	6
尿中UN	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2
尿中Cre	3	5	7	12	8	12	5	10	12	10	9	8	114
尿中UA	1	0	1	0	1	1	0	0	1	0	1	1	10
髄液比重	2	1	3	4	2	1	4	3	2	4	2	3	32
髄液細胞数	2	1	3	4	2	1	4	3	2	4	2	3	32
髄液細胞の種類	2	1	3	4	2	1	4	3	2	4	2	3	32
髄液蛋白定量	2	1	3	4	2	1	4	3	2	4	2	3	32
髄液糖定量	2	1	3	4	2	1	4	3	2	4	2	3	32
髄液CL	2	1	3	4	2	1	4	3	2	4	2	3	32
髄液LDH	2	1	3	4	2	1	4	3	2	4	2	3	32
髄液CPK	2	1	3	4	2	1	4	3	2	4	2	3	32
胸水・穿刺液比重	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	3
胸水・穿刺液細胞数	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	3
胸水・穿刺液細胞の種類	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	3
胸水・穿刺液蛋白定量	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	3
腹水・穿刺液糖定量	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	3
腹水・穿刺液LDH	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	3
腹水・穿刺液アミラーゼ	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	3
関節液比重	0	1	0	1	0	4	0	0	1	0	0	0	6
関節液細胞数	0	1	0	1	0	4	0	0	1	0	0	0	6
関節液細胞数の種類	0	1	0	1	0	4	0	0	1	0	0	0	6
関節液結晶	0	1	0	1	0	4	0	0	1	0	0	0	6
関節液蛋白定量	0	1	0	1	0	4	0	0	1	0	0	0	6
関節液糖定量	0	1	0	1	0	4	0	0	1	0	0	0	6
関節液LDH	0	1	0	1	0	4	0	0	1	0	0	0	6

<血液検査>

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合
血算（CBC）	575	724	774	656	674	549	693	592	744	623	624	673	7,975
血液・網状赤血球・IPF	8	19	17	11	15	14	13	10	31	17	16	19	182
血液・白血球5分類	270	298	254	308	310	249	345	282	307	294	313	345	3,428
血液・血液像目視	7	11	15	5	6	7	10	7	10	11	13	12	111
凝固・PT-INR	25	46	37	39	40	28	35	37	36	31	27	33	404
凝固・APTT	19	30	26	32	27	19	36	26	24	37	23	22	301
その他・血液型ABO式	7	9	9	15	11	11	16	13	16	13	12	12	133
その他・血液型Rh（D）式	7	9	9	15	11	11	16	13	16	13	12	12	133
その他・血沈	104	103	97	107	109	86	129	105	121	111	128	100	1,290
その他・出血時間	5	10	5	15	6	9	10	7	14	11	8	6	117
その他・鼻汗好酸球	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	3

<微生物検査>

単位：件

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合
塗抹・培養同定・感受性													
尿定量培養	41	42	40	32	45	39	44	36	49	37	39	41	475
塗抹検査	71	68	60	68	67	64	75	66	64	63	61	68	817
培養（口・気・呼）	23	23	18	20	12	17	23	20	14	19	15	23	234
培養（血液）	22	25	26	15	15	24	40	32	27	19	34	40	315
培養（泌・生）	41	42	40	32	45	39	44	36	49	37	39	41	475
培養（その他）	5	5	1	8	7	6	5	8	0	4	4	2	54
嫌気培養	27	27	27	26	19	28	44	38	28	25	39	42	400
培養（消化管）	2	1	1	6	3	2	3	3	2	2	2	2	30
培養（穿刺液）	0	0	0	3	0	1	0	0	0	1	1	0	6
感受性1菌種	36	30	31	26	38	30	40	33	35	33	31	38	403
感受性2菌種	32	24	14	8	8	8	22	20	14	16	16	20	258
感受性3菌種以上	6	12	3	12	6	3	15	9	12	18	9	9	134

<輸血検査>

単位：件

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合
輸血													
照射赤血球（単位）	0	0	0	4	0	0	0	4	0	6	6	0	20
照射血小板（単位）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
自己血（単位）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
不規則抗体試験	0	0	1	1	0	0	0	1	0	2	3	0	7
交差適合試験	0	0	1	1	0	0	0	1	0	2	3	0	8
直接クームス試験	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

<生化学・免疫検査>

単位：件

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
生化学	AST	561	707	758	639	648	522	667	565	711	625	595	658	7,656
	ALT	563	710	758	640	648	524	669	565	713	625	596	658	7,669
	LDH	518	619	599	606	611	479	613	525	566	586	551	614	6,887
	ALP	516	613	589	600	593	485	632	529	568	591	564	618	6,898
	γGTP	518	659	711	586	594	479	613	509	647	566	536	602	7,020
	総蛋白	413	504	492	513	507	400	512	419	454	476	450	504	5,644
	アルブミン	369	449	416	404	410	328	420	352	370	395	380	409	4,702
	尿素窒素	554	649	620	628	643	518	656	546	595	604	592	651	7,256
	クレアチニン	553	652	623	628	643	522	656	545	597	604	593	649	7,265
	尿酸	486	567	540	546	559	444	564	465	492	528	499	535	6,225
	総コレステロール	286	321	270	330	327	259	326	267	303	336	308	336	3,669
	HDLコレステロール	299	418	503	346	339	275	372	316	447	332	302	329	4,278
	LDLコレステロール	296	407	497	345	327	263	349	312	434	316	281	305	4,132
	中性脂肪	375	500	566	415	409	335	417	374	511	406	380	408	5,096
	カルシウム	280	284	350	352	341	270	326	280	288	297	267	312	3,647
	無機リン	256	264	337	331	324	249	305	266	270	278	252	287	3,419
	ナトリウム	498	546	563	569	588	473	583	501	526	567	529	595	6,538
	カリウム	500	544	565	570	586	473	584	502	526	565	528	593	6,536
	クロール	462	515	542	543	556	451	553	478	503	539	511	574	6,227
	グルコース（食前値）	412	491	439	435	412	363	403	360	542	391	390	405	5,043
	ヘモグロビンA1c	173	181	166	192	181	146	173	164	179	178	172	193	2,098
	CRP	307	344	304	336	329	283	388	344	339	342	354	363	4,033
	総ビリルビン	254	289	340	302	284	225	298	252	280	287	283	327	3,421
	直接ビリルビン	52	73	57	87	68	56	83	73	74	60	60	77	820
	コリンエステラーゼ	99	110	98	124	113	81	117	104	98	102	99	107	1,252
	LAP	135	161	145	164	156	104	146	130	136	135	137	147	1,696
	CPK	272	301	250	318	324	243	302	257	261	286	272	310	3,396
	アミラーゼ（血・尿）	110	128	177	133	128	106	155	117	130	100	110	137	1,531
	血清鉄	29	24	25	22	27	32	24	21	35	27	31	33	330
	TIBC	9	11	10	8	10	17	5	10	14	11	9	9	123
	UIBC	9	13	11	11	11	18	7	11	15	12	12	13	143
	フェリチン	18	20	23	21	20	22	28	19	32	26	29	33	291
	プレアルブミン	0	1	0	1	1	1	1	0	1	2	3	0	11
	CGM	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
	その他	2	6	2	1	3	4	3	3	5	4	6	5	44
血中薬物	フェニトイン	2	2	2	2	1	4	5	3	3	2	1	3	30
	フェンバルピタール	9	4	0	3	5	3	3	4	3	5	2	6	47
	カルバマゼピン	8	8	5	17	28	11	13	12	8	9	11	8	138
	バルプロ酸ナトリウム	32	30	18	32	53	21	25	24	16	28	23	26	328
免疫血清	HBs抗原精密	73	136	73	103	82	66	89	78	81	72	75	81	1,009
	HBs抗体精密	4	58	2	3	5	1	3	0	0	1	24	12	113
	HCV抗原抗体精密	72	134	73	103	83	66	89	78	81	72	74	81	1,006
	TPHA定性	43	8											51
	RPR定性	43	7											50
	HIV精密	3	4	0	2	1	0	2	0	1	3	5	1	22
	γ-GT/トコノル定量	9	7	9	8	9	11	14	13	7	9	11	20	127
	TSH					46	39	59	41	44	54	45	42	370
	FT3					27	26	32	16	29	29	32	24	215
	FT4					46	39	59	41	44	54	45	42	370
	トロポニンT定性	1	3	4	1	0	5	1	4	2	0	1	1	23
	H-FABP	0	1	3	0	0	5	0	0	1	0	1	1	12
	インフルエンザ抗原	7	4	1	0	0	0	10	11	5	46	44	13	141
	マイコプラズマ抗原	0	3	1	0	1	2	2	0	0	0	2	0	11
迅速診断	原中肺炎球菌抗原	0	0	2	0	0	0	0	0	0	1	1	1	5
	原中レジオネラ抗原	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	0	1	3
	A群溶連菌抗原	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
	ノロウイルス抗原	3	3	3	3	0	0	3	3	5	3	2	6	34
	CDトキシゲンA/B	0	0	0	2	0	0	0	0	0	1	2	0	5
	アデノウイルス	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	1	0	3
	hMPV抗原	1	1	1	0	0	0	1	0	0	1	1	1	7
	インフルエンザA	0	2	2	1	0	3	3	2	4	0	0	1	18
	インフルエンザB													
	インフルエンザC													

<生理機能検査>

単位：件

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
生理機能	血液ガス分析	17	14	14	8	5	9	11	6	18	11	15	11	139
	INBODY	58	63	52	68	61	47	59	63	54	52	57	58	692
	ホルター心電図	3	2	3	0	2	2	3	3	2	4	4	2	30
	安静時心電図	99	112	94	151	124	92	115	105	131	116	104	120	1,363
	終夜睡眠PG	1	3	1	3	2	3	3	1	1	2	1	1	22
	重心動揺・PV解析	10	6	10	7	6	1	10	7	4	4	9	6	80
	神経伝導速度（上肢・下肢）	8	22	9	13	12	12	32	11	11	11	13	8	162
	脳波（覚醒・睡眠・長期）	40	21	39	82	117	29	43	28	44	44	47	49	583
	肺機能	5	5	7	9	3	5	4	3	7	2	4	2	56
	甲状腺エコー	1	0	2	1	1	2	5	2	1	2	1	2	20
	脳電図	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	3
	電流知覚閾値測定	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	中枢神経磁気刺激	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	自律神経機能検査													
	心臓機能検査													

第5節 放射線技術科

1 運営概要

当院は障害者施設を隣接したリハビリテーション専門病院であるため、脳血管疾患や骨損傷の患者が多いという当院の特徴から、複数の技師で介助をするなど安全に心掛けるとともに、それぞれの患者のADL、医師のニーズに対応した撮影を検討と工夫を加えながら患者負担の軽減を考慮し業務を行っている。

2 撮影装置等の機器構成

*一般撮影装置（島津製作所 UD150L-40, RADspeed Pro）	平成27年度更新
*デジタル画像処理システム （富士フイルムメディカル CALNEO, CONSOLE ADVANCE, FCR Speedia CS）	平成27年度更新
*X線TV撮影装置（島津製作所 SONIALVISION G4）	平成27年度更新
*全身用コンピューター断層撮影装置（日立製作所 SCENARIA）	平成27年度更新
*CBF画像処理システム・神経内科備品（ANZAI AZ-7000W98）	平成12年度更新
（ANZAI AZ-727）	平成23年度更新
*インバータ式コードレス移動型X線撮影装置・手術室用（日立製作所 シリウス・130HP）	平成21年度更新
*超伝導MRI装置（東芝メディカルシステムズ EXCELART/Vantage XGV）	平成17年度設置
*移動型外科用X線TV装置・手術室常備（島津製作所 OPESCOPE ACTIVO）	平成16年度更新
*回診用X線撮影装置・病棟用（島津製作所 Mobile Art eco）	平成14年度更新

3 業務実績

平成30年度のX線撮影件数は、前年度とほぼ同数の10,945件であった。

部位別での撮影状況も前年度とほぼ同数であり、骨部・関節部撮影が4,895件で全体の約45%を占め、次いで胸部、腹部撮影が2,213件で全体の約20%であった。X線CT撮影は、月平均153件、年間1,834件（約17%）であった。MRI検査は月平均85件、年間1,025件（約9%）であった。

(1)平成30年度業務照射件数

(単位:件)

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
業務照射件数	1,704	1,721	1,790	2,117	2,122	1,587	1,920	1,709	1,703	1,663	1,670	2,159	21,865

(2) 平成30年度科別X線撮影人数

(単位:人)

科 \ 月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
3階病棟	91	120	86	121	112	96	113	96	88	75	111	101	1,210
4階病棟	74	76	71	85	84	61	64	69	90	86	79	98	937
5階病棟	93	106	91	101	83	74	98	93	101	111	99	117	1,167
こども棟	17	15	18	15	11	14	21	21	19	27	28	22	228
療養介護棟				22	7	4	4	5	5	4	5	7	63
内科	42	35	52	38	42	41	63	42	46	44	28	43	516
神経内科	39	42	40	48	53	38	45	34	41	44	52	39	515
整形外科	162	153	172	196	169	136	212	184	155	157	169	202	2,067
リハビリ科	8	21	17	27	22	17	21	13	10	22	20	21	219
小児科(神経科)	14	13	9	8	12	7	8	9	10	5	5	5	105
小児整形外科	90	91	94	123	205	78	69	78	109	65	57	176	1,235
児童精神科	1	1						2	1	1			6
泌尿器科	6	4	4	5	6	3	2	2	5		2	5	44
精神科			1		2	2	1			1	1		8
脳外科	3	1	1	3	3	4	7	2	5	6	3	4	42
皮膚科													0
耳鼻科	6	5	2	3	7	7	5	4	3	5	2	3	52
歯科													0
健診		44	123	3		69	54		1				294
	646	727	781	798	818	651	787	654	689	653	661	843	8,708

(3) 平成30年度CT撮影件数

(単位:件)

部位 \ 月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
頭頸部 単純	67	92	75	105	105	65	87	81	83	76	96	80	1,012
〃 造影													0
頭部 CBF													0
躯幹 単純	56	70	56	62	74	51	67	49	59	67	57	62	730
〃 造影	1				1	2	1		3	1			9
四肢 単純	5	4	9	5	7	7	9	7	5	6	9	9	82
〃 造影							1						1
計	129	166	140	172	187	125	165	137	150	150	162	151	1,834

* CBF: Cerebral Blood Flow, Xenon-enhanced CT

(安定したキセノンガスの利用によるCTを用いた脳血流循環測定法)

(4) 平成30年度MRI撮影件数

(単位:件)

部位 \ 月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
頭頸部 単純	59	40	63	70	70	54	61	37	49	43	57	71	674
〃 造影				3	1					2			6
躯幹 単純	23	28	24	23	17	18	20	23	15	20	31	16	258
〃 造影			1			1		2	1	1	1		7
四肢 単純	6	8	6	8	7	3	4	7	5	7	5	12	78
〃 造影					1	1							2
計	88	76	94	104	96	77	85	69	70	73	94	99	1,025

(5)平成30年度 部位別撮影件数

(単位:件)

部位\月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	構成比 %
頭部	1	3	3	1	1	3	2	2	4	1	6	1	27	0.25
頭部(耳)													1	0.01
頭部(鼻)				1			3	2	1	2	2	1	14	0.13
顎関節									1				1	0.01
頸椎	16	10	11	17	26	11	15	18	18	19	23	30	222	2.03
胸椎	6	10	7	8	14	12	10	14	11	10	6	6	111	1.01
腰椎	30	31	37	47	49	32	39	37	24	24	41	32	437	3.99
仙骨・尾骨				2	1	1	1			1			5	0.05
全脊椎	29	34	46	55	93	20	23	19	19	51	29	62	485	4.43
鎖骨		1	2	7	4	4	3	4	4	3	2	1	34	0.31
肩甲骨				1		1	2		1				6	0.05
肋骨	5	2	3	4	2	6	4	4	4	6	2	4	42	0.38
胸骨		1		2									3	0.03
骨盤	12	8	10	7	9	2	14	6	6	8	3	9	102	0.93
手指骨・手骨	27	19	18	32	19	24	27	25	25	20	18	14	25	2.45
前腕骨	3	2	3	4	5	2	2	1	1	3	3	1	31	0.28
上腕骨	2	8	2	5	8	3	3	5	5	6	5	3	55	0.50
趾骨	6	5	9	8	7	7	7	3	3	5	10	4	78	0.71
踵骨	6	3	6	8	3	3	5	4	2	3	4	2	48	0.44
足骨	29	25	18	33	51	25	30	16	16	20	16	22	315	2.88
下腿骨	7	10	8	8	7	4	9	12	12	7	10	8	100	0.91
大腿骨	12	10	11	12	10	13	18	14	14	11	14	15	150	1.37
手関節	16	22	19	28	26	17	45	23	23	21	20	17	278	2.54
肘関節	9	8	8	10	6	11	8	15	15	16	8	6	117	1.07
肩関節	14	10	10	18	12	12	12	12	12	6	17	12	151	1.38
足関節	7	11	12	13	20	15	17	14	14	10	10	13	168	1.53
膝関節	34	40	35	41	38	36	38	39	39	31	34	53	458	4.18
股関節	72	81	87	81	80	71	61	73	73	83	77	64	968	8.84
下肢	19	17	14	16	30	17	12	15	15	17	9	45	220	2.01
胸部	145	197	270	179	153	189	207	130	148	138	147	153	2,056	18.78
腹部・KUB	18	20	12	14	11	10	13	14	12	12	6	14	157	1.43
ミエロ													0	0.00
アールトロ							2			1			3	0.03
デイスコ													0	0.00
DIP・IP													0	0.00
他 尿路造影	2	1	1		2	1	1					1	9	0.08
上部消化管造影	2			3	2	4	1	5	2	2	3	4	31	0.28
食道(VF)	21	21	13	19	25	15	25	21	25	25	22	20	248	2.27
注 腸													0	0.00
他の造影検査	2	1	1			2	2	1	1	1	1	2	14	0.13
断 層													0	0.00
透視撮影	7	3	3	4	5	4	4	6	6	3	3	5	53	0.48
透 視													1	0.08
C T	129	166	140	172	187	125	165	137	150	150	162	151	1,834	16.76
M R I	88	76	94	104	96	77	85	69	70	73	94	99	1,025	9.37
骨塩定量/腰椎	20	24	27	38	17	18	26	27	27	20	35	27	306	2.80
骨塩定量/大腿	21	22	28	40	18	18	25	26	27	20	35	25	305	2.79
合 計	817	902	968	1046	1040	827	961	814	862	803	849	1056	10,945	100.00

第6節 心理療法科

1 業務概要

患者やその家族を支える際に心理面からのアプローチは必要不可欠である。心理療法科では、心理師が心理的専門性を活かして以下の業務を行っている。

(1) 心理検査

患者の状態をアセスメントするために知能検査や認知検査、人格検査など、種々の心理検査を実施している。また、受検態度や結果などを通じて明らかになった個々の特徴や長所、課題について本人や家族が理解できるように説明している。

(2) 心理面接

- ア. 個別面接…安心して気持ちを表現できる場を提供し、自分自身のことや現在の生活で支障を来している事柄への理解を深め、精神的安定および生活力向上を援助する。
- イ. 並行面接…子どもと保護者の双方に担当心理師がつき面接を行う。多くの場合は親子並行面接で、心理的に距離の近い親子が個々に気持ちを表現できる場を提供している。
ア.と同様に各々に自己理解を深め、精神的安定と生活力向上、ならびに親子相互の関係性がより良くなるよう援助する。
- ウ. 家族面接…患者を含めたその家族と心理師が面接を行う。家族間で生じている葛藤や生活の課題を分析し、お互いにより良く生きていくための目標や方法を検討・援助する。

(3) 集団心理療法

《小児》

社会性やコミュニケーションの発達に課題がある未就学児を対象に、ソーシャルスキルトレーニング、保護者支援を実施している。

《成人》

高次能機能障害の患者で就労・復職を目指す人を対象に、職場に適応しながら働き続けるために必要な力を体験を通して気付くことを目的として実施している。

(4) 入所・入院児支援

こども棟に入所・入院し、生活をしながらリハビリを受けている児に対し、必要に応じて心理検査や心理面接を実施している。

(5) 地域支援

患者がより良く生活できるよう関係機関と連携を図り、心理面からのアセスメントを伝えたり、より良い関わり方について提案したりしている。

(6) 他職種へのコンサルテーション

患者に関わる他職種スタッフと連携し、心理面からの理解・対応について提案している。

(7) メンタルヘルス業務

職員のメンタルヘルスの保持のために研修、相談を行っている。

※ 兼務業務

富山県高次脳機能障害支援センター（2名）、富山県発達障害者支援センター（1名）、療育支援科（1名）の業務を兼務している。（業務内容としては、高次脳センターではピアサロンや家族グループの企画・運営、発達障害者支援センターでは第三者支援機関として保健センター、保育所・幼稚園、学校への助言指導、各種研修会の開催、療育支援科では富山市から依頼を受けた保育所への訪問支援を担っている。詳しくは各節を参照。）

2 業務実績

項目	実施状況
(1) 心理検査 (知能検査・認知検査・人格検査等)	実人数 : 1,500 人 実施回数 : 1,677 回 検査件数 : 2,998 件 (うち、保護者記入式質問紙検査件数 1,298 件)
(2) 心理面接 (個別面接・並行面接・家族面接等)	実人数 : 88 人 (うち、親子は 10 組) 実施回数 : 797 回
(3) 集団心理療法	延べ参加人数 : 167 人 実施回数 : 51 回
(4) 入所・入院児支援	検査 実人数 : 5 人 延べ実施回数 : 8 回 面接 実人数 : 2 人 延べ実施回数 : 13 回
(5) 地域支援	訪問支援・ケース会議件数 : 42 件 電話連携件数 : 222 件 報告書件数 : 571 件 個人調査票件数 : 168 件

※ 一部、兼務業務の実績を含む。

第7節 臨床工学科

1 業務概要

臨床工学科は、院内ならびに当院が医学管理する患者の医療機器について、管理体制を確立し、医療機器の適切な運用を通じて安全で円滑かつ効率的な治療環境の構築を目標としている。

2 業務内容

- 1) 医療機器の管理・運用
 - ・医療機器の集中管理および新規導入。
 - ・院内ならびに関連施設を含む在宅使用される医療機器の管理及び保守・運用。
 - ・医療機器定期点検計画の作成。
 - ・全ての医療機器の1回/月の定期点検。
 - ・院内ならびに在宅で使用される医療機器の日常保守点検。
 - ・関連施設との連携。
- 2) 病棟巡回
 - ・人工呼吸器装着患者様の適切な管理ならびに機器使用にかかる日常点検。
- 3) 研修・勉強会
 - ・研修計画の作成。
 - ・人工呼吸器や院内で新しく使用する医療機器の研修。
- 4) 医療機器にかかる情報収集ならびに院内への共有配信

3 業務実績

- 1) 貸出し機器の種類と回数

① 輸液ポンプ

	5階病棟	4階病棟	3階病棟	こども病棟	外来	療養介護	オペ室
10月	1	－	3	1	2	－	－
11月	3	1	1	2	4	－	－
12月	2	1	－	2	2	－	－
1月	2	－	－	2	4	－	－
2月	－	－	－	2	1	－	－
3月	－	1	－	4	－	－	－
4月	1	－	－	1	－	－	－

② シリンジポンプ

	5階病棟	4階病棟	3階病棟	こども病棟	外来	療養介護	オペ室
1月	－	－	－	－	－	－	1
11月	－	－	－	1	－	－	－

③ 経腸栄養ポンプ

	5階病棟	4階病棟	3階病棟	こども病棟	外来	療養介護	オペ室
2月	1	－	－	2	－	－	－

④ CPM

	5 階病棟	4 階病棟	3 階病棟	こども病棟	外来	療養介護	オペ室
11 月	-	1	-	-	-	-	-
1 月	-	1	-	-	-	-	-

⑤ アイシング

	5 階病棟	4 階病棟	3 階病棟	こども病棟	外来	療養介護	オペ室
2 月	-	-	-	1	-	-	-

2) 医療機器に関する研修会

7 月	人工呼吸器	アストラル	参加者数:130 人
8 月	人工呼吸器	VELA	参加者数:141 人
9 月	人工呼吸器	トリロジー	参加者数:96 人
10 月	人工呼吸器	HT70	参加者数:13 人
11 月	輸液ポンプ		参加者数:34 人

3) 参加した学会・セミナー

5 月 13 日	第 9 回富山県臨床工学会
7 月 29 日	第 7 回 ME 研修会 ((一社)石川県臨床工学技士会)
9 月 22 日	医療機関における電波の利用環境・安全性に関する説明会
10 月 20 日	第 12 回石川県呼吸療法セミナー ((一社)石川県臨床工学技士会)
11 月 4 日	第 31 回富山県臨床工学技士会ビギナーズセミナー
12 月 1 日	第 72 回臨床工学研修会

4) 呼吸器ラウンド

院内で人工呼吸器を使用している患者さんの呼吸器の点検を毎日行っている。

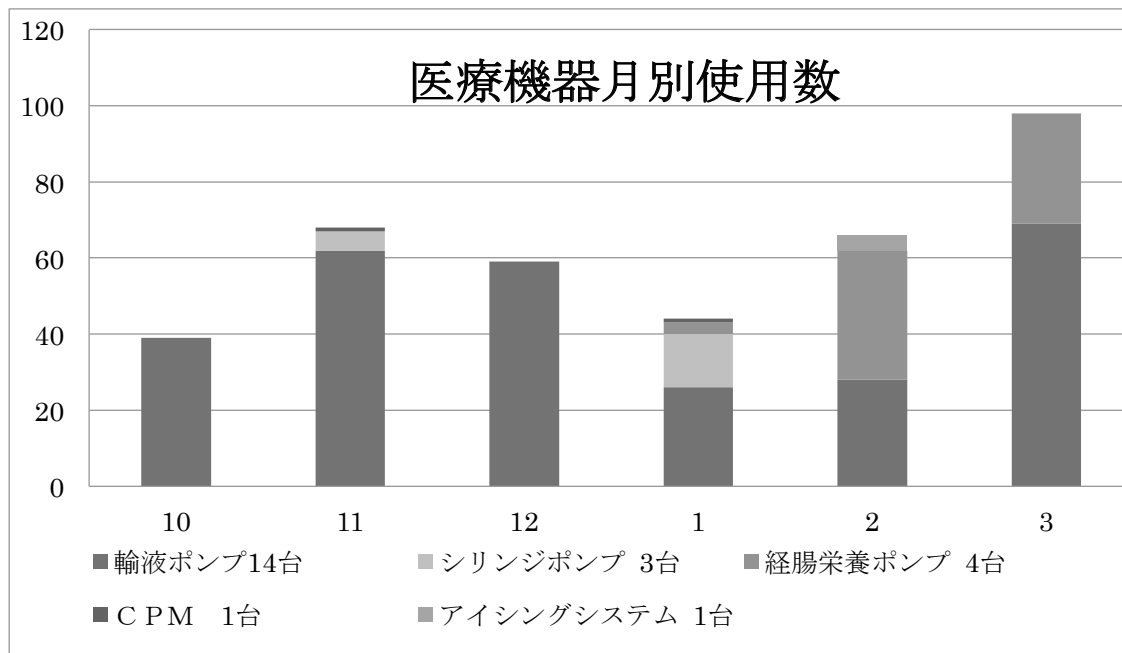
2018~2019 年:成人 2 台(トリロジー:1 台、アストラル:1 台)

小児 6 台(トリロジー:2 台、HRTX:4 台)

5)管理医療機器

- ・人工呼吸器 (VELA1 台、ASTLAR1 台、トリロジー3 台、HT701 台、hRXTX4 台)
- ・輸液ポンプ 14 台
- ・シリンジポンプ 3 台
- ・経腸栄養ポンプ 4 台
- ・麻酔器 2 台
- ・オーソパッド
- ・フットポンプ 2 台
- ・バッグバルブマスク
- ・除細動器 1 台
- ・カフアシスト 3 台
- ・アクアサーム 1 台

6)稼働状況



第8節 リハビリテーション療法部（成人療法課）

1 運営概要

各診療科からの処方に応じ、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士が必要な評価を行い、リハビリテーションプログラムを作成、および実施している。そして、各科との連携をとり調整しながら、チーム医療を行っている。

急性期治療後、疾患管理に留意しつつ、能動的で多彩な訓練を中心とするリハビリテーションを専門的に行う回復期リハビリテーション病棟（3階、4階病棟）では、病棟専従の理学療法士、作業療法士、言語聴覚士が、病棟を中核に据えたリハビリテーション・ケアを多職種チームで行っている。早期個別な集中的リハビリテーションのために、365日対応、患者1人1日当たり6単位以上のリハビリテーションを提供し、患者の日常生活能力を最大限に改善し、可能な限りの早期の社会復帰を支援している。

当課のリハビリテーション業務については、表1に示したとおりである。一般的な流れは、表2のとおりであるが、一人一人の患者の身体面・精神面・社会面のすべてに対して、総合的、全人間的に対応するよう努力している。

（1）総合的リハビリテーションの実施

- ア．患者の人格、人権を尊重し、全人間的対応を心掛ける。また、訓練に際し、説明と同意を得る。
- イ．患者・家族の多様なニーズの把握、運動・精神機能および社会的な背景等の評価を行い、それぞれの科ごとの短期目標と長期目標を定期カンファレンス等で調整し、医療局、看護局との有機的な連携を保ちながら、チーム医療の一端を担う。今年、新たに入院日合同評価を開始した。入院当日に患者、家族を含めた多職種で評価を行い、最適な介助方法、車椅子、ベッドの調整、入院後のリハビリテーションの方針を話し合っている。
- ウ．退院にあたり、家族への介護指導や、外出訓練、退院時訪問指導での住宅評価、ケア会議等で安心して社会復帰ができるよう支援する。

（2）高度専門的リハビリテーション医療の開発と提供

- ア．脳卒中片麻痺患者の上肢の対する治療法としてのハンズ療法や歩行支援ロボットを使用した訓練、嚥下障害の患者の治療法など職員各人が高度な診断・治療技術の導入や開発を先端リハビリテーション課に努める。
- イ．訓練の効果判定は、客観的なデータ収集のために、床反力計、3次元動作解析装置を使用している。その他の評価・検査データについては、課内のデータベース委員会が管理している。
- ウ．多臓器疾患を合併した重度・重複障害の患者が多く、それに対応すべく心電図等のモニター監視下で治療・訓練を実施し、それぞれの患者に適切な治療方法・量を設定している。

（3）リハビリテーションの啓発と普及

- ア．各研修会・学会、家族教室へのスタッフの派遣、見学者への説明、患者・家族への指導等を通じて、リハビリテーションの重要性を啓発するとともに、疾病の予防、患者の心身機能・構造の改善、日常生活活動の獲得、社会参加の獲得の改善を実現することにより、県民一人ひとりにリハビリテーションの重要性を浸透させていきたい。

イ．リハビリテーション関係者（学生、訪問看護師等）の指導を行っている。

（４）リハビリテーションスタッフの教育、育成

ア．人材育成課と連携し、セラピスト教育委員会でクリニカルラダーシステムを取り入れている。

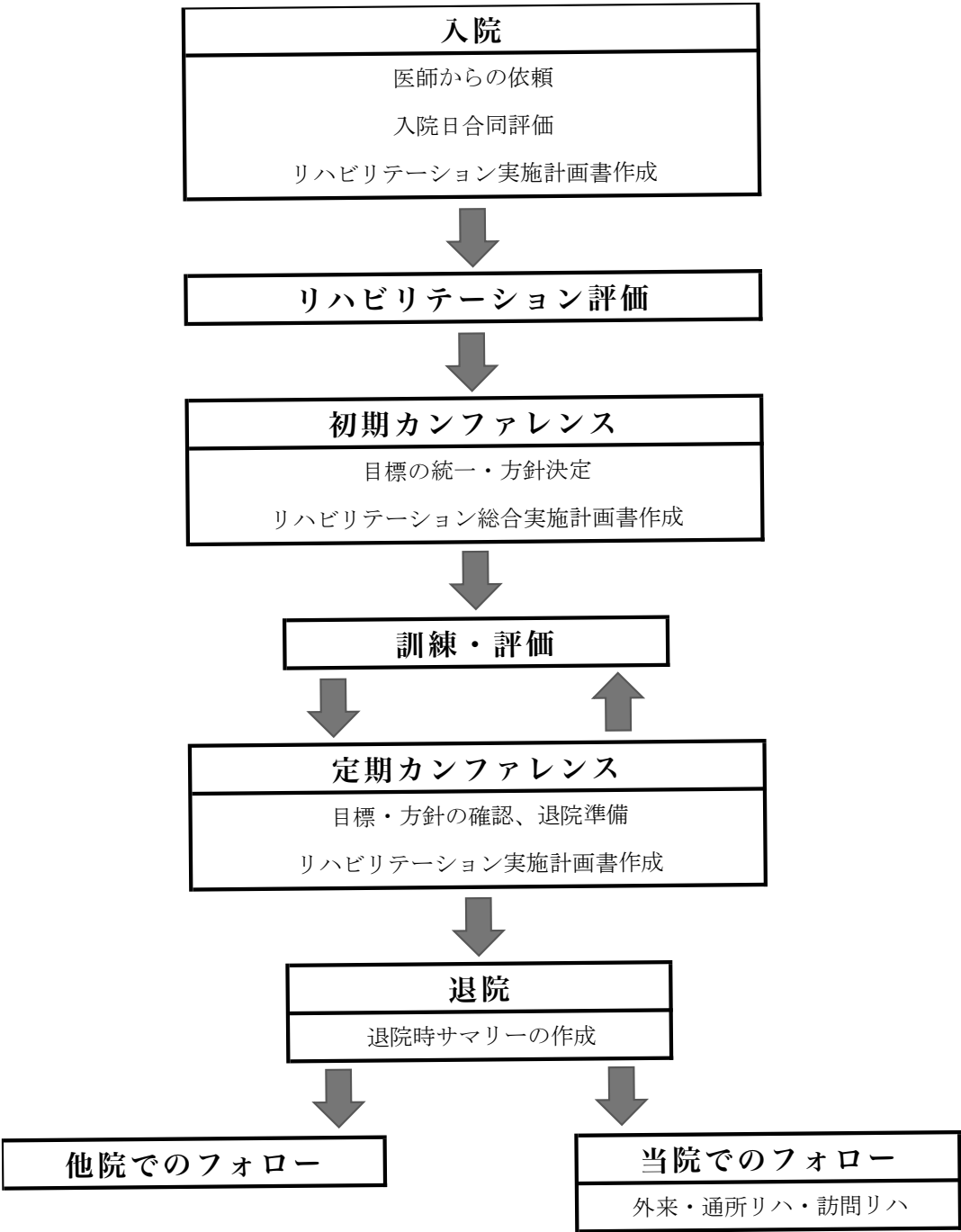
イ．各種学会、研修会等への参加、認定取得に取り組んでいる。

以上の事業を通じて、当院およびリハビリテーション療法部が県民に信頼されるよう努力している。

図１ 業務スケジュール

	月	火	水	木	金	土	日
8 30	ミーティング					各病棟での申し送り	
8 40	各病棟での申し送り、定期カンファレンス 抑制解除のカンファレンス、トイレカンファレンス						
9 00	訓練	訓練	訓練	訓練	訓練	訓練	訓練
11 20	入院日合同評価						
12 00							
13 00	訓練	訓練	訓練	訓練	訓練	訓練	訓練
14 00		定期カンファ レンス・初期 カンファレンス		定期カンファ レンス・初期 カンファレンス	定期カンファ レンス・初期 カンファレンス		
16 00							
16 30		各科 ミーティング		各階チーム ミーティング			
17 15							

図 2 リハビリテーションの流れ



2 理学療法科

(1) 業務概要

<院内業務>

- ・患者の評価および理学療法（運動療法・物理療法・日常生活動作練習）
- ・初期カンファレンス・定期カンファレンス
- ・家族への介護指導
- ・新人理学療法士への指導・研修
- ・臨床実習生への指導
- ・新人看護師等への指導
- ・糖尿病教室での講義
- ・院内感染対策委員会、褥瘡対策専門委員会、接遇・サービス小委員会、クリニカルパス委員会、成人リハビリテーション運営委員会への出席
- ・各種チーム（栄養サポート、感染対策、糖尿病予防、排尿ケア、骨折予防）の活動
- ・課内の各委員会等（セラピスト教育、カルテ、データベース）
- ・HAL, ウェルウォーク、三次元動作解析研究班の運営
- ・リハビリテーション機器の保守点検、物品管理

<院外業務>

- ・自宅及び自宅周囲での動作訓練、住環境整備の助言（外出訓練）
- ・退院を見据えた住環境評価、家族指導（入院時訪問）

(1) 院内業務実績

ア. 業務体制

本年度は、4月から理学療法士32名（4名は先端リハビリテーション課との兼務）で理学療法科を運営した。回復期リハビリテーション病棟在籍27名、一般病棟に5名を配置し業務にあたった。

イ. 入院患者の評価、治療件数

平成30年度入院患者理学療法集計を（表1）に示す。実施数は、125,757単位（54,483件）であった。前年と比較して、単位数は504単位減少となった。また、疾患別リハビリテーションに分類すると、脳血管疾患等リハビリテーションⅠは86,602単位（36,554件）、脳血管疾患等＜廃用＞リハビリテーションⅠは4,216単位（2,173件）、運動器リハビリテーションⅠは34,939単位（15,756件）であり、脳血管疾患等リハビリテーションでは632単位増加したが、廃用は445単位減、運動器リハビリテーションでは691単位減少であった。

ウ. 医療事故の防止体制

医療事故やインシデントが発生した場合には、「アクシデント/インシデント報告書」を記載し、事故発生原因や問題点を分析している。本年度は、32件の報告があり、医療事故の

状況を医療安全推進室に報告し、職員へ再発防止の改善を指導している。また、治療器具使用時には、安全チェックリストやマニュアル表(手順表)で確認し理学療法を実施している。

表1 平成30年度入院患者理学療法集計

年 月	脳血管疾患等 リハビリテーションⅠ	脳血管疾患等<廃用> リハビリテーション Ⅰ	運動器 リハビリテーション Ⅰ	合 計
平成30年 4月	6,793 / 2,955	280 / 141	2,564 / 1,160	9,637 / 4,256
5月	8,092 / 3,432	378 / 195	2,175 / 990	10,645 / 4,617
6月	8,077 / 3,339	243 / 137	2,718 / 1,215	11,038 / 4,691
7月	7,841 / 3,273	318 / 179	2,865 / 1,265	11,024 / 4,717
8月	7,844 / 3,279	556 / 293	2,626 / 1,145	11,026 / 4,717
9月	6,737 / 2,775	580 / 271	2,851 / 1,249	10,168 / 4,292
10月	6,825 / 2,835	614 / 286	3,418 / 1,480	10,857 / 4,601
11月	6,836 / 2,920	362 / 183	3,259 / 1,485	10,457 / 4,588
12月	6,851 / 2,882	304 / 149	3,326 / 1,479	10,481 / 4,510
平成31年 1月	6,931 / 2,972	229 / 120	3,142 / 1,461	10,302 / 4,553
2月	6,506 / 2,744	223 / 141	2,937 / 1,372	9,666 / 4,257
3月	7,269 / 3,14	129 / 78	3,058 / 1,458	10,456 / 4,684
合計	86,602 / 36,554	4,216 / 2,173	35,630 / 15,756	125,757 / 54,483
月平均	7,216 / 3,046	351 / 181	2,911 / 1,313	10,479 / 4,540

(実施単位数/実施件数)

エ. 家族指導

家族指導は理学療法開始時より行われるが、退院時には起き上がりなどの起居動作、乗・移動(車椅子・歩行等)動作における介助方法、また家庭での自主練習などの指導を行っている。また、家庭復帰や社会復帰に向けて、環境への適応練習を指導している。

オ. 理学療法科内における研修

症例検討会、勉強会、伝達講習会を行った。また新任職員は富山県介護実習・普及センター主催の「福祉用具・住宅改修研修」を受講した。

カ. 理学療法臨床実習生への指導

下記の養成校より8名の実習依頼を受け、臨床実習生への指導を行った。

- ・ 金沢大学医学部保健学科 (4年生1名)

H30年4月2日～5月25日

- ・ 金城大学医療健康学部 （4年生1名）
H30年4月9日～6月2日
- ・ 名古屋学院大学 リハビリテーション学部 （4年生1名）
H30年6月4日～7月21日
- ・ 甲南女子大学看護リハビリテーション学部 （4年生1名）
H30年6月4日～7月20日
- ・ 文京学院大学保健医療技術学部 （4年生1名）
H30年6月4日～7月13日
- ・ 富山医療福祉専門学校 （4年生1名）
H30年6月11日～7月29日
- ・ 藍野大学医療保健学部 （4年生1名）
H30年9月3日～10月27日
- ・ 新潟医療福祉大学医療技術学部 （3年生1名）
H30年9月4日～10月13日

キ. 看護職員のリハビリテーション実務研修

新任看護職員に対し、適切なリハビリテーション看護を提供するための講義と実務研修を行った。

ク. その他

日常臨床に伴う業務として以下のことを行った。

- ・ 病棟での朝の申し送りへの出席と情報交換
- ・ 初期、定期、抑制、トイレカンファレンス等への出席
- ・ 車椅子、義肢・装具クリニックへの出席
- ・ ケア会議への出席

(2) 院外業務実績

ア. 外出訓練

退院に向け実際の生活環境で動作訓練を行うと伴に、家族に対し家庭での療養生活や介護方法の指導、住環境整備の助言を行った。今年度は42件の実績となった。

イ. 入院時訪問指導

患者家族が安心して地域生活に移行できるよう、退院後の生活を見据えたリハビリテーションを実施するために、入院直後に患者宅を訪問し住宅環境評価や家族指導を行った。自立歩行可能者は除外対象外とし、26件実施した。

(3) その他

ア. 院内外の学術集会での研究発表や、県内の教育機関、研修機関からの依頼を受け、それぞれ講義・講演に赴いた。

3 作業療法科

(1) 業務概要

- ・患者評価・訓練・指導
- ・初期カンファレンス・定期カンファレンス・ケア会議への参加
- ・家族指導
- ・自動車運転シミュレーターを用いた運転再開訓練
- ・先進医療機器を用いた上肢機能訓練
- ・新卒作業療法士への指導・研修
- ・作業療法臨床実習
- ・看護師への研修
- ・住宅・職場訪問での評価・指導・助言
- ・富山県高次脳機能障害支援センター会議への参加
- ・富山県高次脳機能障害支援センターでのリハビリテーションサービス

(2) 院内業務実績

ア. 業務体制

平成 30 年度の業務運営にあたり、作業療法科の人員体制について述べる。今年度は 4 月の年度開始時には定数 30 名の作業療法士（うち 1 名が産休のため実数としては 29 名）が在籍し、そのうち回復期リハビリテーション病棟には 24 名を配置した。残り 5 名は一般病棟へ配置し、そのうち 1 名を富山県高次脳機能障害支援センターとの兼務とし、認知グループ訓練、外来での高次脳機能障害評価などの担当を割り当てた。

イ. 入院患者における年間の実施単位

平成 30 年 4 月から平成 31 年 3 月までの作業療法の実施単位は表 1 の通りである。年間の実施単位は 118,058 単位であった。また、疾患別リハビリテーションに分類すると、脳血管疾患等リハビリテーション I は 84,751 単位、脳血管障害リハビリテーション I 廃用は 4,038 単位、運動器リハビリテーション I は 29,269 単位であった。

ウ. 作業活動種目

作業療法科で実施した作業活動種目には、物理的感覚運動刺激、関節可動域に対する運動、バランス反応に対する運動、高次脳機能に対する机上課題、セルフケア、社会参加関連作業、個人的価値に対する作業があった。

エ. 環境調整および家族指導

退院後も充実した生活を維持し、機能低下を来たさないためにも家族への指導は重要である。指導内容は患者の問題点の具体的説明と日常生活活動の工夫、余暇の工夫に対する助言などである。対象者には入院時点から関わりを持つよう心掛け、主に外泊時、退院時に実際の指導を実施したり、家庭へ出向いての外出訓練も実施している。

また、入院時に歩行が自立していない自宅退院予定の患者に対しては、入院時訪問指導を実施し、早期から退院後の生活を見据えた関わりを心がけ、住宅改修の相談も含め、在宅生活にスムーズに移行しやすいように配慮している。

オ. 作業療法臨床実習生指導：今年度は下記の学校から見学及び実習依頼を受け、実施した。

- ・新潟医療福祉大学 4 年生 1 名 H30. 4. 9～6. 1
- ・金沢大学 4 年生 1 名 H30. 4. 9～5. 25
- 3 年生 1 名 H30. 7. 23～8. 31
- ・富山医療福祉専門学校 4 年生 1 名 H30. 4. 5～5. 25
- ・金城大学 4 年生 1 名 H30. 6. 11～8. 4
- ・金沢リハアカデミー 4 年生 1 名 H30. 6. 18～8. 13

(3) 院外業績実績

患者宅の環境整備（住宅評価を含む）を **52** 件、また、富山県高次脳機能障害支援センター利用者の復職に向けた職場訪問、入院時訪問指導は計 **16** 件実施した。

(4) その他

上肢ロボット型運動訓練装置（ReoGo-J）、経頭蓋直流刺激（tDCS）など先進医療機器を用いた訓練を行うとともに訓練効果についてなどの研究を進めている。

年間を通して、各学会に職員を参加させ、幅広く最新の知見を得て、科員に伝達するようにしている。また、新人職員は、福祉用具・住宅改修研修（3 日間）に全員参加させ、基本的な福祉介護機器やトランスファーの実技、住宅改修の知識を学ぶようにしている。今後も、多方面にわたる学会・研修の機会を確保していきたいと考えている。

表 1 平成 30 年度 作業療法実施単位数

	脳血管障害等 リハビリテーション I	廃用症候群 リハビリテーション I	運動器 リハビリテーション I	合計
平成 30 年 4 月	6,468/2,626	288/153	2,152/993	8,908/3,772
5 月	7,535/2,928	392/184	1,937/867	9,864/3,979
6 月	7,747/2,949	242/133	2,387/1,078	10,376/4,160
7 月	7,733/3,010	294/163	2,484/1,159	10,511/4,332
8 月	7,663/2,979	530/285	2,117/964	10,310/4,221
9 月	6,425/2,471	522/253	2,319/1,042	9,266/3,766
10 月	6,781/2,582	575/271	2,873/1,235	10,229/4,088
11 月	6,741/2,688	373/186	2,695/1,240	9,809/4,114
12 月	7,033/2,740	290/143	2,713/1,279	10,036/4,162
平成 31 年 1 月	7,008/2,771	218/123	2,706/1,299	9,932/4,193
2 月	6,482/2,553	195/134	2,508/1,194	9,185/3,881
3 月	7,135/2,896	119/80	2,378/1,165	9,632/4,141
合計	84,751/33,186	4,038/2,108	29,269/13,515	118,058/48,809
月平均	7,062/2,765	336/175	2,439/1,126	9,838/4,067

4 言語聴覚科

(1) 業務概要

院内業務 患者評価・訓練指導
家族指導
聴覚検査
言語聴覚療法臨床実習生指導
看護師研修
その他
院外業務 富山県リハビリテーション支援センター事業
富山県失語症友の会活動支援
その他

(2) 院内業務実績

本年度は4月に14名の言語聴覚士で業務を開始した（うち1名は人材育成課、外来・通所リハビリテーション科との兼務、1名は高志ライフケアホームとの兼務）。回復期リハビリテーション病棟に10名（5名×2病棟）、一般病棟に2名を配置した。1月末より1名が産前休暇を取得しており13名で業務にあたった。

ア. 評価

本年度、入院患者に言語聴覚療法のオーダーがでたものは295件であった。評価の結果、240名に要治療の言語障害が認められ、訓練を実施した。言語障害なし、あるいは訓練適応が認められず、評価ないしコミュニケーションなどの指導にとどまった方は55名であった。訓練適応のあった入院患者240名を障害の種類別に見ると、失語症65名（27%）（失語症に構音障害を合併したものを含む）、運動障害性構音障害143名（60%）（嚥下障害や発声障害を伴うものを含む）、高次脳機能障害や認知症によるコミュニケーション障害24名（10%）、その他8名（3%）（意識障害に伴う言語症状、r-TMSの評価・訓練など）となっている。そのうち嚥下障害の対応が必要だった方は133名（55%）と、過半数を占める（表1）。

言語評価は障害別マニュアルに沿って対応している。スクリーニングテストを行い、失語症が疑われる場合は必ず標準失語症検査（SLTA）を行い、その他、WAB失語症検査、失語症構文検査、失語症語彙検査などの精査を実施している。運動障害性構音障害の患者では、構音検査、発声・発語器官検査を行っている。なお、訓練を実施した患者については、常に治療効果をチェックしながら訓練を進めることが重要であり、定期的に訓練効果を検証し、訓練方法や目標などを見直している。

嚥下障害の疑われる患者に対しては、迅速な対応を標準的に行えるよう「摂食・嚥下障害対応フローチャート」に沿って対応している。反復唾液嚥下検査や水飲みテストなどの嚥下スクリーニングテスト実施後、必要に応じて嚥下造影検査（VF：196件）、嚥下内視鏡検査（VE：45件）を実施している。検査後その場で、関係スタッフでの症例検討を行っている。また、医師、看護師、栄養士など多職種での嚥下カンファレンスを定期的で開催（40件）し、嚥下治療の質の向上に努めている。

イ．訓練

訓練は、訓練経過、言語障害の重症度、訓練による疲労や患者の意欲などを考慮し、複数単位での個別訓練を実施しており、本年度は入院患者に対して、のべ 44,530 単位の訓練、のべ 1,131 件の摂食機能療法を行った（表 2）。

筋萎縮性側索硬化症などの神経難病で、重度の運動障害を伴う構音障害の患者に対しては、重度障害者用意志伝達装置などのコミュニケーションエイド使用の訓練・指導を行っている。

嚥下障害の患者に対しては、①嚥下間接訓練（頭部挙上訓練、嚥下体操、軟口蓋・咽頭のアイスマッサージ、ブローイング、空嚥下など）、②嚥下直接訓練（摂取姿勢、食物形態、量を考慮した食事訓練・指導など）を行っている。また、完全側臥位法での摂食訓練も積極的に取り入れ、重度障害例の経口摂取に努めている。さらに、看護師と連携し口腔ケアや摂食訓練の実施など、病棟での摂食機能療法に結びつけた（のべ 8,317 件）。

人工内耳埋込術の術前術後の患者に対する訓練は耳鼻科からの新規依頼はなかった。

ウ．家族等に対する指導

コミュニケーション障害の患者の場合は、家庭における患者への接し方や自主訓練の方法、嚥下障害の患者の場合は、摂取姿勢や食物形態、食事の注意点などを具体的に指導している。また、職場復帰する患者の場合は、必要に応じて職場側と連絡調整を行っている。

エ．聴覚検査

耳鼻科などから依頼のあった、聴力などの検査件数はのべ 90 件であった。その他、職員の定期健康診断として簡易聴検を 40 件実施した（表 3）。

オ．言語聴覚療法臨床実習生指導

本年度依頼はなかった。

カ．看護師研修

新任看護職員および転入者に対して実務研修を行った。

キ．その他

適宜、言語聴覚療法や嚥下造影検査の見学などに応じた。

（3）院外業務実績

ア．富山県リハビリテーション支援センター事業

本年度依頼はなかった。

イ．富山県失語症友の会活動支援

月例会、野外訓練、事務局として活動支援をした。

ウ．その他

各種研修会で言語聴覚療法・関連領域について、講師派遣した。

表 1 入院患者依頼件数

評価のみ	失語症	構音障害	認知症・高次脳	その他
55	65 (27%)	143 (60%)	24 (10%)	8 (3%)
	嚥下障害			
	有り	133(55%)	無し	107(45%)
	240			
合計 295				

表 2 評価・訓練単位数/摂食機能療法件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
単位	4,136	4,179	3,864	3,875	3,901	3,575	3,769	3,534	3,909	3,446	3,012	3,330	44,530
摂食		3				63	123	207	201	246	142	146	1,131

表 3 聴覚検査依頼件数

標準純音聴力検査	63	90
ティンパノメトリー	2	
簡易聴力検査・その他	25	
職員健診		40

第9節 リハビリテーション療法部（こども療法課）

1 運営概要

これまでの小児神経科、小児整形外科、児童精神科に加え、平成30年7月の療養介護棟の開設により、内科、神経内科からの処方に応じ、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士による、発達評価や訓練を実施している。訓練開始に当たっては、評価に基づく適切な目標設定とプログラムを作成し、実施している。また、定期的なカンファレンスを実施し、再評価と訓練プログラムの見直しを実施している。

対象となる患児は、こども棟に入所や一般入院している患児、隣接する高志支援学校に自宅から通学している患児、契約通所している患児、自宅から訓練のみに通う外来患児、療養介護棟入所者である。年齢は0歳から対応しており、対象障害は、身体障害・発達障害・聴覚障害、重症心身障害等と幅広い。

それぞれの患児が、生活環境でその子らしく暮らせるように、看護師・保育士・ソーシャルワーカー、介護職等、多職種との連携による、総合的なリハビリテーションを推進している。また、保護者や療育に関わる関係機関への支援が重要であり、特に発達障害児については、その支援を当センターの多職種のみならず、富山県発達障害者支援センターとの連携で実施している。

当課のリハビリテーション業務については、図1に示した通りである。また、一般的な流れは、図2の通りである。

（1）総合的リハビリテーションの実施

- ア．患児の人格、人権を尊重し、全人的対応を心がける。また、訓練に際し、訓練内容を良く説明しながら行う。
- イ．患児・家族の多様なニーズの把握、運動・精神機能及び社会的な背景等の評価を行い、各療法の目標設定とプログラムについて、多職種とカンファレンスで調整し、有機的な連携を保ちながらチーム医療の一端を担う。
- ウ．退所・退院にあたり、家族への療育指導を行い、多職種参加の退院カンファレンスやケア会議において、安心して在宅生活や社会復帰できるよう支援する。

（2）高度専門的リハビリテーション医療の開発と提供

- ア．職員各人が高度な診断・治療技術の導入や開発に努める。
- イ．聴覚障害児の人工内耳のマッピングと療育指導の技術向上に努め、聴覚発達・言語発達に貢献する。
- ウ．重症心身障害児の呼吸管理、身体障害児の運動発達促進の為に各種医療機器について、それぞれの患児に合った適切な使用ができるように、知識や技術の習得・向上に努める。
- エ．発達障害児の適切な評価と、感覚統合療法や言語・コミュニケーション訓練等の技術向上に努め、発達支援や社会適応に貢献する。

（3）リハビリテーションの啓発と普及

- ア．研修会の講師としての派遣、保育所等への訪問指導、見学者への説明、患児・家族への指導等を

通じて、リハビリテーションの重要性の啓発を行っている。

イ．リハビリテーション関係者（学生、看護師、保育士等）の指導を多職種と協力し行っている。

（４）リハビリテーションスタッフの教育、育成

ア．人材育成課と連携し、セラピスト教育委員会で臨床ラダーシステムを取り入れている。

イ．各種学会、研修会等への参加、認定取得に取り組んでいる。

以上の事業を通じて、本病院及びリハビリテーション療法部こども療法課が県民に信頼されるよう努力している。

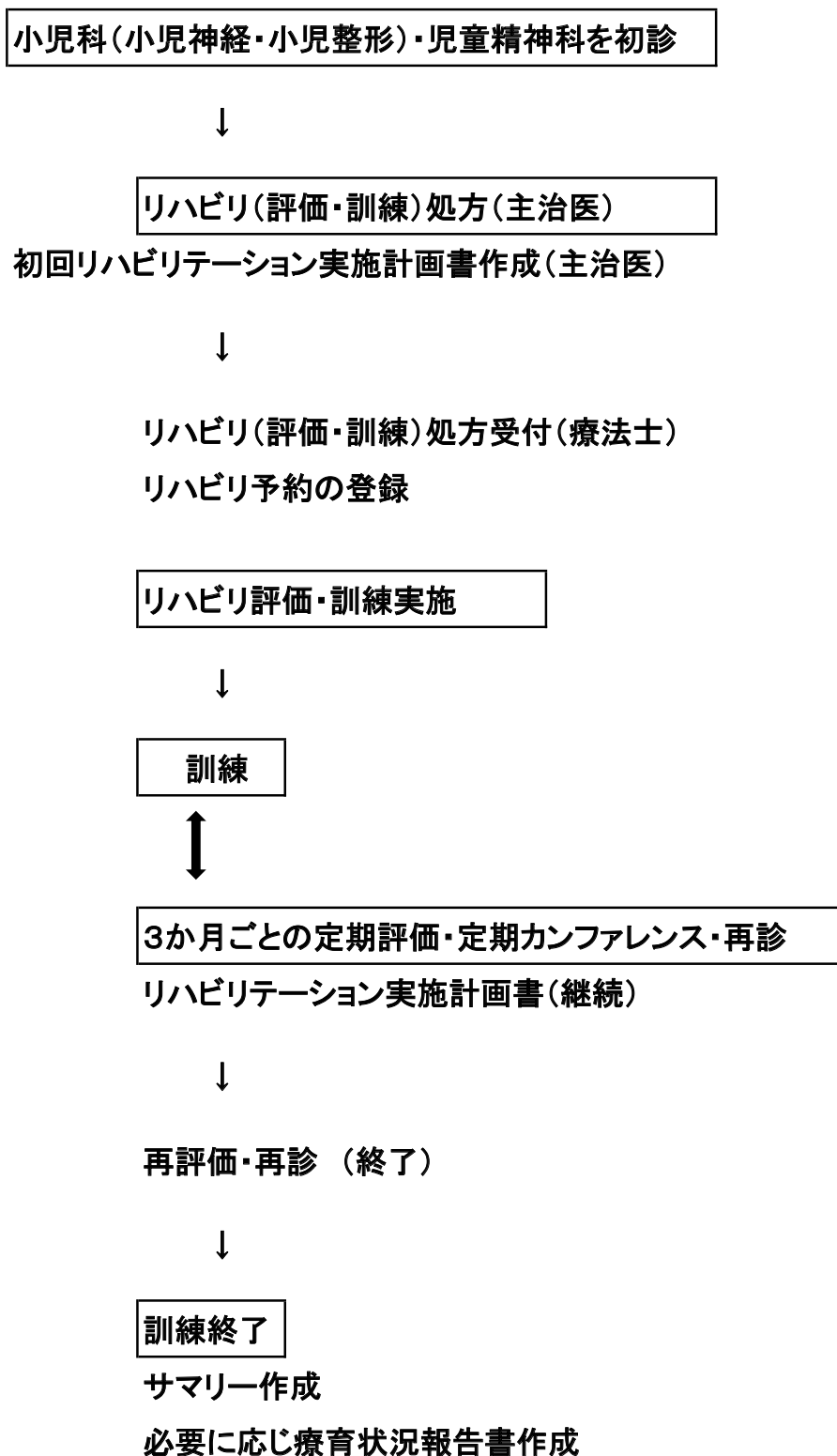
図1 業務スケジュール

	月	火	水	木	金
8:30	ミーティング				
8:40	外来定期カンファレンス、病棟・学校との申し送り				
9:00	訓練	訓練	リハビリテーション運営会議	訓練	訓練
11:30		第1. 3. 4科内ミーティング			
12:10		第2 課内ミーティング 課内研修			
13:10	訓練	訓練	入所定期カンファレンス	訓練	訓練
			第3入所部門調整会議 第4通所部門調整会議		
17:15			第1リハビリテーション 運営委員会		

随時 入所初期カンファレンス、退院カンファレンス

図2 リハビリテーションの流れ

I. 外来部門



Ⅱ. こども棟入所部門

小児科(小児神経・小児整形)・児童精神科を初診



新入所児検討会議

入所決定



入所

リハビリテーション(評価・訓練)処方

リハビリテーション実施計画書作成



リハビリテーション処方受付

評価・訓練

(疾患別・種別療法マニュアル参照)



初期カンファレンス(療育会議)

リハビリテーション総合実施計画書作成



訓練



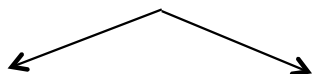
3か月ごとの再評価・定期カンファレンス(療育会議)

リハビリテーション総合実施計画書(継続)作成



退院

退院カンファレンス



転院など

療育状況報告書作成

当センターでの訓練継続・フォロー

……→

外来

Ⅲ.療養介護棟部門

療養介護棟 主治医 受診または面談



入所調整会議

入所決定



入所

リハビリテーション処方

初回リハビリテーション実施計画書作成



リハビリテーション処方受付

訓練



初期カンファレンス

リハビリテーション実施計画書作成



訓練



3か月ごとの再評価・定期カンファレンス

リハビリテーション実施計画書(継続)作成



退院

2 こども理学療法科

(1) 業務概要

院内業務	理学療法評価 理学療法 初期・定期カンファレンス出席 呼吸ケア支援（リラクゼーション・体位・呼吸介助） 補装具製作・修理支援 新人理学療法士への指導・研修 臨床実習生への指導 院内多職種への指導
院外業務	地域療育等支援事業

(2) 院内業務実績

ア. 業務体制

H30 年度は、理学療法士 10 名（内、3 名が高志訪問看護ステーション訪問リハビリテーション科、10 月～1 名が通所リハビリテーション科との兼務）でこども理学療法科を運営した。職員それぞれが、入所児、高志支援学校通学生、他学校就学の外来児、契約通所児、未就学外来児を担当した。又、7 月から療養介護病棟の開棟に伴い、療養介護棟入院患者の理学療法を担当した。

イ. 理学療法評価

理学療法評価は、こどもの粗大運動能力・運動発達状況を検査し、運動を構成する筋力・関節可動域・周径・脚長の測定及び呼吸機能測定などから評価していく。検査・測定の過程で児及び家族の運動学習や日常生活活動状況を確認して、家庭や関係機関と協力して運動発達の促進・運動能力の向上を促すための関わり方を指導していく。重症心身障害児の生活を支える呼吸器の導入及び管理支援では、呼吸機能の評価（姿勢・呼吸運動）を実施している。また、必要に応じて補装具製作支援・家屋状況評価を実施している。

ウ. 理学療法治療件数

当科の総訓練件数は 14,883 件であった。訓練件数内訳は、こども棟に入所している対象児では、5,292 件、隣接する高志支援学校に自宅から通学している対象児では 2,119 件、通所契約（医療型、福祉型）の理学療法件数は 1,150 件であった。外来訓練の学齢対象児は 1,481 件、未就学対象児は 2,690 件であった。又、療養介護棟での実施件数は 1,043 件であった。（表 1）

エ. 呼吸ケア支援（呼吸器導入支援）

日常生活を支援していくための各種の呼吸器（人工呼吸器、排痰補助装置）の導入及び調整目的のための入院が増えている。その入院の際に機器の使用に向けた体位・リラクゼーション方法・呼吸介助方法の指導などでの支援を実施している。

オ. 補装具作成・修理支援

日常生活の中で、補装具（車いす・座位保持装置・座位保持いす・移動支援器具・姿勢保持装置など）治療用装具（体幹装具・下肢装具など）の製作・修理が行われている。その制作修理において、適切な補装具・治療用装具の選択・適合・調整・使用方法の指導等を実施している。

カ. 他機関との連携

保育所や学校等の他機関と情報交換や情報共有を行い、連携を図っている。

キ. 科内研修

症例検討、伝達講習、勉強会を実施した。

又、理学療法効果検証のため、成人理学療法科との交流を図り三次元動作解析についての勉強会と操作研修会を実施した

ク 理学療法臨床実習生への指導

下記の養成校より実習依頼を受け、臨床実習生への指導を行った

- ・信州大学医学部保健学科 (4年生1名)

H30.6.11 ~7.27

ケ 看護職員への実務研修

こども棟看護師を対象によりよい協業を実践するため、入所中の重症心身障害児に対する姿勢管理や病棟内で実施できるトレーニングについての OJT を行った。

(3) 院外業務実績

今年度の依頼はなかった

(4) その他 (別項参照)

県民公開講座 講師派遣 1 件

表1. こども理学療法 実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	平均
こどもセンター 入所児	298	419	445	456	454	354	474	454	393	481	519	545	5292	441
高志支援学校 通学生	158	185	205	181	141	138	188	195	169	193	201	165	2119	177
通所契約 (医療型・福祉型)	89	103	106	99	98	83	104	96	89	94	88	101	1150	96
外来肢体不自由 学齢児	98	115	122	128	131	109	130	137	132	123	121	135	1481	123
外来肢体不自由 未就学児	171	223	231	230	239	194	252	231	203	231	237	248	2690	224
外来肢体不自由 加齢児	2	2	2	6	6	6	5	5	4	4	4	4	50	4
運動発達評価	4	4	2	0	1	0	0	0	0	0	0	1	12	1
療養介護棟				63	42	96	107	174	133	166	107	155	1043	87
計	820	1051	1113	1163	1112	980	1260	1292	1123	1292	1277	1354	13837	1153

3. こども作業療法科

(1) 業務概要

院内業務 作業療法評価 作業療法

院外業務 地域療育等支援事業 保育所等訪問事業 など

(2) 院内業務実績

ア. 業務体制

平成 30 年度 4 月時は、移動および新規採用のため昨年度末より 2 名増となる 12 名の作業療法士が在籍した。5 月より 1 名減（産前産後休暇および育児休暇のため）、10 月より 1 名減（退職のため）となり、その後は年度末まで 10 名が在籍した。

職員それぞれが、入所児、高志支援学校通学児、契約通所児、外来児を担当した。

イ. 作業療法評価

発達検査および作業療法士との遊びや机上課題を通して、上肢運動機能、日常生活動作、感覚の処理能力、知覚・認知能力等の評価を行っている。また、家庭や集団場面での相談に対し保護者へアドバイスも行っている。平成 30 年度の作業療法評価の総件数は 966 件であり、前年度と比べ 51 件増加した。内訳は、通所契約児 9 件、外来年中以下の児が 534 件、外来年長児が 165 件、外来就学児が 230 件、ADHD（もぐら一ず検査）が 28 件であった（表 1）。

・作業療法士が行う発達検査（視知覚認知能力・眼球運動・協調運動・認知処理能力・注意集中・感覚統合）

日本版ミラー発達スクリーニング検査（J - MAP）

Developmental Test of Visual Perception Second Edition（DTVP - 2）

近見・遠見数字視写検査 Developmental Eye Movement Test（DEM）

Northeastern State University College of Optometry（NSUCO）

Movement assessment battery for children-2（M - ABC）

Das-Naglieri Cognitive Assessment System（DN - CAS）

もぐら一ず検査 日本版感覚プロファイル

ウ. 作業療法

作業療法では、日常生活における動作や遊び等から得られる刺激を用い、患児の年齢や能力に応じ、楽しみながら動作の獲得や発達を促進することを目標にしている。対象は脳性麻痺などの脳原性疾患等から発達遅滞、発達障害等と多岐に亘り、近年は外来未就学児の自閉症スペクトラム障害の割合が高くなっている。評価の結果から、上肢機能の向上、日常生活動作および遊びの自立、感覚統合能力の向上、眼球運動や視知覚認知能力の向上、就学準備等についてのプログラムをそれぞれの患児に合わせて立案し実施している。

30 年度のこども作業療法の総件数は 11,510 件であり昨年度より 2,382 件増加した（表 2）。訓練件数の内訳は、こども棟に入所している対象児では 2184 件、隣接する高志支援学校に自宅から通学している対象児では 939 件、通所契約（医療型、福祉型）の対象児では 553 件であった。外来訓練では、肢体不自由を中心とした対象児では 739 件であり、発達障害を主とする対象児では 6,617 件であった。7 月からは療養介護棟への入院患者も対象に加わり、その実施件数は 336

件であった。

対象児を疾患別にみると、入所、通学、通所契約医療型が中心の肢体不自由児が 4,298 件、発達障害児が 6,737 件であり、訓練件数における発達障害児の割合が前年度同様に 61%と高くなっている（表 3）。

エ．他機関との連携

療育状況報告書や電話連携にて、保育所等、他機関との連携を行っている。

（３）院外業務実績

地域療育等支援事業；担当児の保育所 １件

IT 機器支援；担当児の自宅 １件

（４）その他（別項参照）

学会発表 １件、院外講師 １件、院内講師 １件

表 1. 平成 30 年度 こども作業療法評価 (件)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計	平均
通所契約児	1	1	3	0	0	1	0	1	1	0	1	0	9	0.75
外来年中以下	54	56	48	44	43	40	41	41	33	43	44	47	534	44.5
外来年長児	15	20	25	22	17	9	18	15	10	4	5	5	165	13.7
外来就学児	8	12	12	21	30	26	21	27	21	19	16	17	230	19.1
ADHD 検査	4	3	3	0	4	4	1	1	2	1	2	3	28	2.3
合計	82	92	91	87	94	80	81	85	67	67	68	72	966	80.5

表 2. 平成 30 年度 こども作業療法件数 (件)

年 月	センター入所	高志支援通学	通所契約児	外来肢体不自由	外来発達障害	外来その他	療養介護	計
平成 30 年 4 月	170	70	47	58	326	5	0	676
5 月	148	92	45	72	432	12	0	801
6 月	183	83	46	71	515	12	0	910
7 月	201	98	46	72	601	12	36	1,066
8 月	308	66	54	70	620	10	12	1,140
9 月	144	71	37	45	526	14	45	882
10 月	158	86	40	64	634	16	58	1,056
11 月	191	90	50	62	621	12	35	1,061
12 月	175	72	44	60	592	11	39	993
平成 31 年 1 月	166	69	48	56	563	13	47	962
2 月	149	82	47	52	591	12	40	973
3 月	191	60	49	57	596	13	24	990
合計	2,184	939	553	739	6,617	142	336	11,510
月平均	182	78	46	62	551	12	28	959

表 3. 平成 30 年度 こども作業療法 疾患別延べ件数 (件)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計	平均	割合 (%)
肢体不自由児	337	349	377	413	488	288	344	380	340	326	318	338	4,298	358	39
発達障害児	334	440	521	605	630	535	638	635	605	576	603	615	6,737	561	61

4 こども言語聴覚科

(1) 業務概要

- 院内業務 言語発達評価、読み書き評価、言語聴覚療法
通所契約難聴児言語聴覚療法（集団訓練、個別訓練）
療養介護棟言語聴覚療法
聴力検査、補聴器フィッティング、人工内耳マッピング
臨床実習指導、院内職員研修対応
- 院外業務 地域療育等支援事業
保育所等訪問事業
人工内耳友の会支援、その他

(2) 院内業務実績

ア. 業務体制

今年度は9名体制で業務を担った。数年来、言語評価、読み書き評価の処方が増加傾向にあり、発達障害への対応ニーズが高まっている。特に読み書き評価に関しては前年度比で1.7倍ほどの実施件数となっており、社会的な学習障害への関心の高まりを反映したものと思われる。しかしながら、従来の体制では評価実施までの期間が延長し、サービスの低下を来す可能性が高く、言語評価の枠数を大幅に増加することで対応した。また、平成30年7月の療養介護棟の開所に伴い、こども療法課がリハビリテーションを担当することとなった。

イ. 言語発達評価

言語発達評価は、こどもの言語能力、発達状況を検査するだけでなく、情緒、社会性などコミュニケーション状況や言語環境の観察、聞き取りも行っている。その結果をふまえ、保護者に対し家庭での関わり方の指導を行う他、幼稚園、保育園など集団場面での相談、アドバイスも行っている。また、言語発達評価と同様の枠を使用し、読み書き障害など学習障害が疑われる児に対して、読み書き評価も実施している。「標準読み書きスクリーニング検査 (STRAW-R)」を基本に、各種掘り下げテストを行う事で、被検児の特性や学習状況を把握し、読み書き障害の有無、程度などを判定している。その上で、その児にあった学習の進め方や学習促進用の教材などを紹介している。平成30年度の言語評価の実績は年間876件、読み書き評価は342件であった。(表1)

ウ. 言語聴覚療法

こども言語聴覚療法を受けた児の実人数は695名、総件数は9645件であった。内こども棟に入所している児は45名、訓練件数は1,089件であった。隣接する高志支援学校に自宅から通学している児は35名、訓練件数は601件であった。通所契約（医療型、難聴以外の福祉型）の利用児は26名、訓練件数は280件であった。難聴の通所契約の利用児は15名、個別訓練440件、集団訓練446件であった。外来訓練に関しては、肢体不自由を中心とした対象児が50名、難聴児は63名、発達障害を中心とした対象児が340名であった。機能性構音障害や吃音等を中心とした対象児は100名であった(表2)。

当科の対象児は、こども棟入院・入所児、高志支援学校通学児、通所契約児（難聴児含む）、外来児など、利用形態はさまざまである。継続的にSTを行った児の、所属別実施件数を(図1)

に示す。当科では、未就学の外来児が 62%を占め、就学児も含め 89%が一般の外来での利用形態である。また、入院・入所児、通所契約児の占める割合は徐々に減少傾向にある（図 1）。

対象児を疾患別にみると、入所、通学、通所契約児が中心である肢体不自由が 2,392 件(25%)、通所難聴契約児が中心の難聴が 1,426 件(15%)、発達障害（構音障害や吃音などを含む）が 5,827 件（60%）であり、発達障害児の割合が非常に高くなっている（表 3）。

エ．聴力検査等

小児の聴力検査は、聴性脳幹反応検査（ABR）、耳音響放射検査（OAE）などの他覚的聴力検査と、聴性行動反応検査（BOA）、条件詮索反応検査（COR）、遊戯聴力検査などの自覚的聴力検査が主となる。特に低年齢の児に関しては反応の見極めが難しく、難聴が疑われる場合は複数回の検査を行い、聴力を確定する必要がある、検査者の熟練が必要である。そのため、確定聴力が明確になるまでは聴力検査に換算せず、聴能訓練とした。また、平成 29 年度から人工内耳本体の動作確認や、反応を確認しながらの調整であるマッピングも難聴幼児担当者が行う体制とした（表 1）。

オ 療養介護棟

療養介護棟のリハ実施状況は表 4 の通りである。

カ 多機関との連携

療育状況報告書や電話相談にて、保育所等他機関との連携を行った。

キ 臨床実習生指導

平成 30 年度は実施せず。

コ 科内研修

出張等の伝達講習、症例検討、テーマ別研修などを行った。

（３） 院外業務実績

保育所等訪問事業 1 件

聴覚支援学校との連携会議 2 回 3 名

人工内耳友の会支援

耳の日相談会 派遣

（４） その他（第 16 節 その他参照）

学会等発表 3 件

研修会講師派遣 3 件

富山県言語聴覚士協会 発達小委員会 発表 3 件

日本言語聴覚士協会 全国学会 座長 2 件

表1 平成30年度 言語発達評価及び聴力検査(件数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	平均
言語発達評価	65	94	91	85	68	74	81	64	57	69	69	59	876	73.00
読み書き評価	39	34	27	30	32	22	31	27	17	16	36	31	342	28.50
計(言語系評価)	104	128	118	115	100	96	112	91	74	85	105	90	1,218	101.50
各種聴力検査	13	5	14	11	25	6	15	22	14	11	20	10	166	13.83

表2 平成30年度 対象児内訳

継続訓練児	実人数	件数
こどもセンター入所・入院児	45	1,089
高志支援学校 通学生	35	608
通所契約 医療型	5	69
通所契約 福祉型	21	211
通所契約 難聴個別訓練	15	440
通所契約 難聴集団訓練	15	446
外来 肢体不自由 学齢児	28	277
外来 肢体不自由 未満児	22	138
外来 難聴 学齢児	7	50
外来 難聴 未満児	56	490
外来 発達障害 学齢児	25	187
外来 発達障害 未満児	315	4,682
外来 その他 学齢児 *	33	276
外来 その他 未満児 *	73	682
継続訓練児 計	695	9,645
言語発達評価(契約児含む)	680	853
読み書き評価	184	342
総計	1,559	10,840

入-退院、外来-契約、等の所属変更のため、重複あり。

*「その他」は構音障害や吃音が主。

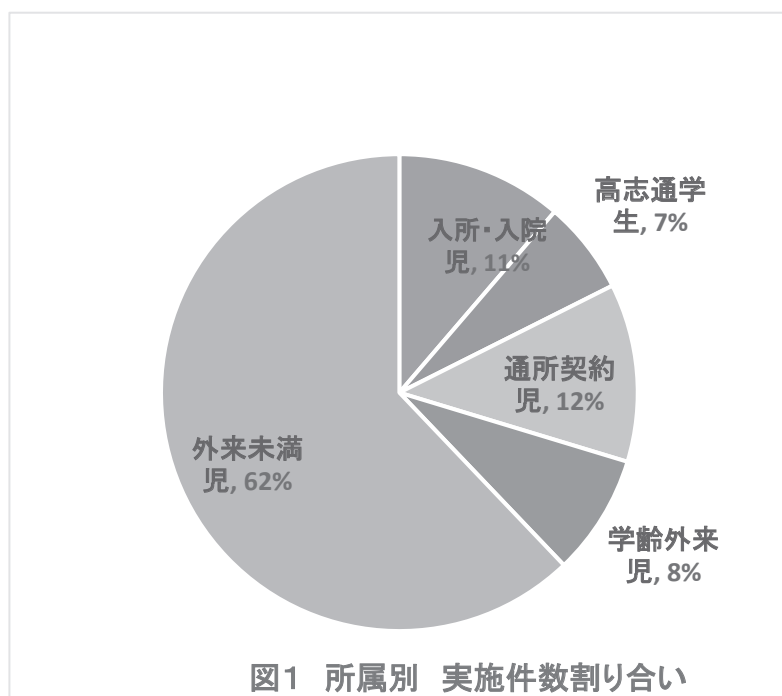


表3 平成30年度 言語聴覚療法 訓練児の疾患別実績(件数)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	平均	割合(%)
肢体不自由	163	177	179	197	242	180	223	226	204	195	196	210	2,392	199.33	25
難聴	130	130	126	127	111	109	137	116	115	92	103	130	1,426	118.83	15
発達障害等 *	342	446	477	500	505	447	527	527	510	490	505	551	5,827	485.58	60
小計	635	753	782	824	858	736	887	869	829	777	804	891	9,645	803.75	100

* 構音障害、吃音等も含む。

表4 平成30年度 療養介護棟 言語聴覚療法(7月より開始)

	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	平均
延べ件数	36	16	40	65	78	59	80	54	25	453	50.3
単位数	40	16	42	74	89	70	92	65	30	518	57.6

第 10 節 在宅生活推進部

1 運営概要

昭和 59 年の開院時、地域におけるリハビリテーション活動の推進を目的とし設置された。

具体的には、県内の保健、医療、福祉関係機関、並びに、各々の専門職が有機的な連携をとりながら地域リハビリシステムの基礎構築と、保健、医療、福祉サービスの向上を図ることを目的とし、「地域リハビリテーション実施要綱」を策定している。その要綱に基づき、①退院患者のフォロー ②地域の各関係機関との連携強化 ③県内リハビリテーション関係者の研修等を、主な事業として実施している。

開設当初、部長（医師）と普及科（保健師）の組織であったが、昭和 63 年度に相談指導科が新設され、ソーシャルワーカーが新しく配置となった。平成 5 年には訪問指導科が設置され、訪問によるリハビリテーションを開始した。平成 17 年には看護師も加わり、訪問リハビリ・看護科となった。また、相談指導科も平成 17 年に相談支援科と名称を改めた。

また、平成 19 年度に地域医療福祉連携室が設置され、相談支援科が兼務で地域医療福祉連携室における関係機関等との連携業務を担うようになった。

平成 26 年度より新たに訪問看護ステーションが開設され、訪問リハビリ・看護科スタッフが訪問看護ステーションに移行するかたちとなった。その為、現在の地域リハビリテーション部については、外来リハビリテーション科の理学療法士と相談支援科のソーシャルワーカーが配属されている。

さらに、平成 28 年 1 月の新病院開院に伴い、療育支援科が加わり、こどもから大人までの総合的な地域との連携機能の向上を目指している。

2 業務実績

（1）入院・外来患者の在宅生活への支援

①入院時面接

入院当初に本人・家族と面接を行い、入院目的及び退院時の生活を明確にすることで、有意義な入院生活、継続した地域での生活を送れるように支援している。

介護保険の申請や身体障害者手帳の申請、特定疾患の申請等、各種制度の利用やサービスが受けやすいよう、情報提供及び支援を行っている。

相談支援科は、各病棟にソーシャルワーカーを 2 名ずつ配置し、多職種連携を図り、退院に向けての支援を円滑に行っている。

②在宅ケア体制の整備

初期カンファレンスで検討された方針に従い、本人や家族の意向にできるだけ添えるような在宅ケア体制が整うように、関係機関との連絡調整を行う。

また、退院後、地域での生活に支障が生じると考えられる場合は、本人・家族を始め、当院の主治医・病棟・リハビリスタッフやフォロー先の医療機関、介護支援専門員・関係機関等の連携が図れるようケア会議を開催し、退院後の生活にスムーズに移行できるよう支援している。

③入院前の相談、見学者への相談

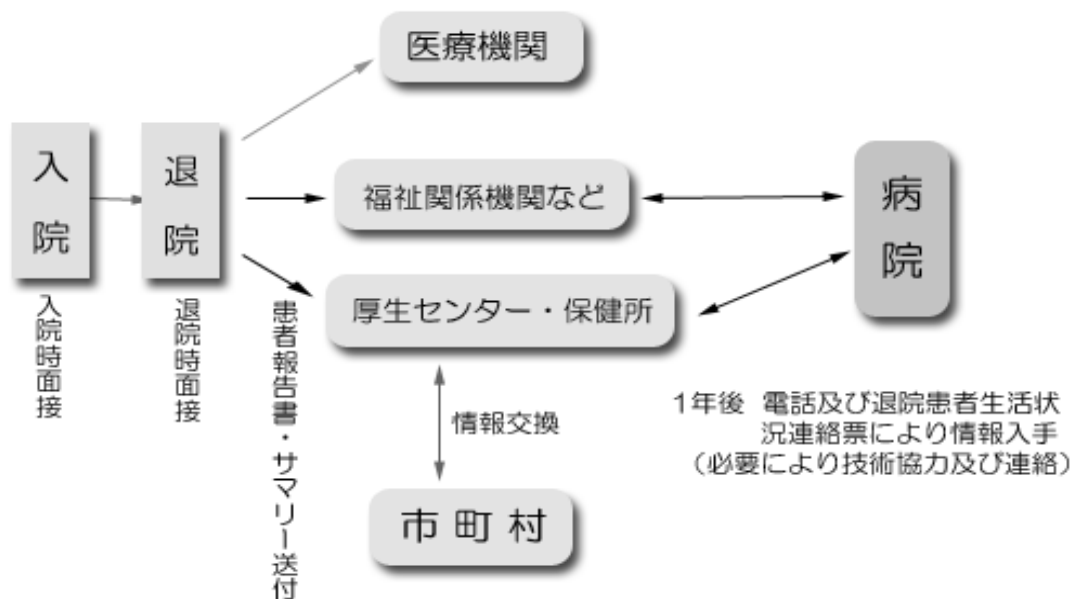
各種相談や病院見学に対して随時対応し、病院の概要や入院手続、回復期リハビリテ

ーション等について説明を行っている。

(2) 情報交換（退院患者のフォロー等）

情報交換の第一歩として、患者報告書と各専門職種のスマリーを医療機関、必要によっては他の関係機関へ送付している。これは退院患者のフォローとして入院から一貫した流れに沿って実施している。（図1）

図1 退院患者のフォロー模式図



また、継続的なケアが必要な人には本人及び家族の了解を得て、患者報告書に各専門職種のサマリーを加えて、居宅介護支援事業所・地域包括支援センター、厚生センターや保健所へ送付している。送付後、送付先機関等から退院後の患者の状態、問題点の情報を入手し、患者対応に生かしている。

(3) 各種研修

① リハビリテーション家族教室

リハビリ病院の患者及び家族が、脳卒中や脊髄損傷についての知識やリハビリテーションの理念、介護方法、食生活等を学び、退院後家庭内で安定した生活が送れることを目的に実施している。

平成25年度は、患者や家族の方々に、より明確なビジョンを持って今後の生活を検討して頂きたいとの意向から、脳卒中のリハビリテーション家族教室を1)健康生活編、2)環境調整編、3)在宅での介護編（※介護編については看護局 院内サービス向上委員会と共催）と体系的なプログラムに再編し開催している。

脊髄損傷のリハビリテーション家族教室については昨年度と同様に年3回実施とした。

表 1 リハビリテーション家族教室

1) 脳卒中のプログラム

①健康生活編／入院生活（6回／年間）	
病気の理解	医師
日常生活のポイント	看護師
食生活の工夫	栄養士

②環境調整編／退院後の生活に向けて（6回／年間）	
退院に向けての環境整備とリハビリ	理学療法士
福祉制度のいろいろ	社会福祉士

③介護編／在宅で実践、らくらく介護方法（5回／年間）	
介護の実際	看護師
座談会・患者を支える家族の心構え	臨床心理士

※看護局 院内サービス向上委員会と共催

2) 脊髄損傷のプログラム（3回／年間）

病気の理解	医師
福祉制度のいろいろ	ソーシャルワーカー
環境整備（住宅評価）	理学療法士
患者を支える家族の心構え	臨床心理士

3) 参加状況

	27年度		28年度		29年度		30年度	
脳卒中	14回	92名	15回	82名	11回	49名	9回	39名
脊髄損傷	2回	8名	1回	2名	1回	3名	1回	1名

②リハビリテーション関係者等の研修

リハビリテーションに従事している職員並びに地域リハビリテーションに関係する職種等の研修を行っている。

③その他

- ・地域リハビリテーション講演会の実施
- ・富山県リハビリテーション研究懇話会の運営協力
- ・住宅評価実施件数のとりまとめ等
- ・保健衛生ニュースの回覧
- ・富山県福祉用具・住宅改修支援連絡協議会委員

3 外来・通所リハビリテーション科

当科では、日常生活活動の自立や社会参加といったその人らしい生活の再建を目標にリハビリテーションプログラムを作成し、外来リハ・通所リハのそれぞれを実施している。平成 29 年 1 月から開始した通所リハ(デイケア)では在宅ケアの関係機関との連携を重視し、個々の患者・利用者が住み慣れたところで、いきいきとした生活が送れるように支援している。

<業務概要>

- (1) 外来患者の評価・理学療法、作業療法、言語聴覚療法
- (2) 通所リハ(デイケア)利用者のリハビリテーション
- (3) その他

(1) 外来リハビリテーション

外来患者におけるリハビリテーションは、介護保険認定を受けた患者は介護保険サービスに移行するよう勧められており、当院でも通所リハビリテーションに移行するよう努めた。

・外来リハビリテーション業務は原則午前のみ実施した。人員は、当科理学療法士 2 名、作業療法士 3 名(訪問リハ科兼務 1 名、作業療法科兼務 2 名)、言語聴覚士 1 名(人材育成課兼務 1 名)の計 5 名(各 0.5 換算)により運営した。5 名のうち主務者は 3 名、2 名は他部署から兼務で運営した。理学療法士 1 名は、当センターワークホームに週 2 日の兼務となり、理学療法士は 1.0 名換算から 0.8 名換算の体制となった。

・外来患者の理学療法・作業療法・言語聴覚療法の年間集計は、取り扱い件数：理学療法が 808 件・1,599 単位・月平均 67.3 単位、作業療法 933 件・2,856 単位・月平均 238.0 単位、言語聴覚療法 853 件・1,700 単位・月平均 141.7 単位であった。(図 1・2)

・新規外来患者の依頼件数は、理学療法が 28 件、作業療法が 145 件、言語聴覚療法が 18 件であった。依頼された診療科の内訳(延べ)、内科 4 件、神経内科 10 件、整形外科 13 件、リハビリテーション科 147 件、脳神経外科 15 件、その他 2 件であった。(図 3) 依頼内容は多岐に亙るが、作業療法での自動車運転評価の依頼件数が最も多く(延べ)97 件、高次脳機能評価 30 件であり、両者の合計は作業療法依頼件数の 88%を占めていた。

・特に自動車運転評価は、外来リハ全体の依頼件数のうち約半数を占めていた。

(2) 通所リハビリテーション

当院の通所リハビリテーションは、1 クール 90 分とし 2 クール行った。送迎は行わず、ご本人若しくはご家族の送迎の通所をお願いした。高齢者や障害者の自動車運転により通所されることが多くから、自宅・当院の往復される間の安全面の問題がある反面、要介護者を抱える家族間での情報交換の場として有効活用されていた。

・通所リハビリテーション業務は、午後のみ実施した。人員は、リハビリテーション科医師 1 名・理学療法士 3 名・補助者 1 名の計 5 名体制により運営した。10 月より、こども理学療法科より 1 名の応援体制で実施した。

・「通所リハビリテーション費」の算定のみであったが、8 月より「リハビリテーションマネジメント加算Ⅰ」を取得・算定をおこなった。

・通所リハビリテーション利用者は 1 か月平均 47.5 名、利用回数は 1 か月平均 284.0 回であった。利

用者の内訳(平均)は、要支援 1：2.2 名・要支援 2：10.3 名・要介護 1：14.1 名・要介護 2：8.4 名・要介護 3：7.3 名・要介護 4：2.6 名・要介護 5：2.7 名であった。(図 4) 平成 30 年度新規利用者は 27 名、退所者は 14 名であった。

- ・利用件数は月平均 284 件、取得単位数は月平均 98,941 単位取得した。(図 5・6)
- ・通所リハビリテーション利用者の関係機関との連携のため、サービス担当者会議に参加した。(53 件)

(3) その他

在宅生活推進部・富山県リハビリテーション支援センターの一員として、各種研修会の講師派遣・企画運営を行った。

ア リハビリテーション家族教室

- ・脳卒中家族教室「退院に向けての環境整備と退院後のリハビリテーション」や、脊髄損傷家族教室「環境整備について」の講義を行った。

イ 富山県リハビリテーション支援センターにおける活動

- ・平成 30 年度福祉用具・住宅改修研修において講義を担当した。(基礎研修 1 講座各 2 回、福祉用具研修 3 講座)

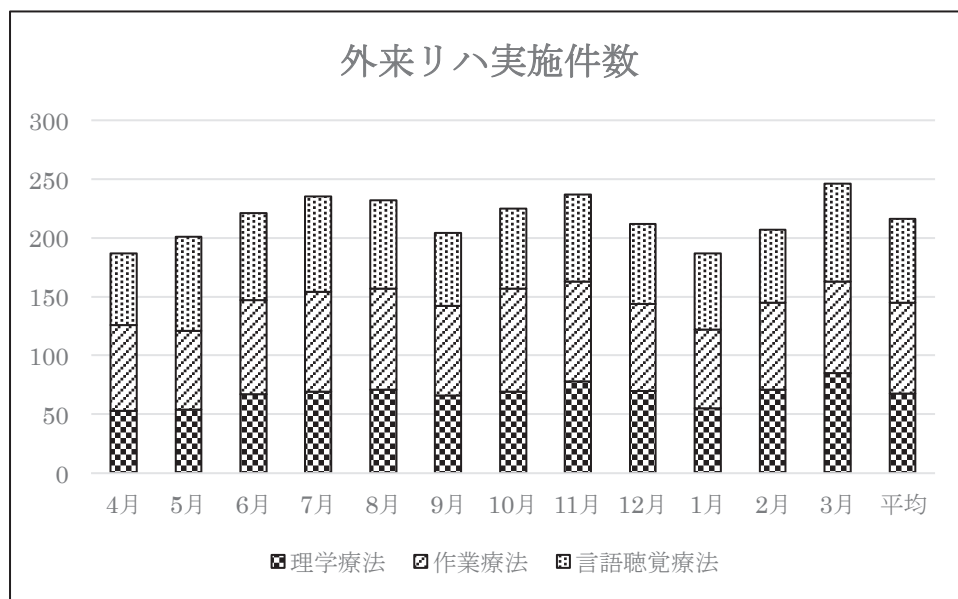


図 1：外来リハ 実施件数

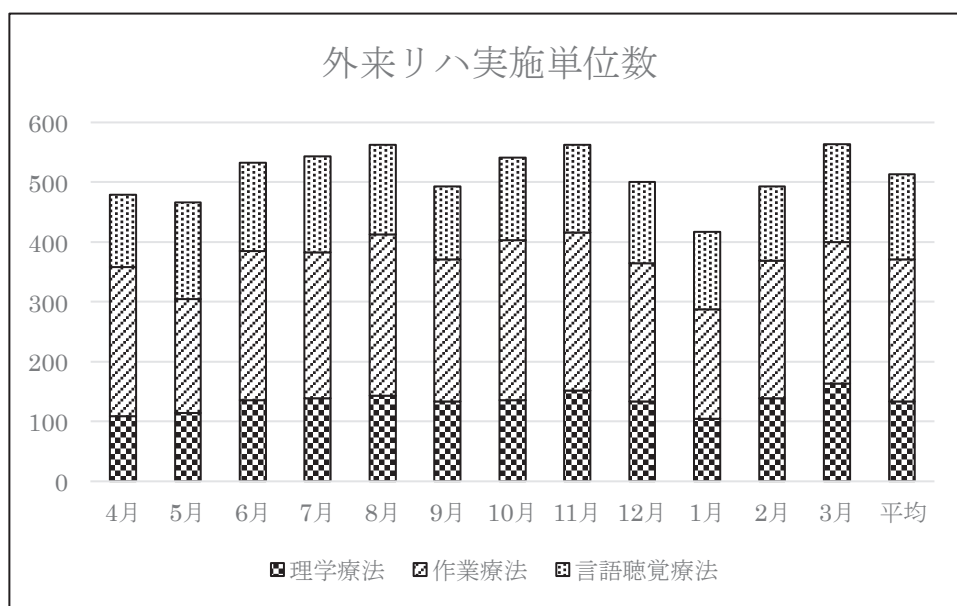


図 2：外来リハ 実施単位数

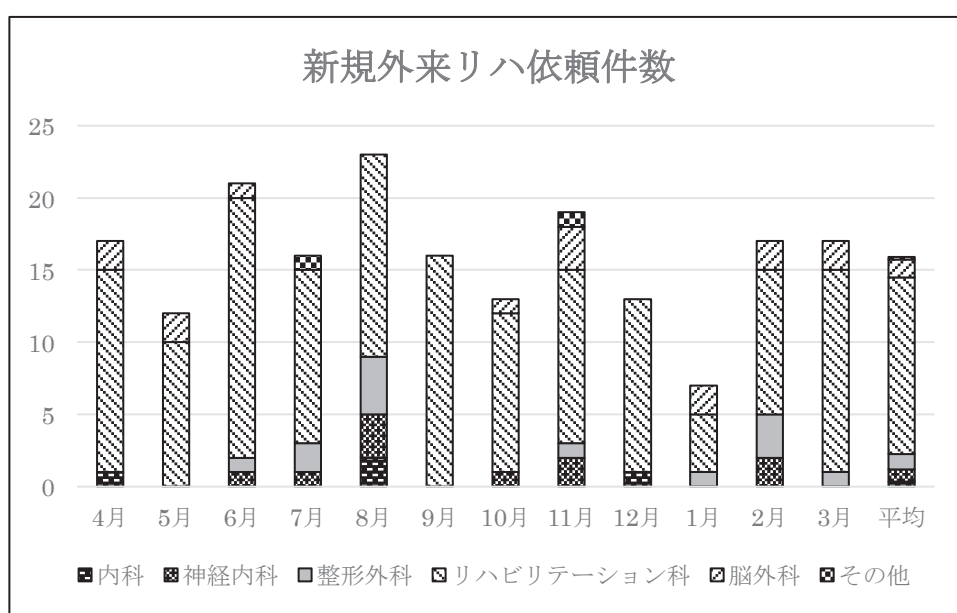


図 3：外来リハ 新規依頼件数

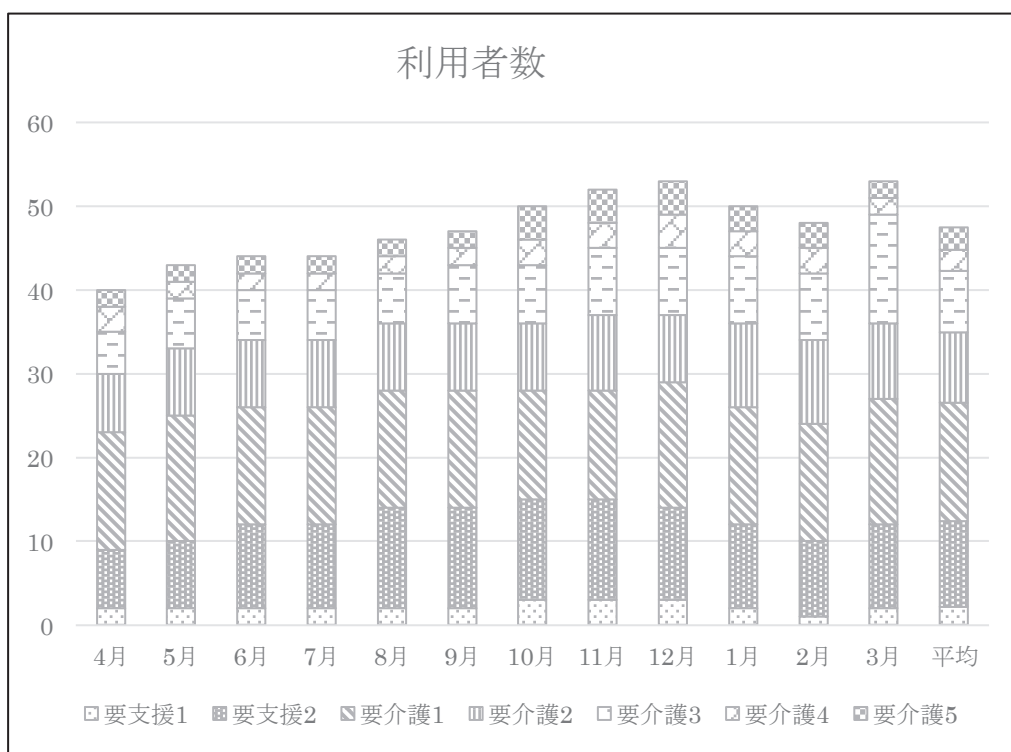


図 4：通所リハ 利用者数

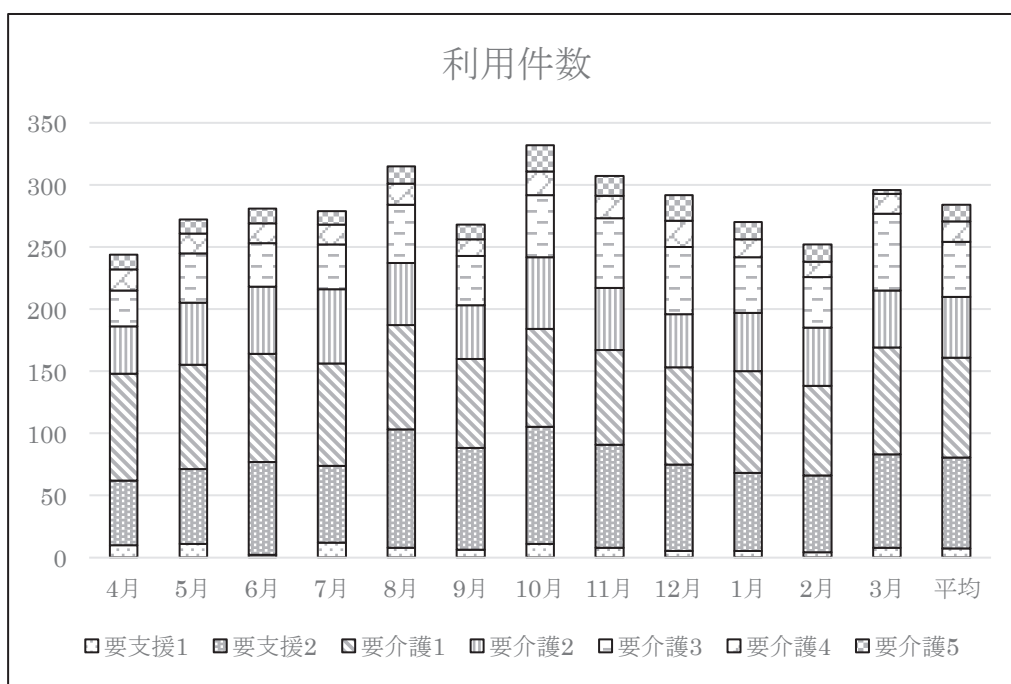


図 5：通所リハ 利用件数

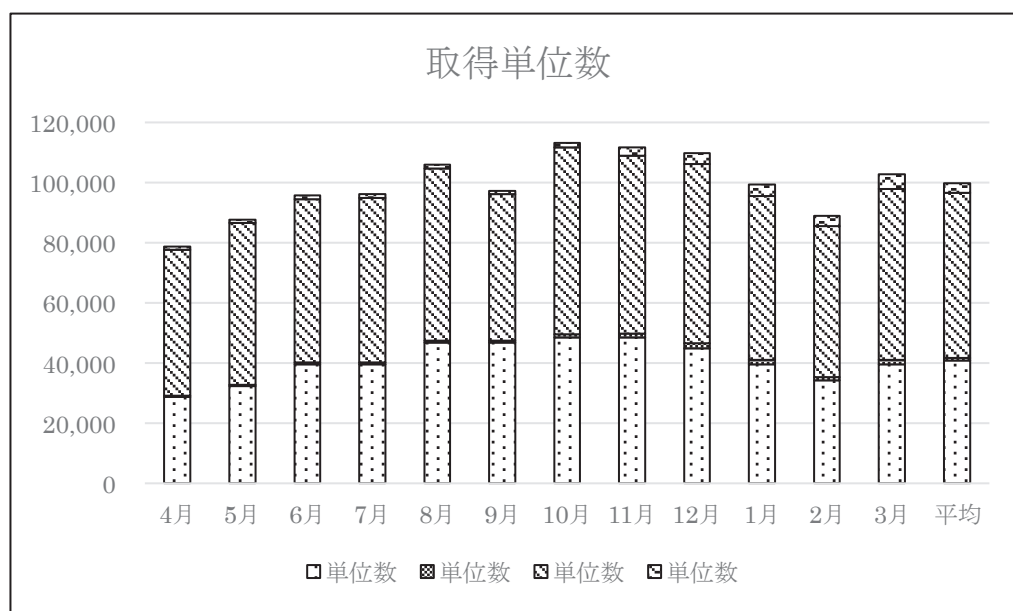


図 6：通所リハ 取得単位数

4 相談支援科

疾病や受傷を契機に、障害とともに生活することを余儀なくされた人であったとしても、障害によって社会生活上に不利を感じるようなことがあってはならない。物理的、精神的に不利を克服し『より人間らしく生きる』ことは、ごく自然な要求であり行為であると思われる。どのような時代、どのような社会情勢下にあったとしても、人としてあたりまえの生活を実現することが社会的リハビリテーションの目的であり、その実現に向けた取り組みを支援することがソーシャルワーカーの職務であるとする。

当院では、「福祉」の視点に立つ職種として、ソーシャルワーカーとしての専門性を生かし、患者の社会復帰を妨げる問題や障害を背負うことから派生するさまざまな問題を把握し、その解決に向けての支援にあたっている。

表 1 平成 30 年度の相談支援業務件数

項 目	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
初回面接 業務	174	191	173	195	191	153	225	167	206	162	171	148	2,156
経済的問題 に係る業務	80	149	323	21	24	28	28	32	27	300	313	336	1,661
介護保険法 に係る業務	236	125	34	282	319	303	324	353	315	56	36	35	2,418
障害者総合 支援法に係 る業務	76	36	1	65	33	47	85	38	38	3	7	2	431
転院・入所 に係る業務	46	37	38	88	101	73	88	101	87	52	32	29	772
ケア会議 業務	7	4	0	5	11	4	7	7	2	0	0	0	47
その他の 業務	235	92	196	219	250	220	380	268	304	170	168	132	2,634
合 計	854	634	765	875	929	828	1,137	966	979	743	727	682	10,119

<業務概要>

- ・ 初回面接（入院時評価）
- ・ 入院患者や家族の方への相談支援
- ・ 外来及び退院患者家族の方への相談支援
- ・ 退院患者会、ポストポリオ患者会に対する支援（事務局担当）
- ・ その他

(1) 業務内容

ア. 初回面接

主治医からの依頼にもとづき入院時において患者・家族との面接を実施する。その主訴を確認するとともに、生活、経済、職業、家族関係等患者をとりまく諸問題を整理する。また、初期カンファレンスの場においてリハビリテーションスタッフの共通認識をはかることを目的としている。

患者や家族の入院(転院)当初の不安は、想像以上に大きいものがある。面接場面でその不安を和らげるとともに、病院の機能やリハビリの目的を具体的に説明し、患者と家族が共通の目標をもってリハビリに励むことができるよう配慮している。

イ. 入院中の相談・支援

初期カンファレンスにおいて明確になった課題や問題点、さらには入院中、新たに派生した問題の解決に向け、病棟やリハビリ部門スタッフと連携をはかりながら、患者あるいは家族との相談面接、職場や関係機関との連絡・調整を実施している。特に本人あるいは家族からの相談依頼に対しては、速やかに対応できるようこころがけている。

退院に向けては、病棟をはじめリハビリ部門スタッフと協働し、退院調整業務にあたっている。居宅介護支援事業所ケアマネージャーや市町村障害福祉担当課との連携も重要と捉え、ケア会議の開催や地域ケア会議へ参加をより一層意識し業務にあたってきた。そのような関係作りが在宅福祉サービスの調整に関する業務に役立っている。

また、在宅での生活が困難な場合に際しては、日頃から介護保険関係施設や医療機関と連絡をはかる等、受入状況等を把握し、できる限り患者・家族の希望に沿った療養環境や生活の場が確保できるよう支援している。平成 30 年度はソーシャルワーカー13 人体制をとり、幅広い患者支援を展開してきた。

「退院支援計画書」をそれぞれ作成・交付し、入院患者の退院支援にあたっている。

ウ. 外来相談

外来通院中の患者やその家族と継続的面接を行いながら、福祉制度をはじめとした社会保障の相談や就労等に関する支援要請に応じている。その他、必要に応じて関係機関及び福祉制度に関する連絡調整をはかったり、受診等に関する単発的な相談依頼にも応じている。

エ. その他

- ・初期カンファレンス、定期カンファレンスへの出席
- ・脳卒中及び大腿骨連携パス関連会議への出席
- ・「リハビリテーション家族教室」「入院診療のプロセス」「福祉制度のいろいろ」を担当
- ・「富山県障害者雇用推進会議」出席
- ・「就労移行支援セミナー」出席
- ・「富山圏域就労支援ネットワーク会議」出席
- ・富山県福祉用具・住宅改修支援連絡協議会委員

(2) 退院患者『まんさく会』の育成・支援

『まんさく会』は、「障害の精神的、身体的苦痛を乗り越え、日常生活の自立を図り、心のバリアフリーによって安らかな日常生活と明るい人生の希望を取り戻し、お互いの連携を密にすると共に、社会復帰に寄与すること」を目的に昭和 60 年に発足した退院患者の会である。当科では会員の自主

的活動を第一とし、事務局担当として会の活動を支援している。

平成 30 年度の会員数は正会員 20 名、賛助会員 16 名であった。脳卒中リハビリテーション家族教室等において会の情報提供を行い、会員拡大に向けての試みを行っているものの、会員数は減少している。『まんさく会』の存在や活動を広報し、会員を増やしていく活動が今後の課題と言える。会の活動としては、会報「まんさく会だより」の発行、研修会やバーベキュー等の行事を行っている。昨年度より、院内ヒーリングギャラリーに会員および賛助会員の作品展示も行っている。いずれの活動も会員同士のコミュニケーションを目的とし、会の運営は理事会が中心である。

主な事業は、以下の通り。

- ・ 定期総会 平成 30 年 4 月 13 日 於：富山市 「呉羽ハイツ」
- ・ バーベキュー 平成 30 年 7 月 20 日 於：富山市 「天湖森」
- ・ 秋の研修会 平成 30 年 9 月 24 日～25 日（1泊2日） 於：新潟
- ・ 会報の発行 年 5 回

（３）患者会『ポストポリオネットワーク富山』の育成・支援

平成 23 年 11 月、富山県リハビリテーション支援センターが開催したポストポリオに関する講演会に参加した当事者や医療機関職員等による有志の会である。ポリオ後症候群に対する一般的理解や関心を得て、住み良い社会を形成していく為、診断や治療を受け易い環境を作っていく為、補装具や年金に関する問題に取り組んでいく為等、当事者ないし援助者がそれぞれの経験から感じた様々な課題に皆で取り組んでいくことを目指している。

平成 30 年度の活動は、以下の通り。

- ・ 総 会 平成 30 年 5 月 19 日 於：旧富山県高志リハビリテーション病院 2 階研修室
- ・ 役員会 平成 31 年 3 月 15 日 於：富山県リハビリテーション病院・こども支援センター
- ・ 会報の発行 年 1 回

（４）実習生の受け入れ

将来、保健医療機関においてソーシャルワーカーとして働きたいと考えている学生の受入れを行っている。

平成 30 年 6 月 29 日～平成 30 年 8 月 4 日（25 日間）

5 療育支援科

(1) 設立経緯

平成7年12月に発表された「障害者プラン」に基づいて、障害児（者）地域療育等支援事業が平成8年度4月に創設され、当センターにおいても平成9年度1月より、県の委託を受けてスタートした。その後、平成18年10月、障害者自立支援法施行に伴い、平成19年4月より「障害児等療育支援事業」と事業名を変更し、継続して相談支援の充実と関係機関との連携に努めている。

(2) 事業の目的

在宅の重症心身障害児（者）・知的障害児（者）・身体障害児・発達障害児等の地域における生活を支えるため、身近な地域で療育支援等が受けられる療育機能の充実を図ると共に、これらの療育機能を支援する圏域における療育機能との重層的な連携を図り、障害児の福祉の向上を図る。

当センターでは、障害をもつ人とその家族に、当センターが有している療育機能と人材を十分に活用し、相談体制の充実を図るよう取り組んでいる。また、地域のネットワークを活かしながら、各種福祉サービスの情報提供など社会資源の活用を図り、一人ひとりのライフステージに応じた生活が着実に営まれていくよう支援している。

(3) 業務実績

①療育等支援施設事業

ア．訪問療育等指導事業

・巡回相談（30回、138件）

保健所や厚生センターに出向き、医師、保育士、相談支援専門員が、発達に遅れのある子どもをもつ保護者に対して相談・助言を行った。また、カンファレンスを通して、保健師に対し、発達の見立てや保護者支援について相談・支援を行った

	訪問先	訪問回数	訪問職員
1	富山市保健所	年12回	医師
2	新川厚生センター	年3回	医師
3	新川厚生センター・魚津支所	年5回	医師
4	中部厚生センター	年3回	医師
5	砺波厚生センター	年3回	医師、相談支援専門員
6	立山町保健センター	年4回	医師

・在宅支援（1回、1件）

相談内容に応じ、作業療法士が自宅に出向き、相談・助言を行った。

イ．外来療育等指導事業

・個別（35件）

相談内容により、保育士、相談支援専門員が保護者に対し、複数で相談、助言を行った。

・集団①「かなりや教室 1.2」（各年 12 回、1 回/60 分）

集団での遊びの場を提供し、保育士、相談支援専門員が発達障害をもつ児童に対し発達援助を行うとともに、保護者の相談、助言を行った。また、保護者の交流・情報交換の場とし育児及び生活支援を行った。

・集団②「保護者サロン」【未就学：4 回】【学齢：5 回】【成人：1 回】（各 10:00～12:00）

自閉症スペクトラムや ADHD など、子どもの「発達のかたより」が気になっている保護者を対象に、保護者サロンを行った。発達障害に関する知識や身近な情報を共有しながら、保護者同士が情報交換できる場を提供した。

・集団①②計（32 回、57 件、224 名）

ウ．施設支援療育等指導事業

・保育所等訪問（22 回、91 件）

保育所・幼稚園・認定こども園等に、作業療法士、言語聴覚士、ソーシャルワーカー、保育士、相談支援専門員がペアで訪問し相談・支援を行った。近年、保育所・幼稚園での相談内容のほとんどが発達障害児及びその保護者への対応となっている。

②療育拠点施設事業

ア．施設支援専門指導事業

・担当者会議（6 回）

・研修会（2 回）

イ．在宅支援専門療育指導事業

・外来相談（35 回、36 件）

保育所・幼稚園・小学校・特別支援学校・保健センター等の関係機関職員に対し、医師・理学療法士・言語聴覚士・心理士・ソーシャルワーカー・保育士・相談支援専門員が複数で、あるいは相談支援専門員が単独で、保護者に対し相談・支援を行った。

・訪問相談（16 回、101 件）

処遇困難事例に対し、相談支援専門員が相談・支援を行った。

・電話相談（326 件）

関係機関及び保護者に対し、医師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、保育士、相談支援専門員が電話による相談・支援を行った。

第 1 1 節 テクノエイド人材育成部

1 研究企画課

(1) 運営概要

研究企画課の活動は技術支援、研究開発および広報普及活動の三つで構成される。技術支援とは工学や工業技術を活用し患者、介護者、家族ならびに院内外の関係業務等を支援することである。この技術支援を継続、改善、発展させるため新たな方法、用具、機器が必要とされそのため調査、研究、開発を継続的に実施している。またこれら活動の成果が広く社会に活用されるよう広報活動にも努めている。

(2) 業務実績

ア 技術支援

①車いす

より安全で活動的な入院生活のため、使う人の体格に合った車いすの提供が基本になる。このため当院では高床、中床、低床、超低床の四種類の寸法の車いすを用意している。さらに小児向けに 4 種類、大きな患者向けには 160kg、130kg、100kg 対応の大型の車いすをそろえ、他の病院施設にはみられないより細やかな対応で患者の能力が十分発揮できる環境づくりに努めている。

また麻痺など身体の状態に合わせ車いすの変更や手直しのほか、フットサポートを外して足駆動や移乗が安全に容易にできるようにもしている。また手術した脚のみ上げる特殊な部品を装着し手術していない脚は自由に使えるような車いすを提供している。このように既製品のままでは十分活動しにくい人も可能な限りベッドから離れられるように技術的方面から支援に努めている。

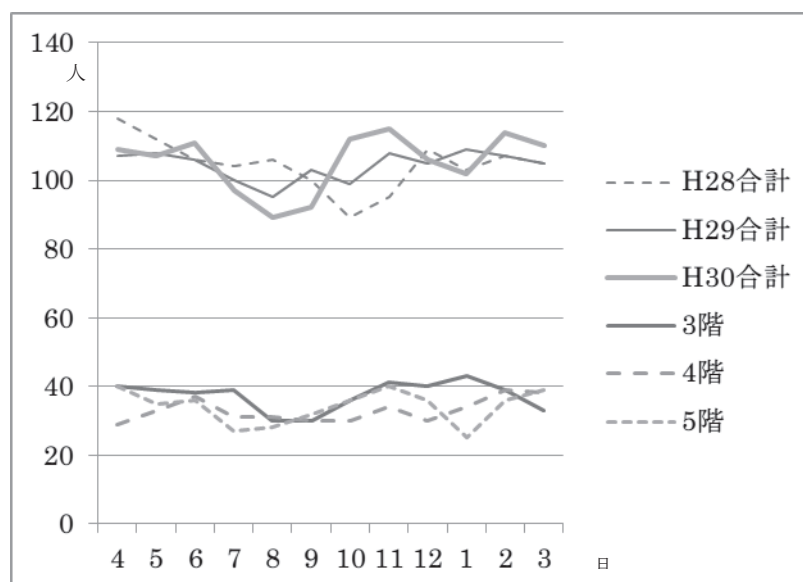


図 1 車いす利用者人数の月別病棟別変化

これらの車いすを毎月定期的に点検し事故防止と安全確保に努めている。平成 30 年度は延べ 834 台（前年 723 台）の車いすを患者に提供し数多くの個人適合のための改修と相談を実施した。

② 離床センサ

入院生活において一部の患者は様々な理由で危険な行動を示す。認知症者が増加しこのような事例も多くなる。当院ではより活発な自立生活を目的とするが、このためには安全と活動性を両立するための様々な対策が必要とされる。そのひとつが離床センサである。これは患者の危険行動前兆を検知し自動的にナースコールを作動させ看護スタッフに通報するシステムである。対象となる目の離せない患者から目を離しスタッフが業務に集中できる効果もある。この目的のため市販の離床センサを各種取り揃えるほかに、数種類のセンサを自主開発し使用している。平成30年度は延べ128人（前年138人）の患者に対して離床センサを使用した。

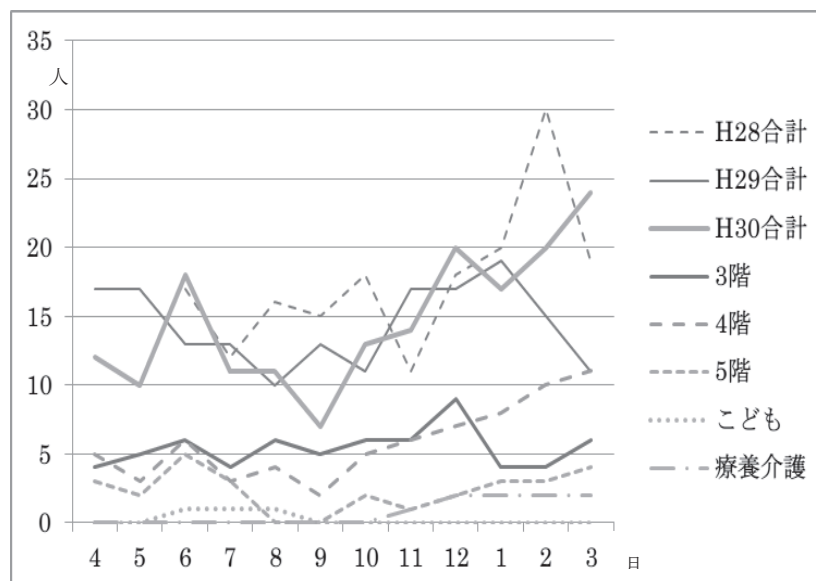


図2 離床センサ利用者人数の月別変化

③ 特殊ナースコール

入院患者が看護師を呼ぶときにナースコールを使用する。しかし手が不自由で通常のボタンが押せない場合には特殊なナースコールスイッチを提供し不便の軽減に努めている。麻痺が重度の場合は息、やや軽い場合は頭の動き、さらに軽い場合は肘や肩や足の動きを利用したスイッチを使用する。平成30年度は述べ10件（前年10件）の事例があった。

このように入院中に様々な福祉機器を試すことを通じて、退院後の生活に向けて自信が持てる間違いの少ない福祉機器選びができるようになる。これは福祉機器普及活動と考え取り組んでいる。

呼び出しコールと並んで病室のテレビ操作の自立も要望が多い。ナースコールスイッチと同様に病室での試用、家庭向け貸し出しなども実施した。

イ．研究開発

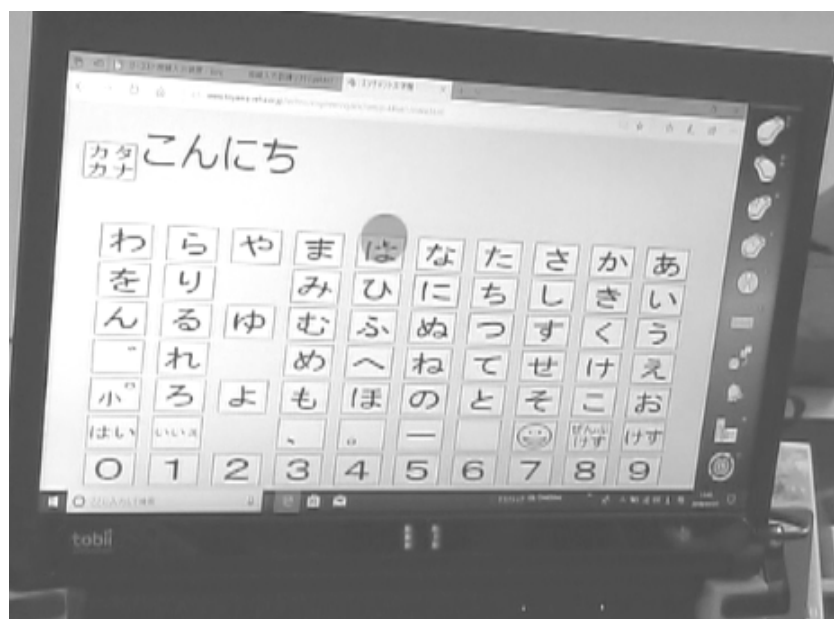


図2 視線入力でエンチャント文字盤を操作

動画はこちらで閲覧できます

<https://www.youtube.com/watch?v=uSI4GbNi4gU&feature=youtu.be>

スマホ、タブレット、パソコンなどのインターネットに接続した情報機器をコミュニケーション支援のツールとして利用する方法について研究を進めた。近年注目を集める視線や顔の向きで操作するマウスを利用した入力について検討を行った。

その結果、視線入力はある程度以上に随意性、巧緻性、耐疲労性があれば十分実用的であることがわかった。ただし視線を継続して停止させる際にはある種の努力が必要でそのため特有の疲労感がある。このための練習や訓練そして適切な休憩の取り方に工夫が必要ながわかった。取り組み際には指導者がこの特性を理解したうえで工夫する必要がある。

また視線入力では眼球以外の顔などが動くと精度が低下して使いにくくなる傾向がある。そしてある程度以上顔が動くとまるで使えなくなる。反対に眼球以外の動きがきわめて少ない場合には安定した使用ができるようになることもわかった。

随意的に顔が動かせる場合には、顔認識マウスが扱いやすく、よそ見も自由にできるので疲労感も少なく、費用も少なくてすむことが多い。

このように道具や方法の特性や傾向を把握し、その上で実際に体験し、理解した上で使用する人に合ったものを選ぶことが重要でその方法についてホームページで説明している。

ウ．広報普及活動など

活動や成果は、学会発表や講義、講演等で紹介した。このほかホームページでの広報活動にも取り組んでいる。ホームページでは、車いすの整備点検、手指が不自由な方むけ特殊ナースコールの低コストでの作り方と使い方、徘徊を検知する月ヶ瀬離床センサの作り方と使い方、コミュニケーションエイドの使い方、作り方等これまでの活動成果を紹介している。

今年度の閲覧状況調査の結果、週に 500 人程度が閲覧していることがわかった。

今後も次世代の担い手のために、より高度な技術、技能についての広報普及活動を進めていく。
研究企画課のホームページの URL は以下の通り。

<http://www.toyama-reha.or.jp/techno/engineering/>

2 人材育成課

(1) 運営概要

人材育成課は、新病院開院に合わせて開設され、院内の人材育成システムの早期の構築を目指して稼働してきた。課員は全て他部署との兼務で、看護局、リハビリテーション療法部、薬剤部、こども発達支援部、経営管理課、栄養管理科、臨床検査科、放射線技術科、相談支援科からの9名構成である。今年度3名が交代したため、人材育成への考え方やこの間の議論の経過、研修の企画運営についての情報共有のため、引き続き週1回（水曜日、1時間）人材育成課会議を開き、課内の意見集約をした。

当課の基本方針は「人材育成課は、職員が当院の職員行動規範を徹底し、その理念の実現に向け、当院の基本方針に基づき、それぞれの職務レベルの向上のため、各部署の調整をはかり、病院として統一的教育、研修の取り組みを進める。」として業務にあたってきた。

人材育成基本方針（平成29年3月制定）に基づき、院内の研修の統一的な企画・開催に努めてきたが、未だに、各部署・委員会が個別に研修を開催している感が否めず、まだ十分に調整がはかれたとは言えない面が残っている。

(2) 業務実績

開院以来、当課に課された課題は次の5点であった。

- ①院内の人材育成システムの構築と見直し
- ②院内研修の見直し、整備
- ③院内学術集会の企画、開催
- ④研修委員会の開催、運営
- ⑤院外への発信

これらの課題に対処するため、人材育成基本方針に基づく各論（研修計画）の具体化と見直しを進めた。

病院機能評価の受審に合わせて整備した、研修の年間計画（平成30年8月更新）に基づき、院内研修の企画、集約、周知、開催をした。昨年度見直した研修分類〔S分類：医療安全研修、感染対策研修、その他特に指定するもの、A分類：全職員に参加を求める（多部門、多職種）の研修や業務にかかわる組織研修など、B分類：各部局や委員会による主催で、任意参加の研修、C分類：各部局内の研修、D分類：任意のグループによる研修〕に基づき、院内研修予定表を随時更新した。

職員専用WEBページ（平成30年1月開設）での院内研修動画配信システムの運用の充実をはかった。これによって、研修会へ参加できなかった職員への研修参加保障を行った。S・A分類の研修のみの配信を見直し、今年度はB分類以上の研修をできるだけ対象とすることとし、院外講師については院内職員のみへの公開の同意を得て、27件の研修動画を配信した（昨年度6件）。また、院内研修動画配信システムにおいて職員に研修番号を付与し、主要な研修への参加管理の徹底を行い、関係委員会などへフィードバックした。

職員専用WEBページでの視聴による受講者は、今年度末に開設以来の累計で1000名を超えた（表1）。

組織研修としては、新任職員研修Ⅰ（4月）・Ⅱ（10月）、新任主任研修（11月）、3年目研修（1月）を昨年度同様実施した（表2）。新任職員については、各所属部署内での研修計画の集約も行った。

今年度から新たに新任副科長研修（１２月）を開始した。新任職員研修（Ⅱ）、新任主任研修、３年目研修については、勤務体制の保障のため同一内容で２回開催対応をした（表３）。まだ未開始の年代別研修については、開催時期と内容の検討を行った。

新病院開設後、人材育成課の支援で実行委員会（第３回実行委員長：槌谷班長）による企画となった院内学術集会を、９月２９日に開催した（第３回院内学術集会、高志リハビリテーション病院から通算第１２回）。一般演題１６題、アイデア作品１６題で、参加者１４１名（昨年度１２９名）であった。今後、更に参加者を増やし、院外への発信を進めていくことが、研修委員会で総括された。

院外発表を院内にフィードバックすること、発表への意欲や若手職員への動機づけを目的に開始した学会発表などの研究成果の院内掲示は２３件（昨年度３５件）であった。院内掲示について、個人情報の保護や倫理的な観点からのチェック体制や手順の見直しを行った（第２回研修委員会）ことや、受付の空白期間もあり件数が減った。

研修委員会は、定例で年４回、５月３０日、８月３１日、１１月３０日、２月２２日に開催した。

（表１）平成30年度院内研修動画配信実績

20190415現在

研修名	開催日	受講者数	配信開始日	配信終了日	視聴者数	確定受講者数	暫定視聴者数
理事長講話(30新任研修)	4/2	51	4/6	6/30	—	—	—
FIM①2018	5/18	44	5/18	8/31	16	60	
FIM②2018	5/22	55	5/22	8/31	8	63	
排尿自立指導	5/31	54	6/4	8/31	2	56	
糖尿病管理①	6/5	85	6/7	9/5	2	87	
NST「リハ栄養」	6/14	42	6/22	9/17	2	44	
嚥下障害看護研修Ⅰ	6/20	31	6/22	9/23	0	31	
30年度第1回院内感染対策	6/25	249	6/26	9/30	58	307	
小児救急	6/26	76	6/26	9/30	1	77	
30年度第1回医療安全	7/3	228	7/4	10/7	177	405	
嚥下障害看護研修Ⅱ	7/18	25	7/19	10/21	4	29	
30年度第1回認知症ケア	7/26	62	7/27	10/28	2	64	
褥瘡対策	8/27	85	8/28	12/2	7	92	
骨折予防対策	10/1	52	10/2	1/6	4	56	
30年度第2回認知症ケア	10/11	40	10/15	1/20	13	53	
30年度第2回院内感染対策	11/2	248	11/3	2/3	105	353	
糖尿病管理②	11/7	46	11/8	2/11	8	54	
情報セキュリティ	11/13	214	11/14	2/17	181	395	
接遇	12/11	169	12/12	3/17	26	195	
個人情報保護30	1/15	194	1/16	4/21			106
パワーハラスメント対策	2/5	134	2/6	5/12			20
30年度第2回医療安全	2/7	194	2/8	5/19			118
30年度第3回認知症ケア	2/20	45	2/21	5/26			8
災害時のリハ医療職の役割	3/6	82	3/7	6/9			1
臨床倫理(臨床研究について)	3/11	100	3/12	6/16			6
褥瘡対策②	3/15	50	3/18	6/23			6
30年度第3回院内感染対策	3/25	161	3/25	6/30			21
累計		2816			616	2421	286

平成30年3月26日

- | | |
|--------|---|
| 1. 目的 | 富山県社会福祉総合センターの職員として、職務上必要な基本的な知識を習得し、職場への適応性と職員としての自覚を高める。 |
| 2. 目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1) 社会福祉総合センターの使命、役割が理解できる。 2) 社会福祉総合センターの各施設、特に富山県リハビリテーション病院・子ども支援センターの役割や特色が理解できる。 3) 社会人として責任のある行動をし、患者に安全な医療・福祉・看護・介護を提供することができる。 4) リハビリテーションチームの一員としての役割を自覚し、チーム医療の推進ができる。 |
| 3. 対象者 | <p>平成30年度社会福祉総合センターの採用職員
49名 (PT7、OT8、ST1、Ns25、SW1、保育士2、CE1、事務3、Dr1)</p> <p>平成29年度社会福祉総合センターの年度途中採用職員
2名 (Dr1、SW1)</p> |
| 4. 場所 | 多目的ホール(子ども支援センター 4/2、4/4AED、4/13、4/20)、研修室1(旧病院2階 4/3、4/4) |
| 5. 日程 | 4月2日(水)～4月4日(水)、 4月13日(金)、4月20日(金) |

計 51名
(3/7現在)

	8:30	8:45	9:00		10:00	10:30	10:30		11:10	11:45		12:00		13:00	13:30	13:35		14:35		14:45		15:45	15:50		17:00	17:15
4 月 2 日 （ 月 ）	連絡 等	辞令交付 幹部職員紹介		事務連絡 終了後多目的 ホールへ移動	当法人の 役割と 将来像		当院の 目指すところ	当法人の現状と 職員のご心遣い	昼 食	当院の 組織	臨床倫理、患者の権利		休 憩	診療報酬について		事務局 ガイダンス										
		経営管理課		人財育成課	理事長	院長	専務理事	西村次長		看護局長	医事課	経営管理課・管財課														
		地域リハビリホール		こども支援センター 多目的ホール		こども支援センター 多目的ホール		こども支援センター 多目的ホール																		
編成	地域リハビリホール		こども支援センター 多目的ホール		こども支援センター 多目的ホール		こども支援センター 多目的ホール																			

	8:30	8:45	9:20	9:20	10:20	10:30	11:20	11:20	12:00	13:00	13:40	13:45	14:45	14:55	15:30	15:30	16:00	16:05	17:15
4月3日 （火）	連絡等	接遇	当院のリハビリテーション 成人と子ども		休憩	テクノエイド、 先端リハについて	通所・外来 リハ	星 食	在宅生活指導 退院支援	こども発達支援について (父・阿土達朗、母・笠原千穂)	高次脳機能障害者 支援	訪問看護 訪問リハ						集合	センター内見学
	秋道トリーナー	リハビリテーション療法部				テクノエイド・人材育成部 大島課長、小畑課長	外来・通所リハ科 西条・通所リハ科		地域生活指導推進 中市市長	心身障害児会 婦形部長、郷川部長 田中課長、黒田課長	相談支援科 山本科長	訪看ステ 南所長							人材育成課 2班
場所	広瀬 田中	大野部長、高峰副部長			旧病院 研修室1								旧病院 研修室1						

	8:30	8:45	10:00	10:10		12:00	13:00	14:00	15:00	15:10	15:45	15:55	17:15	
4月4日 (水)	連絡等	電子カルテと個人情報保護 インテック、人材育成課 山田氏、荒木課長	休憩	医療・福祉安全について (虐待対応、暴言暴力行為を含む)		昼食	標準予防対策 手洗研修など		感染対策実技		休憩	各病棟の特徴	移動	AED研修 (新任職員のみ)
				医療安全推進室 岩井副科長			感染対策チーム		看護局					
							吉岡主幹		浦野副部長					
場所	旧病院 研修室1					旧病院 研修室1				金目のホール				

4月13日(金)	14:00	14:45	14:55	15:30	15:40	16:25	16:25	17:15
会場	排尿自立チームの取り組み	認知症ケアチームの取り組み	休憩	指導対策チームの取り組み	業績評価について			
	排尿自立チーム 吉岡主幹	認知症ケアチーム 荒木看護師		指導対策チーム 桃井看護師	企画評価課 京部次長			
場所	こども支援センター 多目的ホール							

4	14:00	14:45	14:45	15:30	15:40	16:25	16:25	17:15
月	糖尿病管理 チームの取り組み		癌下管理チーム		休憩	口腔ケアについて		NST活動
2	糖尿病連携予防 助産チーム		癌下管理チーム			口腔ケア対策チーム	栄養サポートチーム	
日	白田副院長		原田部長、蓮生看護師			小倉医長	特別科長、看護副科長	
（金）	こども支援センター 多目的ホール							
場所								

(表3) 平成30年度組織研修の概要

研修	開催日	対象者	参加者	講義	担当者
新任職員(Ⅱ)	10/10	48	27	ストレスとの付き合い方	大村主任、水和主任(心理療法科)
				より良いコミュニケーションのとり方	荒木人材育成課長
	10/15		21	同上	
3年目研修	1/10	31	14	プレゼンテーション研修 説明力を高めよう	荒木人材育成課長
	1/11		13	同上	
新任主任	11/8	26	10	目標管理について	中川看護局長
				組織の中での役割、後輩指導	荒木人材育成課長
	11/12		13	同上	
新任副科長	12/5	17	15	職場のメンタルヘルス 所属内の若い職員のメンタルについて	大村主任(心理療法科)
				副科長の役割と働きやすい職場形成	荒木人材育成課長

3 先端リハビリテーション課

(1) 運営概要

先端リハビリテーション課は、新病院開院時に新設された。開院にあわせ、トヨタ歩行練習アシスト、HAL 自立支援用下肢タイプ、自動車運転シミュレーター、デジタルミラーなど、新しいリハビリテーション機器が導入された。成人療法課の理学療法科と作業療法科内に、「ウェルウォーク」「ロボットスーツ HAL」「三次元動作解析」「上肢機能」「自動車運転シミュレーション」のチームを作り、臨床と研究にあたった。

(2) 業務実績

①ウェルウォーク

「歩行練習アシスト」に一部改良が加えられた「ウェルウォーク」が、平成 29 年 11 月に導入された。「ウェルウォーク」は、麻痺側下肢に装着したロボット脚部が、麻痺側の膝を曲げることで脚の振り出しを楽にし、膝を伸ばすことで膝折れを防ぐことで、重度の片麻痺患者のトレッドミル歩行練習を可能にする。患者の能力に合ったアシスト量とトレッドミル速度を設定することで、安全に集中的な課題練習が行える。藤田保健衛生大学での研修を受講した理学療法士 2 名が操作練習を指導し、平成 30 年 2 月から入院患者での歩行トレーニングを開始した。H30 年度は、48 名の患者に対し、468 回のトレーニングを実施した。

②ロボットスーツ HAL

「HAL」は、下肢に貼った電極から検出した生体電気信号に基づいて、左右の股・膝関節を個別に制御し、装着者の意図に従った運動をアシストする装着型の外骨格タイプのロボットである。脳卒中、不全脊髄損傷など下肢の麻痺による歩行障害のある患者が装着することで、より正常に近い歩行トレーニングが可能になる。当院では、平成 27 年 12 月に M サイズと S サイズの 2 台の HAL 自立支援用両脚タイプが導入された。平成 30 年度は、23 名の患者に対し、延べ 76 回のトレーニングを実施した。また、理学療法科内で新規採用者等に習熟練習を行った。

③三次元動作解析装置

三次元動作解析装置は、身体に貼付した反射マーカークの位置をカメラが追跡し、関節角度の変化など運動学データを計測する。床反力計で計測した力学的データと統合することで、経時的に定量的な歩行のデータを記録する。三次元動作解析は、膨大な量のデータを生じるので、歩行の代表的パラメータ（関節の最大・最小角度や遊脚時間、推進力など）の介入前後を比較することで、評価されてきた。また、脳性麻痺児での正常歩行からの逸脱の規模を示すいくつかの包括的指数が報告され、成人でもそれらの指数の妥当性が報告されている。リハビリテーションの効果判定のほかに、最適な歩行リハビリテーションを選択するための根拠として使えるように、院内での歩行解析の標準化とデータの蓄積が重要と考える。

第 1 2 節 看護局

1 運営概要及び運営実績

看護局では、病院の設置目的や理念に基づき看護局の理念を、「患者さんの機能維持・回復をめざし、チーム医療の実践と思いやりのある看護を提供します」としている。この病院の特徴である「チーム医療」において、看護師の役割を果たし、常に患者中心の看護を実践することを共通理解し、看護活動を実践した。

<平成 30 年度 目標管理>

(1) 質の高い看護の提供

- ・ 目標管理の実施 部署の目標管理の実施と個人の目標管理の支援体制を図る。
- ・ 入院前患者訪問 脳卒中リハビリテーション看護認定看護師、回復期リハビリテーション看護師として認定された看護師が、県内 7 施設に訪問し訪問件数は年間 843 件であった。患者や職員からの評価は高い。また、退院後訪問を 12 件実施し、その半数を訪問看護ステーションに繋いでいる。
- ・ 医療事故防止 平成 30 年度のアクシデント・インシデントレポートは 628 件（前年度 672 件）であった。薬剤に関する事象が 119 件（前年度 134 件）、転倒 27 件（前年度 18 件）であった。電子カルテとなり実施を確実に行ったことや指差し確認が定着してきたことで減少してきている。しかし、転倒に関しては 27 件（前年度 18 件）と増加した。85 歳以上の見守り強化患者・認知・高次脳機能障害患者の増加と共に転倒件数が増えた。カンファレンスを早期に開催し検討を行った。
- ・ 感染防止 インフルエンザやノロウィルスの発症については、感染管理認定看護師と ICT が中心となり予防対策を実施することができた。
- ・ 委員会活動の支援 各委員会の活動が計画通りに達成できた。
- ・ PNS（パートナーシップ・ナーシング・システム）の支援 PNS は、効率よく患者・家族に質の高い看護サービスを提供するという看護管理の目的を達成するために、2 人でペアとなり看護実践を行う看護提供方式である。全病棟において定着し、ワーキンググループの活動により内容の充実を図った。

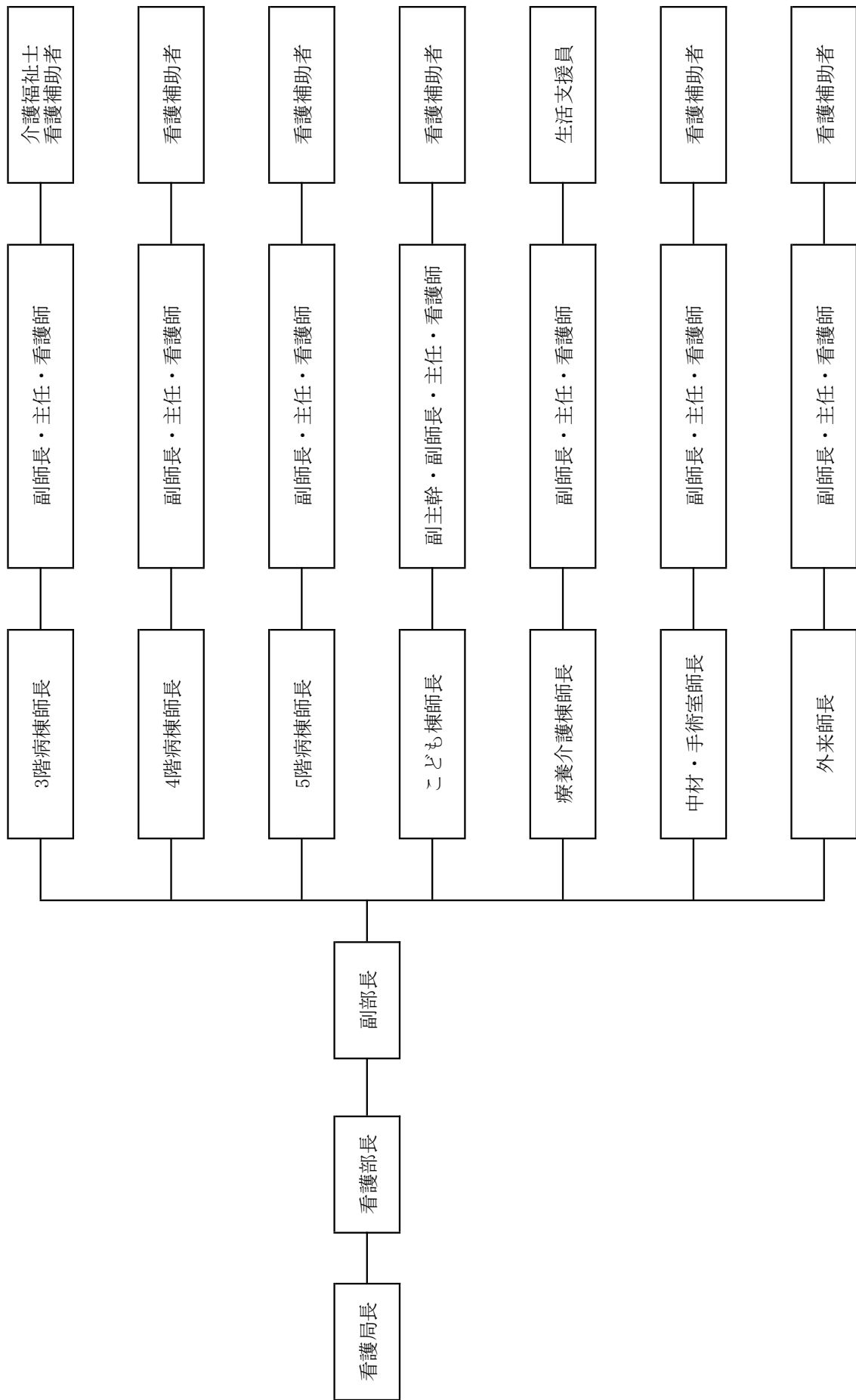
(2) 看護職員の育成

- ・ クリニカルラダー認定の支援 看護実践能力向上に向けてレベルⅠは 14 名、レベルⅡは 9 名、レベルⅢは 4 名、レベルⅣは 2 名を認定した。
- ・ 認定看護師育成支援 日本看護協会の認定する認定看護師として、感染管理認定看護師、脳卒中リハビリテーション看護認定看護師、摂食・嚥下障害看護認定看護師、認知症看護認定看護師の 4 名と認定看護管理者 1 名が取得している。さらに回復期リハビリテーション協議会が認定する「回復期リハビリテーション看護師」には 7 名が認定されている。
- ・ 新任看護師の支援 新任看護師の教育計画に沿って支援し、各部署において、新人を育てる風土ができた。ポートフォリオの活用が工夫され、メンタル面の対応にも役立っている。
- ・ 骨折予防対策チーム 骨折予防対策チームを立ち上げ活動を開始した。定期的に勉強会を行った。電子カルテでスクリーニングを行い、骨粗鬆症の治療も開始した。

(3) 働きやすい職場づくり

- ・看護師の確保、定着促進 看護師の募集案内を作成しガイダンスに参加した。当院に関心を寄せる学生が年々増加しており、新卒看護師のニーズに沿った病院紹介を展開した。また、ワーク・ライフ・バランスの取組み（4年目）を行い、5～7日以上連続した休暇を全員が取得したことや、看護師の要望を取り入れた夜勤体制、看護局長と語る会を開催し意見・要望を言える場となっている。

表1 組織 (平成30年度)



(2) 看護局の機能

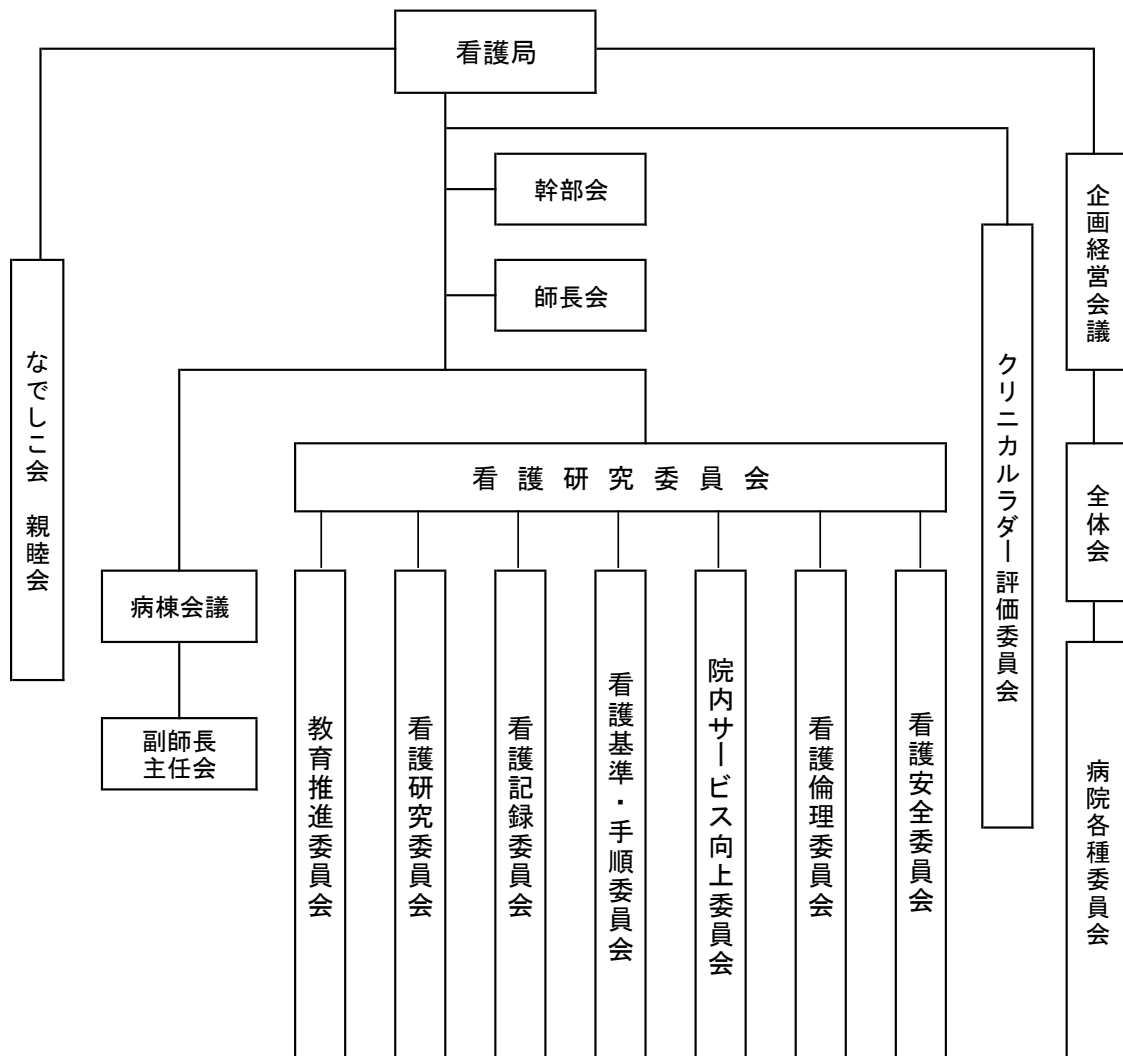


表 3 看護局の会議

名称	ねらい及び活動内容	構成員
師長会 月 2 回開催 第 2、4 木曜日	・ 看護部門の管理運営に関する検討 ・ 各部署からの提案、課題に対する検討 ・ 看護研究委員会からの提案、課題に対する検討 ・ なでしこ会への支援	看護局長 看護部長 副部長 主幹 上席師長 師長・所長
看護研究委員会 合同委員会 年 3 回開催	・ 5 月 年度計画の検討 ・ 10 月 中間発表 委員会活動の進捗状況の確認 下半期の活動計画の支援 ・ 3 月 活動報告	看護局長 看護部長 副部長 師長・所長 委員長・委員
副師長会 月 1 回開催 自主的に開催	・ 各部署での師長補佐としての役割についての検討 ・ 自己啓発	副師長
主任会 月 1 回開催 自主的に開催	・ 自己啓発	主任
なでしこ会理事会 定例会 月 1 回開催	・ 看護部職員の親睦をはかる ・ 自己啓発	役員は総会で選出 会長他 9 名

表4 教育の概要

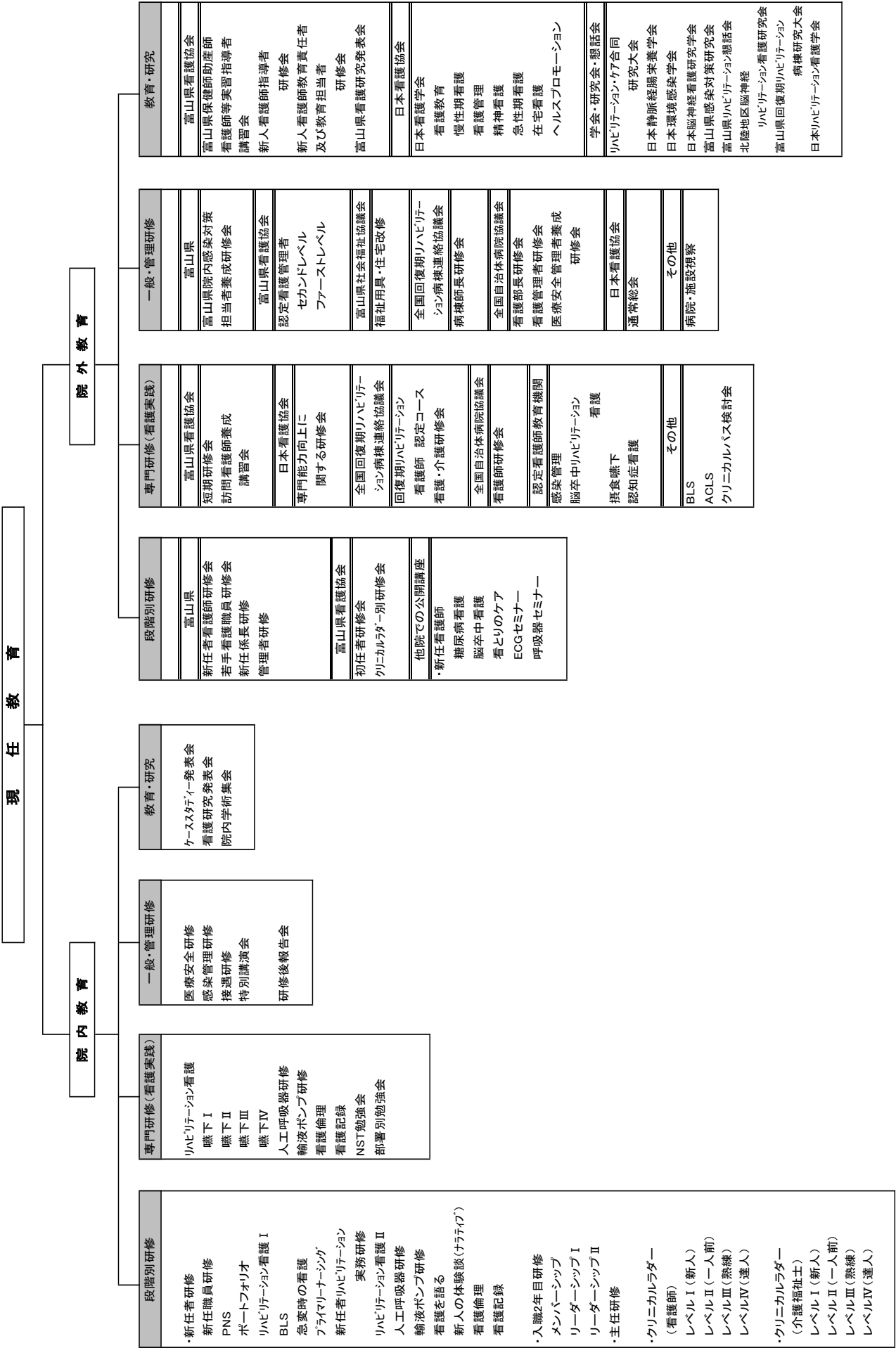


表5 看護研究委員会活動

委員会名		活動目標及び活動内容	委員	担当師長
特別委員会	クリニカルラダー委員会	【活動目標】 1. クリニカルラダーを使い、臨床実践能力と情意領域を評価することで自律したリハビリテーション看護師を育成する。 【活動内容】 1. キャリア開発ラダーの推進と実施 2. キャリア開発ラダーの評価	中川 広瀬 南 浦野 高野 岩井 吉岡 河浦 河原 中市	高木
看護研究委員会	教育推進委員会	【活動目標】 1. 新任看護師が自主性を持ち、能力を十分発揮でき看護観を確立することができる。 2. 2～7年目看護師・介護福祉士がチームメンバーとして必要な知識技術を修得し、チーム医療を実践できる。 3. 看護の専門性を高めるため、クリニカルラダーにそって看護実践能力を養い、資質の向上を図る。 4. 専門性の高い看護を習得し看護師としてのスキルアップができる。 5. 新任・転任介護福祉士が自主性を持ち、能力を十分発揮して、協働することができる。 6. 主任・副師長看護師がリハビリテーション病院の主軸となり、リハマインドを高め、看護の質向上に努めることができる。 7. 看護補助者がチームの一員としての役割を理解し、必要な知識・技術を習得できる。 【活動内容】 1. 新任看護職員研修 2. 新任者教育担当者研修 3. 入職2～7年目研修 4. 継続教育 (1) 集合研修 (2) こども棟研修 (3) 研修後報告 5. 副師長・主任研修 6. 看護補助者研修	岩本 松本 神谷 水上静 村上 安達 浦田 菊 濱屋	河浦
	看護記録委員会	【活動目標】 1. 看護記録をマニュアルに沿って正確に記載できる。 2. NANDA-I 看護診断と NOC、NIC を用いて看護過程の展開と看護実践が記録できる。	星子 水落 森岡 織田	吉岡 岩井

看護 研究 委員 会	看護記録 委員会	3. 看護必要度評価の精度を高め、実践できる。 【活動内容】 1. 看護記録マニュアルの改訂と記録監査の実施 2. NANDA-I 看護診断、NOC、NIC を用いた看護記録の研修 3. 重症度・医療・看護必要度研修	加野 中川 森江 館 細川	
	看護基準 手順委員 会	【活動目標】 1. 看護基準・手順の作成・修正を行い、スタッフが活用できるようにする。 2. 読もう月間の開催により、看護基準・手順の活用の啓蒙を図る。 3. タイムスタディを分析し、効率の良い看護を行う。 【活動内容】 1. 看護基準・手順の作成。 2. 看護基準・手順の周知徹底のための「読もう月間」の実施	堀内 岡本 三箇 宮田 水上灯	吉岡 河原
	院内サー ビス向上 委員会	【活動目標】 1. 介護に対する最新の知識・技術を提供し、家族・地域住民への指導の充実を図る。 2. 院内行事を通して、職員間の連携を高め、患者・家族への活力、心の癒し、楽しみを提供する。 3. オムツ供給システム導入、腰痛予防の研修を行い、職員の知識・技術の向上を図り業務改善に繋げる。 【活動内容】 1. 家族教室・介護教室について 2. 院内行事に関すること 3. オムツ供給システムについて 4. 腰痛予防について 5. 介護用具について	堀田 奥野 滝下 岩井美澤 川岸	南
	看護倫理 委員会	【活動目標】 1. 臨床倫理的な問題を解決することができるよう、倫理カンファレンスを定着させる。 2. 倫理的課題について病院全体の基本的姿勢や考え方・方針を明確にし、看護職員が共通認識を持つ。 3. 看護者の倫理綱領及び倫理原則を看護職員に浸透させる。 4. 看護研究における倫理的配慮ができるように支援する。 【活動内容】 1. 臨床での倫理カンファレンスの開催支援 2. 身体抑制シートに関する取り組み 3. 看護倫理研修会の開催 4. 看護倫理かわらばんの発行 5. 看護研究の倫理審査 6. 院外の倫理研修に参加し病院職員に普及	山越 浦山 山本 砂田 鈴木 (千秋) (中川)	浦野

看護研究委員会	看護研究委員会	【活動目標】 1. 専門職として研究的視点を持ち、創造性豊かな看護を実践できる。 2. 入職 2 年目看護師が看護実践を振り返りケーススタディをまとめることができる。 3. 看護研究グループが院内・院外発表するために支援することができる。 【活動内容】 1. 看護研究発表のための査読。 (1) 院内看護研究 (2) 院外看護研究 2. 入職 2 年目ケーススタディ 3. 図書回覧 4. 看護研究集録集作成	中村 晴被 堂井 田中朋 今井	高野 中市
	看護安全委員会	【活動目標】 1. 医療安全推進活動として指差し呼称の徹底を図る。 2. 看護職員の医療安全に関する意識向上を図る。 3. インシデント事例を分析し、再発防止に向けて取り組む。 【活動内容】 1. 「指差し呼称」について（研修会開催） 2. 「転倒対策」について（KYT 実施） 3. 「与薬・配薬」について（マニュアル作成、研修会開催） 4. 「注射・与薬の指差し呼称 実施確認ラウンド」について（ラウンド方法の変更）	小沼 酒田 宮島 荒木 竹澤 澤井	広瀬

(6) 院内研修実施状況

研修会名		開催日	形態	参加人数
新任職員研修	新任職員研修・リハビリテーション看護Ⅰ	4/4～27	講義・実技・OJT	24
	凝縮ポートフォリオ発表	4/6	研修	24
	救急看護研修	6/7・8	病棟演習・OJT	24
	リフレッシュ研修	7/20・23	GW	51
	多重課題研修	9/14・19	講義・実技	23
	プライマリナーシング・看護倫理	11/9・15	講義	23
	リハビリテーション実務研修	10月～H31.3月	実習	24
	看護を語る研修	12/6・7・13	GW	36
	ポートフォリオ再構築	H31/3/6・13	講義	21
2年目研修	メンバーシップについて	7/19・9/20	講義・GW	22
	リーダーシップ研修	10/5	講義・GW	18
新任看護職員教育 責任者会議	教育担当者研修Ⅰ	4/3～5	OJT	5
	教育担当者プリセプター研修Ⅱ	6/1～30	OJT	28
	教育担当者プリセプター研修Ⅰ	7/19	集合	10
	プリセプター研修Ⅲ	8/1～31	OJT	28
	教育担当者研修Ⅲ	9/1～30	OJT	28
	プリセプター研修Ⅳ	10/1～31	OJT	28
	教育担当者研修Ⅳ	11/1～30	OJT	28
	教育担当者プリセプター研修Ⅱ	12/14	集合	10
	教育担当者プリセプター研修Ⅴ	H31/1/1～31	OJT	28
	教育担当者プリセプター研修Ⅲ	H31/2/14	集合	10
	次年度プリセプター教育担当者研修Ⅰ	H31/3/8・15	集合	15
看護実践	日本看護協会通常総会	6/21	研修後報告	31
	回復期リハビリテーション看護師認定コース	H31/3/4	研修後報告	24
	ファーストレベル研修・サードレベル研修	H31/3/19	研修後報告	24
	回復期リハビリテーション看護師認定コース実習指導者講習会	5/14	講義	20
	人工呼吸器研修・アストラル	7/4・5・10～12	講義	130
	人工呼吸器研修・ベラ	8/1・3・9・16・21	講義	141
	人工呼吸器研修（トリロジー）・ネーザルハイフロー	9/6・12・18・20・26	講義	96
	人工呼吸器研修・ニューポート	12/6	講義	13
	輸液ポンプ研修	11/28・30・12/5	講義・演習	34
	脳卒中リハビリテーション看護・高次脳機能障害①	H31/2/1・15	講義	33
	脳卒中リハビリテーション看護・高次脳機能障害②	H31/3/6・13	講義	28
看護研究	第1回 看護研究研修会	6/3	講義	37
	日本老年看護学会 第23回 学術集会 事前発表 3階病棟 荒木 真梨子	6/14	発表	12
	第2回 看護研究研修会	7/15	講義・GW	19
	第49回 日本看護学会 看護管理 学術集会 事前発表 3階病棟 狩山 菜	7/26	発表	14
	第13回 北陸地区脳神経リハビリテーション看護研究会 事前発表 3階病棟 荒木 真梨子 4階病棟 竹本 愛	8/23	発表	13
	第44回 日本重症心身障害学会学術集会 事前発表 こども棟 見田 恵美	9/20	発表	28
	第63回 全国肢体不自由児療育研究大会 事前発表 こども棟 古川 水菜			

看護研究	平成 30 年度 ケーススタディ発表会	9/21	発表	49
	日本リハビリテーション看護学会 第 30 回 学術大会 事前発表 4 階病棟 松本 優子 田中 茜 こども棟 信永 州洋 山下 静里奈	11/8	発表	15
	日本リハビリテーション看護学会 第 30 回 学術大会 事前発表 3 階病棟 森江 楓 滝下 杏奈 5 階病棟 加野 亜莉沙	11/12	発表	15
	第 29 回 富山県看護研究学会 事前発表 5 階病棟 川岸 朝美	H31/1/22	発表	12
	ケーススタディ研修会	H31/2/1	講義	10
	ケーススタディ研修会	H31/2/15	講義	14
	平成 30 年度 院内看護研究発表会	H31/2/4	発表	41
看護倫理	看護倫理研修会	9/27	講義・GW	25
	看護倫理研修会（生活支援員・看護補助者）	10/11	講義	13
	新任看護職員倫理研修会	11/9・15	講義	23
	看護倫理フォローアップ研修会	12/19	講義・GW	23
	看護倫理研修会	H31/2/21	講義	37
看護安全	新任看護職員指差し呼称確認動作研修	5/9	講義・実技	24
	薬剤に関する医療安全研修	10/10	講義	48
	KYT 研修	12/10～28	OJT	143
看護記録	看護必要度研修会	8/6・H31/1/7	OJT・講義・テスト	全員
	NANDA-I 看護診断研修会	7/2	GW	38
	NANDA-I 看護診断研修会	9/8	外部講師講義	42

表7 院外研修参加状況

<県内>

研修会名	開催日	開催 日数	参加 人数	主催
新人看護職員 実地指導者研修	H30/5/16・5/17 ・6/28・H31/2/15	4	4	富 山 県 看 護 協 会
新人看護職員 研修責任者・教育担当者研修	H30/5/18・6/21 ・6/22・9/21	4	4	
看護研究Ⅰ（基礎編）	H30/5/21	1	6	
	H30/5/28	1	7	
中堅看護師に役立つコミュニケーション！	H30/5/23	1	6	
新人看護職員研修Ⅰ 働き始めたあなたに！	H30/6/1	1	8	
	H30/6/4	1	8	
	H30/6/5	1	6	
優しさを伝える認知症ケア～対象を理解することでケアが変わる～	H30/7/3	1	1	
医療安全対策Ⅰ 基本的安全対策	H30/7/9	1	2	
看護研究Ⅱ（実践編）	H30/7/12・7/14	2	2	
	H30/7/19・7/21	2	3	
<セカンドレベル公開講座> 人材を活かす看護マネジメント	H30/7/17	1	2	
<セカンドレベル公開講座> 我が国における社会保障と医療経済	H30/7/21	1	1	
看護職員認知症対応力向上研修会	H30/8/1・8/17・8/24	3	1	
糖尿病の看護 基礎知識	H30/8/7	1	1	
糖尿病の看護 自己管理への生活調整と支援	H30/8/14	1	2	
富山地区合同研修会 在宅医療体験実習	H30/8/17	1	1	
	H30/8/21	1	1	
	H30/10/2	1	1	
	H30/10/9	1	1	
在宅ケア事例検討会	H30/8/21	1	1	
看護職員資質向上実務研修	H30/8/29	1	1	
看護研究Ⅲ（指導者編）	H30/8/30・8/31	2	3	
感染対策Ⅰ 基礎編	H30/9/6	1	1	
<ファーストレベル公開講座> 看護管理の概要	H30/9/11	1	2	
実践に活かす！摂食嚥下障害の理解とケア	H30/9/12	1	1	
	H30/9/13	1	1	
看護倫理Ⅰ 看護専門職として基本的な姿勢を学ぶ	H30/9/14	1	5	
医療安全対策Ⅱ コミュニケーション技法	H30/9/18	1	2	
感染対策Ⅱ 実践編	H30/9/20	1	1	
<ファーストレベル公開講座> 人材育成の基礎知識	H30/9/26	1	4	
コーチングのできるリーダー育成	H30/9/27・9/28	2	2	
現場に活かせる最新褥瘡ケア	H30/10/10	1	5	

もっと深めよう！脳卒中患者の看護	H30/10/15	1	1	
看護倫理Ⅱ 職場の倫理風土を育てる	H30/10/19	1	3	
せん妄の理解とケア	H30/11/1	1	1	
地域包括ケアⅠ 入院時から始める退院支援 退院支援看護師の役割	H30/11/13	1	2	
認定看護師交流会	H30/12/1	1	1	
＜富山県保健師助産師看護師等実習指導者講習会公開講座＞抑制しない看護へのチャレンジ	H30/12/5	1	4	
看護管理者看護倫理交流会	H30/12/7	1	1	
認定看護管理者教育課程 ファーストレベル	H30/9/3～10/17	26	河浦 河原	
都道府県看護協会における教育担当者向け研修	H30/8/29	1	2	日本看護協会
新卒看護職員研修会	H30/7/2	1	10	富山県厚生部 医務課
	H30/7/6	1	12	
病院における業務継続計画(BCP)策定研修会	H30/11/12	1	1	
若手看護職員研修会・交流会	H30/11/29	1	12	
災害時のBCP(事業継続計画)セミナー	H30/12/14	1	1	
富山県立大学看護学部開設事前研修会	H30/9/21	1	2	富山県、公立大 学法人富山県 立大学
平成30年度富山県強度行動障害支援者養成研修(実践研修)	H30/12/11・12/12	2	1	富山県厚生部 障害福祉課
普通第一種圧力容器取扱作業主任者技能講習	H30/12/15・12/16	2	1	一般社団法人 日本ボイラ協会 富山支部
健康で安心して働ける医療機関の職場づくり研修会	H31/2/15	1	1	富山県医療勤 務環境改善支 援センター、富 山労働局

<県外>

研修会名	開催日	開催期間	開催地	参加者	主催
平成30年度日本看護協会通常総会・全国看護師交流集会Ⅰ	H30/6/12～6/13	2	神奈川	高野 ちか子	日本看護協会
平成30年度全国自治体病院協議会 看護部会研修会	H30/6/13	1	東京	高木すが子	全国自治体病院協議会
平成30年度東海・北陸・近畿ブロック肢体不自由児施設看護管理者会議	H30/6/28～6/29	2	三重	河原 孝子	東海・北陸・近畿ブロック肢体不自由児施設看護管理者会
藤田ADL講習会（FIMを中心に）一般・初心者コース	H30/8/5	1	愛知	下田春美	藤田保健衛生大学
藤田ADL講習会（FIMを中心に）応用コース	H30/8/5	1	愛知	晴被 由紀子	藤田保健衛生大学
	H30/10/8	1	愛知	三箇 百合子	藤田保健衛生大学
平成30年度接遇トレーナー養成研修会	H30/8/8～8/10	3	東京	岩井 美知代	全国自治体病院協議会
医療的ケア児等支援者養成研修会	H30/11/28、12/20	2	兵庫	竹澤 和恵	一般社団法人兵庫県社会福祉士会
平成30年度院内感染対策講習会	H31/1/30～1/31	2	東京	渡辺 千尋	一般社団法人日本感染症学会
医療的ケア児等コーディネーター養成研修会	H31/1/31、2/18	2	兵庫	竹澤 和恵	一般社団法人兵庫県社会福祉士会
平成30年度回復期リハビリテーション看護師認定コース	H30/9/12～9/22、 H30/11/19～11/24、 H31/1/7～1/12	18	東京	岡本 祐美子	回復期リハビリテーション病棟協会
2018年度認定看護管理者教育課程（サードレベル）	H30/10/15～10/26、 H30/11/5～11/16、 H30/11/26～12/12、 H31/1/11	42	石川	浦野 妃路美	石川県立看護大学

表8 研修及び臨地実習・病院見学の受け入れ

内 容	研修期間	人 数	依頼施設
臨地実習	4月9日～10月18日 1月8日～3月7日	82名	富山県立総合衛生学院 看護学科
	4月16日～7月6日 2月26日～3月30日	25名	富山大学医学部 看護学科 4年生
	6月4～9月7日 2月26日～3月16日	63名	富山福祉短期大学
	7月31日～10月18日	17名	富山医療福祉専門学校
ふれあい看護体験 (介護教室)	5月26日	14名	富山県看護協会
栄養サポートチーム 専門療法士実施修練研修	6月11日～6月15日	1名	飛騨市民病院
高校生の一日看護見学	7月5日	20名	富山県看護協会
	7月12日	20名	
14歳の挑戦	7月2日～7月6日	2名	富山市立北部中学校
	10月1日～10月5日	2名	富山市立岩瀬中学校
病院視察	7月26日	15名	富山県障害者(児)ホーム ヘルパー養成研修者
医療学入門介護体験	9月3日～9月7日	8名	富山大学医学部医学科・ 薬学科・看護学科
	9月10日～9月14日	8名	
病院視察	11月7日～11月8日	12名	千葉県千葉リハビリテー ションセンター
摂食嚥下障害認定看護師 教育課程臨地実習	1月7日～2月20日	2名	富山県看護協会

※臨地実習のねらい

慢性期・リハビリテーション期、さらに老年期の患者の入院から在宅療養をめざした療養生活患者を受け持ち、看護師の役割、関係専門職種の連携の実際を学ぶものである。また、訪問看護師と同行して訪問看護実習を行っている。

※介護教室

厚生労働省及び日本看護協会が制定する「看護の日」の行事として「ふれあい看護体験」を全国的に実施している。当院では、その一環として「介護教室」を開催している。

2 看護業務

(1) 病棟体制

病棟	3・4 階病棟 (各 50 床)	5 階病棟 (50 床)	こども棟 (52 床)	療養介護棟 (30 床)
名称	回復期リハビリテーション 病棟 (入院料 1)	一般病棟	医療型障害児入所施設 (障害者施設等病棟)	療養介護棟
看護 体制	13 対 1+ 補助 30 対 1	一般 15 対 1+ 補助 30 対 1	10 対 1	10 対 1
条件	発症 2 ヶ月以内の脳 血管疾患又は廃用症 候群、脊髄損傷、骨 折等の回復期リハを 要する患者が常時 8 割以上入院してい る。 2,025 点	手術患者 神経難病の治療患者 脊髄損傷、骨折等の 患者 緊急入院の患者 一般 960 点	肢体不自由児 重度重複児 手術患児 検査入院 1,329 点 特殊疾患入院医療加算 超・準重症児加算 (該 当者のみ)	重症心身障害者 (障害支援区分 5、6) 筋ジストロフィー患者 (障害支援区分 5、6) ALS 等の気切呼吸管 理必要者 (障害支援区分 6) 成年後見制度必要 1,329 点
在院日 数規制	疾患により算定日数 に上限あり 60～ 180 日	一般 60 日	患者により算定日数に 上限あり 90 日 (特定 患者) 0 歳～18 歳まで	規制はない 利用にあたり、1 年毎 の契約が必要
その他		・手術患者や検査入 院、短期入院等を受 けている。 ・夜間の外部や周辺 施設の救急を受け入 れている。 ・レスパイト	福祉サービス ・短期入所 ・日中一時預かり ・(放課後デイ・生活介 護)	・短期入所

・3 階病棟

平成 30 年度の入院患者数は 235 名で、疾患別では脳疾患 68.0%、整形疾患 24.3%であり、在宅復帰率 87.9%、在院日数 74.3 日であった。患者の入院前に、回復期リハビリテーション看護師が紹介元へ入院前患者訪問し、患者・家族の不安の軽減や回復期病棟の特徴などの理解を促すと共に、詳細な患者・家族の状態を事前に把握することで、入院直後からの適切なケアの提供に繋げている。多職種カンファレンス（退院支援、定期、抑制解除、転倒、トイレ動作など）を行うことで、多職種協働によるケアの実践と方法の統一を図っている。さらに 1 回／月多職種交代でミニレクチャーを行い、回復期リハビリテーション病棟の質と専門性の向上を図っている。また、患者・家族が安心して退院できるよう退院後患者訪問も積極的に取り組んでいる。

・ 4 階病棟

平成 30 年度の入院患者数は 251 名(転棟患者 25 名含む)で、疾患別では脳梗塞 28.7%、脳出血 19.9%、くも膜下出血 2.8%、大腿骨骨折 27.5%、脊髄損傷 4.8%、廃用症候群 4.4%、その他 9.9%であった。回復期リハビリテーション病棟入院料 I の基準では、重症患者入院率、在宅復帰率、重症患者改善率の基準を満たしている。在院日数は 79.4 日であった。

また、患者の回復を促すためのカンファレンス(定期、抑制解除、転倒、トイレ、食事、褥瘡)を多職種で実施し、ケアに反映している。在宅復帰に向けて生活リズムを整えるために、就寝前の余暇活動としてナイトレクリエーションを継続している。「回復期リハ病棟ケア 10 項目宣言」を実行し、入浴は週 2 回が定着し、口腔ケアの標準化に取り組んだ。退院支援については、退院後訪問も開始した。在宅復帰に向けて多職種で実践している。

PNS の看護体制は、患者ケアの充実と働きやすい職場づくりに向けて定着している。

・ 5 階病棟

一般病棟として手の外科、上下肢の骨折の手術患者や神経難病疾患の患者、回復期非該当でリハビリを希望される脳血管疾患・骨折の術後患者を受け入れている。

平成 30 年度の入院患者数は 409 名で、病床利用率 89.4%、在院日数 37.5 日、手術件数 171 件であった。また、1.5 次救急による入院患者は 33 名受け入れ中、15 名入院している。

周術期看護の専門性を高めるために、オーソパットの手順、手術の短期入院パス、大腿骨骨折の手術パスを作成し、統一されたケアの実践を行っている。看護体制は PNS を取り入れ、WLB を考慮し 2 交替・3 交替を各自のライフパターンにより選択可能な体制を取り、スタッフ全員が 5 日連続休暇を取得し、働きやすい職場環境づくりを行った。

・ こども棟

医療型障害児入所施設として、上肢・下肢又は体幹の機能に障害を持つ児童を受け入れ、障がい児とその家族が住み慣れた地域で、安心して生活が送れるように支援している。平成 28 年度から一般入院として小児整形外科疾患の手術患児、呼吸器ケアの導入や評価が必要な患児、脳波検査入院の受け入れを行い、平成 29 年度から呼吸ケア目的の一般入院を受け入れ、集中的な呼吸ケアを実施している。また、重症心身障がい児の短期入所の受け入れを行い、保育士とともに療育を行っている。平成 30 年度の入院総数は 226 名、手術件数は 46 件、短期入所利用件数は 240 件で 704 日の利用であった。呼吸ケア目的の入院児は 9 名で 481 日の入院であった。看護体制は、PNS を取り入れ統一した看護ケアを実践している。

・ 療養介護棟

医療型障害者入所施設として、平成 30 年 7 月にベッド数 30 床で開設した。病棟は、旧病院(富山県高志リハビリテーション病院)の 5 階を生活の場としてリフォームした。初年度は、利用者 18 名の受け入れを目標に看護師 17 名、生活支援員 5 名体制で看護・生活支援を行った。

入所患者は、脳性麻痺などの重症心身障害者、筋ジストロフィー、ALS などの神経難病で医療的ケアが必要な患者である。

看護師と生活支援員が協働して患者の生活支援にあたっている。入所患者は、療養介護棟を「終のすみか」と考えている方が多いため、生活の質、特に余暇活動に重点を置いている。毎日のレクリエーション・月に一度の季節行事・バスハイク・ボランティアのコンサートなど患者が楽しく生活でき充実した日々を長く過ごせるように看護・生活ケアを実践している。

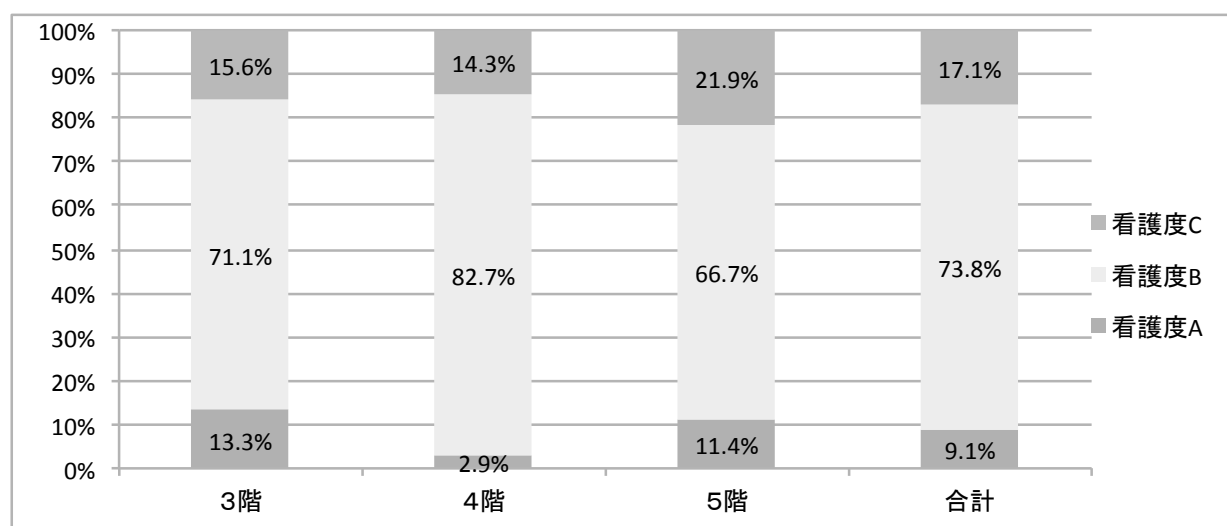
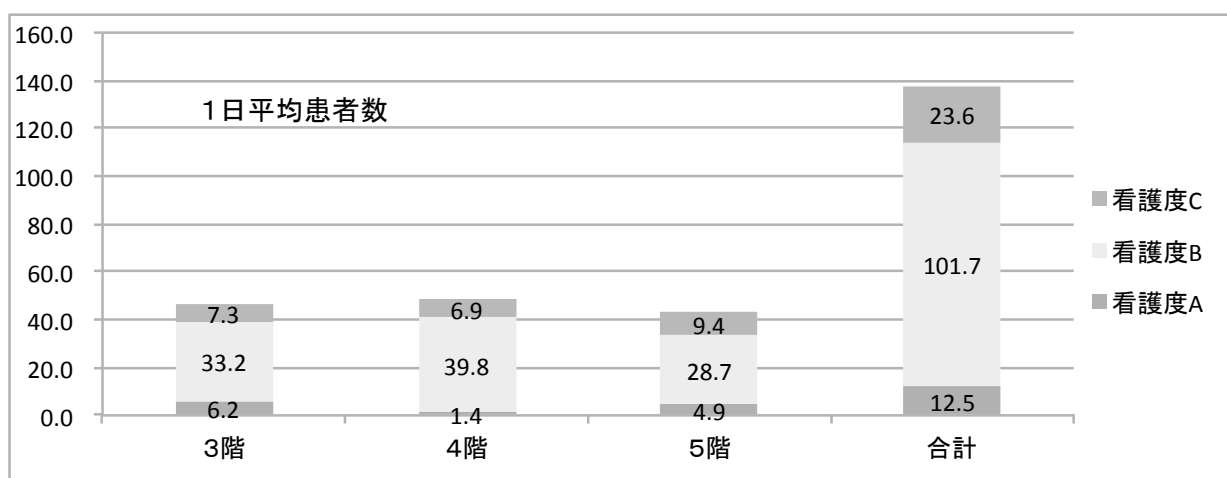
(2) 月別の看護度（FIM評価）状況（平成30年度）

観察の程度				F I M 評価	F I M 点数	介助の 程度	階	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	1 0 月	1 1 月	1 2 月	1 月	2 月	3 月	合 計	
A	絶えず観 察・指 導を必 要とし て	Ⅰ	1 ・ 2	18～36	全介助 25%程度 最大介助 25%以上	3階	216	136	83	194	100	88	94	20	101	135	86	79	1332		
						4階	55	40	85	3	0	0	43	0	47	11	31	43	358		
						5階	143	46	47	69	52	16	56	37	64	111	114	75	830		
		合計						414	222	215	266	152	104	193	57	212	257	231	197	2520	
		Ⅱ	3 ・ 4	37～72	中等度介助 50%以上	3階	63	77	30	32	59	128	97	112	19	88	106	156	967		
						4階	6	16	28	3	9	0	0	50	31	64	29	4	240		
						5階	66	71	87	86	101	78	83	86	68	38	46	91	901		
		合計						135	164	145	121	169	206	180	248	118	190	181	251	2108	
		Ⅲ	5	73～90	中等度介助 患者に75%以上 触れる程度 監視	3階	0	0	2	54	25	13	22	81	18	16	29	19	279		
						4階	19	27	28	4	0	1	0	3	31	36	0	0	149		
						5階	18	1	3	13	0	50	6	28	0	2	0	0	121		
		合計						37	28	33	71	25	64	28	112	49	54	29	19	549	
		Ⅳ	6 ・ 7	91～126	修正自立 完全自立	3階	0	0	0	0	10	0	6	25	0	0	1	9	51		
						4階	0	0	25	31	0	0	0	0	0	0	0	0	56		
						5階	3	31	34	0	0	0	0	1	16	0	0	4	89		
		合計						3	31	59	31	10	0	6	26	16	0	1	13	196	
		観察の程度(A)合計						3階	279	213	115	280	194	229	219	238	138	239	222	263	2629
								4階	80	83	166	41	9	1	43	53	109	111	60	47	803
								5階	230	149	171	168	153	144	145	152	148	151	160	170	1941
								合計	589	445	452	489	356	374	407	443	395	501	442	480	5373
B	1～2時間 毎観察 を必要 とする	Ⅰ	1 ・ 2	18～36	全介助 25%程度 最大介助 25%以上	3階	46	79	78	60	76	162	169	200	209	143	103	31	1356		
						4階	194	255	203	267	260	233	183	225	74	200	239	286	2619		
						5階	47	55	56	84	50	30	45	58	80	99	91	125	820		
		合計						287	389	337	411	386	425	397	483	363	442	433	442	4795	
		Ⅱ	3 ・ 4	37～72	中等度介助 50%以上	3階	365	362	410	289	381	310	421	406	507	496	496	426	4869		
						4階	371	498	572	458	560	468	397	444	543	519	416	576	5822		
						5階	314	432	365	303	242	287	331	382	354	340	434	321	4105		
		合計						1050	1292	1347	1050	1183	1065	1149	1232	1404	1355	1346	1323	14796	
		Ⅲ	5	73～90	中等度介助 患者に75%以上 触れる程度 監視	3階	161	352	274	145	219	287	203	132	210	208	179	150	2520		
						4階	360	224	188	352	247	305	346	313	286	226	229	298	3374		
						5階	226	194	179	287	352	233	191	274	204	136	74	249	2599		
		合計						747	770	641	784	818	825	740	719	700	570	482	697	8493	
		Ⅳ	6 ・ 7	91～126	修正自立 完全自立	3階	407	351	297	457	375	321	360	347	242	236	193	338	3924		
						4階	135	227	215	195	238	308	288	197	316	357	110	84	2670		
						5階	300	241	305	220	214	177	310	342	282	350	155	331	3227		
		合計						842	819	817	872	827	806	958	886	840	943	458	753	9821	
		観察の程度(B)合計						3階	979	1144	1059	951	1051	1080	1153	1085	1168	1083	971	945	12669
								4階	1060	1204	1178	1272	1305	1314	1214	1179	1219	1302	994	1244	14485
								5階	887	922	905	894	858	727	877	1056	920	925	754	1026	10751
								合計	2926	3270	3142	3117	3214	3121	3244	3320	3307	3310	2719	3215	37905
C	特別な観 察を継 続する 必要が ない	Ⅰ	1 ・ 2	18～36	全介助 25%程度 最大介助 25%以上	3階	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
						4階	27	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	32		
						5階	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
		合計						27	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	32		
		Ⅱ	3 ・ 4	37～72	中等度介助 50%以上	3階	0	1	30	0	0	0	0	0	6	0	0	0	37		
						4階	35	0	0	0	13	0	5	0	0	12	31	0	96		
						5階	35	21	0	0	0	0	0	24	31	27	0	31	169		
		合計						70	22	30	0	13	0	5	24	37	39	31	31	302	
		Ⅲ	5	73～90	中等度介助 患者に75%以上 触れる程度 監視	3階	0	0	1	28	0	3	31	30	17	0	2	13	125		
						4階	21	11	30	23	30	2	52	23	4	31	40	51	318		
						5階	12	1	14	0	9	30	24	59	64	23	41	44	321		
		合計						33	12	45	51	39	35	107	112	85	54	83	108	764	
		Ⅳ	6 ・ 7	91～126	修正自立 完全自立	3階	185	139	197	195	209	83	94	101	153	207	142	193	1898		
						4階	235	188	102	172	118	106	202	202	113	49	259	139	1885		
						5階	229	303	231	267	170	294	124	119	203	311	337	132	2720		
		合計						649	630	530	634	497	483	420	422	469	567	738	464	6503	
		観察の程度(C)合計						3階	185	140	228	223	209	86	125	131	176	207	144	206	2060
								4階	318	204	132	195	161	108	259	225	117	92	330	190	2331
								5階	276	325	245	267	179	324	148	202	298	361	378	207	3210
								合計	779	669	605	685	549	518	532	558	591	660	852	603	7601
合計						3階	1443	1497	1402	1454	1454	1395	1497	1454	1482	1529	1337	1414	17358		
						4階	1458	1491	1476	1508	1475	1423	1516	1457	1445	1505	1384	1481	17619		
						5階	1393	1396	1321	1329	1190	1195	1170	1410	1366	1437	1292	1403	15902		
総合計						I	728	616	552	677	538	529	590	540	575	699	664	639	7347		
						Ⅱ	1255	1478	1522	1171	1365	1271	1334	1504	1559	1584	1558	1605	17206		
						Ⅲ	817	810	719	906	882	924	875	943	834	678	594	824	9806		
						Ⅳ	1494	1480	1406	1537	1334	1289	1384	1334	1325	1510	1197	1230	16520		
全合計								4294	4384	4199	4291	4119	4013	4183	4321	4293	4471	4013	4298	50879	

観察の程度(1日平均患者数)

区分	3階	4階	5階	合 計
看護度A	6.2	1.4	4.9	12.5
	13.3%	2.9%	11.4%	9.1%
看護度B	33.2	39.8	28.7	101.7
	71.1%	82.7%	66.7%	73.8%
看護度C	7.3	6.9	9.4	23.6
	15.6%	14.3%	21.9%	17.1%
合計	46.7	48.1	43.0	137.8

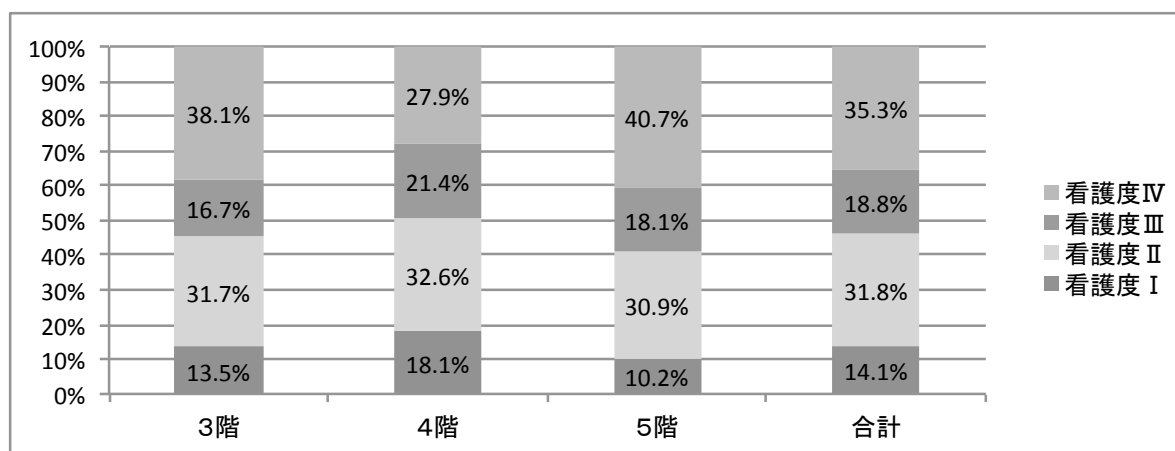
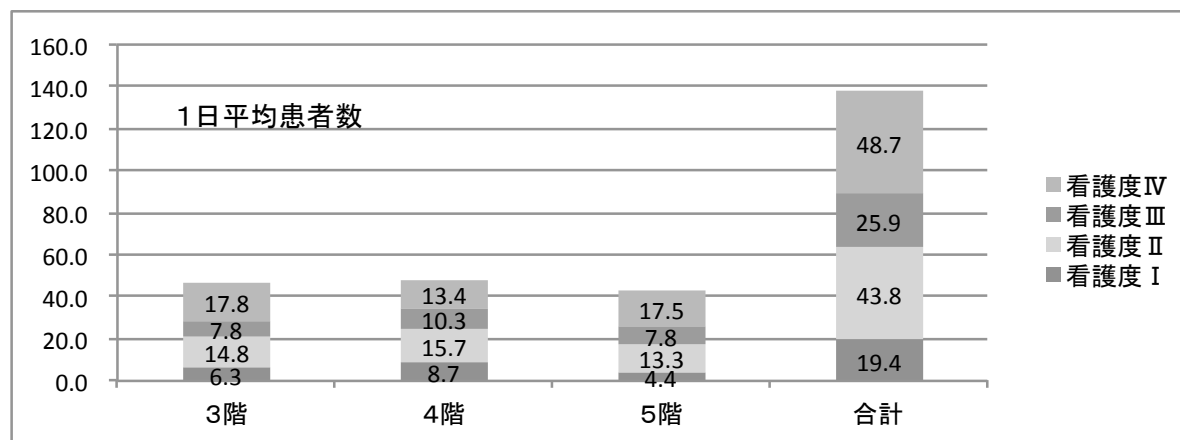
	当院の基準	厚生労働省の基準
看護度A	絶えず観察指導を必要として目が離せない	絶えず観察を必要とする
看護度B	1～2時間毎に観察指導を必要とする	1～2時間毎に観察を必要とする
看護度C	特に観察指導を持続する必要がない	特に観察を持続する必要がない



介助の程度(1日平均患者数)

区分	3階	4階	5階	合計
看護度Ⅰ	6.3	8.7	4.4	19.4
	13.5%	18.1%	10.2%	14.1%
看護度Ⅱ	14.8	15.7	13.3	43.8
	31.7%	32.6%	30.9%	31.8%
看護度Ⅲ	7.8	10.3	7.8	25.9
	16.7%	21.4%	18.1%	18.8%
看護度Ⅳ	17.8	13.4	17.5	48.7
	38.1%	27.9%	40.7%	35.3%
合計	46.7	48.1	43.0	137.8

	当院の基準	厚生労働省の基準
看護度Ⅰ	日常生活上全介助が必要	絶えず観察を必要とする
看護度Ⅱ	介助があれば、車椅子に座り移動ができる	1～2時間毎に観察を必要とする
看護度Ⅲ	杖、車椅子移動が自分で行える	室内歩行が可能
看護度Ⅳ	日常生活がほとんど自立している	日常生活にほとんど不自由はない



(3) 入院患者状況調査結果 (毎月1日実施)

平成30年度(4月～3月)

区分		平均	割合
患者数		137.8	100.0%
・性別	男	75.9	55.1%
	女	61.9	44.9%
年齢	平均	69.8	
	最高	104.0	
	最低	15.0	
・年齢区分	10歳未満	0.0	0.0%
	10代	0.5	0.4%
	20代	1.4	1.0%
	30代	3.4	2.5%
	40代	11.5	8.3%
	50代	15.8	11.4%
	60代	25.3	18.3%
	70代	41.7	30.2%
	80代	31.6	22.9%
	90代	6.4	4.7%
※75歳以上(再掲)		58.3	42.3%
75歳以上の内訳	一人暮らし	14.6	10.6%
	夫婦のみ	16.5	12.0%
	その他	27.3	19.8%
・病名	脳血管疾患	68.8	49.9%
	(高次脳機能障害)	21.6	31.4%
	整形外科的疾患	49.8	36.2%
	神経筋疾患	6.8	5.0%
	小児疾患	0.0	0.0%
	高次脳機能障害	1.3	0.9%
	その他	11.2	8.1%
※神経難病(再掲)		4.8	3.4%
※認知症あり(再掲)		19.0	13.8%
・食事	絶食	1.8	1.3%
	経管栄養	9.7	7.0%
	全面介助	7.6	5.5%
	一部介助	22.5	16.3%
	自立	96.3	69.9%
・食事場所	食堂	112.6	81.7%
	病室	23.3	16.9%
	絶食	1.9	1.4%
※胃ろう造設者(再掲)		1.7	1.2%
・排泄	バルン留置	5.2	3.7%
	床上(尿器)	10.2	7.4%
	オムツ	35.8	26.0%
	ポータブルトイレ	1.3	0.9%
	トイレ(一部介助)	25.8	18.7%
	自立	59.7	43.3%
※間歇導尿(再掲)		6.5	4.7%
※畜尿(再掲)		0.0	0.0%

区分		平均	割合
・移動	移動なし	0.8	0.6%
	ベッド	1.6	1.1%
	ストレッチャー	3.8	2.8%
	車椅子	86.1	62.5%
	歩行器	12.2	8.8%
	杖	6.9	5.0%
	つたい歩き	0.2	0.1%
	自立歩行	26.3	19.0%
・清潔	清拭	1.8	1.3%
	特殊浴	35.0	25.4%
	入浴介助	79.7	57.8%
	自立	21.3	15.5%
・口腔清拭	全介助	20.2	14.6%
	一部介助	39.6	28.7%
	自立	78.1	56.7%
・衣服の着脱	全介助	32.9	23.9%
	一部介助	47.6	34.5%
	自立	57.3	41.6%
注射	筋肉・皮下注射	32.3	23.4%
	静脈注射	1.8	1.3%
	点滴	11.8	8.6%
	TPN	2.0	1.5%
	持続	3.1	2.2%
	関節注入	0.7	0.5%
・内服薬	1回配薬	94.8	68.8%
	1日配薬	6.3	4.6%
	自己管理	33.5	24.3%
	内服薬なし	3.3	2.4%
※眠剤服用(再掲)		26.6	19.3%
血糖測定(デキスターチェック)		23.5	17.0%
検体採取	血液	34.8	25.2%
	尿	9.9	7.2%
	その他	0.9	0.7%
感染対策		16.5	12.0%
モニター監視	心電図	3.0	2.2%
	SPO2	3.0	2.2%
人工呼吸器		0.3	0.2%
酸素吸入		2.2	1.6%
輸液ポンプ		2.3	1.6%
・転倒リスク	0～5点	32.1	23.3%
	6～15点	61.8	44.9%
	16点以上	43.9	31.9%
センサー装着		13.7	9.9%
シートベルト装着		8.2	5.9%
ゲートチェッカータグ装着		2.3	1.6%
GPS(ココセコム)使用者		0.5	0.4%
喫煙者		0.1	0.1%

(4) 外来での特殊検査及び処置件数

平成30年度

項 目	内 容	
内視鏡検査	上部内視鏡検査	10
	下部内視鏡検査	1
	喉頭・咽頭ファイバー	189
	嚥下内視鏡検査（V E）	83
	気管支ファイバー	0
	膀胱鏡	12
超音波検査	腹部エコー	45
	甲状腺エコー	20
	心エコー	45
	腎・膀胱・前立腺エコー	402
	股関節エコー	143
造影検査	膀胱・尿道内圧測定（U D S）	5
	瘻孔造影	2
	点滴静注腎盂撮影（D I P）	0
	尿路系造影検査・膀胱造影	6
	嚥下造影検査（V F）	7
その他検査	脳性脳幹誘発反応検査（A B R）	17
	聴力検査	52
	チンパノ	31
	耳音響放射検査（O A E）	40
	遊戯聴力検査（C O R）	39
	ホルター心電図	5
	シーティング重心動揺	23
	睡眠M R I ・ C T （小児 薬剤使用）	74
	ピドスコープ	6
	腰椎穿刺	8
処置・注射	フローレート	3
	眼圧測定	
	ボトックス注射	272
	整形外科手術	102
	PASSシステム	0
	NESSシステム	0
	ギプス巻き	81
	経皮内視鏡的胃瘻造設術	9
	胃瘻交換	48
	レーザー照射	100
	膀胱瘻カテーテル交換	150
	鼓膜切開	0
	気管カニューレ・レティナ交換	104
	リウマチ生物学的製剤治療	212
	整形救急受け入れ	33
	合 計	2379

(5) 平成30年度 器材の減菌状況

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
	オートクレーブ	回	51	52	51	46	56	52	58	47	55	44	105	673
	ガス減菌委託回数	回	5	5	6	6	6	7	7	5	5	5	6	68
高圧蒸気滅菌	手術セツン類	個	51	14	22	18	22	52	15	18	25	17	18	287
	セツン類	袋	120	89	79	114	129	21	123	130	107	87	111	1233
	光学機器	個	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	金属缶類	個	0	0	0	0	9	1	2	4	2	1	1	22
	剪刀類	個	48	44	34	45	52	47	51	56	43	33	38	540
	その他鋼製小物単包類	個	126	146	131	130	175	136	149	220	94	181	77	1739
	手術セツト	セツト	94	127	110	100	137	137	145	271	161	90	157	1663
	耳鼻科セツト	セツト	28	27	21	19	17	41	27	24	24	21	26	300
	歯科セツト	セツト	323	377	430	325	318	41	381	288	319	271	349	3823
	ルンバールセツト	セツト	9	4	3	8	5	4	7	4	8	11	5	78
	ナートセツト	セツト	24	5	1	3	6	1	2	3	2	3	5	61
	その他	個	84	61	81	62	112	73	99	109	94	53	80	1007
	診療材料単包	個	110	169	62	62	124	87	121	121	85	100	69	1227
	小計		1017	1063	974	886	1106	641	1122	1210	970	868	936	11980
(E O G 滅菌委託)	光学機器	個	0	1	0	2	1	1	3	3	2	1	3	19
	手術器械・材料	個	19	14	6	13	23	14	9	11	5	14	9	142
	その他単包類	個	1	0	6	0	6	2	5	2	3	1	1	31
	小計		20	15	12	15	30	17	17	16	10	16	13	192
合計			1037	1078	986	901	1136	658	1139	1226	980	884	949	12172

第 13 節 地域医療福祉連携室

1 運営概要

地域連携室は、地域の医療機関や施設から紹介を受けた患者・家族に良質なリハビリテーション医療・看護が提供され、その患者・家族が住み慣れた地域で安心して生活できるように支援する部署である。そのため急性期から回復期そして生活期へとつないでいく要の役割を担っている。

入院前の支援としては、急性期病院からの患者の受け入れについて毎朝病床運営会議を開催し、入退院予定表と紹介患者リストで検討している。入院の受け入れは早期に行うことで患者の機能回復が促進されるため、入院までの待機日数は 10 日以内を目標とし、さらに回復期リハビリテーション病棟入院料 1 の施設基準が継続できるように紹介元急性期病院や当院の各病棟と連携を図っている。紹介元急性期病院には、回復期リハ看護師が入院前患者訪問を行い、連携室担当者と顔の見える連携や紹介患者・家族の情報収集に努め入院に対する不安の軽減等を図り、入院の受け入れがスムーズに行えるようにしている。

入院中の支援としては、主に社会福祉士が中心となり患者・家族がより良い状態で在宅に帰れるように関わった。回復期リハ病棟運営会議を月 1 回開催し、入院時の重症度・在宅復帰率・重症患者改善率・平均在院日数（目標 70 日）について検討した。

退院支援としては、入院前訪問時から患者・家族への意向の確認や相談を行った。また、退院支援加算 1 の算定をしており、各病棟に配属された社会福祉士 2 名が中心となり退院困難な要因のスクリーニング、退院支援カンファレンスを実施し入院当初から在宅生活をイメージした関わりができるように支援した。

外来では、患者・家族が希望する日時に受診できるように調整を行い、受診・入院相談を希望する方には、気軽に相談できるように努めた。

定期的に「地域医療福祉連携だより」を発刊した。内容としては当院の診療科や最新リハビリテーションの紹介を主に行い、当院での治療やリハビリを必要とする患者が受診・入院できるように連携病院に配布した。

2 目的

- 1) 関連施設（急性期病院や後方施設）との連携を図り、患者・家族のニーズに沿った良質で効率的なリハビリテーションを提供する。
- 2) 医療福祉連携により地域医療の向上に資する。
- 3) 効率的な病棟運営に資する。

3 職員構成

室長 1 名

室員 7 名（専任：看護師 1 名 兼務：社会福祉士 3 名・事務 2 名）

4 業務実績統計

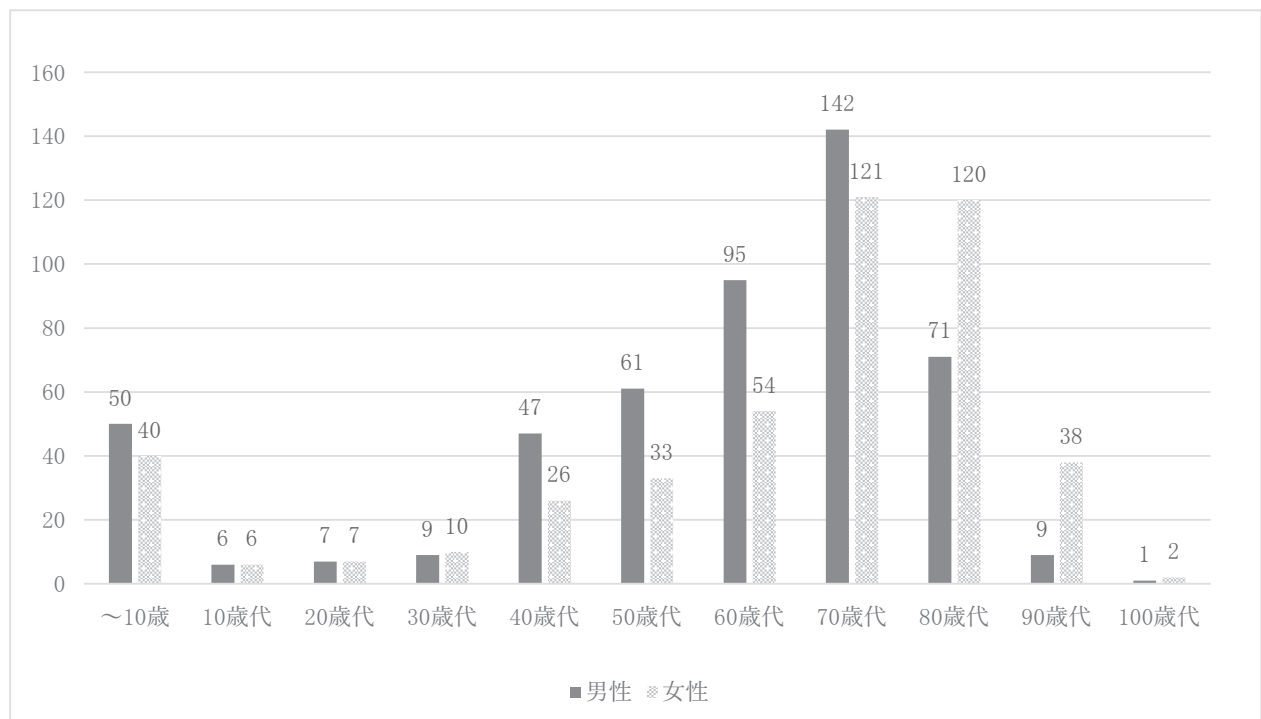
1) 平成 30 年度入院患者状況

(1) 疾患別状況（参考：国際疾病分類 ICD-10）

入院総数：1104 人（男性：566 人 女性：538 人）

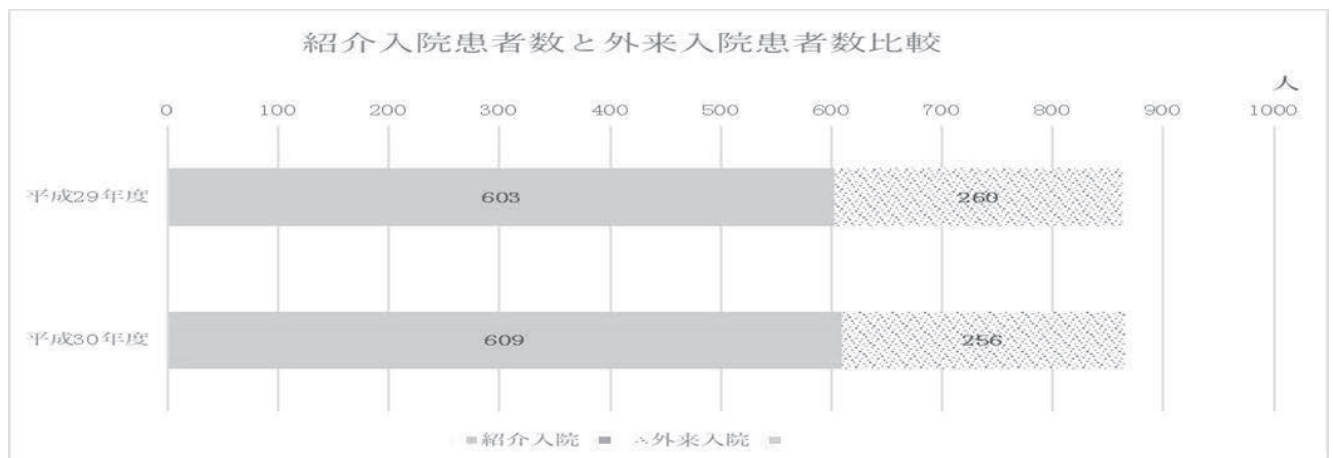
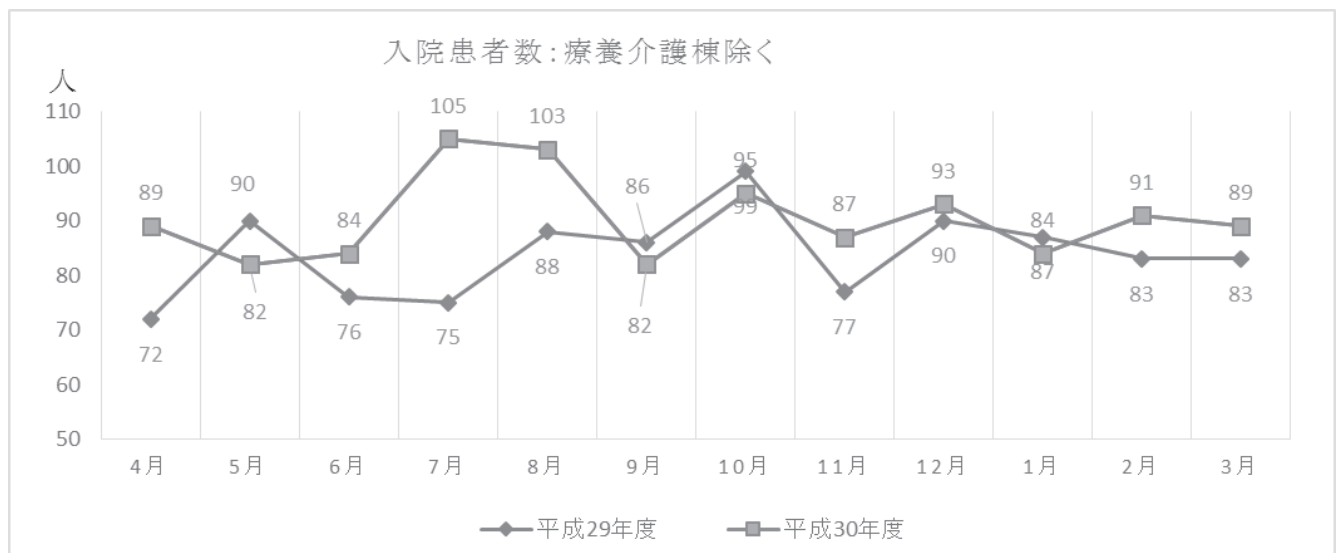
分類	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	
疾患名	脳梗塞	脳内出血	くも膜下出血	頭部外傷	脳腫瘍	神経系疾患	脊髄損傷	骨折	切断	筋骨格系疾患	廃用症候群	脳性麻痺	てんかん	ダウン症候群	小児疾患	その他	計
人数	184	89	27	15	28	70	17	158	4	221	42	10	3	1	219	16	1104
%	16.7	8.1	2.5	1.4	2.5	6.3	1.5	14.3	0.4	20	3.8	0.9	0.2	0.1	19.8	1.5	100

(2) 性別・年齢構成



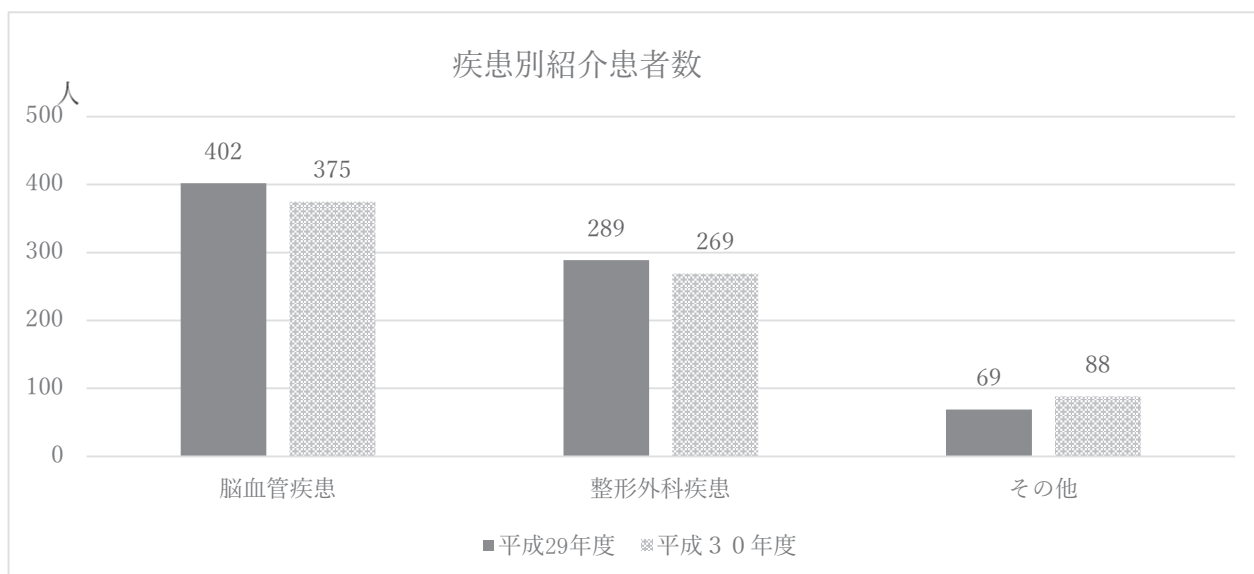
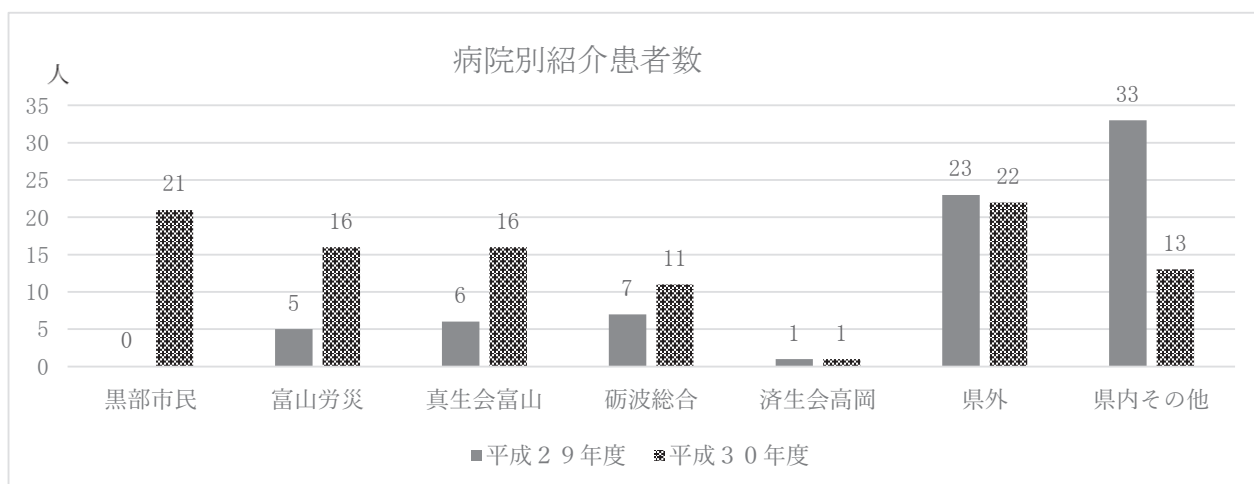
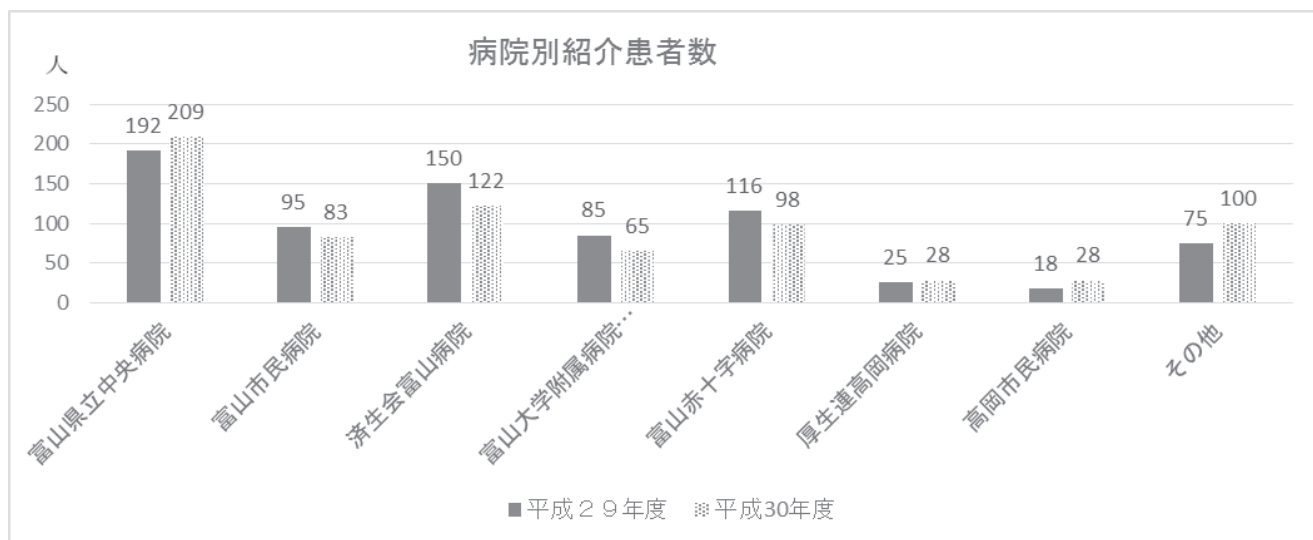
(3) 入院患者数(人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
3階病棟	17	20	13	28	21	21	20	20	22	15	21	17	235
4階病棟	17	17	14	17	23	15	16	18	22	19	18	27	223
5階	33	33	38	32	33	29	46	31	30	36	35	31	407
こども	22	12	19	28	26	17	13	18	19	14	17	14	219
療養介護病棟	0	0	0	16	2	0	1	0	0	0	0	1	20
全体	89	82	84	121	105	82	96	87	93	84	91	90	1,104



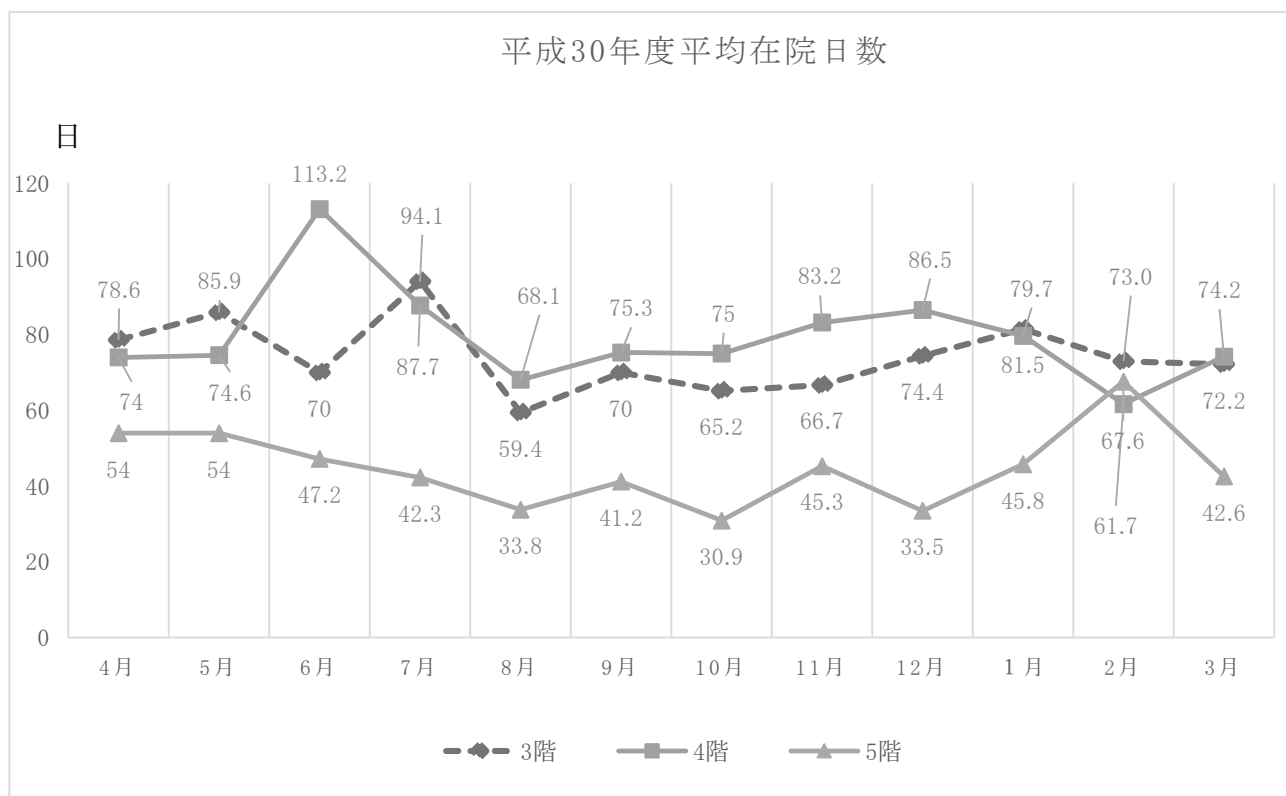
(4) 紹介患者数(人)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成29年度	59	70	63	55	70	66	65	50	77	45	69	67	756
平成30年度	63	68	52	45	58	40	79	54	60	78	63	73	733



(5) 平均在院日数(日)

全体	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
平成29年度	78.2	67.6	71.3	77.8	77.6	69.6	72.1	72.1	73.1	85.7	77.5	79.2	75.2
平成30年度	76.5	80	91	91.4	63.5	72.3	69.1	76.1	80.5	80.6	67.6	73.5	76.8



(6) 平均入院待機日数(日)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
平成29年度	11.3	12.1	11.7	15.1	12.4	12.1	13.7	18.7	11.5	15.2	12.6	11.1	13.1
平成30年度	12.7	14.8	12.2	11.9	6.6	5.7	7.7	12.1	7.3	14.6	14.4	10.3	10.9

(7)地域連携パス(大腿骨・転子部骨折/脳卒中)の受け入れ状況

①「大腿骨頸部・転子部骨折地域連携パス」の月別状況(人)

連携病院	H29年度合計	H30年度合計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
富山県立中央病院	18	13	1	0	1	0	1	0	0	2	2	1	4	1
富山市民病院	14	13	1	2	2	1	1	0	0	2	1	1	0	2
富山赤十字病院	27	30	5	3	4	1	1	1	4	2	2	1	1	5
済生会富山病院	27	20	0	2	0	2	2	0	1	1	2	2	4	4
富山大学附属病院	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合 計	87	77	8	7	7	4	5	1	5	7	7	5	9	12

②「富山市脳卒中地域連携パス」の月別状況(人)

連携病院	H29年度合計	H30年度合計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
富山県立中央病院	55	54	4	8	5	3	7	4	1	5	2	8	3	4
富山市民病院	43	33	2	2	3	9	4	0	1	3	2	2	4	1
富山赤十字病院	36	26	5	2	3	2	2	1	1	4	1	1	2	2
済生会富山病院	72	60	4	7	3	8	7	3	3	2	5	6	8	4
富山大学附属病院	6	8	1	0	1	1	0	0	2	0	2	0	0	1
合 計	212	181	16	19	15	23	20	8	8	14	12	17	17	12

③「新川地域連携パス(脳卒中)」の月別状況(人)

連携病院	H29年度合計	H30年度合計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
黒部市民病院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
富山労災病院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合 計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

④「高岡地区連携パス(大腿骨)」の月別状況(人)

連携病院	H29年度合計	H30年度合計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
高岡市民病院	0	3	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0
厚生連高岡	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
真生会富山病院	2	2	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0
合 計	4	5	1	0	0	0	0	2	0	1	0	0	1	0

平成27年6月より、大腿骨パスの連携を開始

⑤「高岡地区連携パス(脳卒中)」の月別状況(人)

連携病院	H29年度合計	H30年度合計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
高岡市民病院	12	13	3	2	1	1	0	3	0	0	2	0	1	0
厚生連高岡病院	6	14	1	2	1	0	0	0	1	3	2	1	2	1
合 計	18	27	4	4	2	1	0	3	1	3	4	1	3	1

平成27年6月より、脳卒中パスの連携を開始

⑥在宅重症難病患者一時入院の受け入れ状況(人)

	H29年度合計	H30年度合計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
件数	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

平成22年12月より、受け入れを開始

2) 平成 30 年度 地域医療福祉連携室業務件数

	業務内容	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	総数
入院前の支援	医療機関等から入院・外来受診相談	126	143	136	145	122	95	158	110	133	143	122	201	1634
	患者・家族からの入院・外来受診相談	50	82	69	82	58	39	67	61	49	61	76	62	756
	外来者の面接及び施設案内	2	2	0	2	4	0	11	5	2	3	0	1	32
	入院調整及び関係機関等の連携	166	196	180	141	157	132	196	208	226	171	228	233	2234
	入院前訪問調整	28	28	26	20	26	22	20	31	17	23	30	33	304
	その他	7	13	9	6	11	4	8	3	2	2	0	2	67
	小計	379	464	420	396	378	292	460	418	429	403	456	532	5027
入院中の支援	ケアマネとの対応	63	80	64	63	61	75	61	76	69	76	75	64	827
	関係医療機関・施設への連絡調整・情報収集等	23	48	25	40	36	32	18	22	37	33	42	46	402
	介護保険課との調整(調査日・主治医意見書等)	18	26	13	22	23	16	15	19	30	21	17	24	244
	その他	3	2	1	0	0	1	0	0	0	42	0	1	50
	小計	107	156	103	125	120	124	94	117	136	172	134	135	1523
退院後の支援	介護保険・訪問看護等の関係者との連携	3	3	6	6	0	1	8	2	4	5	0	14	52
	関係医療機関・施設との連携調整	13	8	10	19	17	15	5	10	10	12	21	26	166
	その他	2	4	2	2	1	3	7	0	0	0	1	0	22
	小計	18	15	18	27	18	19	20	12	14	17	22	40	240
その他	他の医療機関への検査・診療の手続き	34	37	46	48	43	25	33	32	16	32	41	41	428
	その他	54	48	43	15	14	21	24	13	12	20	15	13	292
	小計	88	85	89	63	57	46	57	45	28	52	56	54	720
総計		592	720	630	611	573	481	631	592	607	644	668	761	7510

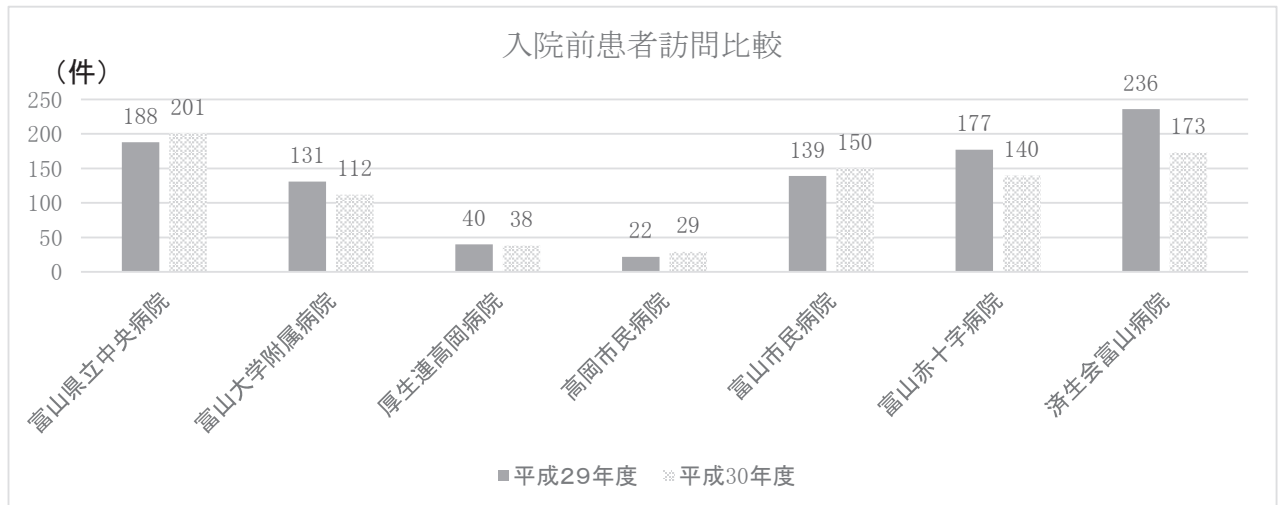
①退院支援カンファレンス実施件数(件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
3階病棟	15	18	12	19	23	19	14	21	22	12	15	14	204
4階病棟	17	18	11	18	23	16	13	18	18	13	16	22	203
5階病棟	18	26	30	18	18	13	30	27	23	17	22	20	262
こども棟	5	0	4	4	3	0	1	2	4	2	4	2	31
療養介護				16	2	0	1	0	1	0	0	2	22
合計	55	62	57	75	69	48	59	68	68	44	57	60	722

療養介護棟は 7 月から開始

②入院前患者訪問数(件)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
富山県立中央病院	15	21	22	17	16	9	18	22	15	16	16	14	201
富山大学附属病院	13	13	3	3	2	2	20	16	6	12	17	5	112
厚生連高岡病院	3	4	0	2	1	3	2	7	2	4	4	6	38
高岡市民病院	5	4	3	1	0	2	0	0	2	1	8	3	29
富山市民病院	7	19	13	18	10	8	12	9	4	22	8	20	150
富山赤十字病院	7	12	14	5	6	8	14	15	10	18	20	11	140
済生会富山病院	13	12	28	12	9	4	13	17	8	19	25	13	173
合計	63	85	83	58	44	36	79	86	47	92	98	72	843



3)回復期リハビリテーション病棟 入院患者状況

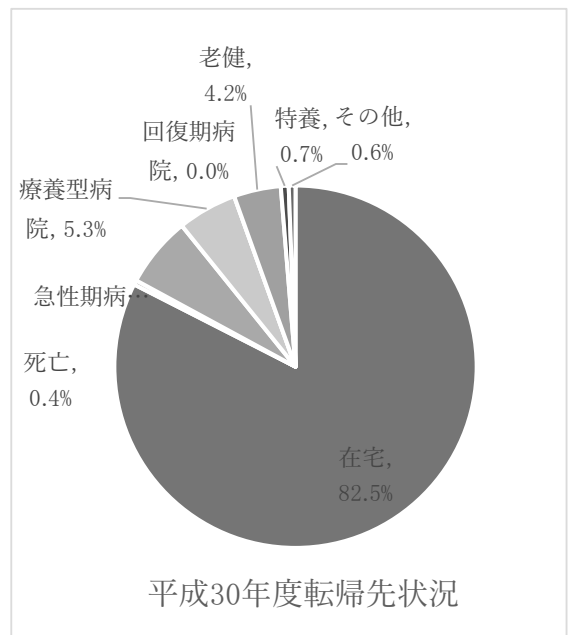
3 階 病 棟	①日常生活機能評価(30%以上)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
	新入院患者数	18	19	16	29	22	25	10	21	13	18	17	19	18.9
	10点以上	7	6	5	10	12	9	6	8	6	8	7	7	7.6
	入院率(1月)	38.9	31.6	31.3	34.5	54.5	36	60	38.1	46.2	44.4	41.2	36.8	41.1
	②重症患者改善率(30%以上)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
	入院時重症患者数	2	6	4	10	7	6	4	9	6	8	5	7	6.2
	4点以上改善した患者数	1	5	4	8	5	5	3	8	4	5	4	6	4.8
	重症患者改善率	50	83.3	100	80	71.4	83.3	75	88.9	66.7	62.5	80	85.7	77.2
	③在宅復帰率(70%以上)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
	新退院患者数	16	17	16	21	24	18	11	18	20	15	18	17	17.6
	在宅退院患者数	14	15	16	18	22	15	11	15	17	9	15	13	15
	在宅復帰率(1月)	87.5	88.2	100	85.7	91.7	83.3	100	83.3	85	60	83.3	76.5	85.3
	④平均在院日数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
		78.6	85.9	70	94.1	59.4	70	65.2	66.7	74.4	81.7	74.4	72.7	74.4

4 階 病 棟	①日常生活機能評価(30%以上)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
	新入院患者数	16	21	18	16	21	16	12	21	15	19	19	21	17.9
	10点以上	5	7	6	8	7	4	5	8	5	7	8	7	6.4
	入院率(1月)	31.3	33.3	33.3	50	33.3	25	41.7	38.1	33.3	36.8	42.1	33.3	96
	②重症患者改善率(30%以上)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
	入院時重症患者数	5	4	7	6	8	4	3	10	2	5	5	10	5.8
	4点以上改善した患者数	5	3	5	4	6	3	3	8	2	4	3	5	4.3
	重症患者改善率	100	75	71.4	66.7	75	75	100	80	100	80	60	50	77.8
	③在宅復帰率(70%以上)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
	新退院患者数	11	17	16	16	21	13	12	22	15	15	17	20	16.3
	在宅退院患者数	10	15	11	13	19	12	10	17	14	13	16	18	14
	在宅復帰率(1月)	90.9	88.2	68.8	81.3	90.5	92.3	83.3	77.3	93.3	86.7	94.1	90	86.4
	④平均在院日数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
		74	74.6	113	87.7	68.1	75.3	75	83.2	86.5	79.7	61.7	74.1	79.4

4)平成 30 年度 退院患者状況(人)

退院患者の転帰先状況														
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
退院患者数		83	89	82	96	116	83	83	92	88	78	87	103	1080
在宅	在宅	66	72	68	81	93	72	73	76	80	62	68	80	891
	死亡	1	0	0	0	0	1	0	1	0	0	1	1	5
転院	急性期病院	9	3	5	6	12	6	3	2	5	3	6	8	68
	療養型病院	2	9	4	6	5	2	1	8	1	4	5	10	57
	回復期病院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
施設	老健	5	4	5	3	5	2	3	4	2	6	3	3	45
	特養	0	1	0	0	1	0	2	1	0	0	2	1	8
	その他	0	0	0	0	0	0	1	0	0	3	2	0	6

転帰先		平成29年度	平成30年度
在宅	在宅	867	891
	死亡	2	5
転院	急性期病院	53	68
	療養型病院	43	57
	回復期病院	3	0
施設	老健	35	45
	特養	3	8
	その他	8	6
合計		1014	1080



5. 地域連携パス検討会及び勉強会に関すること

1) 「骨折ネットワークとやま」の参加状況 開催:年3回

年 月 日	開催場所	担当病院名	職種・参加者	検 討 内 容	備 考
第1回目 2018年6月25日 18:30～19:00	済生会富山病院	済生会富山病院	医 師 3 名 看護師 4 名 P T 1 名 S W 5 名 薬剤師 1 名	1 骨折ネットワークとやま事務局代表挨拶:橋本 二美男院長 2 「とやま大腿骨頸部・転子部骨折地域連携パス」の運用状況 理学療法士 朝日 信裕 3 各施設からのご意見の検討 4 講演「2017 年における当院の大腿骨近位部骨折の現状」 富山県立中央病院 整形外科医長 船木 清信 先生 次回当番の選出:富山市民病院	資料回覧
第2回目 2018年10月17日 18:30～20:00	富山市民病院	富山市民病院	医 師 3 名 看護師 2 名 P T 3 名 S W 2 名 薬剤師 1 名	1 骨折ネットワークとやま事務局代表挨拶:橋本 二美男院長 2 「とやま大腿骨頸部・転子部骨折地域連携パス」の運用状況 理学療法士 秋行 恵美 3 各施設からのご意見の検討 4 講演「高齢者大腿骨近位部骨折患者に関する二次骨折予防と 骨粗鬆症リエンササービス」 富山市民病院 整形外科病棟 副看護師長 犬嶋博美 先生 次回当番の選出:富山西総合病院	資料回覧
第3回目 2019年1月22日 18:30～20:00	富山赤十字病院	富山赤十字病院	医 師 3 名 看護師 4 名 P T 5 名 S W 2 名 薬剤師 1 名	1 骨折ネットワークとやま事務局代表挨拶:橋本 二美男院長 2 「とやま大腿骨頸部・転子部骨折地域連携パス」の運用状況 理学療法士 川村 恵美 3 各施設からのご意見の検討 4 講演「当院における非定型大腿骨骨折の経験」 富山赤十字病院 整形外科 田村 崇 先生 回りの当番の選出:済生会富山病院	資料回覧

注)H22 年度より「骨折ネットワークとやま世話人会」の事務局を当院が担当

2) 「富山脳卒中地域連携の会」の参加状況

開催:年3回

年 月 日	開催場所	担当病院名	職種・参加者	検 討 内 容	備 考
第1回目 2018 年 6 月 27 日 18:30～20:15	富山赤十字 専門学校	富山赤十字病院	医 師 3 名 看護師 19 名 P T 1 名 S W 3 名	1 富山脳卒中地域連携パスの使用状況と診療報酬加算状況の報告 2 各施設からの提出事項の検討 3 その他 4 特別講演 「どうする？脳卒中後の困ったコミュニケーション」 十文字学園女子大学 人間生活学部 児童教育科准教授 言語聴覚士 高岩 亜輝子	資料回覧
第2回目 2018 年 10 月 24 日 18:30～20:00	富山県リハビリデー ション病院こども支 援センター	富山県リハビリデー ション病院こども支 援センター	医 師 4 名 看護師 9 名 P T 11 名 O T 8 名 S T 10 名 S W 11 名 心理士 1 名 事務 1 名	1 富山脳卒中地域連携パスの使用状況報告と診療報酬加算状況の報告 2 各施設からの提出事項の検討 3 その他 4 特別講演 「富山県高次脳機能障害支援センターの取り組み～伴走～」 富山県高次脳機能障害支援センター 支援コーディネーター 水 和 佳子(心理士) 支援コーディネーター 山本 浩二(MSW) 富山県高次脳機能障害支援センター長 野村 忠男(リハビリ科医師)	資料回覧
第 3 回目 2019 年 3 月 7 日 18:30～20:00	済生会富山病院	済生会富山病院	医 師 1 名 看護師 2 名 P T 1 名 S W 3 名	1 富山脳卒中地域連携パスの使用状況報告と診療報酬加算状況の報告 2 各施設からの提出事項の検討 3 その他 4 特別講演 「地域診断と実践～地域包括ケアとデータヘルス～」 富山県新川厚生センター(兼)中部厚生センター 所長 大江 浩	資料回覧

注)平成 27 年度より当院も当番病院を担当している。

3)脳卒中連携合同勉強会の開催状況

参加病院: 富山県リハビリテーション病院・こども支援センター、済生会富山病院、アルペンリハビリテーション病院、富山協立病院、かみいち総合病院、富山西リハビリテーション病院、富山西総合病院

開催日時: 毎月第3木曜日 18時30分～ 持ち回りで担当 開催回数: 7回 (平成 29 年 6 月より 1 回/2 ケ月に変更) 注)平成19年～開催

年 月 日	開催病院名	内 容 等	参加人数 (当院)	備 考
第 1 回目 2018 年 4 月 19 日	富山協立病院	1 症例検討 「臨床倫理 4 分割法を使ってみよう」 ～患者・家族の思いに寄り添い在宅復帰につなげた一症例～ 2 情報交換	2 名	
第 2 回目 2018 年 6 月 21 日	かみいち総合病院	1 演題発表 「自動車運転再開に向けての支援」～現状と当院の取り組み 発表者: かみいち総合病院 作業療法士 能登 健司 2 情報交換	6 名	
第 3 回目 2018 年 8 月 23 日	済生会富山病院	1 症例検討 「lateropulsion を呈した症例」 発表者: 済生会富山病院 作業療法士 護摩堂 秀之助 理学療法士 織田 洋輔 2 情報交換	5 名	
第 4 回目 2018 年 11 月 1 日	富山県リハビリテーション病院・こども支援センター	1 症例検討 テーマ「脳出血を発症したアルツハイマー型認知症のある患者の退院に向けた援助」 発表者: 富山県リハビリテーション病院 看護師 2 情報交換	42 名	
第 5 回目 2018 年 12 月 20 日	アルペンリハビリテーション病院	1 症例検討 テーマ「脳卒中患者の就労支援を考える」 発表者: アルペンリハビリテーション病院 OT 2 情報交換	7 名	

第6回目 2019年2月21日	富山西リハビリテーション病院	1 症例検討 テーマ「重度左片麻痺・高次脳機能障害を呈した症例 ～転棟・退院後の生活の検討～」 発表者：富山西リハビリテーション病院 看護師	10名	
		2 情報交換		

6. 富山県難病医療連絡協議会及び研修会に関すること

年月日	開催場所	職種・参加者	検討内容と研修内容	備考
2018年11月30日 18:00～18:50	ボルフアートとやま	医師：井上 雄吉 看護師：中市 かおり	<難病医療連絡協議会> 1 協議会議長あいさつ 2 平成29年度議事録の確認 3 名簿の確認等について 4 会長の職務代理について 5 難病医療支援室の業務と実績について 6 富山県の難病対策の概要について 7 富山県難病相談・支援センターの概要 8 質疑応答 9 その他 <難病医療従事者研修会> 演題発表 「パーキンソン病患者のためのデイサービス地球の子の活動について」 講師 デイサービス地球の子代表 中川美佐子	
19:00～20:15				

第14節 通所療育課

通所療育課では、医療型児童発達支援センター、(福祉型)児童発達支援センター、保育所等訪問支援事業、児童発達支援事業、放課後等デイサービス、生活介護、指定障害児相談支援事業(高志福祉相談センター にこっと)の7つの障害福祉サービス業務に携わっています。また、在宅生活推進部療育支援科で取り組んでいる(県委託)障害児等療育支援事業及び富山県発達障害者支援センター「ほっぷ」の相談業務等の一部にも携わっています。30年度は保育士12名(内臨任1名)で運営しました。

保育を進めていくにあたっては、それぞれの家族の状況や思いを確認し、個々に生活支援計画書を作成し、家族に寄り添いながら支援しています。近年は複数の障害福祉サービスや事業所を併用して地域生活を継続している利用者が増えてきたことから、地域の関係機関と連携した支援がますます必要となっています。

本年度より、「富山県児童発達福祉法に基づく指定通所支援の事業等の人員、設備及び運営に関する基準等を定める条例」の第27条の規定により、障害児通所支援に係る自己評価結果等公表を行いました。

「発達支援」「家族支援」「地域支援」のキーワードを柱に、利用者が安心して地域生活を送ることができるよう支援の充実に努めています。

1 医療型児童発達支援センター及び(福祉型)児童発達支援センター

(1) 業務概要

事業	医療型児童発達支援センター	(福祉型)児童発達支援センター
対象	就学前の肢体不自由児、重症心身障害児、聴覚障害児、知的障害児、発達障害児等	
スタッフ	医師、看護師、各療法士、児童発達管理責任者、保育士、児童指導員、心理判定員、栄養士	
サービス時間	月～金曜日 9:00～16:40 週1～5日の親子通園 預かりサービス、緊急一時保護	
目的	子どもの全般的な発達の促進と保護者支援	
定員	40名	30名

(2) 業務実績

年齢、発達段階、運動機能等に考慮して5グループに分け、保育指針に準じて保育を展開しています。各担当者が一人一人の障害の特性や発達段階等を考慮し、主治医を始め多職種と連携を図りながら保育を行っています。保育活動の中には、身体測定や誕生会、七夕会、クリスマス会等の行事を取り入れています。また、レスパイトや家族の緊急な都合がある際に、預かりサービス及び緊急一時保護による育児支援や家庭支援も行っています。

近年はセンターと保育所や他の障害福祉サービス事業所等を併行利用する児(全契約児の70%)が増えています。自閉症スペクトラム障害等の発達障害のある児童には、統合先の園生活が円滑に送るためのステップとなるよう、小集団のグループ活動を行っています。利用

回数は、併行利用や重症心身障害児の体調等により、週 1～2 回の利用が増加しています。

平成30年度 医療型・(福祉型)児童発達支援センターの月別利用状況

①月別契約児数（初日在籍数）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
医療型 児童発達支援センター	肢体不自由児	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	重心児	2	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
(福祉型) 児童発達支援センター	主たる障害が難聴	16	16	16	16	16	16	14	14	14	14	14	14
	主たる障害が難聴以外	33	36	36	41	42	43	44	44	44	45	47	49
	重心児	1	1	1	2	2	3	3	3	3	2	2	2
合 計		53	56	56	62	63	65	64	64	64	64	66	68

②月別の利用人数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開所日		20	21	21	21	23	18	22	21	19	19	19	20	244
医療型 児童発達支援センター	肢体不自由児	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8
	重心児	18	23	25	25	23	24	26	25	24	27	25	30	295
(福祉型) 児童発達支援センター	主たる障害が難聴	61	59	61	59	52	46	60	53	51	37	49	46	634
	主たる障害が難聴以外	234	272	277	327	303	269	329	311	286	285	311	326	3,530
	重心児	5	7	13	12	13	9	8	9	8	8	5	12	109
合 計		326	361	376	423	391	348	423	398	369	357	390	414	4,576

③預かりサービス及び緊急一時保護の実績数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
利用人数	0	0	2	0	1	1	1	2	4	2	1	0	14

(6/1開始)

*1～3月は緊急一時保護のみ

2 児童発達支援事業

(1) 業務概要

対 象	就学前の発達障害等と診断された児童
スタッフ	児童発達管理責任者、保育士、児童指導員
サービス時間	月～金曜 9:30～11:00 もしくは 14:30～16:00 月 1～2 日
目 的	小集団活動を通して社会性やコミュニケーション力の発達支援と保護者支援
定 員	10 名

(2) 業務実績

発達障害のある児童に社会性・コミュニケーション力の向上を図るため、小集団のグループ活動を行っています。集団活動を楽しめるように特性をふまえた活動内容と関わりに配慮し、教材を工夫しています。また、保育士が媒介し友達との円滑な関係作りを支援しています。

毎回活動前後には目的や関わり方について、家族と意見交換しています。年 2 回座談会を開催し、子育ての悩みを共有する場を設けたり、就学などの情報を家族に提供しています。また、必要に応じて保育所・幼稚園等と連携を行っています。

30 年度は年長児教室を 7 教室、3～5 歳児の知的障害を併存した児童を対象とした教室を 4 教室実施しました。

平成30年度 児童発達支援事業の月別利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
契約児数	62	62	62	62	62	62	62	61	61	61	61	61	
実施回数	11	19	22	22	22	21	22	20	22	21	21	21	244
利用人数	58	97	112	110	106	96	105	96	104	95	91	105	1,175

3 保育所等訪問支援事業

(1) 業務概要

対 象	集団生活を営む施設（保育所・幼稚園等）に通う障害児
スタッフ	児童発達管理責任者、保育士、各療法士など
サービス時間	月～金曜日、月 2 日まで
目 的	集団生活への適応を促すため、専門的な支援等を行う
定 員	なし

(2) 業務実績

当センターの保育士や療法士等が保育所や幼稚園等に訪問し、お子さんが集団生活に適應できるよう、家族や所属施設の担当職員からの相談に応じ、アドバイスを行っています。

本事業は児童発達支援センターと保育所・幼稚園等と併行利用しているお子さんを対象に行い、契約期間は 1 年としています。お子さんの現状を家族から聞き取り、所属施設と適宜連絡を取りながら、日程や訪問回数を調整して行っています。

環境によってお子さんの様子に相違がある場合があります。本事業を通じてお子さんの現状を共有し、発達支援及び家族支援、地域支援していくことの重要性を改めて認識しています。

平成30年度 保育所等訪問支援の月別利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
契約児数	8	9	9	8	8	8	8	8	8	8	8	8	
実施回数	0	2	0	4	3	0	2	5	1	0	8	0	25

4 放課後等デイサービス及び生活介護

(1) 業務概要

	放課後等デイサービス	生活介護
対 象	重症心身障害児 (小学1年～高校3年)	重症心身障害者 (支援区分3～6の方)
スタッフ	医師、看護師、児童発達管理責任者、保育士、機能訓練担当	
サービス時間	月～金曜日 9:00～16:45	
目 的	授業の終了後又は学校の休業日に、生活能力の向上や社会との交流の促進等の支援。日常生活上の支援、創作的活動等の援助。	
定員	5名	

(2) 業務実績

平成28年1月より、放課後等デイサービス事業と生活介護事業の多機能型として実施しています。支援スタッフは主に保育士と看護師ですが、医療的ケアが必要な利用者が増えているため、医師の診察後利用開始し連携を密にしながら、健康管理や日常生活介護、その他の日中活動を支援しています。

当センターと隣接している富山県立高志支援学校の生徒が利用する場合のみ、学校まで迎えに行くサービスを行っているため、放課後等デイサービスの利用数は増加しています。利用児者は、当センターと地域の事業所と併用しながらの利用となっています。

平成30年度 生活介護・放課後等デイサービス事業の月別利用状況

①月別契約者数（初日在籍数）

*（ ）は医ケアが必要な利用者の内数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
生活介護	6(4)	6(4)	6(4)	6(4)	6(4)	6(4)	6(4)	6(4)	6(4)	6(4)	6(4)	6(4)
放課後等 デイサービス	肢体不自由児	6(4)	10(4)	7(4)	7(2)	7(2)	7(2)	7(2)	7(2)	7(2)	7(2)	6(2)
	重心児	6(3)	7(4)	10(6)	10(6)	10(6)	10(6)	10(6)	10(6)	10(6)	10(6)	10(5)
合計	18(11)	23(12)	23(12)	23(12)	23(12)	23(12)	23(12)	23(12)	23(12)	23(12)	23(12)	22(11)

②月別の利用人数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
開所日	20	21	21	21	23	18	22	21	19	19	19	20	244
生活介護	10	9	10	8	8	11	10	8	5	9	8	8	104
放課後等 デイサービス	肢体不自由児	23	32	19	24	19	16	26	23	23	22	20	264
	重心児	14	14	24	19	21	25	27	28	26	29	25	279
合計	47	55	53	51	48	52	63	59	54	60	53	52	647

③医ケアが必要な利用者の人数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
生活介護	8	6	7	5	5	6	7	6	3	7	5	4	69
放課後等 デイサービス	肢体不自由児	7	9	3	4	2	4	3	3	2	2	4	44
	重心児	4	6	7	6	4	11	14	12	15	8	7	105
合計	19	21	17	15	11	18	25	21	17	24	15	15	218

5 指定障害児相談支援事業（高志福祉相談センター にこっと）

（１）業務概要

対 象	身体・知的・精神（発達）障害のある児童とその家族
スタッフ	相談支援専門員
サービス時間	9:00 ～ 16:00
目 的	生活上の相談や障害福祉サービス利用のための相談及び障害児支援利用計画の作成

（２）業務実績

利用者の心身の状況、その置かれている環境、当該児又は家族の通所支援に関する意向等を勘案し、障害児支援利用計画を作成します。定期的にモニタリングを実施し、計画の検証や見直しを行いながら相談支援を行います。相談支援業務は専任の相談支援専門員とともに保育士（通所 8 名、入所 4 名）が兼務で行っています。

近年、児童においても複数の障害福祉サービスや事業所を併用して、地域生活を継続する利用者が増えていることから、計画作成の折にはサービスの利用量の確認や調整など、センター内の担当者はもちろん、他機関との連携がますます必要となっています。

また、市町村毎にモニタリング時期や提出書類に相違があり、随時確認しながら計画作成にあたっています。

平成30年度 指定障害児相談支援事業の月別利用状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
契約児数	98	100	102	105	106	106	106	105	106	108	108	126	
計画相談	20	5	2	4	6	3	6	4	6	4	3	43	106
継続支援	30	33	33	7	5	72	11	4	8	2	7	27	239
相談件数	61	74	74	25	16	104	63	14	19	13	20	161	644

6 実習生の受入れ

学校名	人数	期間
富山短期大学 1 年	1 名	平成 30 年 8 月 7 日～8 月 8 日
新潟県立大学 4 年	1 名	平成 30 年 8 月 20 日～8 月 31 日
金城大学 2 年	1 名	平成 30 年 9 月 3 日～9 月 14 日
富山国際大学 2 年	1 名	平成 30 年 11 月 5 日～11 月 16 日

7 生活体験の受入れ

学校名	人数	期間
富山総合支援学校 3 年	1 名	平成 30 年 6 月 18 日
高志支援学校 2 年	1 名	平成 30 年 11 月 20 日

8 研修

(1) 県外研修

開催日	研修会名	開催地	参加者
30.11.13 ～11.16	第54回肢体不自由児・重症障害児(者)等療育職員講習会	東京	小宮路
30.1.29 ～2.2	第50回 幼児通園療育職員講習会	東京	浦田
31.2.22 ～2.23	全国児童発達支援協議会 第10回 全国施設管理者等研修会	東京	銅

(2) 県内研修

開催日	研修会名	開催地	参加者
30.5.3	富山県立しらとり支援学校 学校説明会	富山市	横川
30.6.7	富山県立高岡聴覚総合支援学校 平成30年度第1回きこえとことばの研修会	高岡市	横川
30.8.24	富山県立高岡聴覚総合支援学校 平成30年度第2回きこえとことばの研修会	高岡市	横川
30.6.28 ～6.29	全国職員研修会	富山市	浅井
30.9.18 30.11.6	子ども発達支援者支援力向上セミナー ① 子ども発達支援者支援力向上セミナー ②	富山市	浦田
30.10.4 31.1.31	平成30年度障害児通所支援事業者、保健師、保育士のための医療的ケア 研修会	富山市	小林 小宮路
30.10.12 30.10.6 30.1.31	平成30年度富山県相談従事者現任研修	富山市	荒井
30.11.7 30.12.13 ～12.14	平成30年度児童発達支援管理責任者研修	富山市	木立

(3) 課内研修

開催日	研修会名	形態	担当者
5/30	通園療育における家族支援	伝達研修	浦田
	富山県立しらとり支援学校説明会	伝達研修	横川
8/6	全国職員研修会	伝達研修	浅井
8/23	第1回「きこえ」「ことば」の研修会	伝達研修	横川
10/26	第2回「きこえ」「ことば」の研修会	伝達研修	横川
	発達障害児の読み書き支援	伝達研修	荒井
10/29	保護者サロンについて	報告	木立
12/2	こども発達支援者支援力向上セミナー ～相談面接の進め方、ムーブメント教育療法の活用	伝達研修	浦田
	第30回富山県保育研究大会	伝達研修	木立

12/4	心理検査ってなあに？～幼児・学童期編	伝達研修	藤巻
	感染対策研修～嘔吐物の処理について	報告・実践	横川
1/29	第 54 回肢体不自由児・重症障害児（者）等療育職員講習会～スポーツレクリエーション活動	伝達研修 教材研究	小宮路
2/14	第 54 回肢体不自由児・重症障害児（者）等療育職員講習会～障害児者におけるリハビリの日常生活への応用	伝達研修 実技	小宮路
	医療的ケア児研修会	伝達研修	小林

第 15 節 入所療育課

1 業務概要

こども支援センターは児童福祉法による施設であり、また医療法による病院です。

医師、看護師、療法士、保育士等がチーム・アプローチのもと入所児の支援にあたっています。

こども支援センターでは脳性麻痺、先天性異常、外傷、その他の病気で四肢や体幹の機能に障害のある児童が入所して、整形外科的及び小児神経科的治療を受け、同時に生活指導によって、将来の自立に必要な身体と社会性を培うことを目的としています。

児童の成長・発達にとって家庭は欠かすことのできない人間形成の基本的な場です。治療のため、入所している児童にとってこども支援センターは家庭に代わる「生活の場」です。そのためには入所児の心理状態を十分に理解し、職員との信頼関係を築いて家庭的な場を提供するように努めています。

また、重度重複障害児への対応、親子入所、短期入所、日中一時支援（レスパイトケア）などのサービスや医療のみの入院も受け入れています。

なお、学校教育法に基づく教育が隣接の県立高志支援学校で受けられるようになっており、連携を密にしています。

近年は地域サービスの充実により、障害児の在宅化が進み、入所児が減少しています。

29 年度からこども棟の増員に向けての取り組みを実施しており、一般入院や短期入所を積極的に受け入れるようにしています。

30 年度は 18 歳時において、医療面又は在宅環境面等の理由により移行が困難な重症心身障害児について、引き続きこども支援センターでの入所ができるように、医療型障害児入所施設と療養介護の指定を同時に受けて一体的な運営ができるようにしました。

2 実施事業

（1）医療型障害児入所施設

① 対象

- ・ 18 歳未満の上肢・下肢又は体幹の機能障害（肢体不自由）及び重度重複障害を持つ児童。
- ・ 児童相談所の支給決定（障害児施設給付費の支給決定）を受けた保護者がこども支援センターと利用契約を結び入所。虐待など家庭状況の問題により上記の契約に該当しない児童については児童相談所が措置により入所。

② 定員

- ・ 療養介護事業所（こども棟）と合わせて 50 名。（重症児 20 名、親子入所 2 名）

（2）療養介護事業所（こども棟）

① 対象

- ・ 重症心身障害者（障害支援区分 5・6）、筋ジストロフィー患者（障害支援区分 5・6）、筋萎縮性側索硬化症（ALS）患者等気管切開を伴う人工呼吸による呼吸管理を行っている者（障害支援区分 5・6）
- ・ 市町村の決定（障害福祉サービスの受給決定）を受け、こども支援センターと利用契約を結び入所。

② 定員

- ・医療型障害児入所施設と合わせて 50 名。

(3) 短期入所・日中一時支援

① 対象

- ・18 歳未満の上肢・下肢又は体幹の機能障害（肢体不自由）及び重度重複障害を持つ児童。
- ・家族の疾病やその他の理由により、居宅において介護を受けることが一時的に困難となった場合や、レスパイト（家族の休養のため）等が対象。

② 短期入所

- ・定員…2 床（ただし、空き病床がある場合は、若干名空床で対応。）
- ・市町村の決定（障害福祉サービスの受給決定）を受け、こども支援センターと利用契約を結び、宿泊を伴う利用。

③ 日中一時支援

- ・利用時間 9 時～16 時 00 分
- ・市町村の決定（日中一時支援事業利用決定）を受け、こども支援センターを日中利用。ただし、重症心身障害児の日中のみの利用は短期入所とみなされます。

(4) 一般入院

一時的な治療目的の医療入院。（医療のみの入院）

3 実績

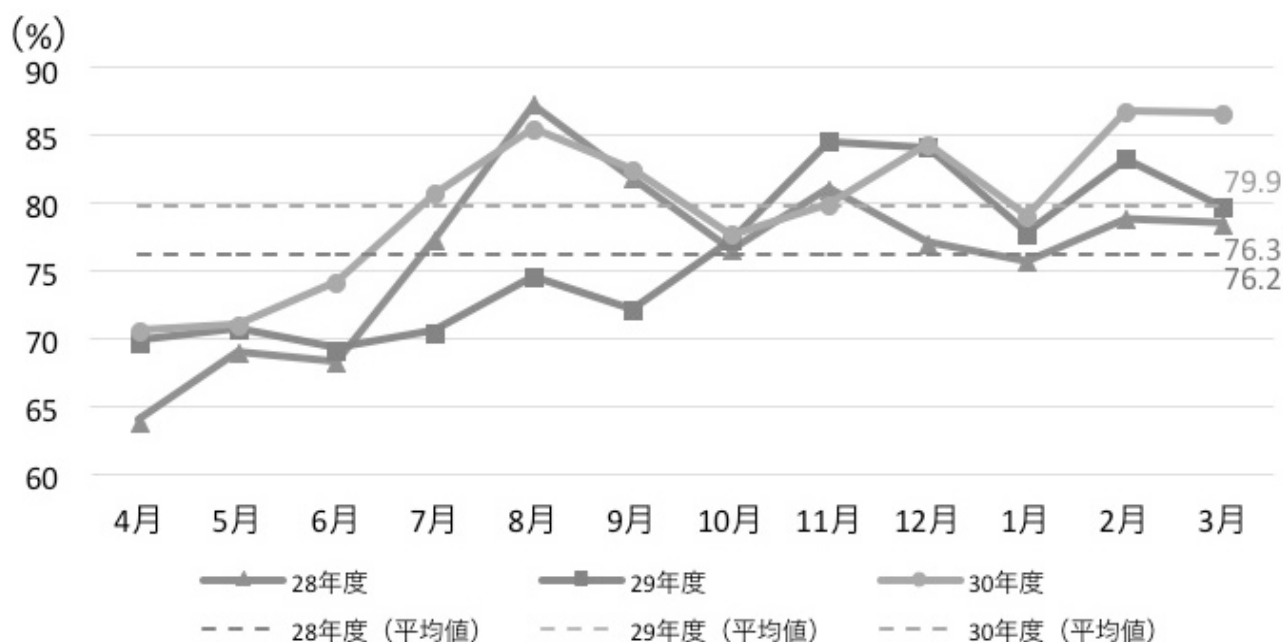


図 1. こども棟稼働率（平成 28 年度～平成 30 年度）

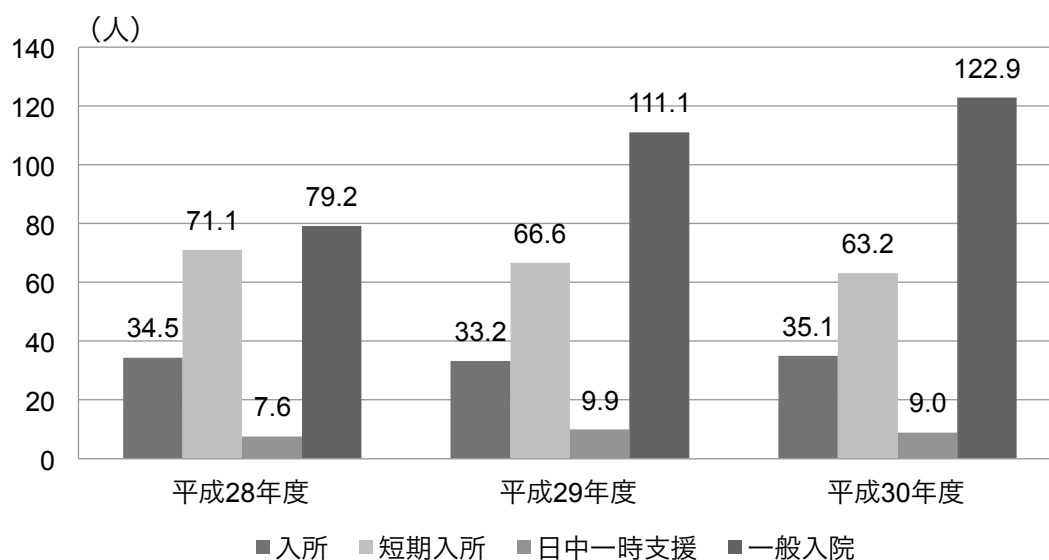


図 2. 各事業の平均利用数（平成 28 年度～平成 30 年度）

4 入所療育課業務

（1）入所児童の生活指導・支援業務

① 目的

児童一人ひとりの障害の状況、発達段階に合わせて、生活指導・支援しながら心身の成長を促し社会性と自立心を養い、児童が将来、人として豊かで健全な社会生活を営めるよう支援しています。

② 療育課の役割

- ・児童一人ひとりの障害の状況、発達レベル、性格特徴、心理状態をふまえた生活指導と発達指導
- ・家庭に軸足を置いた療育の推進（保護者支援）
- ・医療チームとの連携及び併設支援学校との連携
- ・入所、短期入所、日中一時支援事業と地域生活移行支援

③ 職員と勤務

課長、ソーシャルワーカー…日勤

保育士、児童指導員…日勤、時差勤

計 13 名（平成 30 年度）

(2) 余暇指導

児童が家庭から離れて集団生活をしていることから、グループプレイ、変化のあるおやつを企画・実施して社会生活経験の不足を補い、生活の中に変化と潤いを与え豊かで楽しい生活が送れるように支援しています。(なお、重症児のお菓子等は医師、栄養士と相談して取り入れています。)

30年度は夏休みの日課を充実させるために、プール指導の他にクラブ活動を取り入れました。

実施内容（平成30年度）

	行事名	グループ プレイ	手作り・セレクトおやつ
4月		18日 こいのぼりを作ろう	
5月		9日 母の日の製作	28日 ホットケーキ
6月		11日 セタかざりを作ろう	21日 フルーチェ
7月	プール指導	9日 セタのつどい	24日 デコレーションアイス
8月	プール指導 クラブ活動	29日 夏の遊びを楽しもう	29日 かき氷
9月		26日 ハロウィン飾りを作ろう	25日 セレクトおやつ
10月		31日 ハロウィンパーティー	31日 セレクトおやつ
11月		21日 クリスマスの飾りを作ろう	26日 たこ焼き
12月		19日 クリスマス会	
1月		30日 節分会	6日 ベビーカステラ
2月		27日 お雛さま会	14日 セレクトおやつ 27日 お茶会
3月		14日 ホワイトゲームをしよう	13日 セレクトおやつ

*7月28日（土） 保護者会夏祭り

・プール指導

7月25日（水）～8月10日（金）までの内8日間、一人1回～2回実施しました。

・クラブ活動

8月17日（金）～8月30日（木）までの内8日間、①運動、②リラックス、③手芸、④工作、⑤ボードゲームの5種目の活動の中から、1日2種類の活動を午前1時間、午後30分実施しました。

（３）こども会及び当番活動

入所児が、自らの生活に関心を持ち、その中から提案し、自主的に討議することで、生活への意欲、将来の社会適応力の育成を図っています。

また、集団生活を有意義に営み、自主性・参加意欲の高揚の場として捉え、入所児が日課の遂行に参加する当番活動を積極的に推進しています。

① こども会

毎月１回 水曜日 午後４時４５分から

② 当番活動

- ・合掌当番（１週間交替）
- ・朝集会当番（１週間交替）
- ・報知当番（希望児・１ヶ月交替）

こども会月別目標（平成 30 年度）

	目標
４月	・友だちと仲良くしよう
５月	・楽しく体を動かそう
６月	・手洗い、うがいをして元気に過ごそう
７月	・みんなの良い所を見つけよう
８月	・計画を立てて過ごそう
９月	・元気よく挨拶をしよう
１０月	・元気に身体を動かそう ルールを守って仲良く過ごそう
１１月	・時間を守ろう
１２月	・身の回りの整理、整頓をしよう
１月	・友だちや自分の良い所を見つけよう
２月	・手洗い、うがいをして元気に過ごそう
３月	・次の学年の目標をたてよう

（４）幼児保育

入所児の未就学児を対象に「改定保育指針」に準じて一人ひとりの発達段階や障害程度に応じた個別の実施計画を作成し、それに基づいた保育の展開に努めています。また、児童発達支援センター契約保育に参加するなど、こども支援センター内での交流も実施しています。

①クラス名 さくら組

②保育時間 月曜日～金曜日 9:50～14:30

③保育場所 こども支援センター ２階 青色ちゅーりっぷの部屋

④主な行事

誕生会、こどもの日、七夕、ハロウィン、クリスマス、節分、ひなまつり

通所部門の児童発達支援センターとの交流・・・七夕会、クリスマス会及び避難訓練

⑤保育対象児数（平成 30 年度）

*8 月は夏期日課のため保育なし

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
人数	1	1	1	1	1	1	1	1	2	2	3	3

（５）実習生の受け入れ（平成 30 年度）

依頼学校名	人数	期間
富山福祉短期大学 2 年生	2 名	H30. 6. 18～6. 29
高岡第一学園幼稚園教諭・保育士養成所 2 年生	2 名	H30. 8. 27～9. 8
富山短期大学 1 年生	2 名	H31. 2. 12～2. 25
富山大学 3 年生	1 名	H31. 2. 12～2. 25
富山市立北部中学校（14 歳の挑戦）	2 名	H30. 7. 4
富山市立岩瀬中学校（14 歳の挑戦）	2 名	H30. 10. 3
高岡市立志貴野中学校（14 歳の挑戦）	1 名	H30. 10. 24

（６）ボランティア等の受け入れ（平成 30 年度）

ボランティア活動	受け入れ日、回数	団体名、人数等
地域の祭礼慰問	H30. 10. 7	下飯野児童クラブ
保護者会夏祭り	H30. 7. 28	富山短期大学 3 名 高岡第一学園幼稚園教諭・保育士養成所 5 名 富山県立西高等学校 14 名
学習ボランティア	H30. 7. 2～8. 9 計 6 回	教員 0B1 名
絵本の読み聞かせ	H30. 7. 2～8. 30 計 5 回	当病院図書司書 1 名
ギター弾きがたり	H31. 3. 15	パレット 2 名

（７）研修

- ・課内で出張等の伝達講習を実施、こども棟の勉強会に参加。

第 16 節 富山県リハビリテーション支援センター

1 運営概要

平成 13 年 11 月に、富山県より県リハビリテーション支援センターとして指定を受け事業を実施している。

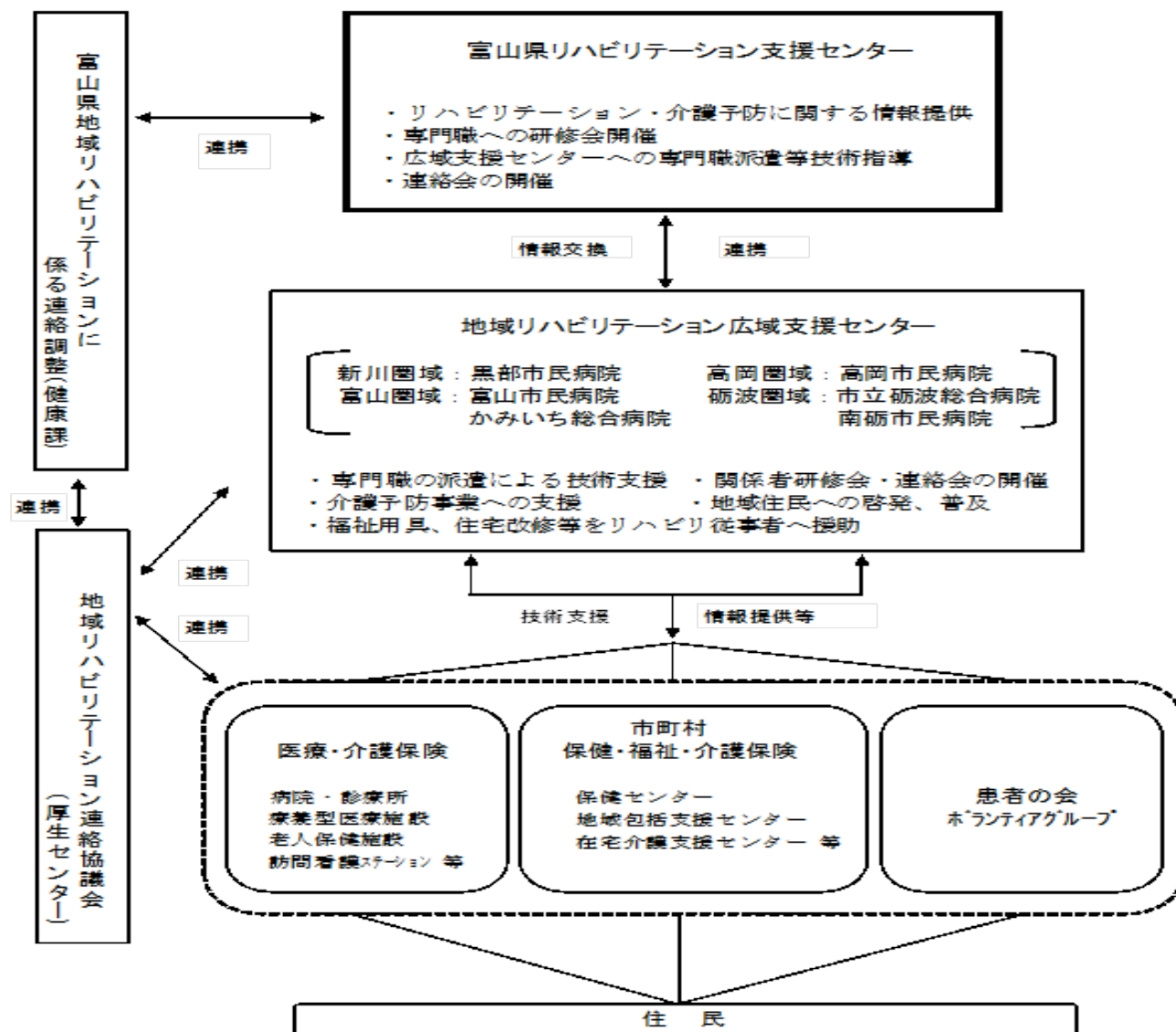
この事業は、高齢者や障害者が、住み慣れた地域において、生涯を通じてできる限り自立した生活を送ることができるよう、地域において保健・医療・福祉の関係機関等の連携を図り、適切なリハビリテーションが円滑に提供される体制を整備していくことを目的としている。

県リハビリテーション支援センターは、地域リハビリテーション体制（図 1）の中心的な役割を果たすとともに、4 医療圏域に 6 医療機関が指定されている地域リハビリテーション広域支援センターと連携しながら、①地域リハビリテーション広域支援センター等への技術的支援 ②リハビリテーション資源の調査・研究 ③リハビリテーションに関する情報提供

④地域リハビリテーションネットワークの構築（関係機関との連携・調整）等の事業を行っている。

②地域リハビリテーション資源の調査・研究の一環で、平成 26 年度より地域での病院-在宅連携の進捗状況と現状の課題について明らかにするために「病院-在宅連携に関する実態調査」を行っている。28 年度からは、各圏域地域リハビリテーション広域支援センターおよび厚生センターとの共同事業としている。本研究は当院の倫理委員会で承認されている。調査での評価指標は、医療・介護連携の課題や対策を考えるうえで有効であると考えている。なお、評価指標の一つである「退院調整実施率」は、富山県総合計画にある政策目標「県民誰もが、保健・医療・福祉の切れ目のない支援や利用者の立場にたった質の高い介護サービス等が受けられること。」を具体的に実践するための参考指標となった。

図 1 富山県地域リハビリテーション支援体制整備事業体系図



2 実績報告

項 目		事業実施 年月日	内容（講師・テーマ等）	備考 （担当・人数等）
1. 地域リハビリテーション広域支援センター等への技術支援		5月9日	富山県福祉カレッジ 介護実習・普及センター	PT 2名
		6月13日	福祉用具・住宅改修研修（基礎研修）	
		7月13日	富山県福祉カレッジ 介護実習・普及センター	リハビリ工学1名、
		7月20日 8月1日	福祉用具・住宅改修研修（福祉用具研修）	PT 1名、OT 2名
2. 地域リハビリテーション資源の調査・研究		6月	【調査報告】 「病院-在宅連携における課題 2014年～16年度ケアマネジャーへの実態調査」 地域リハビリテーション第13巻第6号掲載	平井
		7月4日	「病院-在宅連携実態調査」ワーキンググループ会議	18名
		調査期間 10月1日～ 11月15日	「病院-在宅連携実態調査」 各圏域地区リハビリテーション広域支援センターと共同	
		5月13日	～かかりつけ医のための訪問リハビリテーション診療に関わる研修会～ 参加 主催：日本生活期リハビリテーション医学会	1名
		7月7日～8日	全国地域リハビリテーション合同研修大会 宮城参加	2名
		10月3日～4日	リハビリテーション・ケア合同研究大会 米子 演題発表「病院-在宅連携における課題 2014年～16年度ケアマネジャーへの実態調査」	1名
3. リハビリテーションに関する情報提供	県民公開講座	12月8日	テーマ「くらしの中でこどもの支援を支えよう」 講演 姫路独協大学医療保健学部客員教授 株式会社アニマシオン プレイジム代表 作業療法士 太田 篤志先生 当院紹介 当院の発達支援がめざすもの 医師 PT OT ST 保育士 会場：サンシップとやま 福祉ホール	参加者 190名 後援団体（23か所） 県内の行政・学校・医療・福祉・介護関係団体へ案内。
	リハビリテーションセミナー	3月6日	「災害時におけるリハビリテーション医療職の役割-災害時に生活を支えるためにできること-」 公立羽咋病院リハビリテーション科 士長 理学療法士 北谷正浩先生	富山県リハビリテーション研究懇話会と共催

項 目		事業実施 年月日	内容（講師・テーマ等）	備考 (担当・人数等)
	情報提供	随時	ホームページの活用 ・事業案内 ・病院-在宅連携に関する実態調査結果の公表 ・福祉機器の貸出相談	電話相談 2 件 来所相談 1 件 「伝の心」 「エンチャント文字盤」
4. 関係機関との 連絡調整		5 月 23 日	県リハビリテーション支援センター連絡調整会議 (第 1 回)	23 名参加
		3 月 13 日	県リハビリテーション支援センター連絡調整会議 (第 2 回)	名参加
		10 月 6 日	地域リハビリテーション研修会 講演「生活期リハビリテーション医療の考え方と役割」講師：富山県リハビリテーション病院・こども支援センター 副センター長 浦田 彰夫 事例検討「退院後の社会参加と活動を考える」 進行：相談支援科副科長 平井 誠 会場：富山県総合情報センター 大研修室	参加者 66 名
		9 月 11 日 9 月 19 日	富山老人保健福祉圏域地域リハビリテーション整備 事業打合せ	浦田、平井、廣瀬 帯刀
		9 月 4 日	富山老人保健福祉圏域地域リハビリテーション連絡 協議会 医療・介護ネットワーク推進のための手引 き改訂ワーキング	平井、廣瀬、帯刀
		3 月 1 日	富山老人保健福祉圏域地域リハビリテーション連絡 協議会	浦田、平井、廣瀬、 帯刀
		10 月 4 日	富山県地域リハビリテーション推進会議（第 1 回）	橋本
		1 月 23 日	富山県地域リハビリテーション推進会議（第 2 回）	橋本
		3 月 25 日	富山県地域リハビリテーション推進会議（第 3 回）	橋本
		2 月 15 日	富山県地域リハビリテーション推進会議ワーキング グループ（第 1 回）	浦田、大野
		3 月 13 日	富山県地域リハビリテーション推進会議ワーキング グループ（第 2 回）	浦田、大野
		9 月 5 日	地域リハビリテーション支援体制等に関する関係者 連絡会	浦田、大野
		2 月 1 日	中新川広域行政事務組合 地域ケア個別会議助言者	大野
		10 月 3 日	全国地域リハビリテーション支援事業連絡協議会 都道府県リハビリテーション支援センター会議	平井（代理出 席）
		1 月 11 日	富山県福祉用具・住宅改修支援連絡協議会	山本

項 目	事業実施 年月日	内容（講師・テーマ等）	備考 （担当・人数等）
5. センター内の 会議等	5 月 17 日	運営会議	17 名
	2 月 28 日	運営会議	13 名
	4 回開催	運営小委員会（県民公開講座打合せ）	

第 17 節 富山県高次脳機能障害支援センター

1 設立経緯

平成 13 年から 17 年の国モデル事業の実績を踏まえ、平成 18 年度からの国の高次脳機能障害支援普及事業により、富山県社会福祉総合センターは、富山県から、支援拠点機関の指定を受け、平成 19 年 1 月 15 日富山県高次脳機能障害支援センターを開設した。

2 目的

高次脳機能障害児・者に対する専門的な支援を行うとともに、支援センターを中心とした関係機関とのネットワークの充実を図り、高次脳機能障害児・者に対して適切な支援が提供される体制を整備する事を目的とする。さらに高次脳機能障害に関する実態調査・研究を行うとともに、関係者に対して研修を行い、適切な支援の普及を図る。

3 構成員

支援センター長、副センター長、センター医 3 名。支援コーディネーターは、病院の心理士 2 名、ケースワーカー 4 名、作業療法士 2 名、言語聴覚士 1 名、計 14 名。いずれも兼務。19 年 4 月から嘱託で、支援コーディネーターアシスタント 1 名を置いた。

4 主要業務

上記の目的にあわせて、相談業務を中心に調査・研究、関係機関職員への研修、啓発パンフレットの作成、地域支援ネットワークの構築などを行う。

(1) 相談業務

平成 30 年度の相談実件数は 139 名(内新規相談 48 名)、延べ 1,322 件(内、面談 455 件、電話・メール・支援パス 830 件、同行訪問 37 件)であった。高次脳機能障害の診断・評価(再評価を含む)を希望された方に、当院にて神経心理学的検査、画像検査、運転能力評価などを行い、策定した計画に沿って支援を行った。支援計画策定会議で検討した。平成 29 年 3 月から月 1 回、小児の支援計画策定会議を開始した。

表 1 相談件数

来所実数	相談延数
455	1,415

表 2 支援計画策定会議状況

	実施数	診断評価 検討数	経過報告数
成人	49	47	278
小児	14	12	12

(2) 家族支援

支援センター利用者および富山県リハビリテーション病院・こども支援センター入院患者の家族、その他関係者を対象として、高次脳機能障害についての理解を深めるために、家族教室、ピアサポート事業を実施した。また、平成 28 年 4 月からこどもの家族グループを開始した。

① 家族教室

実施回数：年 5 回(水曜日 14:00～15:15)

延べ参加者数:83 名(参加者:家族 48 名、当事者 17 名、その他 18 名)

回数	日程	内容	参加者
第 1 回	5 月 23 日	講師：高次脳機能障害支援センター医師 内容：「高次脳機能障害とは」(吉野先生)	本人 2 名、家族 15 名、 その他 4 名 (計 21 名)
第 2 回	7 月 25 日	講師：富山県高次脳機能障害支援 コーディネーター山本 Co 池田悦子先生 内容：「就労支援について」	本人 4 名、家族 15 名、そ の他 5 名 (計 21 名)
第 3 回	9 月 26 日	講師：社会保険労務士 内容：「年金制度について」	本人 1 名、家族 5 名、そ の他 5 名 (計 11 名)
第 4 回	11 月 28 日	講師：高次脳機能障害支援センター医師 (吉野先生) 内容：「自動車運転について」	本人 7 名、家族 11 名、そ の他 3 名 (計 21 名)
第 5 回	3 月 27 日	講師：当事者家族 内容：「苦しんだ 20 年間」	本人 3 名、家族 5 名、 その他 1 名、(計 9 名)

②小児の家族グループ(ピア・サポート事業)

実施回数：月 1 回(水曜日 13:30～15:00) 延べ参加者数:37 名

回数	日程	内容	参加者
第 1 回	5 月 16 日	学んでみよう① 「 高次脳機能障害 ～こどもの場合～」	4 名
第 2 回	6 月 20 日	家族が悩んでいること、不安なこと①	5 名
第 3 回	8 月 22 日	家族が悩んでいること、不安なこと② 「～兄弟姉妹児たちへの思い、願い～」 (講師:ハイリハキッズ代表 中村 千穂 さん)	7 名
第 4 回	9 月 19 日	見つけてみよう 「 我が子のいいところ、得意なところ 」	3 名
第 5 回	10 月 17 日	家族が悩んでいること、不安なこと③ 「 性のこと PART1 」 (特別講師:NPO 法人ハッピーウーマンプロジェクト小林 涼子 氏)	4 名
第 6 回	11 月 21 日	家族が悩んでいること、不安なこと④ 「 性のこと PART2 」 (特別講師:NPO 法人ハッピーウーマンプロジェクト小林 涼子 氏)	4 名
第 7 回	12 月 19 日	学んでみよう③ 「 働くことについて 」 (講師:就労移行支援事業所)	2 名
第 8 回	1 月 16 日	語ってみよう① 「 親の思い 家族のこと 」	3 名
第 9 回	2 月 20 日	語ってみよう② 「 わが子の障害のこと 」	3 名
第 10 回	3 月 13 日	考えてみよう 「 将来のこと 」	2 名

③ピアカウンセリング(ピア・サポート事業)

・ピアカウンセリング

日時:月 1 回 場所:富山県リハビリテーション病院・こども支援センター 相談室

対象者:当事者・家族

ピア・サポーター:NPO 法人 脳外傷友の会「高志」会員(家族会)

ファシリテーター:富山大学人文学部准教授 伊藤智樹先生

実施:10 回 延べ 11 名

・ほのぼのぴあサロン(ピア・サポート事業)

日時:隔週 1 回 場所:富山県リハビリテーション病院・こども支援センター 心理療法室

対象者:家族(主に生き生き生活グループ訓練参加者の家族)

実施:11回 延べ17名

(3) より効果的なリハビリテーション方法・支援方法の研究開発
認知グループ訓練の実施

① 働くためのグループ訓練(集団精神療法)

日時:月3回(木曜日) 10:00~11:30

場所:富山県リハビリテーション病院・こども支援センター 相談室 3

対象:高次脳機能障害のある外来患者 4名

内容:就労に必要な力について集団体験を通して気づくことを目的とする

実施:32回 実8名

② いきいき生活グループ訓練(作業療法)

日時:隔週1回(火曜日) 11:00~12:00

場所:富山県リハビリテーション病院・こども支援センター 相談室 3

対象:高次脳機能障害のある入院・外来患者 2~3名

内容:生活に必要な力について集団体験を通して気づくことを目的とする

実施:22回 実2名

(4) 調査・研究

調査研究事業

- ・高次脳機能障害者の自動車運転能力評価に関する研究の継続
- ・高次脳機能障害者の自己認識(PCRS)に関する研究の継続
- ・日本損害保険協会自賠責運用益拠出事業助成金「高次脳機能障害者支援における多職種連携コンサルテーション・事例検討会に関する研究」(平成28~30年度)
- ・高次脳機能障害や発達障害、知的障害の方に対して、それぞれの事業所で行っている生活・就労に関する具体的な工夫や対応方法の支援内容を調査
- ・自賠責運用益拠出事業(平成29~31年度事業)「家族・当事者が、支援される人から支援できる人に育っていくための研究」

(5) 地域支援ネットワーク構築

高次脳機能障害者の就労・生活支援に関する関係者が集い、情報や意見を交換し、支援のあり方を考える機会として就労・生活支援ネットワーク会議を開催。

日時:平成30年12月12日(水) 14:00~16:00 場所:サンシップとやま 研修室 704

参加者:31名

内容:報告「連携ツールの運用状況と課題」

講師:富山県高次脳機能障害支援センター 支援コーディネーター 水和 佳子

演題:「連携ツールのあり方と活用」

講師:徳島大学大学院 医歯薬学研究部 地域医療福祉学分野 教授 白山 靖彦 氏

(6) 普及・啓発活動

- ・県内スーパー、コンビニにポスター、パンフレット配布(5月,12月)
- ・富山県高次脳機能障害支援センターパンフレット、リーフレット、漫画冊子配布、ガイドブックの配布
- ・その他(ホームページの掲載、他機関からの掲載依頼に協力、書籍の貸出)など

(7) 高次脳機能障害講演会・研修会

高次脳機能障害についての理解を深め、支援の輪を広げることを目的として開催した。

①高次脳機能障害 県民公開講座・専門研修会

日時:平成30年10月7日(日) 場所:サンシップとやま 研修室 602・603・604

(10:00~12:00) 専門研修会: 参加者 50名 (対象者:福祉、教育、医療等関係機関職員)

報告:県内福祉施設等実施アンケート結果

報告者:富山県高次脳機能障害支援センター 水和 佳子

①研修「地域での生活を支える①～生活のこと～」

守護 喜代美 氏 障害者支援施設 志貴野ホーム 支援課長

②研修「地域での生活を支える②～就労のこと～」

中塩 映 氏 めひの野園 作業センター ふじなみ 職業指導員

③研修「地域での生活を支える③～制度のこと～」

堀田 啓 氏 富山県リハビリテーション病院・こども支援センター 主任

(13:30～15:30) 県民公開講座：参加者 68 名

演題：「高次脳機能障害者が地域で生きるために～家族・医療・福祉で地域の生活を支える～」

講師：クラブハウスすてつふなな 総括所長 野々垣 睦美 氏

(8) 講師派遣依頼

高次脳機能障害について普及・啓発を図るため、講師依頼等に応じた。

- ・平成 30 年度全国知的障害者更生相談所長協議会初任者研修
- ・平成 30 年度 NPO 法人かもめのノート事務所 障害をもつ方の心理状態と対応に関する講演
- ・平成 30 年度富山高次脳機能障害リハビリテーション講習会(協力)
- ・2018 第 5 回キッズネットワーク宿泊イベント in 東京(スタッフとして協力)
- ・平成 30 年度第 2 回富山脳卒中地域連携の会
- ・かたつむり会 高次脳機能障害とは？～そのかわり方について～
- ・第 12 回 山形県高次脳機能障がい者リハビリテーション講習会「子どもたちが未来を豊かに生きるためにー小児の高次脳機能障害・青年期に至るまでの課題と支援に関する提案ー」
- ・大田区子どもの高次脳機能障がい講演会「高次脳機能障がいのある子どもの支援～ライフステージをふまえた家族支援～」
- ・平成 30 年度島根県高次脳機能障がい支援者研修会「子どもたちが未来を豊かに生きるためにー小児の高次脳機能障害・青年期に至るまでの課題と支援に関する提案ー」
- ・長崎県高次脳機能障害支援センターの視察対応
- ・平成 30 年度富山県自立支援協議会専門部会(委員として)
- ・高志キッズ 交流会&セミナー(スタッフとして協力)

(9) 学会発表等

- ・第 55 回日本リハビリテーション医学会学術集会

日程：平成 30 年 6 月 28 日～7 月 1 日 場所：福岡県

演題：「生活」から「就労」へと長期かつシームレスに認知グループ訓練を行った壮年期高次脳機能障害一症例報告ー 発表者：柴田センター医

- ・日本社会学会大会第 91 回大会一般研究報告

日程：平成 30 年度 9 月 15、16 日 場所：甲南大学 岡本キャンパス

演題：「高次脳機能障害の生き難さと支援」 発表者：富山大学 准教授 伊藤 智樹

(10) その他

- ・北陸ブロック連絡協議会(年 1 回)

日時：平成 30 年 8 月 25 日(土)13:00～14:40 場所：石川県

参加者：各県行政機関 3 名、各県支援センター 17 名、専門研修会の講師の先生 1 名 計 21 名

内容：各県活動報告と今後の課題

- ・高次脳機能障害支援センター運営会議(年 1 回)

日時：平成 31 年 3 月 20 日(水)16:00～17:00

場所：富山県リハビリテーション病院・こども支援センター 旧病院 2 階研修室 1

参加者：運営委員 17 名

内容：センター事業の報告、検討。

- ・高次脳機能障害支援センター相談支援体制連携調整会議(年 1 回)

日時：平成 31 年 3 月 6 日(水)14:30～16:00 場所：サンシップとやま 研修室 604

参加者：委員、センター職員 計 19 名

内容：各県活動報告と今後の課題

第 18 節 富山県発達障害者支援センター事業

1 設立経緯

発達障害者支援センター事業は、発達障害を有する障害児（者）に対する支援を総合的に行う地域の拠点として、発達障害児（者）等及びその家族の福祉の向上を図ることを目的に平成 14 年度より国の新規事業として開始された。翌年 7 月に県の委託を受け、富山県発達障害者支援センター「あおぞら」として事業を開始し、平成 28 年度からは「あおぞら」「ありそ」を一元化した「ほっぷ」として新たな体制でスタートした。

2 目的と今後の方向性

発達障害児者の支援は乳幼児期から成人期までのライフステージにまたがる一貫した支援が必要とされており、そのため「本人やその家族が身近な地域で相談や支援が受けられる地域支援体制整備の構築」が強く求められている。センターが一元化されたことにより、第三次支援機関としての位置づけをより明確にし、その支援の在り方を直接支援から市町村や関係機関への間接支援（コンサルテーション、スーパーバイズ等）へと大きく方向転換しているところである。

3 構成員

センター長 1 名、副センター長 1 名（相談員と兼務）、相談員 3 名、発達障害者地域支援マネージャー 2 名（内 1 名はめひの野園で勤務）。※職員 2 名はめひの野園から派遣されている。

4 主要業務

（1）発達障害児者及びその家族に対する相談支援

電話・面接・訪問・その他による助言指導及び情報提供

実支援人数・延支援件数	実支援人数	770 人
	延支援件数	1,462 件

（2）発達障害者に対する就労支援

他機関と連携し就労や地域生活の安定を図るための支援

実支援人数・延支援件数	実支援人数	49 人
	延支援件数	179 件

（3）関係施設及び関係機関に対する普及啓発及び研修

センター主催又は共催で企画した研修	実施回数	48 回
	延参加人数	2,036 人
外部から講師依頼を受けた研修（講師派遣）	実施回数	167 回
	延参加人数	3,937 人

外部への講師派遣内訳

内 訳	実施形式	実施回数	延参加人数
教育関係者を参加対象者としているもの	講義中心	14 回	356 人
	実技中心	0 回	0 人
教育関係者を参加対象者としていないもの	講義中心	94 回	2,443 人
	実技中心	59 回	1,138 人
合 計		167 回	3,937 人

(4) 関係施設・関係機関等の連携

連絡協議会の開催状況	実施回数	24 回
障害者総合福祉法第 89 条協議会等への参加	参加回数	15 回
他の協議会への参加状況	参加回数	70 回

(5) 人材育成

平成 22 年度からはアセスメントツール導入研修とペアレントメンター養成研修を実施し、地域の支援体制整備の構築を目指している。また、県と連携し、保健師・保育士等の人材育成の取り組みも進めている。平成 28 年度からは発達障害支援事業所向け研修会を開始し、地域での支援者を育成することを目的とした研修会を行っている。平成 30 年度は、富山、高岡、新川、砺波の各圏域の自立支援協議会との連携を図りながら、地域のニーズを踏まえた研修会を実施した。このような専門研修を積極的に実施し、地域の中で発達障害支援の中心的役割を担える人材を養成していくことが支援センターの大きな役割であるとする。

これらの研修会での人材育成を通して、今後、地域の支援機関が発達障害支援の中核となり、発達障害児者が地域の中で支援を受けながら自立して安心した生活が送れるような体制の構築に繋がることを期待されている。

※アセスメントツール導入研修、ペアレントメンター養成研修、発達障害支援事業所向け研修は県からの委託事業

(6) その他の主な支援

① 保護者サロンの開催

「保護者同士が発達障害に関する知識や身近な情報を共有しながら情報交換ができる場」として、ほっぷ保護者サロンを開催した。平成 30 年度は幼児期、学齢期、成人期の保護者を対象として計 12 回のサロンを開催し 183 名が参加した。

② ほっぷ支援講座の開催

「発達障害児者を抱える家族や支援を行う関係機関職員が、発達障害の特性や支援方法を理解し学べる場」として、ほっぷ支援講座を開催した。平成 30 年度は乳幼児期から成人期までのライフステージに繋がる話題をテーマとし、計 13 回の講座を開催し 630 名が参加した。

第19節 その他

1 論文

発表者	論 文 題 目	発 表 雑 誌 等
田中 舞・木倉 敏彦	多職種協働でのリハビリテーション栄養アプローチにより、 大学復学に至った一症例 ～作業療法士としての関わり～	作業療法ジャーナル(2018年9月号)
田中 舞 その他	脳血管疾患患者における リハビリテーション栄養診療ガイドライン	リハビリテーション栄養(2018 VOL.2 NO.2)
Mai Tanaka Ryo Momosaki Hidetaka Wakabayashi Toshihiko Kikura Keisuke Maeda	Relationship between nutritional status and improved ADL in individuals with cervical spinal cord injury in a convalescent rehabilitation ward.	Spinal Cord
栗田淳一郎	回復期リハビリテーションにおける排泄自立に向けた多職種協働 カンファレンスー当院での「トイレカンファ」が効果的であった2症 例と職員アンケート調査の報告ー	みんなの理学療法(vol, 31)
高田秀夫, 橋本二美男	3Dプリンター製のmirror imaging modelを使用したplateのpre- bending & MIPO technique ～大腿骨顆上骨折編～	中部整災誌61:279-280, 2018
高田秀夫, 中村琢哉, 橋本 二美男	3Dプリンターを利用した寛骨臼回転骨切りガイドの開発～ modular design PSI～	中部整災誌61:239-240, 2018
高田秀夫, 中村琢哉, 橋本 二美男	3Dプリンターを利用した大腿骨弓状骨切りガイドの開発～3-Step PSI Guide～	中部整災誌61:241-242, 2018
高田秀夫, 中村琢哉, 橋本 二美男, 瀬川武司	3Dプリンターを利用した寛骨臼回転骨切りガイドの開発 ver.3 ～ 大転子切離なし～	中部整災誌61:1177-1178, 2018
高田秀夫, 中村琢哉, 橋本 二美男, 瀬川武司	3Dプリンターを利用した大腿骨前方回転骨切りガイドの開発 ver.3 ～4-Step PSI Guide～	中部整災誌61:1179-1180, 2018
高田秀夫, 池田和夫, 橋本 二美男, 瀬川武司	3Dプリンターを利用したRadiolucent targeting deviceの開発～舟 状骨骨折編～	中部整災誌61:881-882, 2018
高田秀夫	3Dプリンターを使用したradiolucent surgical instrumentsの応用と デザイン例～手術内容に応じてカスタマイズ可能な手術機器～	関節外科 37:1254-1261, 2018
高田秀夫, 中村琢哉	3Dプリンターを利用した寛骨臼回転骨切りガイドの開発ー modular design PSIー	Hip Joint 44:383-385, 2018
高田秀夫, 中村琢哉	3Dプリンターを利用した大腿骨前方回転骨切りガイドの開 発ー3-step PSI guideー	Hip Joint 44:396-399, 2018
高田秀夫, 中村琢哉	3Dプリンターを利用した大腿骨弓状内反骨切りガイドの開 発ー3-step PSI guideー	Hip Joint 44:400-404, 2018
平井誠、野村忠雄、帯刀長 勝、浦田彰夫、山本浩二、 堀田啓、坂本尚子、吉野 修、橋本二美男	病院-在宅連携における課題2014～2016年度ケアマネジャーへ の実態調査	地域リハビリテーション第13巻第6号

2 学会等

発表演者 共同演者	研究課題・発表演題	発表学会等
濱屋あかね	脳卒中を伴う1型糖尿病患児の経腸栄養剤と血糖コントロール	第34回富山県糖尿病懇話会 (平成30年11月24日)
田中 舞・その他	リハビリテーション栄養診療ガイドラインの 紹介と今後の課題	第34回日本静脈経腸栄養学会
田中 舞・木倉 敏彦	OTがNSTで担う役割とは？ ～3事例との関わりを通して～	第9回日本静脈経腸栄養学会 北陸支部学術集会
丸池 駿介	面接により症例・家族の自宅復帰の 不安軽減を図り自宅復帰を繋げた一例	当院平成30年度学術集会
		第33回 回復期リハビリテーション病棟協会 研究大会
伴 祐乃	職業復帰の評価によって 家族の大切さに気付かされた症例	第5回日本臨床作業療法学会
中林亜沙美・佐々井希 佐々木舞・石原早紀子・ 益山央果・経塚静代・吉 野修	当院における自動車運転シミュレータの使用状況と 今後の課題	第18回 富山県作業療法学会
奥村真輝・川原和之 経塚静代	脳卒中後の片麻痺上肢に対してReoGo-Jと MuResolutionを併用した訓練を実施した症例	第18回 富山県作業療法学会
川原和之・浜谷樹	回復期リハビリテーション病院における 脊髄疾患による不全麻痺患者の 住宅改修に関する調査	第33回回復期リハビリテーション病棟協会 研究大会
脊戸勇輝 中林亜沙美・長江和彦 経塚静代	小児期に高次脳機能障害を呈し、 免許取得後に診断を受けた症例への 運転再開支援と課題	第5回運転と作業療法研究会
脊戸勇輝 中林亜沙美・長江和彦 経塚静代・吉野修	当院における自動車運転再開支援と今後の課題 ～事例紹介も踏まえて～	第18回富山県作業療法学会
浜谷 樹	回復期リハビリテーション病院における退院前訪問指導の取 り組みについて ー 当院の現状と課題ー	第23回富山県理学療法学会学術大会
栗田 淳一郎	排泄自立に向けた多職種協働カンファレンスー 当院のトイ レカンファの紹介ー	第23回富山県理学療法学会学術大会
福元 裕人	回復期病棟入院患者における運動維持予測尺度の作成	第55回日本リハビリテーション医学会
	回復期病棟入院患者における運動維持予測尺度の作成ー 共 分散構造分析による検討	第5回日本予防理学療法学会
楠 瑛津子	三次元動作解析装置で歩動作を評価・介入した一症例	第24回富山県理学療法学会学術大会
金谷 智晶	L1破裂骨折による腰痛を訴える症例への多目的な理学療法 アプローチ	第23回富山県理学療法学会学術大会
	床反力作用点と重心の関連性を用いた両立脚立位姿勢制 御評価の検討	第23回日本基礎理学療法学会学術大会
中川 聡美	在宅復帰を目指す脳卒中片麻痺患者の継ぎ手付きPAFO 作成における工夫	第23回富山県理学療法学会学術大会

発表演者 共同演者	研究課題・発表演題	発表学会等
溝口 太仁	機能的電気刺激を用いた足関節背屈操作により、Toe drag が消失した一症例	第55回日本リハビリテーション医学会
	片麻痺患者に対する走動作獲得の治療戦略	第16回日本神経理学療法学会学術集会
	片麻痺患者の転ばない走動作トレーニング	院内学術集会
酒井 丈裕	頸髄不全損傷で座位保持困難な状態から5か月で屋外独歩 自立した一症例	院内学術大会
宮田 真緒	機能的嚥下障害に加え咽喉頭の形態が特異的であったが 座位で経口摂取を獲得した一例	富山県言語聴覚士会 地区勉強会 平成30年6月8日
小竹 麗子	回復期リハビリテーション病院退院後、在宅でSTが介入し完 全側臥位から座位での経口摂取が可能となった一症例	第19回日本言語聴覚学会 平成30年6月22～23日 富山市
平澤 辰憲	バルーン拡張法を用いずにアプローチしたWallenberg症候 群の一例	第19回日本言語聴覚学会 平成30年6月22～23日 富山市
宮田 真緒	機能的嚥下障害に加え咽喉頭の形態が特異的であったが 座位で経口摂取を獲得した一例	第19回日本言語聴覚学会 平成30年6月22～23日 富山市
亀谷 浩史	重度摂食嚥下障害と消化器症状の改善に難渋した脳幹梗 塞の一例	第9回日本静脈経腸栄養学会北陸支部会 平成30年8月18日 福井市
	頸髄損傷例における経口摂取再獲得に向けた病院間連携 ～第1報 回復期リハ病院の立場から～	第24回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会 平成30年9月8～9日 仙台市
宮田 真緒	視神経脊髄炎による球麻痺症状により重度嚥下障害を呈し た一例	第24回日本摂食嚥下リハビリテーション学会学術大会 平成30年9月8～9日 仙台市
森田 鈴世	当院におけるWallenberg症候群による嚥下障害に対する訓 練結果	院内学術集会 平成30年9月29日
亀谷 浩史	摂食嚥下ケア普及の取り組み ～第一報 研修会の現状と課題～	第73回富山県医学会 平成31年1月27日 富山市

発表演者 共同演者	研究課題・発表演題	発表学会等
西部 夏美、松井 直美、 桐山 由利子	当センターにおける作業療法対象児の変化とその対応について	第63回 全国肢体不自由児療育研究大会in福井
中屋さおり 島功補 岡 崎太郎 平澤辰徳 大 野愛美	患者急変時対応シミュレーションを実施して	第18回 富山県公的病院医療安全研究大会
大石 恵理子	小児に対する部分免荷トレッドミル歩行練習の効果について ー I 型糖尿病により出血性脳梗塞後四肢麻痺を呈した症 例ー	第三回富山県リハビリテーション病院・こども支援セン ター学術集会
宮島双葉、船木道、高嶋 尚子、麻生伸	新スクがパスであり、その後補聴が必要になった児の経過に ついて	日本言語聴覚士協会 平成30年度全国学会 平成30 年6月22日、富山市
宮島双葉、船木道、高嶋 尚子、麻生伸	新スクがパスであり、その後補聴が必要になった児の経過に ついて(上記と同内容)	第7回日本小児診療多職種研究会 平成30年11月25 日、北九州市
三歩一枝里子	言語面の遅れが認められた難聴児の発達特性と療育環境 について	富山県聴覚障害研究会 平成30年度第302回 平成 31年2月16日、当院
小林真由子、船木道、高 嶋尚子、倉本崇	SpO2モニターが有効であった呼吸障害を有する児への哺 乳指導の経験	第63回 全国肢体不自由児療育大会 平成31年2月 16日、当院
玉野あかね	課題対応に難渋する自閉症スペクトラム障害児に対して応 用行動分析を用いた訓練経過	富山県言語聴覚士協会 平成30年度第2回発達聴覚 専門部会 平成30年11月10日、当院
高藤美佐子	知的発達・言語発達ともに遅れがみられる自閉症スペクト ラム障害児の訓練について	富山県言語聴覚士協会 平成30年度第3回発達聴覚 専門部会 平成31年2月16日、当院
大島淳一	オフライン機能付きエンチャント文字盤の開発	第33回リハ工学カンファレンスinあつぎ、H30/8/29- 31, 厚木市
荒木 真梨子	認知症者の思いを尊重するための方法の検討	日本老年看護学会 第23回学術集会 平成30年6月23日～24日 福岡県
狩山 栞	看護記録の質向上に向けた取り組み	第49回 日本看護学会 看護管理 学術集会 平成30年8月9日～8月10日 宮城県
荒木 真梨子	高次脳機能障害のある患者へ生活歴を取り入れたことによる 患者と看護師の感情の変化 ～共感に焦点をあてて～	第13回 北陸地区脳神経リハビリテーション看護研究 会 平成30年9月1日 福井県
竹本 愛	昼夜逆転状態であった高齢者の生活リズムを整えた排泄援助 ～多職種でのトイレカンファレンスを通して～	第13回 北陸地区脳神経リハビリテーション看護研究 会 平成30年9月1日 福井県
見田 恵美	呼吸不全を伴う重症心身障害児の在宅支援	第44回 日本重症心身障害学会学術集会 平成30年9月28日～29日 東京都
信永 州洋	看護師の経験年数によるコミュニケーションの違い ～重症心身障がい児短期入所時の情報収集に焦点をあて て～	院内学術集会 平成30年9月29日
加野 亜莉沙	医療依存度の高い神経難病患者が在宅療養を継続できる 要因	院内学術集会 平成30年9月29日
古川 水菜	呼吸ケア導入に消極的だった母親に対する在宅導入に向 けた援助	第63回 全国肢体不自由児療育研究大会 平成30年10月25日～26日 福井県

発表演者 共同演者	研究課題・発表演題	発表学会等
滝下 杏奈	嚥下障害患者の自己効力感を高める心理的援助	第30回 日本リハビリテーション看護学会学術大会 平成30年11月23日～24日 富山県
加野 亜莉沙	医療依存度の高い神経難病患者が在宅療養を継続できる要因	第30回 日本リハビリテーション看護学会学術大会 平成30年11月23日～24日 富山県
森江 楓	認知症患者への看護介入方法の検討 ～認知関連行動アセスメントを用いた振り返り～	第30回 日本リハビリテーション看護学会学術大会 平成30年11月23日～24日 富山県
松本 優子	回復期リハビリテーション病棟における口腔ケアの標準化による看護師の意識・行動の変化	第30回 日本リハビリテーション看護学会学術大会 平成30年11月23日～24日 富山県
信永 州洋	看護師の経験年数によるコミュニケーションの違い ～重症心身障がい児短期入所時の情報収集に焦点をあてて～	第30回 日本リハビリテーション看護学会学術大会 平成30年11月23日～24日 富山県
田中 茜	回復期リハ病棟におけるトイレカンファレンスを通じた排泄へのアプローチ	第30回 日本リハビリテーション看護学会学術大会 平成30年11月23日～24日 富山県
山下 静里奈	重症心身障害児の胃瘻造設と摂食に関する母親の思い	第30回 日本リハビリテーション看護学会学術大会 平成30年11月23日～24日 富山県
南 まゆみ	医療的ケアを受ける児とその家族へのケア ～つながる支援のあり方～ 訪問看護ステーションの立場から	第30回 日本リハビリテーション看護学会学術大会 平成30年11月23日～24日 富山県
下田 春美	回復期リハ病棟におけるトイレカンファレンスを通じた排泄へのアプローチ	第5回 富山県回復期リハビリテーション病棟研究大会 平成31年2月9日 富山県
川岸 朝美	意思疎通困難がある患者が要求を表出できるようになった過程の振り返り～排泄動作自立にむけた看護介入を通して～	第29回 富山県看護研究学会 平成31年2月16日 富山県
青山 貴美子	排尿自立支援チームの活動によるCAUTI率とカテーテル使用比の変化	第34回 日本環境感染学会総会 学術集会 平成31年2月22日～23日 兵庫県
堀田 啓 飯久保 明子	当院こども支援センター(医療型障害児入所施設)におけるにぎわいプランの取り組みについて	第63回全国肢体不自由児療育大会 第3回院内学術集会
藤井千愛 水間 健治	こども棟における余暇活動「グループプレイ」の実践報告	第3回院内学術集会
藤田 杏	当院・当センターにおける心理判定員の働きについて	第3回院内学術集会
浦田彰夫、吉野修、坂本尚子	「脳梗塞回復期に経頭蓋直流電気刺激が有効であった一例」	第45回日本リハビリテーション医学会 北陸地方会 金沢大学付属病院CPDセンターH31.3.2
高田秀夫, 中村琢哉, 橋本二美男, 瀬川武司	3Dプリンターを利用した寛骨臼回転骨切りガイドの開発 ver.3 ～大転子切離なし～	第130回中部日本整形外科学会災害外科学会・学術集会(愛媛)4月20日～21日
高田秀夫, 中村琢哉, 橋本二美男, 瀬川武司	3Dプリンターを利用した大腿骨前方回転骨切りガイドの開発 ver.3 ～4-Step PSI Guide～	第130回中部日本整形外科学会災害外科学会・学術集会(愛媛)4月20日～21日
高田秀夫, 池田和夫, 橋本二美男, 瀬川武司	3Dプリンターを利用したRadiolucent targeting deviceの開発～舟状骨骨折編～	第130回中部日本整形外科学会災害外科学会・学術集会(愛媛)4月20日～21日
高田秀夫, 岡本駿郎, 橋本二美男, 瀬川武司	3Dプリンターで作製したmirroring modelを使用した骨接合術の応用 ー大腿骨顆上骨折編ー	第91回日本整形外科学会学術総会 (神戸)5月24日～27日
高田秀夫, 中村琢哉, 橋本二美男, 瀬川武司	3Dプリンターを利用した大腿骨弓状骨切り術用ガイドの開発ーmulti unit PSIー	第91回日本整形外科学会学術総会 (神戸)5月24日～27日

発表演者 共同演者	研究課題・発表演題	発表学会等
高田秀夫, 橋本二美男, 瀬川武司	3Dプリンターを利用した寛骨臼回転骨切り術用ガイドの開発 —modular design PSI—	第91回日本整形外科学会学術総会 (神戸)5月24日 ～27日
高田秀夫, 橋本二美男, 瀬川武司	3Dプリンターを使ったRadiolucent Langenbeck Retractorの開発	第91回日本整形外科学会学術総会 (神戸)5月24日 ～27日
高田秀夫, 橋本二美男, 瀬川武司	3D printerを利用した手指関節固定装具の開発 - thermoforming technique-	第131回中部日本整形外科災害外科学会・学術集会 (倉敷)10月5日～6日
高田秀夫, 橋本二美男, 瀬川武司	3D printerを利用したradiolucent hohmann retractorの開発 【ver.2】	第131回中部日本整形外科災害外科学会・学術集会 (倉敷)10月5日～6日
高田秀夫, 中村琢哉, 橋 本二美男, 瀬川武司	3D printerを利用した寛骨臼回転骨切りガイドの開発 【ver.4】-simple PSI-	第131回中部日本整形外科災害外科学会・学術集会 (倉敷)10月5日～6日
高田秀夫, 橋本二美男, 瀬川武司	3D-printer を利用したradiolucent hohmann retractor の開 発 -第2 弾-	第33回日本整形外科学会基礎学術集会 (奈良)10 月11日～12日
高田秀夫, 橋本二美男, 瀬川武司	3D-printer を利用したヘバーデン結節用装具の開発 - thermoforming technique-	第33回日本整形外科学会基礎学術集会 (奈良)10 月11日～12日
高田秀夫, 中村琢哉	3Dプリンターを利用した寛骨臼回転骨切りガイドの開発と改 良 ver.4 -simple PSI-	第45回日本股関節学会学術集会 (名古屋)10月26 日～27日
高田秀夫, 中村琢哉	3Dプリンターを利用した大腿骨前方回転骨切りガイドの開発 ver.3 -4-step-PSI-	第44回日本股関節学会学術集会 (東京)10月20日 ～21日
高田秀夫, 中村琢哉	3Dプリンターを利用した大腿骨弓状内反骨切りガイドの開発 ver.2 -2-step PSI-	第44回日本股関節学会学術集会 (東京)10月20日 ～21日
高田秀夫, 中村琢哉	寛骨臼回転骨切り術・大腿骨弓状骨切り術におけるPSIの セット化とクラウドの利用	第44回日本股関節学会学術集会 (東京)10月20日 ～21日
高田秀夫, 中村琢哉	3Dプリンターを利用したpatient specific surgical guideにおけ るデザインの工夫	第13回日本CAOS研究会 (京都)3月7日～8日
平井誠、野村忠雄、帯刀 長勝、浦田彰夫、山本浩 二、堀田啓、坂本尚子、 吉野修、橋本二美男	病院-在宅連携における課題2014～2016年度ケアマネ ジャーへの実態調査	リハビリテーション・ケア合同研究大会 米子 平成30 年10月3日 米子市
平井誠	第4回富山県回復期リハビリテーション病棟研究大会 演題 発表座長	富山県回復期リハビリテーション病棟連絡協議会 平 成31年2月9日 サンシップとやま
木倉敏彦	当院での胃瘻造設患者の予後と術前説明の理解度	第55回日本リハビリテーション医学会 平成30年6月28日 福岡市
木倉敏彦	剥裂軟骨脱臼に伴う高齢嚥下障害患者のリハビリ経験	第24回日本摂食嚥下リハビリテーション学会 平成30年9月8日 仙台市
木倉敏彦	胃切除後・誤嚥性肺炎など複数の問題を抱えたサルコペニ アの一例	リハビリテーション・ケア合同研究大会 平成30年10月4日 米子市
木倉敏彦	嚥下時の頸部回旋を見直すことで経口摂取可能となった脳 梗塞及び左反回神経麻痺の一例	第22回日本病態栄養学会 平成31年1月11日 横浜市
木倉敏彦	体位と投薬の工夫で三食経口摂取となった脳幹出血の一例	第22回日本病態栄養学会 平成31年1月11日 横浜市

発表演者 共同演者	研究課題・発表演題	発 表 学 会 等
木倉敏彦	病態が安定しない時期にTPNとENを併用して栄養状態を改善してリハビリ効果も上がった薬剤性肺炎の一例	第34回日本静脈経腸栄養学会 平成31年2月13日 東京都
富山県リハビリテーション 病院・こども支援センター 糖尿病透析予防チーム ○白田里香 小倉京子 本多圭子 高田厚志 石橋史子 安元楓 高林五月 中川佳奈恵 渡邊裕梨 岩井美滯 浦山信子 盛野千香子	急性期-回復期-在宅と繋ぐ良好な糖尿病管理と在宅支援 に向けて -回復期病院における医療者用『入院管理マニュアル』の活用-	第61回 日本糖尿病学会 2018年5月24日～ 26日 東京
富山県立中央病院 内科 (内分泌・代謝)1) 富山県リハビリテーション 病院・こども支援センター 内科(内分泌・代謝・糖尿病)2) ○圓山泰史1) 白田里香1,2) 加藤健一郎1) 赤堀 弘1)	1型糖尿病患者のさらなるQOL向上のためのCGMを活用した取り組み	第61回 日本糖尿病学会 2018年5月24日～ 26日 東京

_____は発表者

【掲載:所属順】

3 講義・講演・講習等

氏 名	所属	講義担当科目・講演名等	学校名又は主催者名	2019/12/1	学科(学年) 及び対象	期日・期間
宮森加甫子	診療部	発達障害の基礎知識－医学的知識を踏まえて－	ほっぷ	富山県リハビリテーション病院・こども支援センター	保護者及び関係者	H30.5.29
		外来でできるチェックリスト等指標	富山県	富山県医師会館	小児医などの医師	H30.10.24
		発達障害の疑われる児童の事例検討	ルンビニ園	ルンビニ園	ルンビニ園職員	H30.11.29
		学習障害(学童期)の理解	富山県	富山県医師会館	小児医などの医師	H31.2.20
白田里香	診療部	富山県病院薬剤師会学術講演会 糖尿病治療薬について	富山県薬剤師会	富山市	県内薬剤師	H30.4.19
		富山県リハビリテーション病院・こども支援センター 新人職員研修 講義	当院	富山市	院内新人職員	H30.4.20
		平成30年度四ツ葉会特別講演	四ツ葉会	富山県立中央病院	四ツ葉会員	H30.4.21
		富山県北保健福祉センター糖尿病予防教室 糖尿病予防のための基礎知識 ～自分のために、家族のために、地域のために～	富山市厚生部	富山市北保健福祉センター	北保健所管内住民	H30.8.23
		第30回日本リハビリテーション看護学会ランチョンセミナー 糖尿病併発患者へのリハビリテーション 病棟での適切で安全管理と退院支援のために －当院作成「糖尿病管理マニュアル」の紹介と活用－	日本リハビリテーション看護学会	富山市	全国看護師	H30.11.23
木倉敏彦	診療部	老年看護学各論 I	富山県立総合衛生学院	同左	看護科2年	H30.5～7月
		摂食嚥下研修会	北陸の摂食嚥下を支える会	ありそドーム他	県内の医療介護職種	H30.7～12月
		NST専門療法士実施修練研修会	当院NST	当院	専門療法士受験予定者	H30.6.11-15
		脳卒中後の嚥下障害を診る時に必要な視点	石川脳血管障害研究会	石川県地場産業振興センター	医師	H30.7.28
		嚥下障害の介護を考える －少しでも長く安全に食の楽しみを味わうために－	富山市医療介護連携研修会	まちなかケアセンター	医療・介護関係者	H30.8.22
		TNT研修会	TNT協議会	福井大学	医師	H30.9.23
		摂食嚥下認定看護師養成課程	富山県看護協会	富山県看護協会	認定看護師受験予定者	h30.10.15-11.26
		在宅療法継続中の処置と管理	富山県消防学校	同左	消防学校生	H30.11.21
		チーム医療	富山県栄養士会	サンシップ	県内の栄養士	H30.12.15

氏 名	所属	講義担当科目・講演名等	学校名又は主催者名	2019/12/1	学科(学年) 及び対象	期日・期間
浦田彰夫	診療部	平成30年度地域リハビリテーション研修会「生活期リハビリテーション医療の考え方と役割」	富山医療圏地域域リハビリテーション広域支援センター・中部厚生センター	富山県総合情報センター		H30.10.6
高田 秀夫	診療部	整形外科科学・診断と検査、治療(骨、関節、筋の感染症)	富山医療福祉専門学校	富山医療福祉専門学校	理学療法学科 2年	平成30年4月～7月
		整形外科科学・診断と検査、治療(関節リウマチ)	富山医療福祉専門学校	富山医療福祉専門学校	理学療法学科 2年	平成30年4月～7月
		整形外科科学・診断と検査、治療(慢性関節疾患)	富山医療福祉専門学校	富山医療福祉専門学校	理学療法学科 2年	平成30年4月～7月
		整形外科科学・診断と検査、治療(循環障害、阻血)	富山医療福祉専門学校	富山医療福祉専門学校	理学療法学科 2年	平成30年4月～7月
		整形外科科学・診断と検査、治療(代謝性骨疾患)	富山医療福祉専門学校	富山医療福祉専門学校	理学療法学科 2年	平成30年4月～7月
森 昭憲	診療部	富山県児童発達支援センター連絡協議会研修会「幼児期を中心に学童期・青年期のライフステージに応じた発達障害の理解と対応について」	富山県児童発達支援センター連絡協議会	富山市恵光学園	富山県児童発達支援センター連絡協議会会員	H30.4.21
		『子ども達の傷つきに向き合うということ』シンポジスト	特定非営利活動法人シェキラリ	金沢弁護士会館	支援者、一般	H30.7.7
		平成30年度「ひきこもり家族教室」講師『ひきこもりの背景とその対応について』	石川県南加賀保健所	石川県南加賀保健福祉センター	ひきこもりや不登校で悩んでいる家族、支援者	H30.8.25
		平成30年度児童養護施設等の基幹的職員研修「こどもの発達と発達上の問題」「施設における専門的ケア」	富山県厚生部子ども支援課	富山県民会館	児童養護施設10年実務経験職員	H30.9.28
		平成30年度医師向け発達障害研修「自閉症スペクトラム(学童期)の理解」	富山県、富山県医師会	富山県医師会館	小児科医などの医師	H30.10.24
		2018年度DVサポーター養成講座「発達障がい児の幼児期、学齢期～ライフステージにつながる支援」	NPO法人ウィメンズ・エンパワーメント金沢	金沢市教育プラザ富樫	DV被害者サポーター	H30.11.10
		性暴力被害者のための支援員養成講座「被害による子どもへの影響ーマールトリートメントを中心に」	一般社団法人ウィメンズカウンセリング富山	富山県民共生センター「サンフォルテ」	性暴力被害者支援活動者など(相談員、相談業務従事者)	H30.11.25
		平成30年度富山市学校保健研究協議会講演会「子どものSOSに向き合うということ」	富山市教育委員会	富山市婦中ふれあい館	養護教諭、教育関係者、保護者	H31.1.24
		平成30年度ヤングヘルスセミナー研修会「発達障害の児童・生徒との関わり方」	富山県砺波厚生センター	南砺市福野体育館	小中高養護教諭及び保健関係者	H31.2.20
		富山家庭裁判所調査官自庁研修(事例検討)	富山家庭裁判所	富山家庭裁判所	富山家庭裁判所調査官	H31.2.22
		～児童思春期外来の現場から～	富山県精神科医会	富山県民会館	富山県精神科医会会員(精神科医)	H31.3.15

氏 名	所属	講義担当科目・講演名等	学校名又は主催者名	2019/12/1	学科(学年) 及び対象	期日・期間
酒口弘光	薬剤部	薬と法律	富山県立総合衛生学院	富山県立総合衛生学院	1年	H30.11.16
浜松誠司	薬剤部	薬物による病気の治療				H30.9.28
		薬力学				H30.9.28
		薬物動態学1・2				2018/10/5, 12
		薬物相互作用				H30.10.26
		薬物の個人差に影響する因子				H30.11.2
		薬物使用の有益性と危険性				H30.11.9
		医療現場における医薬品を取り巻く課題、ニーズについて	衛生学院	パレプラン高志会館	富山県製薬企業連合 公的医療機関 その他	H31.2.13
田中 舞	リハビリ部	リハ栄養実践におけるOTの視点 ～役割と今後の展望～ 総論・研究におけるOTの展望	日本リハビリテーション 栄養学会	香川県	医療従事者	H30.12.1
		在宅で取り組むリハビリテーション栄養	日本訪問 リハビリテーション研究会	富山西 リハビリ病院	医療従事者	H30.9.2
		栄養素の生化学と代謝	NST専門療法士 実地修練研修	当院	NST専門 療法士受験希望者	H30.6.12
杉本 佳織	リハビリ部	平成30年度福祉用具、住宅改修 食事動作の過程と問題点	社会福祉法人 富山県社会福祉協議会 富山県福祉カレッジ	サンシップ とやま	医療従事者	H30.8.1
		高次脳機能障害を見るには	富山県リハビリテーション 病院・こども支援セン ター	当院	当院新人Ns. 他院Ns.	H31.3.6 H31.3.13
中林 亜沙美	リハビリ部	作業療法及び 当院作業療法科の概要	富山県総合衛生学園	富山総合 衛生学園	看護学生 2年生	H30.10.10 H30.10.17
川原 和之	リハビリ部	作業療法における 協業後輩育成	富山県作業療法士会	県内OT	県内OT	H30.8.5
高田 厚志	リハビリ部	生涯学習と理学療法の専門領域	富山県理学療法士会	サンシップとやま	理学療法士	H31.1.20
		理学療法	富山県立総合衛生学院	富山県立総合衛生学院	看護科2年	H30.10.3 H30.10.10
日下遥香	リハビリ部	福祉用具・住宅改修研修	富山県社会福祉協議会	富山県総合福祉会館	介護支援専門員 地域包括支援センター 福祉	H30.7.13
萩行恵美	リハビリ部	協会組織と障害学習システム	富山県理学療法士会	厚生連高岡病院	理学療法士	H30.7.15

氏 名	所属	講義担当科目・講演名等	学校名又は主催者名	2019/12/1	学科(学年) 及び対象	期日・期間
福元裕人	リハビリ部	高齢者疑似体験	富山市社会福祉協議会	富山市立豊田小学校	小学4年生	H30.7.4
		脳血管障害の標準理学療法	富山県理学療法士会	富山西総合病院	理学療法士	H30.9.2
朝野 隼輔	リハビリ部	BLSプロバイダーコース	日本ACLS協会 日本トレーニングサイト	富山県立中央病院	医師、看護師	H30.9.16
黒部 和子	リハビリ部	STによる嚥下リハビリテーション	嚥下障害看護研修会	当院	当院職員	H30.9.19
亀谷 浩史	リハビリ部	卒業生講演:STってホントのところどうなの？	福井医療大学	福井医療大学	福井医療大学 言語聴覚専攻	H30.5.19
		第20回日本言語聴覚学会 シンポジウム座長	日本言語聴覚士協会	富山県民会館	言語聴覚士	H30.6.22
		完全側臥位勉強会	嚥下管理チーム	当院	当院職員	H30.7.9/10.15
		摂食嚥下ケア研修会 ベーシック講座 介助	北陸の摂食嚥下ケアを支える会	ありそドーム	介護・看護職、リハ職等	H30.7.22
		摂食嚥下ケア研修会 ベーシック講座 介助	北陸の摂食嚥下ケアを支える会	砺波市出町子供歌舞伎曳山会館	介護・看護職、リハ職等	H30.8.19
		介護報酬改定について	富山県訪問リハビリテーション研究会	富山西リハビリテーション病院	リハ職	H30.9.2
		第27回富山県NST研究会 一般演題座長	富山県NST研究会	ボルファートとやま	医療・介護職等	H30.11.10
		摂食嚥下ケア研修会 ミニレクチャー 訓練	北陸の摂食嚥下ケアを支える会	高岡商工会議所	介護・看護職、リハ職等	H30.11.18
		シンポジスト:院内でつながり、地域へつながり	日本リハビリテーション看護学会	富山国際会議場	看護師	H30.11.24
		言語聴覚療法	富山県立総合衛生学院	富山県立総合衛生学院	看護学科2年生	H30.11.28/12.5
		摂食嚥下ケア研修会 ミニレクチャー 訓練	北陸の摂食嚥下ケアを支える会	富山県総合情報センター	介護・看護職、リハ職等	H30.12.9
		摂食嚥下障害の対応	富山県認知症グループホーム協議会	特別養護老人ホーム三寿苑	介護・看護職	H31.1.17
		食事介助勉強会	嚥下管理チーム	当院	当院職員	H31.3.18
松本和美、岡山由利子	リハビリ部	入浴動作について	こども棟保護者会勉強会	当センター	こども棟保護者	H30年 10月13日
松井直美	リハビリ部	当院の発達支援が目指すもの～当院での取り組み～	当院	サンシップ富山	県民公開講座	H30年 12月8日
鴨井 典子	リハビリ部	当院の発達支援が目指すもの～当院での取り組み～	当院	サンシップ富山	一般及び医療従事者	H30,12,8
木内 彰	リハビリ部	高齢者疑似体験	富山市社会福祉協議会	富山市立豊田小学校	小学4年生	H30.7.4
高嶋尚子	リハビリ部	当院こども言語聴覚療法の紹介	富山県県民公開講座	富山市	一般	H30.12.8
		重度・重複障害児の摂食指導について	富山県立高志支援学校	富山市	学校教員	H30.7.23
		摂食嚥下障害 訓練技術編	富山県看護協会	富山県認定看護師教育センター	認定看護師教育課程	H30.12.17

氏 名	所属	講義担当科目・講演名等	学校名又は主催者名	2019/12/1	学科(学年) 及び対象	期日・期間
瀬川 薫	リハビリ部	機能的構音障害及び吃音の特徴と対応について	富山県幼児言葉の教室 連絡協議会	富山市	学校教員	H3011.30
佐々井 希	リハビリ部	H30年度 福祉用具・住宅改修研修(入浴関連用具の活用)	富山県社会福祉協議会 富山県福祉カレッジ、介護実習・普及センター	富山県総合福祉会館(サンシップ)	介護支援専門員等	H30.7.24
朝日 信裕	リハビリ部	H30年度 福祉用具・住宅改修研修(基礎研修)	富山県社会福祉協議会 富山県福祉カレッジ、介護実習・普及センター	富山県総合福祉会館(サンシップ)	介護支援専門員等	平成30年5月9日・6月13日
		全国脊髄損傷者連合会・北陸ブロック総会講演 ～車いす上でもできる体力アップのコツ	全国脊髄損傷者連合会 北越ブロック	砺波ロイヤルホテル	脊髄損傷者とその家族	H30.6.24
黒田 恭子	療育支援科	「地域支援を考える～富山県リハビリテーション病院・こども支援センターにおける難聴児への地域支援の取り組みから～」	全国児童発達支援協議会	富山国際会議場	児童発達支援関係職員	H30.6.29
		ハートフル保育スキルアップ研修会 アドバンス研修 「今必要な機関連携を考える」	富山県厚生部子ども支援課	サンシップとやま	県内の保育士・保育教諭	H30.7.26
平井 誠	相談支援科	在宅看護論総論 地域連携	富山県立総合衛生学院	富山県立総合衛生学院	看護学科2年生	H30.12.6
		地域リハビリテーション研修・事例検討 進行・助言	富山老人保健福祉圏域 地域リハビリテーション連絡協議会	富山市	介護支援専門員等	H30.10.6
大島 淳一	研究企画課	ソーシャルワーク特論	富山福祉短大	富山福祉短大	社会福祉学科 1年	平成30年11月27日～12月18日
		福祉用具住宅改修研修会 コミュニケーション関連用具の活用	介護実習普及センター	介護実習普及センター		H30.7.13
		難病コミュニケーション支援講座 『重度障害者の機器操作支援』	難病コミュニケーション支援講座	サンシップとやま		H31.3.10
安達 佳子	看護局	社会福祉論	富山県立総合衛生学院	富山県立総合衛生学院	3年生	H30/10/25
中川 美都子	看護局	在宅看護論総論	富山県立総合衛生学院	富山県立総合衛生学院	2年生	H30/11/29
岩本 妙子	看護局	リハビリテーション論「看護」	富山県立総合衛生学院	富山県立総合衛生学院	2年生	H30/12/5・12
星子 みゆき	看護局	こども支援センター 実習オリエンテーション	富山県立総合衛生学院	富山県立総合衛生学院	2年生	H30/12/19
神谷 千春	看護局	老年看護学(コミュニケーション障害)	富山県立いずみ高等学校	富山県立いずみ高等学校	専攻科1年	H30/6/5
濱屋 宏衣	看護局	老年看護学(嚥下障害)	富山県立いずみ高等学校	富山県立いずみ高等学校	専攻科1年	H30/6/12
村上 優子	看護局	成人看護学(リハビリテーション看護の実際)	富山県立いずみ高等学校	富山県立いずみ高等学校	専攻科1年	H30/10/23・30
竹澤 和恵	看護局	小児看護学(障害のある小児と家族の看護)	富山県立いずみ高等学校	富山県立いずみ高等学校	専攻科1年	H30/10/19
広瀬 由香里	看護局	成人看護学方法論Ⅳ	富山医療福祉専門学校	富山医療福祉専門学校	2年生	H30/5/7・14
中市 かおり	看護局	成人看護学方法論Ⅳ	富山医療福祉専門学校	富山医療福祉専門学校	2年生	H30/6/6・13

氏 名	所属	講義担当科目・講演名等	学校名又は主催者名	2019/12/1	学科(学年) 及び対象	期日・期間
河浦 恭子	看護局	成人看護学方法論Ⅳ	富山医療福祉専門学校	富山医療福祉専門学校	2年生	H30/6/15・ 22・7/13・ 20
水上 静	看護局	成人看護学方法論Ⅳ	富山医療福祉専門学校	富山医療福祉専門学校	2年生	H30/9/4・ 11・18
安達 佳子	看護局	小児看護学実習	富山医療福祉専門学校	富山医療福祉専門学校	3年生	H30/6/20
金盛 永樹	看護局	卒業生の「つくり、つかえ、つくる」に学ぶ	富山福祉短期大学	富山福祉短期大学	1年生	H30/6/1
藤橋 悠花	看護局	卒業生の「つくり、つかえ、つくる」に学ぶ	富山福祉短期大学	富山福祉短期大学		H30/6/1
信永 州洋	看護局	小児看護学実習	富山福祉短期大学	富山福祉短期大学	2年生	H31/1/16
森元 梨乃	看護局	進路懇談会	富山県立いずみ高等学校	富山県立いずみ高等学校	専攻科1・2年	H30/6/6
荒木 真梨子	看護局	看護学生Uターン応援病院見学・交流会	富山県厚生部医務課	富山県農協会館	看護学生	H30/8/9
		「認知症の人のリハビリテーションを考える」ワークショップにおけるファシリテーター	NPO法人日本リハビリテーション看護学会 第30回学術大会	富山国際会議場	看護師	H30/11/24
高澤 秀幸	看護局	「認知症の人のリハビリテーションを考える」ワークショップにおけるファシリテーター	NPO法人日本リハビリテーション看護学会 第30回学術大会	富山国際会議場	看護師	H30/11/24
吉岡 智子	看護局	インフルエンザの対策について	高志ライフケアホーム	高志ライフケアホーム	利用者・職員	H30/12/5
		ノロウイルス対策について	特別養護老人ホーム 晴風荘	特別養護老人ホーム 晴風荘	法人職員	H30/12/14
田中 雅代	通所療育課	県民公開講座 「くらしの中でこどもの発達を支えよう」	富山県リハビリテーション病院・こども支援センター	サンシップとやま	一般・関係機関職員	30.12.8
木立 伸也	通所療育課	障害児保育研修会 「保育で大切なこと～子ども理解と具体的な支援～」	富山市こども家庭部こども支援課	富山市婦中ふれあい館	富山市保育所、認定こども園、愛育園保育士	30.9.7
銅 雅美	通所療育課	保護者支援講座 「発達に凹凸のある幼児への支援について」	射水市こども発達相談室	射水市子ども子育て総合支援センター	発達障害児を持つ保護者	30.10.23
木立 伸也	通所療育課	富山県保育研究大会 第3分科会「配慮を必要とする子どもや家庭への支援にむけて～すべての子どもに機能する総合的な保育所(園)・認定こども園をめざして～」	富山県保育連絡協議会	富山県総合福祉会館	富山県保育連絡協議会会員(保育士)	30.11.22
太田 令子	高次脳	平成30年度全国知的障害者更生相談所所長協議会初任者研修	富山県障害者相談センター	富山県民会館	都道府県及び政令市の知的障害者更生相談所職員	H30.7.20
水和 佳子	高次脳	障害をもつ方の心理状態と対応について	NPO法人かもめのノート	NPO法人かもめのノート事務所内	施設職員及び福祉関係者	H30.11.16
野村 忠雄 山本 浩二 水和 佳子	高次脳	平成30年度第2回富山脳卒中地域連携の会	富山県リハビリテーション病院・こども支援センター	富山県リハビリテーション病院・こども支援センター	医療関係者	H30.10.24
太田 令子	高次脳	子どもたちが未来を豊かに生きるために一小児の高次脳機能障害・青年期に至るまでの課題と支援に関する提案―	第12回山形県高次脳機能障がい者リハビリテーション講習会	山形県高度技術研究開発センター	一般、医療福祉関係者等	H30.9.29
太田 令子	高次脳	高次脳機能障がいのある子どもの支援～ライフステージをふまえた家族支援～	大田区子どもの高次脳機能障がい講演会	東京都	一般、医療福祉関係者等	H30.10.10
太田 令子	高次脳	子どもたちが未来を豊かに生きるために一小児の高次脳機能障害・青年期に至るまでの課題と支援に関する提案―	平成30年度島根県高次脳機能障がい支援者研修会	いきいきプラザ島根403研修室	一般、医療福祉関係者等	H30.11.17
太田 令子	高次脳	子どもの高次脳機能障害の理解とその対応	京都府リハビリテーション支援センター	京都府	一般、医療福祉関係者等	H31.3.20
森 昭憲	ほっぷ	職員研修「発達障害の方の特性の理解や 支援方法について」講師	富山県児童発達支援センター協議会	恵光学園	職員	H.30.4.21
鈴木 勇	ほっぷ	障害者福祉研修 「発達障害の理解と支援」	ヴィストキャリヤ富山駅前	ヴィストキャリヤ富山駅前	職員	H.30.4.27

氏 名	所属	講義担当科目・講演名等	学校名又は主催者名	2019/12/1	学科(学年) 及び対象	期日・期間
永田香奈子	ほっふ	ハートフル保育研修「発達障害の特性の理解と支援について」	県、子ども支援課	サンシツブとやま	保育従事者、学童保育指導員	H.30.6.23
北川 忠	ほっふ	ハートフル保育研修「発達障害の特性の理解と支援について」	県、子ども支援課	サンシツブとやま	保育従事者、学童保育指導員	H.30.6.23
		主任児童委員研修会「発達障害の特性の理解と支援について」	小矢部市社会福祉課	小矢部市保健センター	市内民生委員、主任児童委員	H.30.7.5
		めひの野園職員研修会「自閉症者の支援について」	めひの野園	めひの野園	職員	H.30.7.20
永田香奈子	ほっふ	ハートフル保育スキルアップ研修「機関との連携について」	県、子ども支援課	サンシツブとやま	保育従事者、学童保育指導員	H.30.7.26
北川 忠	ほっふ	富山少年鑑別所研修会「発達障害の特性の理解と支援について」	富山少年鑑別所	富山少年鑑別所	刑務官等	H.30.7.27
		高岡支援学校職員研修会「発達障害の特性の理解と支援について」	高岡支援学校	高岡支援学校	高岡支援学校職員	H.30.8.3
鈴木 勇	ほっふ	精神保健福祉士研修会 「発達障害の特性の理解と支援について」	砺波厚生センター	南砺市福野体育館	精神保健福祉士	H.30.9.7
		特別養護老人ホームはるかぜ職員研修会「発達障害の特性の理解と支援について」	特別養護老人ホームはるかぜ	特別養護老人ホームはるかぜ	職員	H.30.9.14
鈴木 勇	ほっふ	富山地方・家庭裁判所職員研修「発達障害に関する理解を深める」	富山地方・家庭裁判所	富山地方・家庭裁判所	富山地方・家庭裁判所職員	H.30.9.27
北川 忠	ほっふ	砺波市民生委員児童委員研修会「発達障害の特性の理解と支援について」	砺波市社会福祉課	砺波市役所	市内民生委員	H.30.11.8
森 昭憲	ほっふ	医師向け研修会「発達障害について」	県障害福祉課	県医師会館	県内小児科医	H.30.11.20
北川 忠	ほっふ	児童厚生委員研修会「発達障害の特性の理解と支援について」	こどもみらい館	県総合体育館	保育士、学童保育支援員等	H.30.11.15
		ジョブライフ万葉職員研修会「発達障害の特性の理解と支援について」	ジョブライフ万葉	ジョブライフ万葉	職員	H.29.11.22
		雇用支援者養成研修「発達障害の特性の理解と支援について」	富山障害者就業・生活支援センター	サンシツブ富山	福祉サービス事業所職員	H.30.12.7

氏 名	所属	講義担当科目・講演名等	学校名又は主催者名	2019/12/1	学科(学年) 及び対象	期日・期間
永田香奈子	ほっぷ	新川厚生センター管内研修「発達障害の特性の理解と支援について」	新川厚生センター	新川厚生センター	保健師等	H.31.1.28
鈴木 勇	ほっぷ	強度行動障害支援者養成研修「強度行動障害の特性の理解と支援について」	県自閉症協会	サンシップ富山	県内障害福祉施設職員	H.31.2.2
池田 東香	ほっぷ	高岡市学校保健研修「発達障害の特性の理解と支援について」	高岡学校教育課	高岡市役所	市内養護教諭	H.31.2.7
森 昭憲	ほっぷ	家庭裁判所調査官研修「発達障害とは」	富山家庭裁判所	富山家庭裁判所	調査官等	H.31.2.22
北川 忠	ほっぷ	射水市社会福祉協議会研修「発達障害の特性の理解と支援について」	射水市社会福祉協議会	富山県発達障害者支援センター「ほっぷ」	民生委員等	H.31.2.26
永田香奈子	ほっぷ	砺波市子ども課研修「発達障害の特性の理解と支援について」	砺波市子ども課	砺波市役所	市内保育士	H.31.2.27
北川 忠	ほっぷ	射水市放課後児童クラブ研修「発達障害の特性の理解と支援について」	射水市教育委員会	射水市役所	市内放課後児童クラブ支援員	H.31.3.5
		朝日町民生委員研修「発達障害の特性の理解と支援について」	朝日町社会福祉協議会	朝日町役場	民生委員等	H.31.3.6
		砺波市北部地区民生委員研修「発達障害の特性の理解と支援について」	砺波市社会福祉課	砺波市北部地区センター	市内民生委員	H.31.3.7
		富山本願寺研修「発達障害の特性の理解と支援について」	富山本願寺	富山本願寺	本願寺派住職	H.31.3.8
永田香奈子	ほっぷ	高岡市母子保健関係者研修「発達障害の特性の理解と支援について」	高岡健康課	高岡市役所	市内保健師	H.31.3.8
鈴木 勇	ほっぷ	大地の会定例会「発達障害の特性の理解と支援について」	大地の会	サンシップ富山	会員	H.31.3.16
		富山労働局研修「発達障害の特性の理解と支援について」	富山労働局	富山労働局	職員	H.31.3.22

氏 名	所 属	事業名	内 容	主催者	場 所	開催日
浦田彰夫	診療部	第18回富山県障害者スポーツ大会 (陸上大会)	救護	富山県	富山県総合運動 公園陸上競技場	H30.5.20
朝野 隼輔	リハビリ部	高校バレーボールスポーツサポート 事業	テーピングサ ポート	富山県理学療 法士協会 富山県バレー ボール協会	黒部総合体育セ ンター富山県総 合体育センター 富山県西部体育セ ンター 福野体育館	H30.4.28 H30.4.30 H30.6.3 H30.9.8 H301.1.19
朝野 隼輔 山内智宏	リハビリ部	富山マラソンサポート事業	救護アイシン グ、テーピン グ ストレッチ、 応急処置	富山県	各救護所	H30.10.28
朝野 隼輔 溝口 太仁	リハビリ部	ねんりんピック富山サポート事業	サッカー競 技のテーピ ング サポート	富山県 富山県理学療 法士協会	県総合運動公園	H30.11.4 H30.11.5
宮島双葉	リハビリ部	第64回耳の日相談会	相談	日耳鼻富山県 地方部会	サンシップ富山	H31.3.3
吉岡 智子	看護局	富山県障害者スポーツ大会(水泳競 技会)	救護	富山県	富山市東富山温 水プール	H30.4.15
高野 ちか子	看護局	富山県障害者スポーツ大会(陸上競 技会)	救護	富山県	富山県総合運動 公園陸上競技場	H30.5.20
浦山 信子	看護局	富山県障害者スポーツ大会(フライン グディスク競技会)	救護	富山県	富山県総合運動 公園 屋内ラウン ド、ファミリー広場	H30.9.24
柴田 大輔	看護局	富山県障害者スポーツ大会(卓球競 技会)	救護	富山県	富山県総合体育 センター	H30.11.11

氏 名	所 属	事業名	内 容	主催者	場 所	開催日
石丸 佳奈	看護局	身体障害者山岳歩行訓練	救護	富山県身体障害者福祉協会	立山町地域内ホテル森の風立山	H30.9.12～13
田中 朋枝	看護局	全国障害者スポーツ大会	救護	富山県	福井県福井市福井県営陸上競技場	H30.10.12～16
平野 純輝 伏江 絵吏	看護局	第31回全国健康福祉祭とやま大会(ねんりんピック富山2018)	救護	ねんりんピック富山2018富山市実行委員会	富山県岩瀬スポーツ公園	H30.11.4～5
広瀬 由香里	看護局	まんさく会 総会・春の研修会	救護	まんさく会	呉羽ハイツ	H30.4.13
岩井 美知代	看護局	まんさく会 バーベキュー	救護	まんさく会	富山市割山森林公園「天湖森」	H30.7.20
宮島 淳子	看護局	まんさく会 秋の研修会	救護	まんさく会	あてま高原リゾートベルナディオ	H30.9.24～25
打林 千佳	看護局	富山県立高志支援学校 高等部校外学習	救護	富山県立高志支援学校	富山県美術館 オークスカナル パークホテル富山 欧風レストラン エヴー	H30.5.1
河邊 麻衣子	看護局	富山県立高志支援学校 高等部校外学習	救護	富山県立高志支援学校	富山県美術館 オークスカナル パークホテル富山 欧風レストラン エヴー	H30.5.7
浦田 雅美	看護局	富山県立高志支援学校 小学部校外学習	救護	富山県立高志支援学校	ユニー株式会社 アピタ富山東店 オークスカナル パークホテル富山	H30.5.8
北村 美雪	看護局	富山県立高志支援学校 高等部校外学習	救護	富山県立高志支援学校	富山県美術館 オークスカナル パークホテル富山 欧風レストラン エヴー	H30.5.14

氏 名	所 属	事業名	内 容	主催者	場 所	開催日
岡里 八重	看護局	富山県立高志支援学校 小学部校外学習	救護	富山県立高志支援学校	富山市科学博物館	H30.5.15
見田 恵美	看護局	富山県立高志支援学校 中学部校外学習	救護	富山県立高志支援学校	富山県美術館 富山県民共生センターサンフォルテ	H30.5.18
星子 みゆき	看護局	富山県立高志支援学校 中学部修学旅行	救護	富山県立高志支援学校	富山県砺波市及び高岡市内 Royal Hotel富山 砺波	H30.6.14～ 15
谷村 祐未	看護局	富山県立高志支援学校 高等部修学旅行	救護	富山県立高志支援学校	石川県七尾市方面 のと楽	H30.9.13～ 14
見田 恵美	看護局	富山県立高志支援学校 中学部校外学習	救護	富山県立高志支援学校	富山県中央植物園 大和富山店 洋食レストランダイフ	H30.9.25
打林 千佳	看護局	富山県立高志支援学校 小学部自然体験学習	救護	富山県立高志支援学校	富山県呉羽青少年自然の家	H30.9.28
信永 州洋	看護局	富山県立高志支援学校 高等部校外学習	救護	富山県立高志支援学校	陶農館	H30.10.1
北村 美雪	看護局	富山県立高志支援学校 小学部校外学習	救護	富山県立高志支援学校	富山市立こども図書館 創作料理まいもんや	H30.10.2

氏 名	所 属	事業名	内 容	主催者	場 所	開催日
浦田 雅美	看護局	富山県立高志支援学校 小学部校外学習	救護	富山県立高志支援学校	射水市大島絵本館	H30.11.6
梅沢 真優	看護局	富山県立高志支援学校 卒業証書授与式	救護	富山県立高志支援学校	富山県立高志支援学校体育館	H31.3.13
水和 佳子 佐々木 碧	高次脳	2018第5回キッズネットワーク宿泊イベントin東京	相談	高次脳機能障害の子どもを持つ家族会 ハイリハキッズ	国立オリンピック記念青少年総合センター	H30. 9.22～23

【掲載:所属順】

5 資格取得状況

氏 名	所 属	資格名称	認定機関等	認定年月
橋本二美男	診療部	整形外科専門医	(社)日本整形外科学会	
		リウマチ医	(社)日本リウマチ学会	
		日本手外科学会専門医	(社)日本手外科学会	
		日本リハビリテーション学会臨床認定医	(社)日本リハビリテーション医学会	
井上雄吉	診療部	専門医 (No 281)	(社)日本神経学会	昭和55年7月19日
		指導医 (No 554)	(社)日本神経学会	平成21年5月20日
		総合内科専門医 (No 11767)	(社)日本内科学会	平成18年12月5日
		認定内科医 (No 65342)	(社)日本内科学会	平成2年12月21日
		専門医 (No 20030837)	(社)日本脳卒中学会	平成15年3月12日
		認定臨床医 (No 5643)	(社)日本リハビリテーション医学会	平成14年9月28日
		専門医 (No 1752)	(社)日本リハビリテーション医学会	平成21年3月14日
		脳波分野 (No 220) 認定医	(社)日本臨床神経生理学会	平成18年10月1日
		筋電図および神経伝導検査分野 (No 151) 認定医	(社)日本臨床神経生理学会	平成18年10月1日
		ICD (No 3045) (日本感染症学会推薦)	ICD (インфекション・コントロールドクター) 制度協議会	平成20年1月1日
白田里香	診療部	総合内科専門医	(社)日本内科学会	平成28年12月16日
		認定内科医	(社)日本内科学会	平成2年9月28日
		内分泌代謝科専門医	(社)日本内分泌学会	平成30年4月1日 (更新)
		内分泌代謝科指導医	(社)日本内分泌学会	平成30年4月1日 (更新)
		糖尿病専門医	(社)日本糖尿病学会	平成27年4月1日 (更新)
		糖尿病指導医	(社)日本糖尿病学会	平成27年4月1日 (更新)
		人間ドック認定医	(社)日本人間ドック学会	平成15年8月1日
		人間ドック健診専門医	(社)日本人間ドック学会	平成29年4月1日
		産業医	(社)日本医師会	平成28年3月29日 (更新)
		博士 (医学)	金沢大学	平成5年2月17日
宮森加甫子	診療部	小児科専門医	(社)日本小児科学会	
		日本リハビリテーション医学会臨床認定医	(社)日本リハビリテーション医学会	平成4年9月25日

氏 名	所 属	資格名称	認定機関等	認定年月
木倉敏彦	診療部	リハビリテーション科認定臨床医	(社)日本リハビリテーション医学会	平成13年9月29日
		リハビリテーション科専門医	(社)日本リハビリテーション医学会	平成30年3月12日
		日本体育協会公認スポーツドクター	(財)日本スポーツ協会	平成13年10月1日
		障がい者スポーツ医	(財)日本障がい者スポーツ協会	平成20年4月1日
		日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士	日本摂食嚥下リハビリテーション学会	平成21年10月1日
		ICD(インфекション・コントロール・ドクター)	ICD制度協議会	平成13年7月1日
		日本静脈経腸栄養学会認定医	日本静脈経腸栄養学会	平成24年2月23日
		病態栄養専門医	日本病態栄養学会	平成30年4月1日
		NSTコーディネーター	日本病態栄養学会	平成30年4月1日
本郷和久	診療部	小児科専門医・指導医	日本小児科学会	
		小児神経専門医	日本小児神経学会	
		発達障害診療医	日本小児神経学会	
		てんかん専門医・指導医	日本てんかん学会	
		VNS認定医	日本てんかん学会	
		産業医	富山県医師会認定	
浦田彰夫	診療部	リハビリテーション科専門医(No 02424)	(社)日本リハビリテーション医学会	平成28年3月19日
		日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士(No 140262)	(社)日本摂食嚥下リハビリテーション学会	平成30年3月1日
		障害者スポーツ医(D322)	(財)日本障害者スポーツ協会	平成26年4月1日
		(財)日本体育協会公認スポーツドクター	(財)日本体育協会	平成24年10月1日
		日本医師会認定産業医(No 9807203)	(社)日本医師会	平成16年1月26日
坂本尚子	診療部	リハビリテーション科専門医・認定臨床医	(社)日本リハビリテーション医学会	
高田秀夫	診療部	整形外科専門医	(社)日本整形外科学会	平成14年3月31日
		認定リウマチ医	(社)日本整形外科学会	平成15年3月31日
		認定スポーツ医	(社)日本整形外科学会	平成24年3月31日
		認定運動器リハビリテーション医	(社)日本整形外科学会	平成23年3月31日
		リウマチ専門医	(社)日本リウマチ学会	平成14年3月1日
		認定国際山岳医	(社)日本登山医学会	平成25年11月1日
		公認スポーツドクター	(財)日本体育協会	平成25年10月1日

氏 名	所 属	資格名称	認定機関等	認定年月
吉野修	診療部	(社)日本整形外科学会 専門医	(社)日本整形外科学会	平成15年3月31日
		(社)日本リハビリテーション医学会 臨床認定医	(社)日本リハビリテーション医学会	平成18年3月11日
		(財)日本スポーツ協会公認スポーツドクター	(財)日本スポーツ協会	平成19年2月21日
		(社)日本リハビリテーション医学会 リハビリテーション科専門医	(社)日本リハビリテーション医学会	平成20年3月15日
		(社)日本リハビリテーション医学会 指導医	(社)日本リハビリテーション医学会	平成25年11月16日
		(公)日本障がい者スポーツ協会 障がい者スポーツ医	(財)日本障がい者スポーツ協会	平成27年4月1日
森 昭憲	診療部	精神保健指定医(第18121号)	厚生労働省	平成25年3月6日
		精神科専門医(62188050)	(社)日本精神神経学会	平成25年10月1日
		精神科指導医(SP188050)	(社)日本精神神経学会	平成30年4月1日
浜松誠司	薬剤部	認定薬剤師	日本薬剤師研修センター	平成21年6月1日
		日病薬認定薬剤師	日本病院薬剤師会	平成18年7月1日
		認定実務実習指導薬剤師	日本薬剤師研修センター	平成20年4月1日
八木茂樹	薬剤部	認定実務実習指導薬剤師	日本薬剤師研修センター	平成27年4月1日
		認定薬剤師	日本薬剤師研修センター	平成23年4月1日
		骨粗鬆症マネージャー	日本骨粗鬆症学会	平成30年4月1日
朱亀真喜子	薬剤部	栄養サポートチーム(NST)専門薬剤師	日本静脈経腸栄養学会	平成21年1月28日
林由里子	薬剤部	認定実務実習指導薬剤師	日本薬剤師研修センター	平成24年4月1日
		認定薬剤師	日本薬剤師研修センター	平成21年10月26日
		栄養サポートチーム(NST)専門薬剤師	日本静脈経腸栄養学会	平成28年2月1日
本多圭子	薬剤部	認定薬剤師	日本薬剤師研修センター	平成15年11月16日
		糖尿病療養指導士	日本糖尿病療養指導士認定機構	平成16年4月1日
		認定実務実習指導薬剤師	日本薬剤師研修センター	平成30年6月1日
盛野 千香子	栄養管理科	栄養サポートチーム(NST)専門療法士	日本静脈経腸栄養学会	平成26年4月
		糖尿病療養指導士	日本糖尿病療養指導士認定機構	平成22年5月
濱屋あかね	栄養管理科	栄養サポートチーム(NST)専門療法士	日本静脈経腸栄養学会	平成22年2月
		病態栄養認定管理栄養士	(独)日本病態栄養学会	平成23年4月
		日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士	日本摂食嚥下リハビリテーション学会	平成31年3月
綿 美穂	栄養管理科	日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士	日本摂食嚥下リハビリテーション学会	平成30年3月
中山舞	栄養管理科	介護支援専門員	(独)日本介護支援専門員協会	平成29年3月

氏 名	所 属	資格名称	認定機関等	認定年月
大屋ますみ	臨床検査科	栄養サポートチーム専門臨床検査技師	日本静脈経腸栄養学会	平成21年1月
		特別管理産業廃棄物管理責任者	(財団法人)日本産業廃棄物処理振興センター	平成20年6月
澤井 真史	臨床検査科	緊急臨床検査士	(公社)日本臨床検査同学院	平成10年7月
		認定一般検査技師	(一社)日本臨床衛生検査技師会認定センター	平成18年12月
石橋 史子	臨床検査科	緊急臨床検査士	(公社)日本臨床検査同学院	平成29年9月

氏 名	所 属	資格名称	認定機関等	認定年月
大野 愛美	リハビリ部	全国回復期病棟セラピストマネージャー	全国回復期病棟連絡協議会	平成24年1月
荒木 悦子	リハビリ部	訪問リハビリテーション管理者	訪問リハビリテーション振興財団	平成26年1月
		医療安全管理者	全国自治体病院協議会	平成28年12月
高田 厚志	リハビリ部	全国回復期病棟セラピストマネージャー	全国回復期病棟連絡協議会	平成29年1月
		糖尿病療養指導士	日本糖尿病療養指導士認定機構	平成25年5月
浜谷 樹	リハビリ部	3学会合同呼吸療法認定士	3学会合同呼吸療法認定委員会	平成27年1月
		全国回復期病棟セラピストマネージャー	全国回復期病棟連絡協議会	平成29年12月
栗田 淳一郎	リハビリ部	認知神経リハビリテーション専門士	日本認知神経リハビリテーション協会	平成27年3月
日下 遥香	リハビリ部	福祉用具プランナー	(財)テクノエイド協会	平成31年1月
上野 昭平	リハビリ部	福祉住環境コーディネーター2級	東京商工会議所	平成22年
川村 恵美	リハビリ部	介護支援専門員		平成29年
朝野 隼輔	リハビリ部	福祉住環境コーディネーター2級	東京商工会議所	平成24年
	リハビリ部	BLSインストラクター	日本ACLS協会	平成29年
福元 裕人	リハビリ部	住環境コーディネーター2級	東京商工会議所	平成29年4月
	リハビリ部	脳卒中認定理学療法士	日本理学療法士協会	平成29年9月
溝口 太仁	リハビリ部	福祉住環境コーディネーター2級	東京商工会議所	
杉本佳織	リハビリ部	福祉用具プランナー	テクノエイド協会	平成30年11月
亀谷浩史	リハビリ部	日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士	日本摂食嚥下リハビリテーション学会	平成25年8月
		栄養サポートチーム(NST) 専門療法士	日本静脈栄養学会	平成29年11月
西田 勇人	リハビリ部	Lee Silverman Voice Treatment (LSVT)	LSVT財団	平成23年5月
		認定言語聴覚士(摂食嚥下障害領域)	日本言語聴覚士協会	平成27年1月10日
		訪問リハビリテーション管理者	訪問リハビリテーション振興財団	平成26年1月19日
藤田明美	リハビリ部	認定言語聴覚士(摂食・嚥下障害領域)	(社)日本言語聴覚士協会	平成25年1月12日
		回復期セラピストマネージャー	全国回復期病棟連絡協議会	平成26年1月
槌谷小百合	リハビリ部	福祉用具プランナー	テクノエイド協会	平成22年12月
鴨井典子	リハビリ部	NDT	ABPIA	
助田真理	リハビリ部	NDT	ABPIA	
		GMFM	GMFM講習会	
経塚静代	リハビリ部	NDT	国際ボバース講習会講師会議	
		感覚統合認定セラピスト	日本感覚統合学会	

氏 名	所 属	資格名称	認定機関等	認定年月
柴田和寛	リハビリ部	NDT	国際ボバース講習会講師会議	
		Fascal Manipulation 国際コース I / II / III	Fascal Manipulation Association Japan	H28,9,2
		Kaltenborn-Evjenth Concept ベーシックコース	日本整形徒手療法協会	
		Colf-Physical Trainer	Evroean Association GPT&GMT	
石本壮星	リハビリ部	認定理学療法士(発達障害)	日本理学療法士協会	平成29年5月
		三学会合同呼吸療法認定士	三学会合同呼吸療法認定士委員会	平成28年1月
中屋 さおり	リハビリ部	福祉用具プランナー	(財)テクノエイド協会	平成24年1月
		全国回復期病棟セラピストマネージャー	全国回復期病棟連絡協議会	平成28年1月
松井 直美	リハビリ部	NDT	国際ボバース講習会講師会議	
		ペアレントトレーニングリーダー	ペアレント・トレーニング研修会	平成25年
		ムーブメント教育・初級指導者	日本ムーブメント教育療法協会	平成22年
桐山 由利子	リハビリ部	福祉用具プランナー	(財)テクノエイド協会	平成22年12月
		介護支援専門員	(社)日本介護支援専門員協会	平成13年4月
		回復期リハビリテーション病棟協会 セラピストマネージャー	一般社団法人回復期リハビリテーション病棟協会	平成27年1月
		感覚統合療法認定セラピスト	日本感覚統合学会	
松本 和美	リハビリ部	NDT	国際ボバース講習会講師会議	
西部 夏美	リハビリ部	NDT	国際ボバース講習会講師会議	
		福祉住環境コーディネーター2級	東京商工会議所	
晴披 由紀子	看護部	回復期リハビリテーション看護師	回復期リハビリテーション協議会	平成31年1月
木立 伸也	通所療育課	児童発達管理責任者	富山県	平成30年12月
荒井 智子	通所療育課	児童発達管理責任者	富山県	平成30年1月
尾井 静	入所療育課	相談支援専門員	富山県	平成30年9月6日
	入所療育課	児童発達管理責任者	富山県	平成30年11月22日
藤井 千愛	入所療育課	サービス管理責任者(介護)	富山県	平成30年11月22日

**富山県リハビリテーション病院・
こども支援センター**

〒931-8517 富山市下飯野36番地

TEL (076) 438-2233 (代表)

FAX (076) 437-5390

【令和元年12月】